㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第227集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第48集

南蛇井増光寺遺跡Ⅵ

ＤＳ区
(本 文 編)

1997

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団

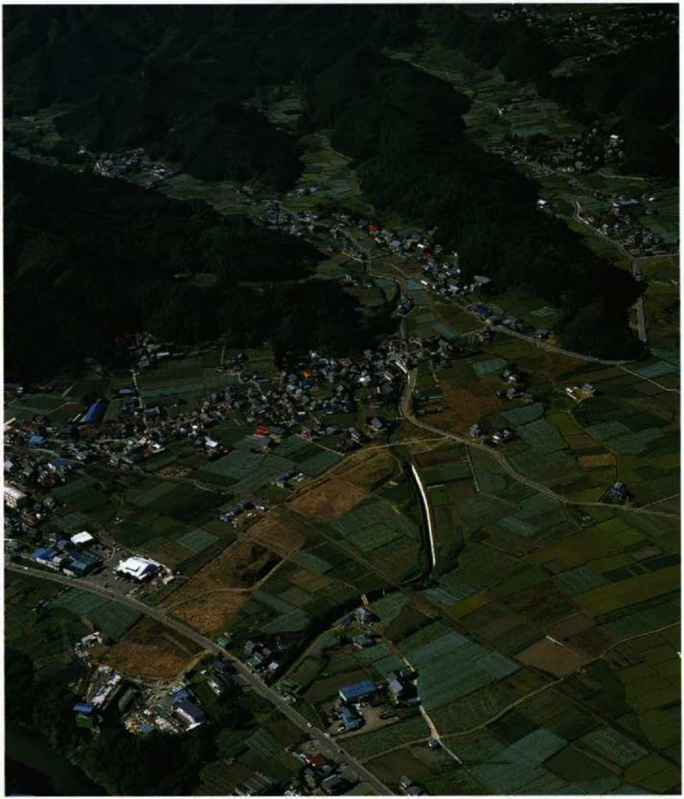
㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第227集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第48集

南蛇井増光寺遺跡Ⅵ

ＤＳ区
(本　文　編)

１９９７

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団



遺跡を南から望む

241号土坑出土土器

844号土坑出土土器

上段左
241号土坑
上段右
430号土坑
中段
90号住居跡
下段
67号住居跡

序

関越自動車道上越線は、本県藤岡市の関越自動車道新潟線から分岐し、新潟県上越市で北陸自動車道に接続する高速自動車国道であります。現在、信州中野まで開通しており、単に交通が便利になったというに止まらず、地域にとって大きな経済的効果をもたらしております。

この関越自動車道上越線の建設に先立って、富岡市南蛇井においては昭和63年11月から平成3年3月にかけて、埋蔵文化財の大規模な発掘調査が行われました。その調査成果は既に『南蛇井増光寺遺跡発掘調査報告書』として4冊刊行しており、本地域の歴史解明のために大いに活用されております。今回報告いたしますＤＳ区につきましては、縄文時代の土坑が集中している地区で、出土土器の様相は縄文時代中期に信越地方や東関東地方と活潑な交流が行われていたことを示しております。

発掘調査から調査報告書刊行まで日本道路公団東京第二建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、富岡市教育委員会、地元関係者等には終始御指導、ご協力を賜りました。これら関係者の皆様に感謝の意を表すると共に3年5ヶ月にわたり発掘調査を担当した職員の労をねぎらい、併せて本報告書が多くの方に活用されることを願い序といたします。

平成9年1月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　小寺弘之

例　　言

1　本書は、上信越自動車道建設工事に伴い調査された、南蛇井増光寺遺跡（事業名称　井出遺跡）の発掘調査報告書である。本書においては、南蛇井増光寺遺跡ＤＳ区から検出された縄文時代～近世に至る遺構・遺物のうち、５号溝の北側について報告する。

2　遺跡は群馬県富岡市大字南蛇井字増光寺に所在する。

3　発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に再委託して実施されたものである。

4　実際の発掘調査は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内に上越線地域埋蔵文化財調査を目的に設置された関越道上越線調査事務所が実施した。調査期間および担当者は以下のとおりである。

(1) 期　　間　平成元年度　平成元年４月１日～平成２年３月31日
平成２年度　平成２年４月１日～平成２年９月12日

(2) 事務担当　邊見長雄（常務理事）、松本浩一（事務局長）、高橋一夫（所長）、片桐光一（平成元年度・総括次長）、大澤友治（平成２年度・総括次長）、徳江　紀（次長）、鬼形芳夫（調査課長）、宮川初太郎（係長代理）、国定　均（平成元年度・主任）、笠原秀樹（平成２年度・主任）

(3) 調査担当　〔平成元年度〕飯塚卓二（専門員）・新井　仁（調査研究員）・高島英之（調査研究員・４月10日～３月29日）、若林正人（調査研究員・10月23日～12月２日）、飯塚　聡（調査研究員・10月25日～３月28日）、小野和之（主任調査研究員・11月15日～３月28日）桜井美枝（調査研究員・12月11日～１月23日）
〔平成２年度〕飯塚卓二（専門員）・飛田野正佳（調査研究員）・亀山幸弘（調査研究員・４月５日～９月20日）、飯塚　聡（調査研究員・４月５日～７月27日）

5　遺物整理・報告書作成の期間および担当者は以下のとおりである。

(1) 期　　間　平成７年４月１日～平成９年３月31日

(2) 事務担当　中村英一（平成７年度・常務理事）菅野　清（平成８年度・常務理事）、原田恒弘（事務局長）、蜂巣　実（管理部長）、神保侑史（平成７年度・調査研究部長）、赤山容造（平成８年度・調査研究第１部長）、小渕　淳（総務課長）、岸田治男（平成７年度・第２課長）、平野進一（平成８年度・第１課長）、笠原秀樹（総務係長）、国定　均（経理係長）、須田朋子（主任）、吉田有光（主任）、柳岡良宏（主任）、高橋定義（平成７年度・主事）、宮崎忠司（平成８年度・主事）

(3) 遺物整理・報告書作成担当

編　　集　新井　仁（平成７年度・主任調査研究員）、飯塚卓二（平成８年度・主幹兼専門員）

執　　筆　〔遺構本文〕新井　仁・飯塚卓二　〔石器〕桜井美枝　〔縄文土器〕小野和之　〔弥生土器〕大木紳一郎　〔土師器・須恵器・金属器〕飯塚卓二

遺構写真　発掘調査担当者

遺物写真　佐藤元彦（主任技師）

保存処理　関　邦一（主任技師）、土橋まり子（嘱託員）、小材浩一・萩原妙子（補助員）

遺物整理・報告書作成作業

（スリースペース遺物実測）長沼久美子（嘱託員）・伊藤淳子・岩渕節子・光安文子・荻原光枝・立川千栄子・南雲富子（整理補助員）

（石器の整理・報告書作成作業）　桜井美枝（担当者）、坂庭常磐（嘱託員）・高橋フジ子・六本木弘子・高柳哲子・小久保ヒロミ・小林幸枝・飯野睦美（整理補助員）

（弥生土器の整理・報告書作成作業）　大木紳一郎（担当者）、関　正江・渡辺フサ枝・馬場信子・小菅優子・武永いち・高橋里佳・田村恭子・福島和恵・斉藤ひろみ（整理補助員）

（遺構および上記以外の遺物整理・報告書作成作業）新井　仁・飯塚卓二（担当者）、小野寺仁子・牧野裕美・木暮芳枝・高田栄子・湯浅美枝子・渡辺八千代・原　由美（整理補助員）

6　発掘調査・報告書作成にあたり、一部を下記の機関に委託した。

〔航空写真〕㈱青高館　〔遺構測量、遺構・遺物トレース〕㈱測研、技研〔黒曜石の産地同定〕鈴木正男（立教大学）　〔縄文土器の展開写真〕小川忠博写真事務所

7　石材鑑定は群馬地質研究会　飯島静男氏にお願いした。

8　調査に至る経緯、および遺跡の地理的・歴史的環境については、『南蛇井増光寺遺跡』Ⅰ～Ⅳが刊行されているので、それによることとし、本書では省略した。

9　調査成果のまとめと考察については、平成８年度発行の『南蛇井増光寺遺跡Ｖ』に含めた。

10　南蛇井増光寺遺跡Ｅ区166号土坑下層から出土した土器については、『南蛇井増光寺遺跡Ⅱ』(ＤＮ・Ｅ区)に未報告であったため、本報告書付編で報告した。

11　出土遺物・実測図・写真類は、群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。

12　報告書作成にあたり、下記の諸機関・諸氏に御教示・御指導をいただいた。記して謝意を表する次第である。

鈴木正男　金山喜明　大江正行

13　発掘調査従事者は下記の通りである。記して感謝する次第である。

青木利夫　岩瀬　好　岩瀬ふみ子　石井るい　飯野しげ　飯野幸代　浦野幸子　恩田たけ
恩田美知子　木戸　茂　木戸ゑみ　小菅とみ　桜井ふみ子　佐藤信平　佐藤亜矢子　坂本松雄
清水とめ　白石　栄　高橋キヨ子　高橋しづ子　高橋友子　田中イサミ　津金沢金吾
津金沢とめ　津金沢かね　勅使河原ひさゑ　中島好古　半間正二　横尾冨美代　渡辺　茂
渡辺とみ　黛よね子　小柴さよ子　中野よし江　大沢八重　高橋文江　佐藤三郎　黛　米子
宮澤英雄　高橋しげる　荻野　貢　黛　栄子　新井正男　久保原はつえ　久保原かつ
久保原きく　黒沢チヨ　岩井キワ　山田くめ　飯野悦子　武田けさ　阿部　渥　岩井　孝
神戸徳二郎　神戸丞二　佐藤ふみえ　久保原ナツ　中庭貞夫　富沢重子　丸沢君枝　小須田智也
重田達雄　大塚和代

凡　　例

1．遺跡位置図には、国土地理院発行25,000分の１地形図の『下仁田』『松井田』を使用した。

2．遺跡図中の方位記号は国家座標の北を表す（国土座標Ⅸ）。

3．遺構実測図、等高線に記した標高値は海抜標高を表す。

4．本報告書における遺構番号は、発掘調査時に通番で付されたものを原則として使用しているが、都合により付け替えたものもある。

5．各遺構実測図の縮尺については、住居跡1/60、炉・カマド1/30、土坑1/40としたが、これら以外については個々に縮尺を記した。

6．竪穴住居跡の床面積は、縮尺1/30平面図をプラニメーター（ローラー極式・レンズ式）を用いて３回計測し、その平均値を小数点以下３桁を四捨五入して算出した。

7．遺構図中の等高線は、海抜標高で表示した。また、断面基準線の標高は水準基準端に示した。

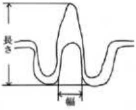
8．竪穴住居跡のグリッド位置、規模、面積、主軸方位、時代等については、一覧表にまとめた。

9．竪穴住居跡および土坑の一覧表のうち、（　）のあるものについては、現存する部分の長さである。

10．方形を呈する竪穴住居跡の方位については、カマドを有する住居に関してはカマドを付設する壁の中間点と反対側の壁の中間点を結んだ軸線の方位を、また、カマドを有しない住居に関しては、北向きの壁の中間点と反対側壁の中間点を結んだ軸線の方位を採用した。

11．住居跡および土坑の計測方法は下記による。

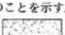
住　居



カマド

土　坑

12．遺構図中のスクリーントーンは下記のことを示す。

焼土 　粘土 

13．遺構図中に使用した遺物のシンボルマークは以下の通りである。

土器 [•]　石器 [△]　ガラス玉 [○]

14．遺物番号は遺物実測図、遺物観察表、写真図版ともすべて共通である。

15．土器実測図の縮尺については、縄文1/3・1/4、弥生1/4、古墳時代以降1/3を基本としたが、それ以外の縮尺については、それぞれに記した。

16．遺物図中のスクリーントーンは下記のことを示す。

付着炭化物 　繊維土器

17. 遺構全体図（第496図）においては、重複する遺構に関し、重複部分の表現を上層に存在する遺構に限定した。ただし、下層遺構の範囲が全て上層遺構の下になる場合、下層遺構を破線で示した。

18. 写真図版編における遺物写真の見出しでは、遺構名称を以下の通り略した。

竪穴住居跡→住　　　溝状遺構→溝

（石器関係）

19. 石器実測図中の表示は以下のことを示す。

磨石・砥石等の研磨部分範囲　 敲打部分範囲

使用による摩耗部分範囲

20. 石器実測図の縮尺は原則として以下のとおりで、図中の遺物ナンバーの後の( )内に縮尺を示してある。

石鏃・尖頭器・石錐・楔形石器：4/5　　小型の石匙：1/2

大型の石匙・打製石斧・磨製石斧・石鍬・磨石・敲石・凹石・石棒・小型の砥石：1/3

石皿・多孔石・大型の砥石：1/4

21. 石器写真図版の縮尺は原則として以下のとおりである。

石鏃・尖頭器・石錐・楔形石器：4/5　　小型の石匙：1/2

大型の石匙・打製石斧・磨製石斧・石鍬・石核・二次加工ある剥片・石棒：1/3

磨石・敲石・凹石・石皿・多孔石・砥石：1/5

22. 観察・器種組成表中の器種名は、２文字以上のものは略称で示してある。略称は以下のとおりである。

楔：楔形石器　ＳＳ：スクレイパー　ＥＳ：エンドスクレイパー　打斧：打製石斧　磨斧：磨製石斧　二次：二次加工ある剥片　微細：微細剥離痕ある剥片

23. 観察表中の石材名は、２文字以上のものについては略称で示してある。各石材の略称は以下のとおりである。

安凝：安山岩質凝灰岩　牛砂：牛伏砂岩　雲片：雲母石英片岩　黄珪：黄色珪質岩　角安：角閃石安山岩　角閃：角閃石岩　褐珪：褐色珪質岩　かん：かんらん岩　輝安：輝石安山岩　輝凝：輝緑凝灰岩　凝砂：凝灰質砂岩　珪頁：珪質頁岩　珪準：珪質準片岩　珪粘：珪質粘板岩　珪変：珪質変質岩　硬頁：硬質頁岩　硬泥：硬質泥岩　黒安：黒色安山岩　黒頁：黒色頁岩　黒片：黒色片岩　細安：細粒輝石安山岩　砂頁：砂質頁岩　砂準：砂質準片岩　石閃：石英閃緑岩　赤珪：赤色珪質岩　粗安：粗粒輝石安山岩　チャ：チャート　デイ：デイサイト　デ凝：デイサイト質凝灰岩　砥沢：砥沢石　はん：はんれい岩　ひす：ひすい　ひん：ひん岩　変輝：変輝緑岩　変玄：変玄武岩　変安：変質安山岩　変質玄：変質玄武岩　変蛇：変質蛇紋岩　変閃：変閃緑岩　変は：変はんれい岩　ホル：ホルンフェルス　溶凝：溶結凝灰岩　流凝：流紋岩質凝灰岩　緑凝：緑色凝灰岩　緑珪：緑色珪質岩　緑片：緑色片岩

24. 石器石材組成グラフについては、複数の石材を以下のグループにまとめて表示してある。また、各石材グループは、以下のトーンで示してある。

・安山岩（細粒）：黒安、細安　　・安山岩（粗粒）：粗安、角安、輝安、変安

・流紋岩等：流紋、デイ、砥沢　　・閃緑岩等：閃緑、変閃、石閃

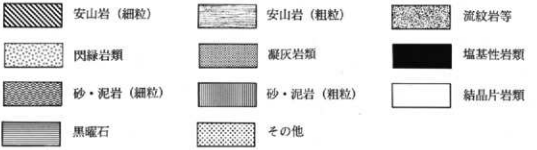
・凝灰岩類：凝灰、溶凝、緑凝、デ凝、安凝、流凝

・塩基性岩類：輝緑、変輝、玄武、変玄、変質玄、かん、蛇紋、変蛇、変は、角閃、輝凝、はん

・砂・泥岩（細粒）：珪頁、硬頁、硬泥、黒頁、砂頁、頁岩、珪粘

・砂・泥岩（粗粒）：泥岩、砂岩、牛砂、礫岩、凝砂　　・片岩類：雲片、黒片、緑片、珪準、砂準

・黒曜石　　・その他：チャ、赤珪、褐珪、緑珪、黄珪、ひす、ひん、ホル、石英、玉髄、滑石、珪変、不明



（弥生土器関係）

25.「器種」は壺・甕・高杯・鉢・短頸壺・台付甕・有孔鉢・台付壺・片口鉢・注口鉢・蓋・小壺・小甕・匙形土製品・ミニチュアに分類し、それぞれの大きさと容量によって大型・中型・小型を付記した。

26.「計測値」はミリメートルを単位とし、口径・器高・底径・脚径・底孔径はそれぞれの部位における最大値を記載した。なお紡錘車は直径・厚さ・孔径・重量（g）を計測した。

27.「文様の特徴」は施文部位を口縁部・頸部・肩部に三分し、それぞれをａ・ｂ・ｃに記号化して記載した。文様の種類は繁雑になることを避けるために、以下の略称を用いた。

「波」――――櫛描波状文を指し、直前の数字は波状文帯の段数を表す。重複施文や小破片のため単位が不明瞭な場合は数字を記載しなかった。

「簾」――――櫛描簾状文を指し、止め方と止め数を直前に記載した。「等止簾」は等間隔止め、「3止簾」は3連止め簾状文を表す。なお止め方の不明な場合は「簾」とのみ記した。

「羽」――――櫛描羽状文を指す。

「積上」―――口縁部の粘土紐積み上げ痕を装飾要素として残したものを指す。

「縄・編紐」――縄文と編み紐を指す。「斜縄」は斜縄文の略であり、直前の数字は施文単位の段数を示す。

「孔」――――各部位に穿たれた孔を指し、直前の数字は孔数を表す。

上記以外の文様については略称を用いず、一般的に使用されている名称を記した。また赤彩については文様として扱わず、挿図での赤色表示で表すこととした。文様の先後関係については記していないが、出来る限り挿図に表すようにしたので参考にされたい。

28.「施文具」は櫛描文の場合、最も単位の明確な簾状文から想定される幅（㎜）と歯の本数を計測して記載した。簾状文のない場合は波状文や羽状文の単位に求めた。不明の場合は記していない。ただし、この数値はひとつの土器が基本的に同一施文具を用いたことを前提にしているため、この限りでないとすればこのデータは意味を持たない。なお、縄文の場合は「ＬＲ」「Ｒ」などの原体記号で表した。

29.「整形」は内面と外面に二分し、過半を占める最終整形を記した。ただし部位を分けて記載する必要のある場合は「ロナデ胴ミガキ」のように併記した。なお整形の方向は記していないが、横位・斜位・縦位の区分は挿図で表現した。

30.「胎土」は土器断面でのルーペ観察を行い、主に包含砂礫の特徴によってＡ～Ｈの８種に分類した。分類

基準は以下のとおりである。

A———長石・石英・白色岩片・赤褐色粒の粗粒〜細砂を含む。

B———Aと同様の鉱物からなり細礫を多く含む。

C———Aと同様の鉱物からなり比較的大きさの揃った粗砂を多く含む。

D———輝石を主とする有色鉱物を多く含む。

E———白色粘土塊と細礫を多く含む。

F———緻密な粘土に長石・石英・白色岩片などの細砂を含む。

G———片岩の細礫〜細砂を含む。

H———Aと同様の鉱物の細砂を少量含む。

31.「色調」は器面の過半を占める色を選び、『標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著）と照合して色名を記載した。ただし弥生土器の色調は単一でないことが一般的なため、色名のみを記載しマンセル表示は行わなかった。

32.「使用痕」は、主に被熱痕・煤付着・磨滅等の有無とその部位について記した。「被熱痕」は火熱を直接受けて赤色に色変したり、器面が熱のために剥離したと想定されるものを指し、「煤付着」は器面に煤が付着するものに限定し、黒斑のように還元されたものとの見分けがつかない場合は除いた。また「こげ」は甕などの内容物が炭化したものを指す。

33.「遺存」は欠損部分と遺存部分のいずれかを記載した。部位は口縁を「口」、頸部を「頸」というように略し、大体の大きさについて分数で表示した。

34.「出土位置」は床面と埋土中に二分し、床面出土は床からの比高5㎝以内とし、更に場所の限定できるものについては「出入り口付近」「中央」「奥」「炉周辺」「左右側」「壁際」「ピット」「貯蔵穴」などの記載を行った。

35.「備考」で籾圧痕や特殊な使用痕の他に、接合関係や特殊な型式について記載した。

36. なお観察表内で用いる（ ）は推定値や推測される器種・整形等を表している。

目　　次

序

例　言

凡　例

目　次

挿図目次

表目次

抄　録

第1章　調査の経過と方法

第1節　調査の経過……1

第2節　調査の方法……2

第3節　基本土層……3

第2章　検出された遺構と遺物

第1節　縄文時代の住居跡と出土遺物……4

第2節　弥生時代の住居跡と出土遺物……100

第3節　古墳時代以降の住居跡と出土遺物……167

第4節　土坑と出土遺物……278

第5節　井戸跡と出土遺物……453

第6節　溝跡と出土遺物……455

第7節　Pit について……460

第8節　遺構外出土遺物

縄文土器……460　古墳時代以降土器……478　石器……481

弥生土器……477　金属器……480

調査区地形図……503

遺構全体図……505

縄文時代住居全体図……507

弥生時代住居全体図……509

古墳時代以降住居跡・井戸・溝全体図……511

土坑全体図……513

Pit 全体図……515

付　編

南蛇井増光寺遺跡の黒曜石の分析……1

5号溝について……11

E区166号土坑出土縄文土器追加報告……17

挿図目次

第 1 図　南蛇井増光寺遺跡位置図 …… 1
第 2 図　南蛇井増光寺遺跡調査区図 …… 2
第 3 図　DS 区グリッド配置図 …… 3
第 4 図　DS 区基本土層 …… 3
第 5 図　4 号住居跡 …… 4
第 6 図　4 号住居跡　炉 …… 5
第 7 図　4 号住居跡出土遺物(1) …… 6
第 8 図　4 号住居跡出土遺物(2) …… 7
第 9 図　4 号住居跡出土遺物(3) …… 9
第10図　4 号住居跡出土遺物(4) …… 10
第11図　4 号住居跡出土遺物(5) …… 11
第12図　4 号住居跡出土遺物(6) …… 12
第13図　16号住居跡 …… 13
第14図　16号住居跡　炉 …… 14
第15図　16号住居跡出土遺物(1) …… 15
第16図　16号住居跡出土遺物(2) …… 16
第17図　16号住居跡出土遺物(3) …… 17
第18図　21号住居跡 …… 18
第19図　21号住居跡出土遺物 …… 19
第20図　22号住居跡 …… 20
第21図　22号住居跡出土遺物(1) …… 20
第22図　22号住居跡出土遺物(2) …… 21
第23図　22号住居跡出土遺物(3) …… 21
第24図　32号住居跡 …… 22
第25図　32号住居跡　炉 …… 23
第26図　32号住居跡出土遺物(1) …… 23
第27図　32号住居跡出土遺物(2) …… 24
第28図　33号住居跡 …… 25
第29図　33号住居跡　Pit …… 26
第30図　33号住居跡　炉 …… 26
第31図　33号住居跡出土遺物(1) …… 27
第32図　33号住居跡出土遺物(2) …… 29
第33図　33号住居跡出土遺物(3) …… 32
第34図　35号住居跡 …… 33
第35図　35号住居跡　炉 …… 34
第36図　35号住居跡出土遺物(1) …… 34
第37図　35号住居跡出土遺物(2) …… 35
第38図　37号住居跡 …… 36
第39図　37号住居跡出土遺物(1) …… 37
第40図　37号住居跡出土遺物(2) …… 38
第41図　37号住居跡出土遺物(3) …… 39
第42図　37号住居跡出土遺物(4) …… 40
第43図　37号住居跡出土遺物(5) …… 42
第44図　37号住居跡出土遺物(6) …… 43
第45図　45号住居跡　炉 …… 45
第46図　48号住居跡 …… 46
第47図　48号住居跡　炉 …… 46
第48図　48号住居跡出土遺物(1) …… 47
第49図　48号住居跡出土遺物(2) …… 47
第50図　48号住居跡出土遺物(3) …… 48
第51図　49号住居跡 …… 49
第52図　50号住居跡 …… 49
第53図　50号住居跡　炉 …… 50
第54図　50号住居跡出土遺物(1) …… 50
第55図　50号住居跡出土遺物(2) …… 51
第56図　52号住居跡 …… 51
第57図　52号住居跡出土遺物　(1) …… 52
第58図　52号住居跡出土遺物(2) …… 53
第59図　65号住居跡 …… 54
第60図　65号住居跡　炉 …… 54
第61図　65号住居跡　掘り方 …… 55
第62図　65号住居跡出土遺物(1) …… 55
第63図　65号住居跡出土遺物(2) …… 56
第64図　65号住居跡出土遺物(3) …… 57
第65図　65号住居跡出土遺物(4) …… 58
第66図　65号住居跡出土遺物(5) …… 59
第67図　65号住居跡出土遺物(6) …… 60
第68図　68号住居跡 …… 62
第69図　68号住居跡　炉 …… 63
第70図　68号住居跡出土遺物(1) …… 63
第71図　68号住居跡出土遺物(2) …… 63
第72図　68号住居跡出土遺物(3) …… 64
第73図　70号住居跡 …… 66
第74図　70号住居跡　炉 …… 67
第75図　70号住居跡出土遺物(1) …… 67
第76図　70号住居跡出土遺物(2) …… 69
第77図　70号住居跡出土遺物(3) …… 70
第78図　70号住居跡出土遺物(4) …… 71
第79図　70号住居跡出土遺物(5) …… 72
第80図　70号住居跡出土遺物(6) …… 74
第81図　70号住居跡出土遺物(7) …… 75
第82図　73号住居跡 …… 77
第83図　73号住居跡　炉 …… 78
第84図　73号住居跡出土遺物(1) …… 78
第85図　73号住居跡出土遺物(2) …… 79
第86図　73号住居跡出土遺物(3) …… 80
第87図　73号住居跡出土遺物(4) …… 81
第88図　78号住居跡 …… 82
第89図　78号住居跡　炉 …… 83
第90図　78号住居跡出土遺物(1) …… 83
第91図　78号住居跡出土遺物(2) …… 84
第92図　78号住居跡出土遺物(3) …… 85
第93図　83号住居跡 …… 86
第94図　83号住居跡　炉 …… 86
第95図　83号住居跡出土遺物 …… 87
第96図　92号住居跡 …… 88
第97図　92号住居跡出土遺物(1) …… 88
第98図　92号住居跡出土遺物(2) …… 88
第99図　93号住居跡 …… 89
第100図　93号住居跡　炉 …… 90
第101図　93号住居跡出土遺物(1) …… 90
第102図　93号住居跡出土遺物(2) …… 91
第103図　93号住居跡出土遺物(3) …… 92
第104図　93号住居跡出土遺物(4) …… 93
第105図　93号住居跡出土遺物(5) …… 94
第106図　93号住居跡出土遺物(6) …… 95
第107図　93号住居跡出土遺物(7) …… 98
第108図　2 号住居跡 …… 100
第109図　2 号住居跡　柱穴 …… 101
第110図　2 号住居跡　炉 …… 101
第111図　2 号住居跡出土遺物(1) …… 102
第112図　2 号住居跡出土遺物(2) …… 103
第113図　6 号住居跡 …… 104
第114図　6 号住居跡　炉 …… 104
第115図　6 号住居跡出土遺物(1) …… 105
第116図　6 号住居跡出土遺物(2) …… 106
第117図　10号住居跡 …… 107
第118図　10号住居跡　炉・遺物出土状況断面 …… 108

第119図　10号住居跡　掘り方……108
第120図　10号住居跡出土遺物(1)……109
第121図　10号住居跡出土遺物(2)……109
第122図　10号住居跡出土遺物(3)……110
第123図　13号住居跡……111
第124図　13号住居跡　掘り方……112
第125図　13号住居跡　炉・床下 Pit・土坑……112
第126図　13号住居跡出土遺物(1)……113
第127図　13号住居跡出土遺物(2)……113
第128図　13号住居跡出土遺物(3)……114
第129図　19号住居跡……115
第130図　19号住居跡　炉……115
第131図　19号住居跡出土遺物(1)……116
第132図　19号住居跡出土遺物(2)……116
第133図　25号住居跡遺物出土状況……117
第134図　25号住居跡……118
第135図　25号住居跡　炉……119
第136図　25号住居跡出土遺物(1)……119
第137図　25号住居跡出土遺物(2)……120
第138図　25号住居跡出土遺物(3)……121
第139図　27号住居跡……122
第140図　27号住居跡出土遺物……122
第141図　29号住居跡遺物出土状況……123
第142図　29号住居跡……124
第143図　29号住居跡　炉……124
第144図　29号住居跡出土遺物(1)……125
第145図　29号住居跡出土遺物(2)……126
第146図　29号住居跡出土遺物(3)……127
第147図　29号住居跡出土遺物(4)……128
第148図　29号住居跡出土遺物(5)……129
第149図　34号住居跡……131
第150図　34号住居跡　掘り方……132
第151図　34号住居跡　炉……133
第152図　34号住居跡出土遺物(1)……133
第153図　34号住居跡出土遺物(2)……134
第154図　34号住居跡出土遺物(3)……135
第155図　34号住居跡出土遺物(4)……136
第156図　34号住居跡出土遺物(5)……137
第157図　38号住居跡遺物出土状況……139
第158図　38号住居跡……140
第159図　38号住居跡　掘り方……141
第160図　38号住居跡　炉……142
第161図　38号住居跡出土遺物(1)……142
第162図　38号住居跡出土遺物(2)……143
第163図　38号住居跡出土遺物(3)……143
第164図　38号住居跡出土遺物(4)……144
第165図　60号住居跡……146
第166図　60号住居跡　掘り方……147
第167図　60号住居跡　炉……147
第168図　60号住居跡出土遺物(1)……148
第169図　60号住居跡出土遺物(2)……148
第170図　66号住居跡……150
第171図　66号住居跡出土遺物……151
第172図　76号住居跡遺物出土状況……152
第173図　76号住居跡……153
第174図　76号住居跡　炉……154
第175図　76号住居跡出土遺物(1)……154
第176図　76号住居跡出土遺物(2)……154
第177図　76号住居跡出土遺物(3)……155
第178図　84号住居跡　掘り方……156
第179図　84号住居跡出土遺物……156
第180図　90号住居跡……157
第181図　90号住居跡……158
第182図　90号住居跡遺物出土状況……159
第183図　90号住居跡　炉……159
第184図　90号住居跡出土遺物(1)……159
第185図　90号住居跡出土遺物(2)……160
第186図　90号住居跡出土遺物(3)……161
第187図　90号住居跡出土遺物(4)……162
第188図　90号住居跡出土遺物(5)……163
第189図　90号住居跡出土遺物(6)……164
第190図　90号住居跡出土遺物(7)……165
第191図　1号住居跡……167
第192図　1号住居跡　カマド……168
第193図　1号住居跡出土遺物……168
第194図　3号住居跡……169
第195図　3号住居跡　カマド……170
第196図　3号住居跡出土遺物(1)……171
第197図　3号住居跡出土遺物(2)……172
第198図　5号住居跡……173
第199図　5号住居跡　カマド……174
第200図　5号住居跡　掘り方……174
第201図　5号住居跡出土遺物……175
第202図　7号住居跡……176
第203図　7号住居跡　カマド……177
第204図　7号住居跡出土遺物(1)……177
第205図　7号住居跡出土遺物(2)……178
第206図　8号住居跡……179
第207図　8号住居跡　カマド……180
第208図　8号住居跡　掘り方……180
第209図　8号住居跡出土遺物(1)……181
第210図　8号住居跡出土遺物(2)……182
第211図　9号住居跡……183
第212図　9号住居跡　カマド……184
第213図　9号住居跡出土遺物……185
第214図　11号住居跡……186
第215図　11号住居跡　カマド……186
第216図　11号住居跡出土遺物(1)……187
第217図　11号住居跡出土遺物(2)……187
第218図　12号住居跡……188
第219図　12号住居跡　カマド……189
第220図　12号住居跡出土遺物(1)……189
第221図　12号住居跡出土遺物(2)……190
第222図　14号住居跡……192
第223図　14号住居跡　カマド……193
第224図　14号住居跡出土遺物……193
第225図　15号住居跡及びカマド……194
第226図　15号住居跡出土遺物……195
第227図　17号住居跡……196
第228図　17号住居跡　カマド……196
第229図　17号住居跡出土遺物……197
第230図　18号住居跡……197
第231図　18号住居跡出土遺物……198
第232図　20号住居跡……199
第233図　20号住居跡　カマド……199
第234図　20号住居跡出土遺物……200
第235図　23号住居跡……201
第236図　23号住居跡　カマド……202
第237図　23号住居跡出土遺物……202
第238図　24号住居跡……203
第239図　24号住居跡　カマド……204
第240図　24号住居跡　掘り方……205
第241図　24号住居跡出土遺物(1)……205
第242図　24号住居跡出土遺物(2)……206

第243図　26号住居跡……207
第244図　26号住居跡　カマド……208
第245図　26号住居跡出土遺物(1)……208
第246図　26号住居跡出土遺物(2)……209
第247図　28号住居跡……210
第248図　28号住居跡　カマド……210
第249図　28号住居跡出土遺物……211
第250図　31号住居跡……212
第251図　31号住居跡　カマド……212
第252図　31号住居跡出土遺物……213
第253図　36号住居跡……214
第254図　36号住居跡　カマド……215
第255図　36号住居跡出土遺物……215
第256図　39号住居跡……216
第257図　39号住居跡遺物出土状況……217
第258図　39号住居跡　カマド……217
第259図　39号住居跡出土遺物……218
第260図　40号住居跡……219
第261図　40号住居跡　カマド……220
第262図　40号住居跡　掘り方……220
第263図　40号住居跡出土遺物……221
第264図　41号住居跡……222
第265図　41号住居跡　カマド……223
第266図　41号住居跡出土遺物……223
第267図　43号住居跡……224
第268図　43号住居跡　カマド……225
第269図　43号住居跡出土遺物……226
第270図　44号住居跡……227
第271図　44号住居跡　カマド……228
第272図　44号住居跡出土遺物……228
第273図　46号住居跡……229
第274図　46号住居跡出土遺物……229
第275図　47号住居跡遺物出土状況……230
第276図　47号住居跡……231
第277図　47号住居跡　掘り方……232
第278図　47号住居跡　カマド……233
第279図　47号住居跡出土遺物(1)……233
第280図　47号住居跡出土遺物(2)……234
第281図　47号住居跡出土遺物(3)……235
第282図　51号住居跡……236
第283図　51号住居跡　カマド……237
第284図　51号住居跡出土遺物……237
第285図　53号住居跡……238
第286図　53号住居跡　カマド……238
第287図　53号住居跡出土遺物……238
第288図　54号住居跡……239
第289図　54号住居跡出土遺物……240
第290図　55号住居跡……241
第291図　55号住居跡出土遺物……241
第292図　56号住居跡……242
第293図　56号住居跡　カマド……243
第294図　56号住居跡出土遺物……243
第295図　57号住居跡……244
第296図　57号住居跡　カマド及び床下土坑……245
第297図　57号住居跡出土遺物……245
第298図　58号住居跡……246
第299図　58号住居跡出土遺物……247
第300図　59号住居跡……247
第301図　59号住居跡出土遺物……248
第302図　62号住居跡……249
第303図　62号住居跡　カマド……249
第304図　62号住居跡出土遺物……250
第305図　63号住居跡……251
第306図　63号住居跡　カマド……252
第307図　63号住居跡出土遺物……252
第308図　64号住居跡……253
第309図　64号住居跡　カマド……254
第310図　64号住居跡出土遺物……254
第311図　67号住居跡……255
第312図　67号住居跡　カマド……256
第313図　67号住居跡出土遺物(1)……256
第314図　67号住居跡出土遺物(2)……257
第315図　69号住居跡……258
第316図　69号住居跡　掘り方……259
第317図　69号住居跡　カマド……259
第318図　69号住居跡出土遺物……260
第319図　71号住居跡及び出土遺物……261
第320図　72号住居跡……261
第321図　75号住居跡……262
第322図　75号住居跡　カマド……262
第323図　75号住居跡出土遺物……262
第324図　77号住居跡……263
第325図　80号住居跡……264
第326図　80号住居跡　カマド……265
第327図　80号住居跡出土遺物……265
第328図　81号住居跡……266
第329図　82号住居跡……266
第330図　82号住居跡　カマド……267
第331図　82号住居跡出土遺物……267
第332図　86号住居跡……268
第333図　86号住居跡　掘り方……269
第334図　86号住居跡出土遺物(1)……269
第335図　86号住居跡出土遺物(2)……270
第336図　87号住居跡……270
第337図　87号住居跡出土遺物……271
第338図　88号住居跡……272
第339図　88号住居跡出土遺物……272
第340図　89号住居跡……273
第341図　89号住居跡　カマド……273
第342図　89号住居跡出土遺物……274
第343図　91号住居跡……275
第344図　91号住居跡……275
第345図　91号住居跡出土遺物……275
第346図　土坑遺構図……283
第347図　土坑遺構図……284
第348図　土坑遺構図……285
第349図　土坑遺構図……286
第350図　土坑遺構図……287
第351図　土坑遺構図……288
第352図　土坑遺構図……289
第353図　土坑遺構図……290
第354図　土坑遺構図……291
第355図　土坑遺構図……292
第356図　土坑遺構図……293
第357図　土坑遺構図……294
第358図　土坑遺構図……295
第359図　土坑遺構図……296
第360図　土坑遺構図……297
第361図　土坑遺構図……298
第362図　土坑遺構図……299
第363図　土坑遺構図……300
第364図　土坑遺構図……301
第365図　土坑遺構図……302
第366図　土坑遺構図……303

第367図　土坑遺構図……304
第368図　土坑遺構図……305
第369図　土坑遺構図……306
第370図　土坑遺構図……307
第371図　土坑遺構図……308
第372図　土坑遺構図……309
第373図　土坑遺構図……310
第374図　土坑遺構図……311
第375図　土坑遺構図……312
第376図　土坑遺構図……313
第377図　土坑出土縄文土器(1)……329
第378図　土坑出土縄文土器(2)……331
第379図　土坑出土縄文土器(3)……333
第380図　土坑出土縄文土器(4)……334
第381図　土坑出土縄文土器(5)……336
第382図　土坑出土縄文土器(6)……338
第383図　土坑出土縄文土器(7)……339
第384図　土坑出土縄文土器(8)……341
第385図　土坑出土縄文土器(9)……343
第386図　土坑出土縄文土器(10)……344
第387図　土坑出土縄文土器(11)……346
第388図　土坑出土縄文土器(12)……347
第389図　土坑出土縄文土器(13)……349
第390図　土坑出土縄文土器(14)……351
第391図　土坑出土縄文土器(15)……352
第392図　土坑出土縄文土器(16)……353
第393図　土坑出土縄文土器(17)……355
第394図　土坑出土縄文土器(18)……357
第395図　土坑出土縄文土器(19)……359
第396図　土坑出土縄文土器(20)……360
第397図　土坑出土縄文土器(21)……361
第398図　土坑出土縄文土器(22)……363
第399図　土坑出土縄文土器(23)……364
第400図　土坑出土縄文土器(24)……366
第401図　土坑出土縄文土器(25)……367
第402図　土坑出土縄文土器(26)……369
第403図　土坑出土縄文土器(27)……371
第404図　土坑出土縄文土器(28)……373
第405図　土坑出土縄文土器(29)……375
第406図　土坑出土縄文土器(30)……377
第407図　土坑出土縄文土器(31)……378
第408図　土坑出土縄文土器(32)……380
第409図　土坑出土縄文土器(33)……381
第410図　土坑出土縄文土器(34)……382
第411図　土坑出土縄文土器(35)……384
第412図　土坑出土縄文土器(36)……385
第413図　土坑出土縄文土器(37)……387
第414図　土坑出土縄文土器(38)……388
第415図　土坑出土縄文土器(39)……389
第416図　土坑出土縄文土器(40)……391
第417図　土坑出土縄文土器(41)……392
第418図　土坑出土縄文土器(42)……394
第419図　土坑出土縄文土器(43)……395
第420図　土坑出土縄文土器(44)……397
第421図　土坑出土縄文土器(45)……399
第422図　土坑出土縄文土器(46)……400
第423図　土坑出土縄文土器(47)……402
第424図　土坑出土縄文土器(48)……403
第425図　土坑出土縄文土器(49)……405
第426図　土坑出土石器(1)……406
第427図　土坑出土石器(2)……407
第428図　土坑出土石器(3)……408
第429図　土坑出土石器(4)……409
第430図　土坑出土石器(5)……410
第431図　土坑出土石器(6)……411
第432図　土坑出土石器(7)……412
第433図　土坑出土石器(8)……413
第434図　土坑出土石器(9)……414
第435図　土坑出土石器(10)……415
第436図　土坑出土石器(11)……416
第437図　土坑出土石器(12)……417
第438図　土坑出土石器(13)……418
第439図　土坑出土石器(14)……419
第440図　土坑出土石器(15)……420
第441図　土坑出土石器(16)……421
第442図　土坑出土石器(17)……422
第443図　土坑出土石器(18)……423
第444図　土坑出土石器(19)……424
第445図　土坑出土石器(20)……425
第446図　土坑出土石器(21)……426
第447図　土坑出土石器(22)……427
第448図　土坑出土石器(23)……428
第449図　土坑出土石器(24)……429
第450図　土坑出土石器(25)……430
第451図　土坑出土石器(26)……431
第452図　土坑出土石器(27)……432
第453図　土坑出土石器(28)……433
第454図　土坑出土石器(29)……434
第455図　土坑出土石器(30)……435
第456図　土坑出土石器(31)……436
第457図　土坑出土石器(32)……437
第458図　土坑出土古墳時代以降土器……452
第459図　1・2・3・4号井戸跡……453
第460図　5・6号井戸跡および1号井戸出土遺物……454
第461図　1・2・3号溝……455
第462図　4号溝……456
第463図　5号溝……457
第464図　溝出土遺物……459
第465図　遺構外出土縄文土器(1)……461
第466図　遺構外出土縄文土器(2)……462
第467図　遺構外出土縄文土器(3)……463
第468図　遺構外出土縄文土器(4)……465
第469図　遺構外出土縄文土器(5)……466
第470図　遺構外出土縄文土器(6)……467
第471図　遺構外出土縄文土器(7)……469
第472図　遺構外出土縄文土器(8)……470
第473図　遺構外出土縄文土器(9)……471
第474図　遺構外出土縄文土器(10)……473
第475図　遺構外出土縄文土器(11)……474
第476図　遺構外出土縄文土器(12)……475
第477図　遺構外出土弥生土器……477
第478図　遺構外出土古墳時代以降土器(1)……478
第479図　遺構外出土古墳時代以降土器(2)……479
第480図　遺構外出土金属製品……480
第481図　遺構外出土石器(1)……481
第482図　遺構外出土石器(2)……482
第483図　遺構外出土石器(3)……483
第484図　遺構外出土石器(4)……484
第485図　遺構外出土石器(5)……485
第486図　遺構外出土石器(6)……486
第487図　遺構外出土石器(7)……487
第488図　遺構外出土石器(8)……488
第489図　遺構外出土石器(9)……489
第490図　遺構外出土石器(10)……490

第491図　遺構外出土石器(11)……491
第492図　遺構外出土石器(12)……492
第493図　遺構外出土石器(13)……493
第494図　遺構外出土石器(14)……494
第495図　調査区地形図……503
第496図　遺構全体図……505
第497図　縄文時代住居跡全体図……507
第498図　弥生時代住居跡全体図……509
第499図　古墳時代以降住居跡・井戸・溝全体図……511
第500図　土坑全体図……513
第501図　Pit 全体図……515

表目次

DS 区（5号溝より北側）住居跡一覧表……276
土坑出土石器器種組成表……502
遺構外石器器種組成表……502

抄　　録

1　遺跡の概略

本遺跡は、群馬県富岡市大字南蛇井字増光寺165、166-1、167番地他に所在する。発掘調査は昭和63年11月1日から開始され、平成3年3月をもって終了した。

遺跡は富岡市の南西、鏑川左岸の段丘上に広がる平坦面に位置し、調査前の地目は桑、こんにゃく畑であった。発掘調査により縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代にわたる各時代の住居跡、土坑、掘立柱建物跡、溝等を多数検出、鏑川上流域における有数の複合遺跡である。

2　遺構数量（A～E区）

区	竪穴住居	掘立柱建物	溝	方形周溝墓	土　坑	井　戸	配　石	集　石	埋　甕	その他
A　区										
B　区	178	8			26			2		
C　区	383	6	9	2	263	1	5	2	1	古墓　1
D S 区	87		5		838	6				
D N 区	37	9	8		67	1				
E　区	77	19	5		210	1	1			列石　1
計	762	42	27	2	1404	9	6	4	1	2

3　D S区の概要

縄 文 時 代　住居は21軒で中期後半を中心とする。土坑は810基で、中期初頭から前半にかけての時期が主体となる。

弥 生 時 代　後期樽式期の住居跡15軒を検出。

古 墳 時 代　後期の住居跡30軒を検出。

奈良・平安時代　奈良時代の住居跡10軒、平安時代の住居跡11軒を検出。

中世・近世　推定館跡の堀が検出されているが、堀からの出土遺物は極めて少ない。また鍛冶炉と推定される洋梨型等の土坑がある。

※本報告書はD S区のうち、5号溝を含む北側についての概要である。なお5号溝より南側のD S区については、『南蛇井増光寺遺跡Ⅳ』および『南蛇井増光寺遺跡Ⅴ』で扱った。

南蛇井増光寺遺跡報告書一覧

報 告 書 名	掲 載 遺 跡 名	事業名称	時　代	発行年
南蛇井増光寺遺跡Ⅰ	南蛇井増光寺遺跡B区	井出遺跡	縄文・弥生	1992　既刊
南蛇井増光寺遺跡Ⅱ	南蛇井増光寺遺跡DN・E区	井出遺跡	縄文～近世	1993　既刊
南蛇井増光寺遺跡Ⅲ	南蛇井増光寺遺跡B区	井出遺跡	古墳・奈良・平安	1994　既刊
南蛇井増光寺遺跡Ⅳ	南蛇井増光寺遺跡C区	井出遺跡	古墳～近世	1996　既刊
南蛇井増光寺遺跡Ⅴ	南蛇井増光寺遺跡C区	井出遺跡	縄文・弥生	1997　既刊
南蛇井増光寺遺跡Ⅵ	南蛇井増光寺遺跡DS区	井出遺跡	縄文～近世	1997　本書

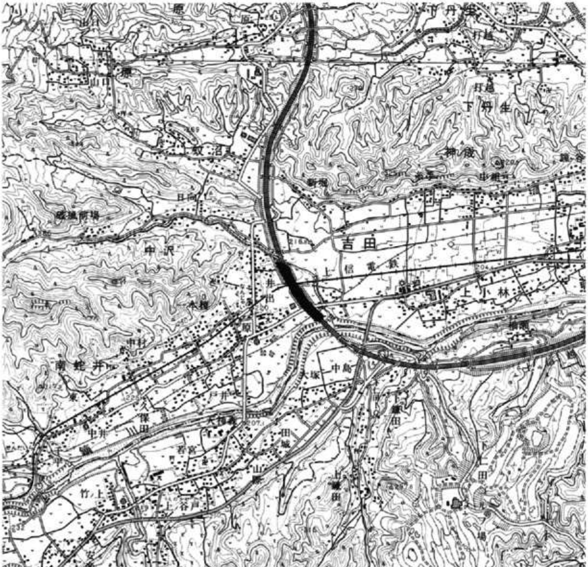
第1章　調査の経過と方法

第1節　調査の経過

関越自動車道上越線は首都圏と上信越地方を結ぶ高速自動車国道として、日本道路公団東京第二建設局によって建設された。南蛇井増光寺遺跡の調査はこの関越自動車道上越線の建設に伴なうもので、昭和63年9月の試掘調査に始まり、昭和63年11月から平成2年度まで2年5ヶ月間にわたり実施された。

本報告書で扱う5号溝北側のDS区部分についての調査は、平成元年4月10日より開始された。昭和63年11月より調査が行なわれているC区の北隣で、上信電鉄線までの範囲2760㎡である。

DS区はC区の土置き場となっており大きな土山が形成されていたため、この土山を移動することから開



第1図　南蛇井増光寺遺跡位置図

始した。調査開始から２ヶ月後の６月12日には土山が除去され、調査区北半部については表土掘削も完了したので、遺構確認作業に入った。表土を除去した段階でカマドおよび土器が多数確認出来たが、地山と住居覆土が近似しているため見分けがつかず、遺構確認作業は困難を極めた。遺構確認面を乾燥させ、出来たひび割れの状態から住居プランを推定した場合もある。

調査は遺構の重複関係で最も新しい５号溝から開始した。８月８日には５号溝が掘り上がったため、同時に住居跡の調査に入った。９月５日には住居跡と重複しない土坑があることがわかり、土坑の調査へも入っていく。

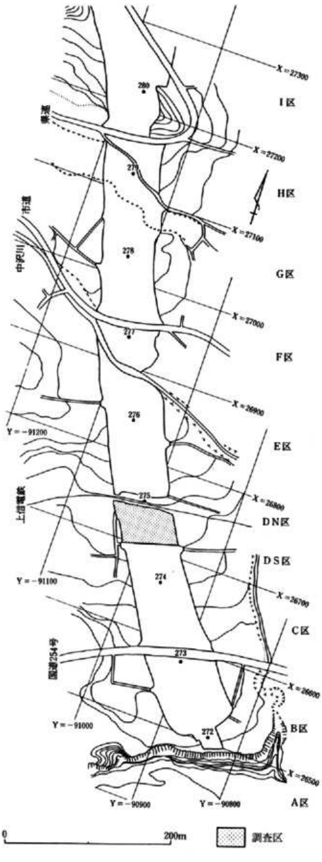
10月に入ると、道路公団側から調査区内西側に幅６ｍの工事用道路を設置し、上信電鉄線と交差する高架橋を建設するので、その部分の調査を12月中に終了させてほしいとの要請があった。この後、調査は工事用道路設置部分と高架橋建設部分を優先して調査を進めていく。12月22日に工事用道路部分調査終了。平成２年１月21日に高架橋建設部分の調査終了。

平成２年４月18日にバルーンによる空中撮影を実施した。この段階では住居跡78軒、土坑690基目の調査に入っていたが（全遺構の約80％）、重複遺構が多く完掘段階では消滅する遺構が少なくないと考え、この段階での撮影を実施した。

調査はその後約５ヶ月間続行し、平成２年９月12日に５号溝と上信電鉄線の間のＤＳ区についてはすべて終了した。

第２節　調査の方法

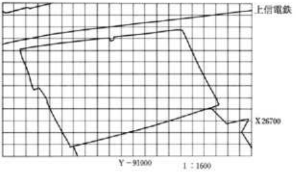
調査にあたり国家座標を基準とした方眼による杭打ちを行った。国家座標は上越線自動車道の測量杭２点を利用し、調査区内にＸ＝26700、Ｙ＝－91000の基点を設け、ここを基



第２図　南蛇井増光寺遺跡調査区図

準として5m四方のグリッドを設定した。

グリッドについては、南蛇井増光寺遺跡の南から100mの大グリッドを設け、南からA区・B区・C区・D区・E区とした。ただし、D区については上信電鉄線路が中央部に存在するため、DS区、DN区に調査区を分割した。



第3図　DS区グリッド配置図

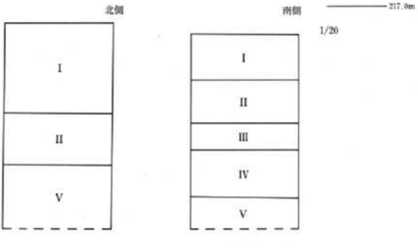
グリッド軸線名称は、Y軸を南→北方向にアルファベットＡＢＣの大グリッド、同じく5mの小グリットには小文字のａｂｃを用いた。X軸には数字を用い東→西方向に０１２３・・と付した。グリッド呼称は、5mの小グリッド南東隅部交点を用いた。

遺構の調査はA区・B区・C区等の調査区単位で実施し、遺構番号についても各区ごとに設定した。遺構の平面図および断面図については、20分の1で作成することを基本とし、住居跡の炉・カマド・詳細な遺物出土状況等は10分の1で作成した。遺物は原則として出土位置・高さを記録して取り上げることとしたが、出土位置が不明になったもの、耕作溝等の新しい遺構に伴うものについては一括して取り上げた。遺構写真撮影は、白黒写真は6×7と35㎜フィルムを使用し、カラーリバーサルは35㎜を使用することを原則とした。

第3節　基本土層

遺跡は鏑川によって形成された段丘上に位置している。調査区内の地形は比較的平坦であるものの、北から南に向かって緩やかに傾斜している。調査区の北約200mには北西から流れる中沢川がある。この中沢川が谷あいから押し出した礫を多量に含む堆積土が遺跡の地山を形成している。

第Ⅰ層　茶褐色土　現耕作土で締まりは弱い。
第Ⅱ層　褐色土　粘質で小礫を含んでおり、厚さは約25cmである。
第Ⅲ層　黒褐色土　砂粒・縄文土器片を多く含んでいる。
第Ⅳ層　黄暗褐色土　砂粒および縄文土器片を少量含んでいる。
第Ⅴ層　黒褐色砂礫層　地山で3～5㎝大の礫・砂粒を主体としている。



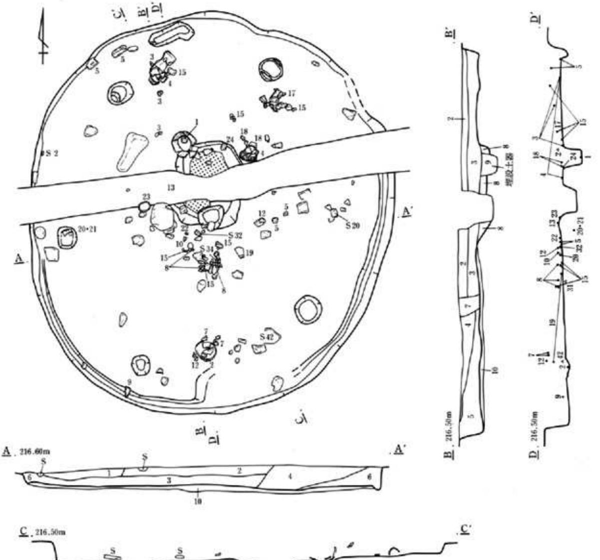
第4図　DS区基本土層

第２章　検出された遺構と遺物

第１節　縄文時代の住居跡と出土遺物

４号住居跡（第５～12図、PL ５・118～120・217・218）

住居は南北にやや長い円形を呈する。ほぼ中央に東西にゴボウのサクがあり、この部分は破壊されている。住居内には、壁に接して幅18cm前後、深さ約10cmの周溝があるが、確認できるのは南側の約半分のみで　北



1　暗褐色土　白色粒子を少量、黄色粒子・砂礫を僅かに含む。
2　暗褐色土　白色粒子・砂礫を多量に、黄色粒子を僅かに含む。
3　暗褐色土　焼土粒子・炭化粒子・砂礫・白色粒子・黄色粒子を少量含む。
4　暗褐色土　砂礫を多く、白色粒子・黄色粒子を僅かに含む。
5　暗褐色土　白色粒子・黄色粒子・砂礫を少量含む。
6　暗褐色土　砂質。砂礫を少量含む。
7　暗褐色土　白色粒子・焼土粒子・黄色粒子・炭化粒子・粘質地山ブロックを少量含む。
8　（炉址部分）
9　（埋設土器部分）
10　褐色土　黒褐色土ブロック・焼土・暗褐色土ブロックを含む。

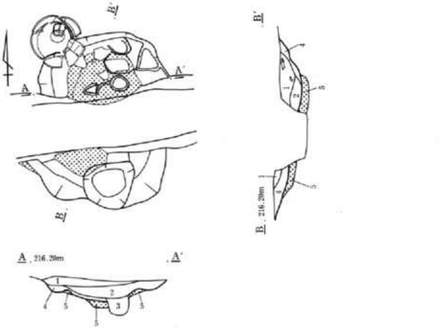
第５図　４号住居跡

側には確認できない。

床面はほぼ平坦でしっかりしている。柱穴と考えられる Pit は5ヶ所に存在する。掘り方は地山を掘り凹め、黒褐色土および暗褐色土のブロックを多く含んだ褐色土で埋めている。なお、床下に土坑等は存在しない。

炉跡は住居のほぼ中央にあり、深皿状の掘り込みである。炉の底面には焼土が堆積しており、この上面が住居廃棄時での使用面であると考えられる。

出土土器として深鉢・浅鉢・土製円盤がある。そのうち深鉢1は頸部まで、深鉢2は胴下部が埋設されていた。また石器には打製石斧・磨製石斧・磨石・石核等があり、土器とともに住居床面付近およびやや浮いた状態で出土している。



1　黒褐色土　木炭片・炭化粒子を多量に、焼土粒子を僅かに含む。
2　黒褐色土　炭化粒子・焼土粒子を僅かに含む。
3　黒褐色土　褐色土ブロックを少量、炭化粒子・焼土粒子を僅かに含む。
4　褐色土　黒褐色土ブロックを少量、炭化粒子を僅かに含む。
5　赤褐色土　焼土層。黒褐色土ブロックを少量含む。

第6図　4号住居跡　炉

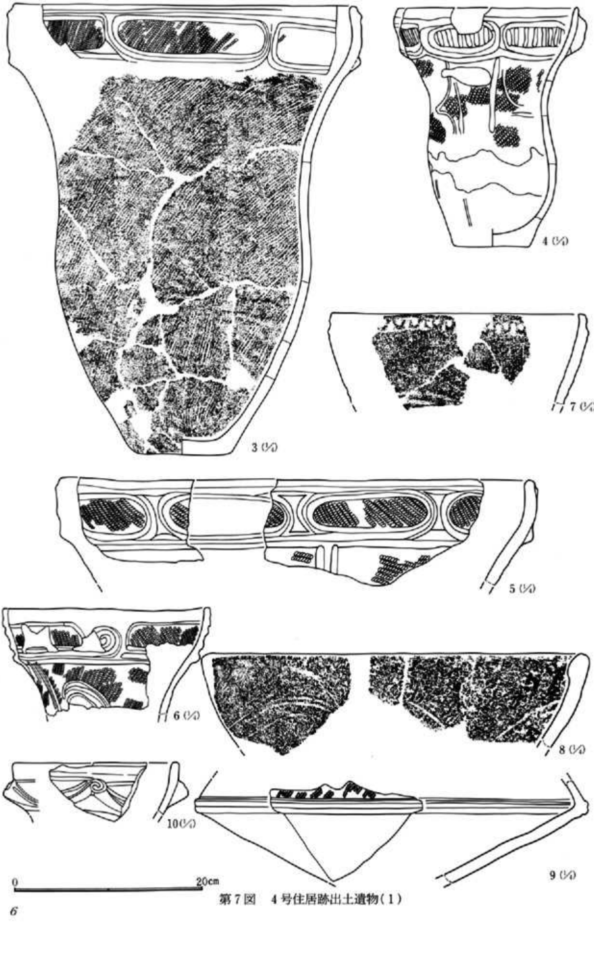
4号住居跡出土土器（第7～10図、PL118～120・217・218）

1はほぼ完形の深鉢型土器。口径34.0cm、底径（9.2cm）、器高42.0cm、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部は縄文 RL を縦位施文後、2～3本単位の縦位沈線が垂下し渦巻文で連結される。

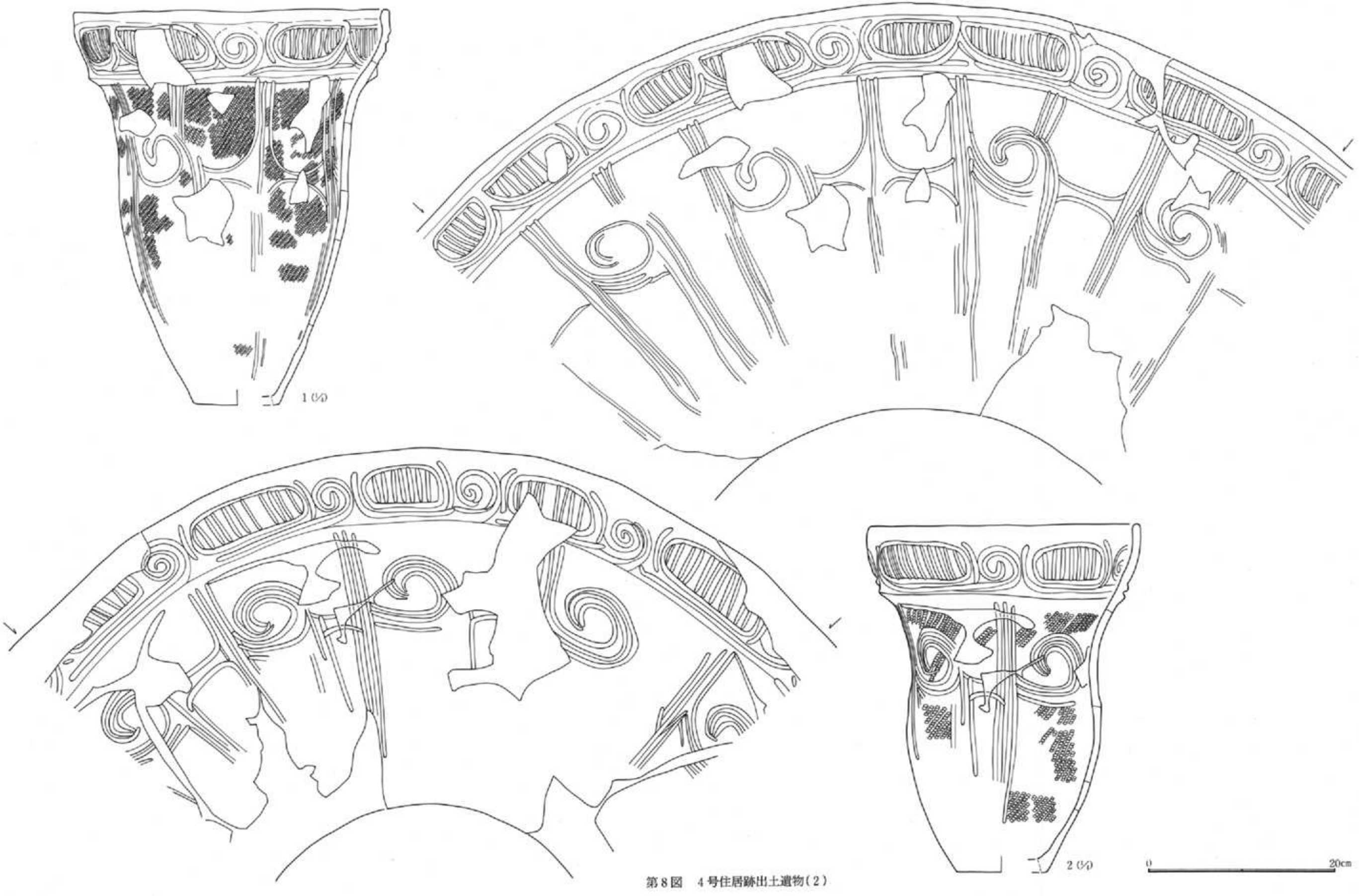
2もほぼ完形の深鉢型土器。口径28.6cm、底径（9.5cm）、器高36.7cmで1よりもわずかに小さく作られている。文様構成は1とほとんど同じである。

3はほぼ完形の深鉢型土器。口径(35.6cm)、底径10.2cm、器高47.2cm、口縁部は隆帯により、楕円文が構成される。楕円文内、胴部には縄文 RL が充填される。

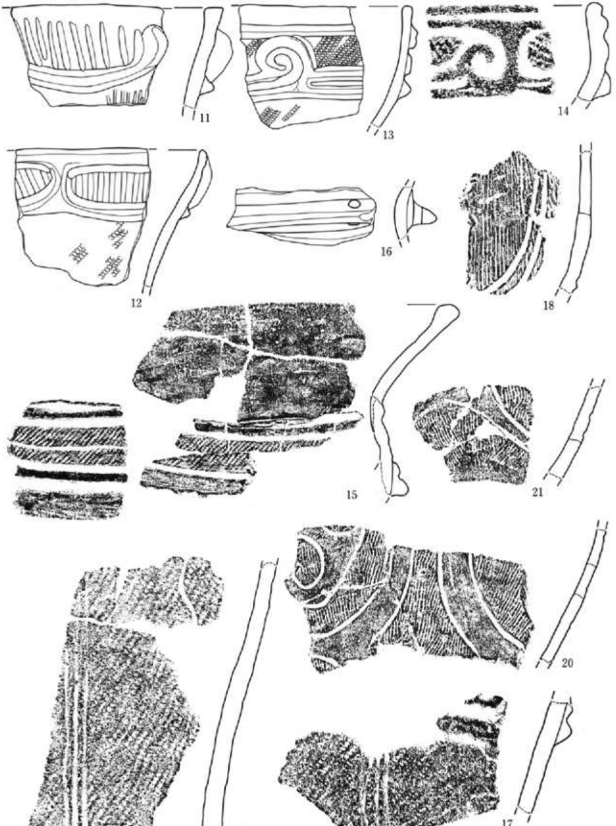
4はほぼ完形の深鉢型土器。口径19.4cm、底径7.8cm、器高25.0cm、口縁部は隆帯により、楕円文が構成され、楕円文内に縦位沈線。胴部は縄文 RL が施文され、縦位曲線文が垂下。



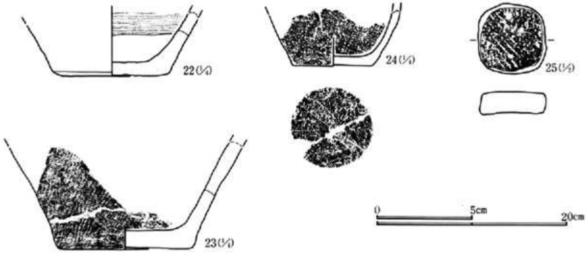
第7図　4号住居跡出土遺物(1)



第8図　4号住居跡出土遺物(2)



第９図　４号住居跡出土遺物（３）



第10図　４号住居跡出土遺物(４)

５は口縁部。口径(49.2cm)、口縁部は隆帯により楕円文が構成される。楕円文内および胴部には縄文が施文され、胴部は２本単位の沈線が垂下する。

６は胴上半部分。口径(21.6cm)、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部は縄文施文後、縦位、渦巻文が沈線により描かれる。

７は口縁部片。口径（26.8cm)、口縁部に交互刺突文。頸部に凹線。

８は口縁部口唇部丸く肥厚。上向きの連弧文が見られる。口径（40.6cm)。

９は鉢型土器か、胴部は強く「く」の字に屈曲する。屈曲部に隆帯、上半部には縄文が施文される。

10は口縁部片。口径(17.0cm)。口縁部は隆帯により半月状の区画文が構成され、各連結部は高まり渦巻状となる。

11は口縁部片。隆帯が下向き弧状に配され、縦沈線文が見られる。

12は口縁部片。口縁部は隆帯により、楕円文が構成される。楕円文内は縦沈線文。

13は口縁部片。隆帯により、端が渦巻文となる区画文が構成され、区画文内、胴部には縄文 RL が縦位施文される。

14は口縁部片。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、区画文内には縄文が充填される。

15は口縁部片。口縁部無文で外反する。口唇部は丸く肥厚。頸部に凹線、縄文帯、隆帯が巡る。

16は頸部屈曲部に巡る断面三角の隆帯部分。円孔が上下に貫通している。

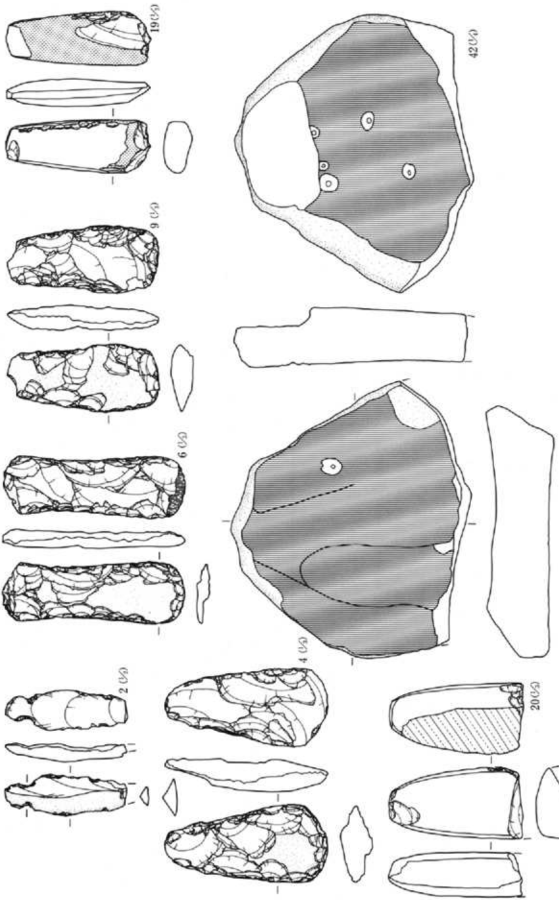
17・19は胴部片。縄文 RL を縦位施文後、３本の沈線を垂下させる。17は横位隆帯の１部が見られる。

18は胴部片。縦位条線と２本の弧状沈線が見られる。

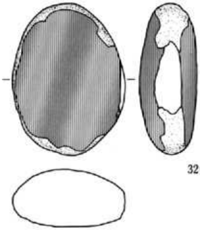
20・21は胴部片。細い撚糸Ｒを縦位に施文後、内部を磨り消した渦巻文が沈線で描かれる。

22～24は底部片。22は底径11.4cm、無文。23は底径14.0cm、細縄文 RL が縦位施文される。24は底径8.5cm、縄文 RL が施文され底面には木葉痕が見られる。

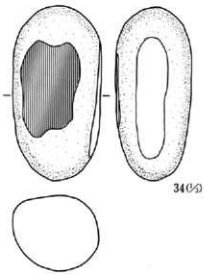
25は胴部片を利用した土製円盤である。やや四角形状を呈す。硬質で縄文 RL が施文されるが施文は不鮮明である。



第11図　4号住居跡出土遺物(5)



32(½)



34(½)

第12図　４号住居跡出土遺物(６)

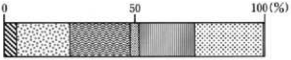
４号住居跡出土石器観察表

№	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	破片	1.4	0.6	0.3	0.2	黒曜	先端部破片。形状不明。
2	石匙	下位	一部欠	6.5	2.2	1.0	9.4	硬泥	調整は主につまみ部に施され、他はほとんど未加工。
3	ＳＳ	覆土	完形	2.8	1.7	0.6	2.8	黒曜	剥片腹面の上部・下辺に調整。左側上部にノッチ状の調整。
4	打斧	覆土	完形	13.0	6.2	2.6	171.0	細安	Ⅱｂ類。
5	打斧	覆土	3/4	12.8	5.7	3.4	214.1	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。Ⅱｂ類。
6	打斧	覆土	完形	14.5	4.9	1.4	127.6	硬泥	器表面かなり風化。Ⅱｂ類。
7	打斧	覆土	完形	12.6	4.6	1.7	131.5	珪頁	器表面かなり風化。Ⅱｂ類。
8	打斧	覆土	完形	9.8	5.0	1.9	99.3	粗安	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
9	打斧	覆土	完形	12.1	5.3	2.0	149.2	硬泥	Ⅱｂ類。
10	打斧	覆土	一部欠	10.4	5.1	1.8	10.2	粗安	刃部磨耗。基部一部欠損。Ⅲ類。
11	打斧	覆土	一部欠	10.1	5.0	2.3	101.9	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。Ⅱｂ類。
12	打斧	覆土	2/3	9.3	4.4	2.0	123.9	変玄	刃部欠損。Ⅲ類。
13	打斧	覆土	1/2	7.2	4.4	2.5	80.6	硬泥	刃部欠損。Ⅲ類。
14	打斧	下位	1/3	7.6	5.3	2.1	105.1	硬泥	刃部欠損。Ⅲ類。
15	打斧	覆土	1/2	9.7	6.6	3.1	188.0	硬泥	両端欠損。Ⅲ類。
16	打斧	覆土	1/2	9.1	6.0	2.8	206.2	硬泥	両端欠損。Ⅲ類。
17	打斧	覆土	破片	5.2	5.2	2.0	63.5	硬泥	両端欠損。形状不明。
18	打斧	覆土	2/3	7.8	3.5	1.1	37.7	硬泥	刃部欠損。Ⅲ類。
19	磨斧	覆土	完形	11.6	4.2	2.1	179.3	変玄	整形後、刃部・表面右側に剥離と敲打による調整。裏面敲打。
20	磨斧	床直	1/2	10.5	5.6	3.6	335.5	変輝	刃部・裏面欠損。
21	石核	覆土	完形	4.7	4.6	2.2	55.1	黒安	相対する二辺の両面で剥片剥離。
22	石核	下位	完形	5.2	5.4	4.3	89.9	硬泥	賽子状。打面・作業面90゜転移しながら剥片剥離。
23	石核	覆土	完形	5.4	5.1	4.6	188.2	細安	賽子状。打面・作業面90゜転移しながら剥片剥離。
24	石核	覆土	完形	7.4	6.0	2.6	98.6	硬泥	剥片の一端腹面側で少数の剥片剥離。
25	石核	覆土	完形	10.2	7.6	4.1	319.6	硬泥	剥片の主に一側両面で剥片剥離。
26	石核	覆土	完形	9.9	6.1	3.7	180.7	硬泥	剥片の一端背面側で少数の剥片剥離。
27	石核	覆土	完形	9.1	4.3	3.4	143.1	硬泥	剥片の一端両面で剥片剥離。
28	敲石	下位	完形	15.3	9.2	4.3	786.4	デイ	盤状の円礫。両端に敲打痕。
29	磨石	覆土	完形	6.7	5.9	4.8	247.0	砂岩	盤状の円礫。表裏に弱い研磨・敲打痕、両側・両端に敲打痕。
30	磨石	覆土	完形	4.7	4.4	1.1	32.7	硬泥	円盤状の円礫。ほぼ全面研磨。側面に一部横方向の線状痕。
31	磨石	下位	ほぼ完	12.3	12.4	7.8	1622.0	粗安	円盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
32	磨石	床直	完形	11.8	9.0	4.5	584.9	変安	盤状の円礫。表裏に研磨面。
33	磨石	床直	一部欠	15.4	10.2	2.7	509.1	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨、左側に敲打痕。上部欠損。
34	磨石	床直	完形	13.6	7.1	6.1	892.5	粗安	棒状の円礫。表面に弱い研磨面。右側を面取り。
35	磨石	下位	一部欠	8.3	0.6	5.3	306.1	粗安	円盤状の円礫。表裏に弱い研磨、両端に敲打痕。器表面かなり剥落。
36	磨石	覆土	破片	6.7	4.9	3.4	121.3	粗安	円礫素材。表裏に弱い研磨。
37	磨石	覆土	完形	6.7	5.9	3.8	187.8	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨面。

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　　　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
38	磨石	中位	破片	6.3	8.8	5.6	291.9	デイ	表裏研磨、上端に敲打痕。下部欠損。
39	多孔	床直	完形	16.1	15.7	13.8	4200.0	デイ	球状の円礫。表裏に凹み各1個。
40	砥石	床直	完形	10.6	8.1	2.9	290.7	砂岩	盤状の円礫。表裏に使用面。表面は中央が浅い溝状にくぼむ。
41	砥石	覆土	破片	6.9	3.9	1.0	30.1	凝砂	盤状の亜角礫。表面に弱い使用面。
42	砥石	床直	1/2	25.4	29.3	7.2	5560.0	砂岩	盤状の角礫素材。表裏に使用面・凹み。

4号住居跡器種組成表

器　種	石鏃	石匙	SS	打斧	磨斧	二次	微細	石核	敲石	磨石	多孔	砥石	剥片
個　数	1	1	1	15	2	6	5	9	1	10	1	3	74

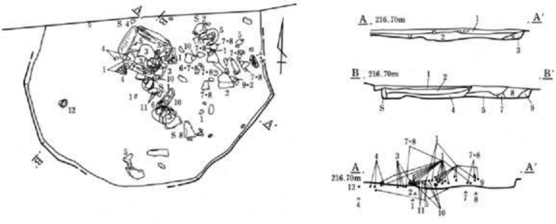


4号住居跡石材重量組成グラフ

16号住居跡（第13～17図、PL 5・121・122・219）

住居の約半分が調査区域外のため明確ではないが、円形あるいは小判形と考えられる。住居は地山を掘り込み、それをそのまま床面として使用しており、床面はやや凹凸があり軟弱である。

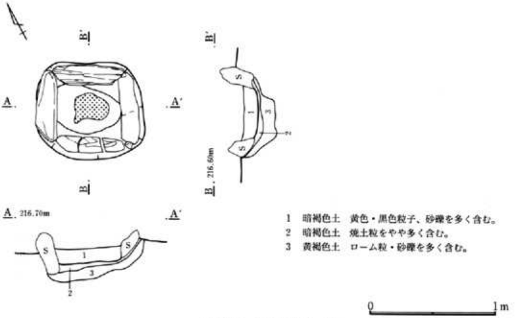
炉は地山をやや掘り込み、石を方形に囲って造られている。炉中央部には焼土が若干遺存していた。出土土器には深鉢があるが、破片となり住居床面付近およびやや浮いた状態で出土している。また石器には打製石斧・磨製石斧・磨石等がある。



1　暗褐色土　白・黄色粒を多く含む。
2　暗黄褐色土　白・黄色粒を1層より多く含む。
3　黄褐色土　粘性。白・黄色粒、ローム粒を含む。
4　暗黄褐色土　ローム粒多く含む。
5　黄褐色土　ローム粒を主体とし、風化礫を少量含む。
6　暗褐色土　白・黄色粒、小礫を含む。
7　暗黄色土　ローム粒・小礫を含む。
8　暗褐色土　礫を僅かに含む。
9　黄褐色土　ローム・小礫を含む。

0　2m

第13図　16号住居跡



第14図　16号住居跡　炉

16号住居跡出土土器（第15・16図、PL121・122）

1は深鉢型土器。口縁部から胴上半部分。口径38.0cm、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内、胴部には縄文LRが施文される。

2は深鉢型土器。口縁部から胴部。口径(30.7cm)、口縁部無文部がやや広く口縁部文様帯は上下を隆帯で画され、渦巻文、楕円文が構成される。胴部は無文。

3は口縁部から胴部。口径(36.0cm)、口縁部は隆帯により渦巻文、楕円文が構成される。区画内は縦沈線で、胴部は「ハ」の字状の沈線が乱雑に施文されている。

4は口縁部。口径（33.8cm)、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、区画内は縦沈線が充塡。胴部は縦方向の沈線、沈線間は綾杉状の集合沈線で充塡される。

5は口縁部分を欠く深鉢型土器。底径6.2cm。口縁部は隆帯による区画文が構成されるものと思われる。胴部は中位でやや膨らみをもち、沈線で画された縦位無文帯。縄文RLが縦位施文される。

6は鉢型土器。口縁部はやや内湾。口径（35.2cm)、口縁部に横位の沈線。無文である。

7は口縁部片、隆帯により、楕円文が構成され、楕円文内は縦の沈線で充塡され、胴部は縦の波状沈線が垂下する。

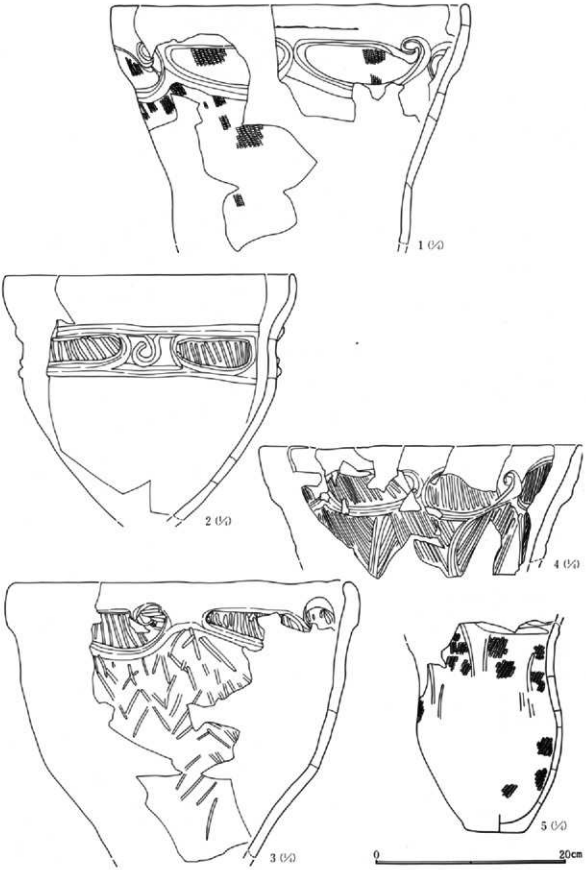
8は膨らみをもつ胴部片。波状沈線が垂下する。

9口縁部片。口縁部は隆帯により、連弧状文による区画を構成、連結部には円形文が見られる。区画内には縦位沈線が付される。

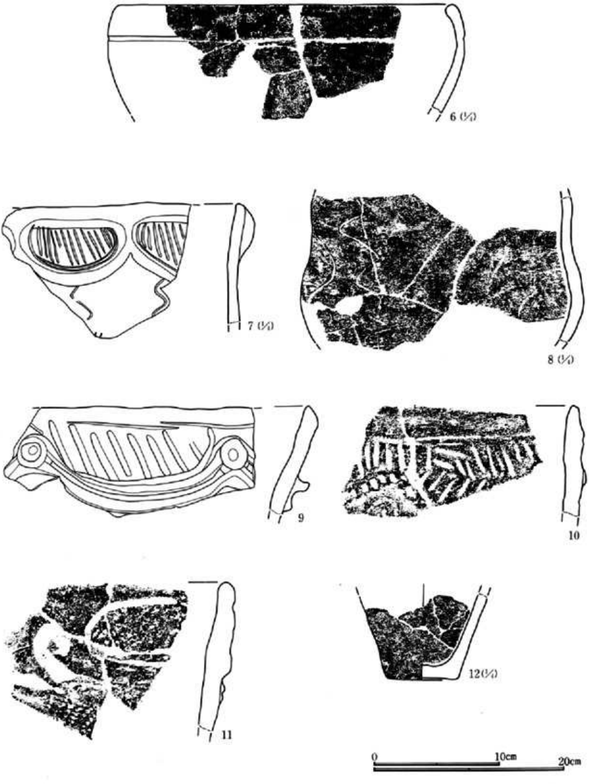
10は口縁部。口縁部に沈線を廻し、刺突文を持った隆帯で弧状の口縁部文様帯を構成、縦位、矢羽状の太い沈線文が充塡される。

11は口縁部片。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。縄文が充塡されている。

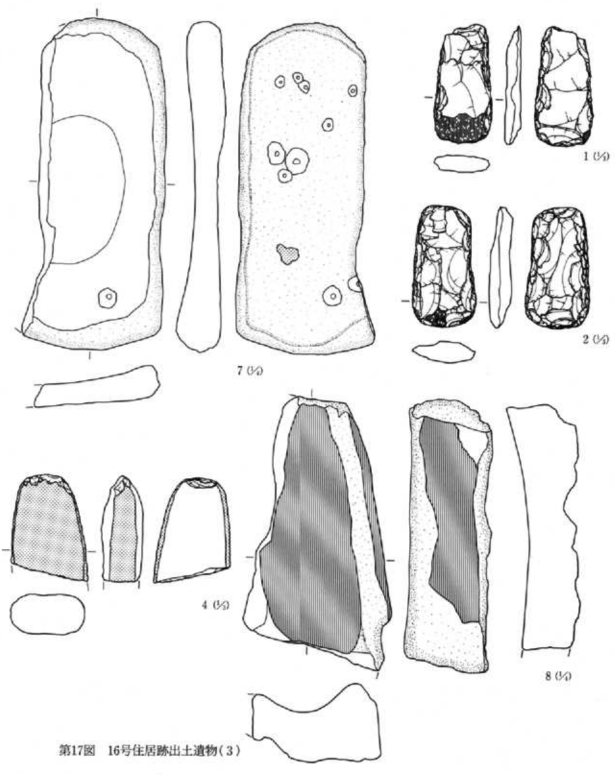
12は底部。底径7.6cm、無文である。



第15図　16号住居跡出土遺物(１)



第16図　16号住居跡出土遺物（２）



第17図　16号住居跡出土遺物（３）

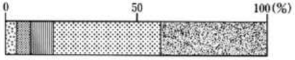
16号住居跡出土石器観察表

№	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g） 長さ	幅	厚さ	重量	石材名	特　　　微
1	打斧	床下	完形	9.4	4.6	1.4	88.5	変玄	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
2	打斧	床直	完形	9.6	5.1	11.8	105.3	硬泥	刃部磨耗。Ⅲ類。
3	打斧	覆土	破片	5.6	4.6	1.6	34.9	硬泥	両端欠損。形状不明。
4	磨斧	床下	1/2	8.3	6.2	3.4	285.0	変玄	研磨は裏面のみ。他は敲打痕残す。刃部欠損。

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
5	磨石	床下	完形	7.9	6.4	5.5	392.4	粗安	棒状の円礫。表裏に弱い研磨、両端に敲打痕。
6	石核	床下	完形	12.4	10.1	4.6	471.3	硬泥	剥片の一端腹面側で少数の剥片剥離。
7	石皿	床下	1/2	34.8	14.9	4.8	3930.0	緑片	盤状の円礫。内面使用により平滑。内外面に凹み。
8	砥石	床下	1/2	28.2	15.7	6.1	3900.0	砂岩	表面・右側に使用面。表面は溝状に湾曲。

16号住居跡器種組成表

器　種	打斧	磨斧	二次	石核	磨石	石皿	砥石	剥片
個　数	3	1	1	1	1	1	1	9



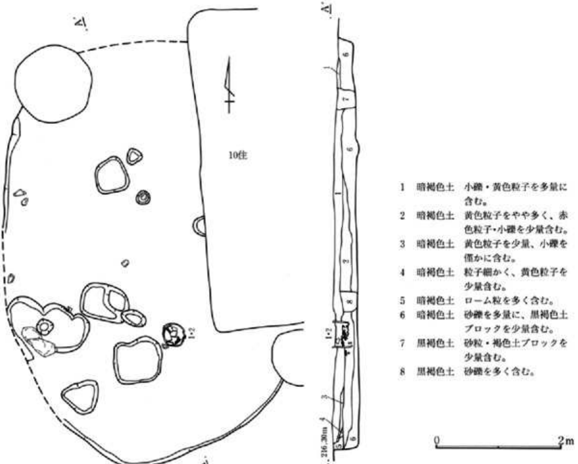
16号住居跡石材重量組成グラフ

21号住居跡（第18・19図、PL 6・122）

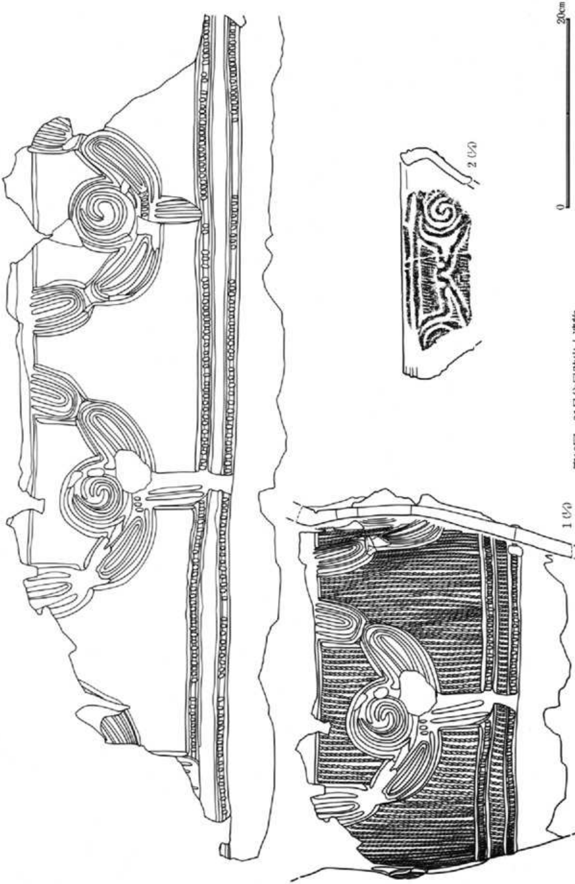
住居は、廃棄後に造られた多くの遺構によって破壊されており、一部残存している壁から平面形は小判形とも推定出来る。床面は地山を平坦に掘り込んだ面である。床面には若干凹凸はあるものの、ほぼ平坦であり、比較的固くしまっている。

Pit は若干検出されているが、柱穴ははっきりしない。また床面上には深さ５～10cmの浅い土坑状の掘り込みがある。なお、炉跡は発見されなかった。

出土遺物として深鉢型および浅鉢型土器がある。深鉢型土器は胴部のみであるが、床面上に置かれた状態で出土している。



第18図　21号住居跡



第19図　21号住居跡出土遺物

21号住居跡出土土器（第19図、PL122）

１は大型深鉢型土器の胴部分である。いわゆる樽型を呈し、口縁部は外反するものと思われる。胴部に幅広の文様帯を持つ。撚糸文Ｌが縦に充填施文され、幅広で絞り部を持つ複数隆線により、渦巻文をもつ「Ｙ」字状の抽象文が４単位施される。渦巻文の中央は高まる。下位は２本の刻みをもつ隆帯で画され、以下は無文である。

２は口縁部。口径(23.2cm)、口縁部に横位の隆線が廻り、隆帯による渦巻文が横に連結して描かれる。地文には縦位の条線文が施文されている。

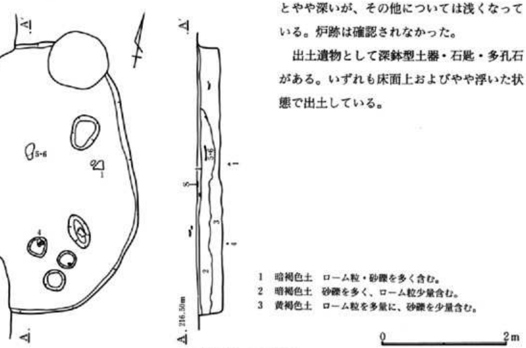
22号住居跡（第20～23図、PL 6・122・123・219）

住居西側約２分の１は、２号住居跡および10号住居跡によって破壊されており、東側約半分の残存である。平面形は円形あるいは小判形と考えられるが、はっきりしない。

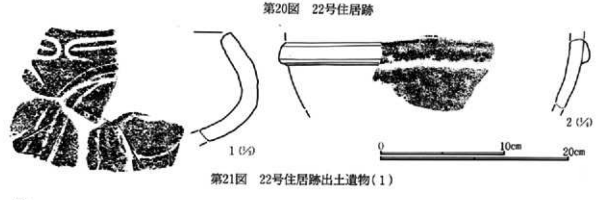
床面は、中央部が周辺に比べてやや高くなっているが、それ以外に凹凸は少なく平坦である。床面下に掘り方は存在せず、地山を平坦に掘り込んだ面をそのまま床面としていると考えられる。なお、床面は軟弱であった。

明確な柱穴は確認されていないが、最も南に位置するPitおよび北に隣接するPitについては深さ約20cmとやや深いが、その他については浅くなっている。炉跡は確認されなかった。

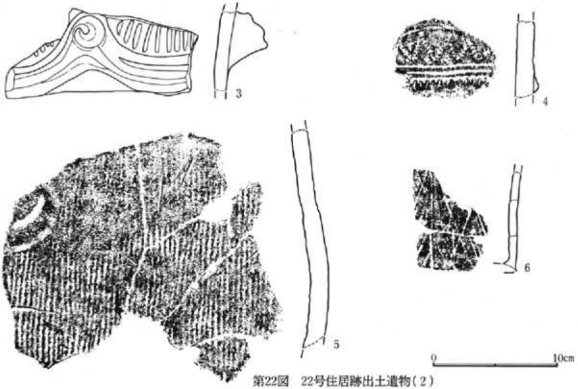
出土遺物として深鉢型土器・石匙・多孔石がある。いずれも床面上およびやや浮いた状態で出土している。



第20図　22号住居跡



第21図　22号住居跡出土遺物（１）



第22図　22号住居跡出土遺物（２）

22号住居跡出土土器（第21・22図、PL122・123・219）

１は口縁部片で強く内湾する。沈線による曲線文が描かれる。

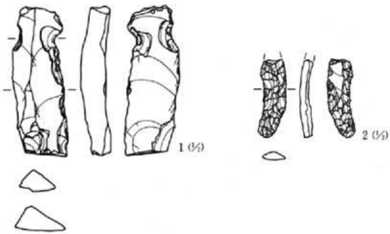
２は胴部片。やや幅広の隆帯が横に廻る。無文である。

３は口縁部文様帯部分。隆帯により連結部が渦巻となる。弧状文が構成され、区画文内には縦位沈線が見られる。

４は地文に縄文施文後、横位沈線、刻みをもつ隆線が廻る。

５は胴部片。縦位に太めの撚糸文Ｌが施文され、沈線による渦巻文の一部が見られる。

６は底部片。縦位綾杉状文が沈線で描かれる。



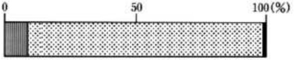
第23図　22号住居跡出土遺物（３）

22号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石匙	覆土	完形	7.9	3.0	1.6	33.5	黒頁	両側上部に抉り入れつまみ部形成。調整は主に表面右側のみ。
2	石匙	覆土	2/3	4.1	1.5	0.7	3.4	黒曜	両面を丁寧に調整。裏面に素材面残す。つまみ欠損。
3	打斧	覆土	完形	9.9	4.2	2.0	83.3	硬泥	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
4	多孔	床下	破片	16.3	19.0	4.2	1183.6	砂岩	盤状の亜角礫。表面に凹み・敲打痕、裏面に弱い研磨。

22号住居跡器種組成表

器　種	石匙	打斧	二次	微細	多孔
個　数	2	1	2	2	1



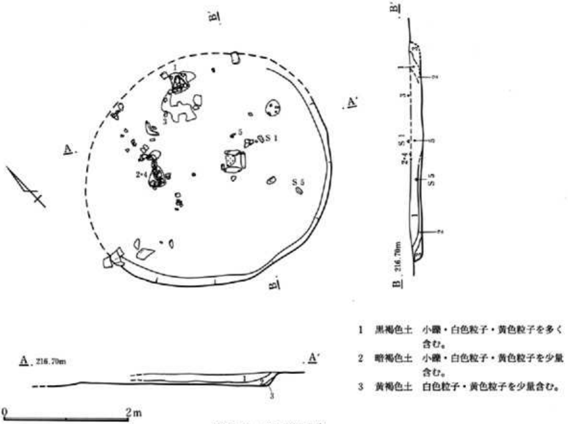
22号住居跡石材重量組成グラフ

32号住居跡（第24～27図、PL 6・123・219）

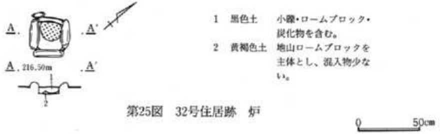
住居は33号住居跡の埋没後に造られている。平面形は円形となるものと推定されるが、33号住居跡と床面の高さが同じであり、明確な範囲を確定することは難しい。

床面は地山を掘り凹めて造られており、掘り込んだ面をそのまま床面としている。床面は若干凹凸があるものの、概ね平坦である。

炉跡は床面を掘り込んで造られており、河原石を方形に配している。炉内には焼土が薄く残されていた。出土遺物として深鉢型土器と打製石斧がある。いずれも床面よりやや浮いた状態で出土しており、土器は破片としての出土である。

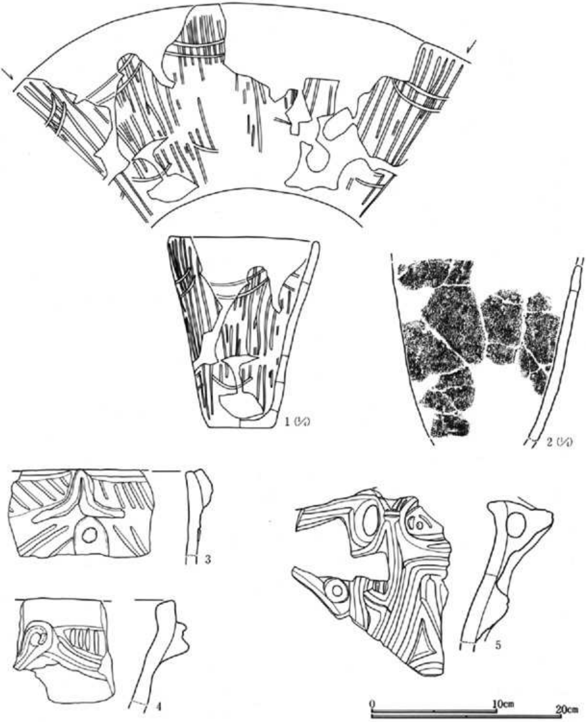


第24図　32号住居跡



1　黒色土　小礫・ロームブロック・炭化物を含む。
2　黄褐色土　地山ロームブロックを主体とし、混入物少ない。

第25図　32号住居跡　炉



第26図　32号住居跡出土遺物(1)

32号住居跡出土土器（第26図、PL123・219）

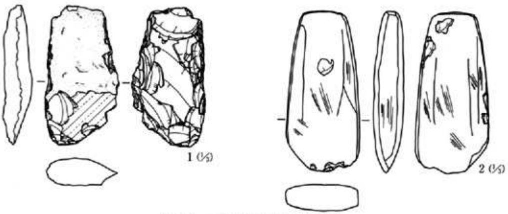
1はほぼ完形の深鉢型土器。口径15.6cm、器高20.1cm、底径6.7cm、全面に粗く縦位沈線施文後、口縁部には沈線で2本単位の連弧文、胴下部には1本の連弧文が施文される。

2は無文の胴部。

3は口縁部片。口縁部には「人」字状の隆帯文が付され、左右には斜沈線文。隆帯直下には円形の凹みが見られ、やはり左右に斜沈線文。

4は口縁部片。隆帯により連結部が盛り上がり渦巻となる弧状文が構成され、縦位沈線が見られる。

5は眼鏡状突起を持ち、隆線による曲線文。



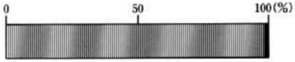
第27図　32号住居跡出土遺物(2)

32号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	中位	完形	11.0	5.9	2.3	156.5	硬泥	II b類。
2	磨斧	覆土	完形	12.7	5.8	2.1	293.7	蛇紋	全面丁寧に研磨。刃部使用により磨滅。

32号住居跡器種組成表

器　種	打斧	磨斧	二次	微細	剥片
個　数	1	1	2	2	10



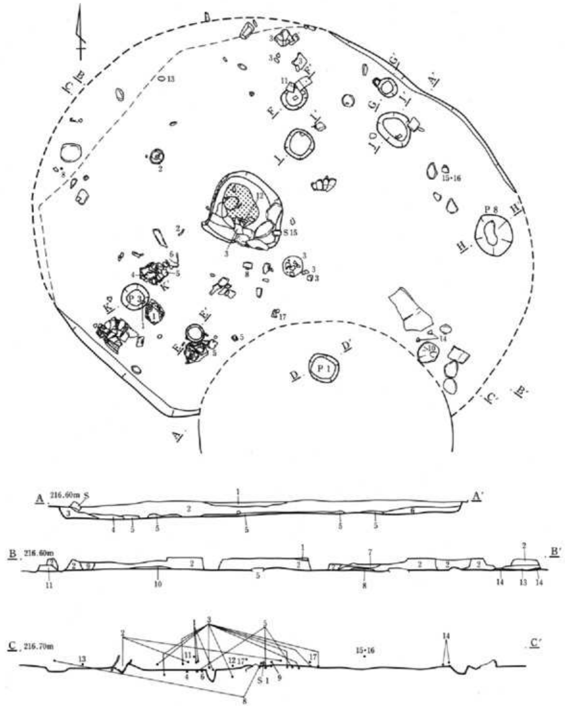
32号住居跡石材重量組成グラフ

33号住居跡（第28〜33図、PL 6・7・123〜125・220）

本住居跡は、南側を32号住居跡によって床面の一部が削られている。また東南部分は50号住居跡と重複しているため、壁は確認されていない。住居の平面形は小判形と推定出来る。

床面は地山を掘り込み、その面に粘質のロームを貼っている。ほぼ平坦な床面で、比較的固くしまっている。柱穴とも考えられるPitは、壁近くに確認されたが、住居北西部分にはみられなかった。炉は住居のほぼ中央を掘り込んで造られており、炉壁には石が置かれていた。

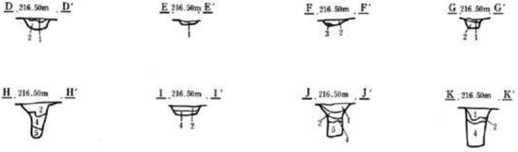
出土遺物として深鉢型土器・打製石斧・多孔石・凹石・敲石・石鏃がある。土器2は胴下部が埋設されている。また土器1は、大きく割れた破片が床面に押しつぶされたような状態での出土である。



1　黄褐色土　ローム粒を多量に含む。小礫を含む。
2　暗褐色土　ローム粒・小礫を含む。
3　黄褐色土　ローム粒多く、小礫を少量含む。
4　暗褐色土　ローム粒・小礫を多く含む。
5　黄褐色土　ローム粒主体。
6　暗褐色土　ローム粒・小礫を含む。
7　暗褐色土　ローム粒を多量に、小礫を少量含む。
8　黄褐色土　ローム粒主体。
9　黒褐色土　小礫を多く含む。
10　暗褐色土　小礫を少量含む。
11　暗黄色土　ローム粒・礫を含む。
12　暗褐色土　ローム粒・小礫を含む。
13　暗褐色土　ローム粒主体。
14　黄褐色土　ローム粒（ラミナ質）主体。

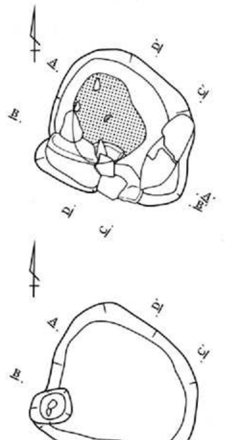
0　2m

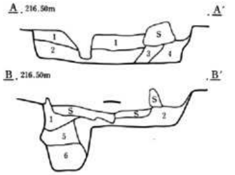
第28図　33号住居跡



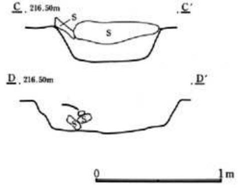
1　黒褐色土　炭化物・白色土粒・小礫を含む。
2　黒褐色土　炭化物・白色土粒・小礫・ロームブロックを含む。
3　黒褐色土　炭化物・小礫を含む。
4　黒褐色土　炭化物・小礫を僅かに含む。
5　黒褐色土　炭化物を少量含む。

第29図　33号住居跡　Pit

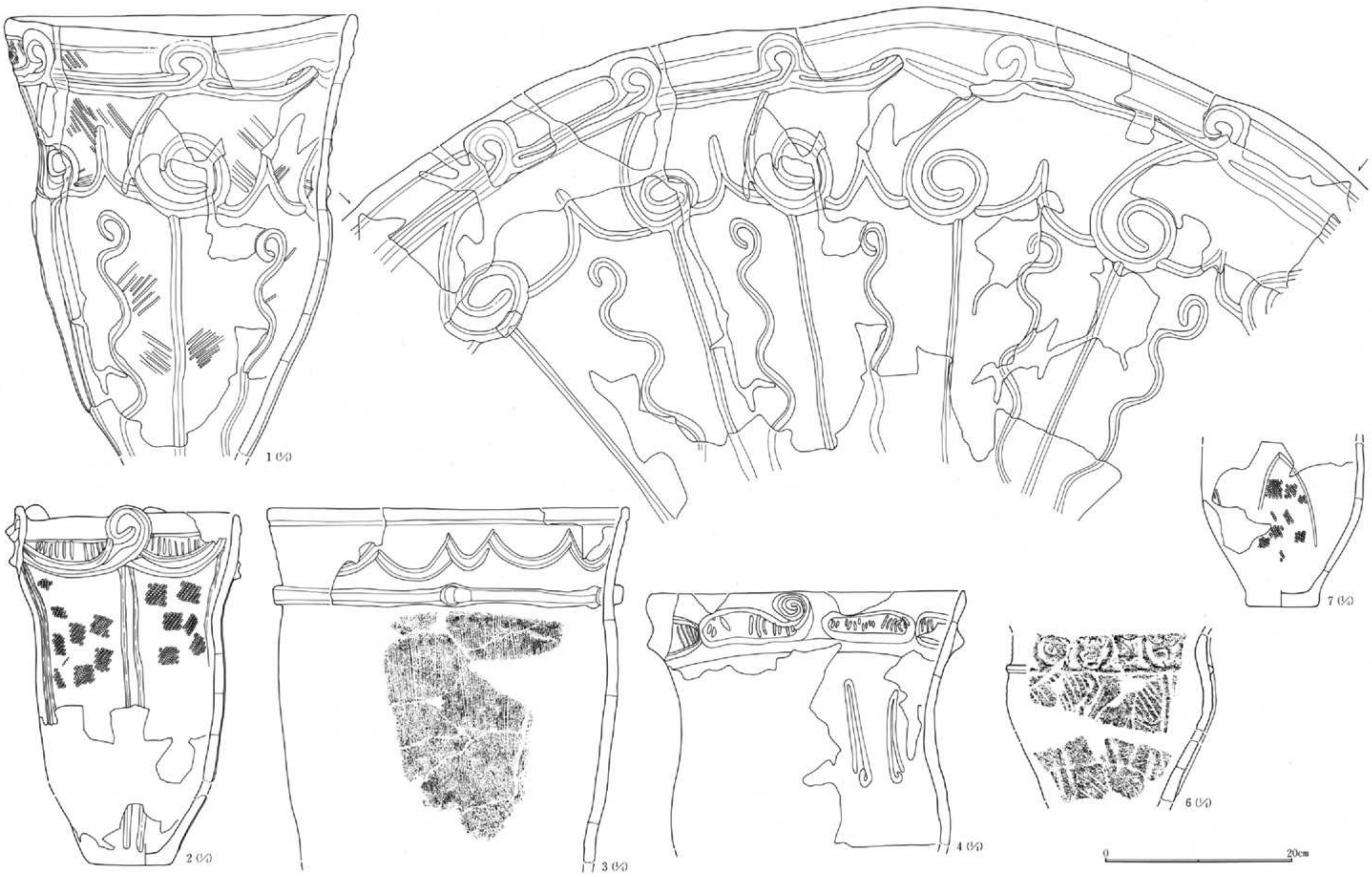




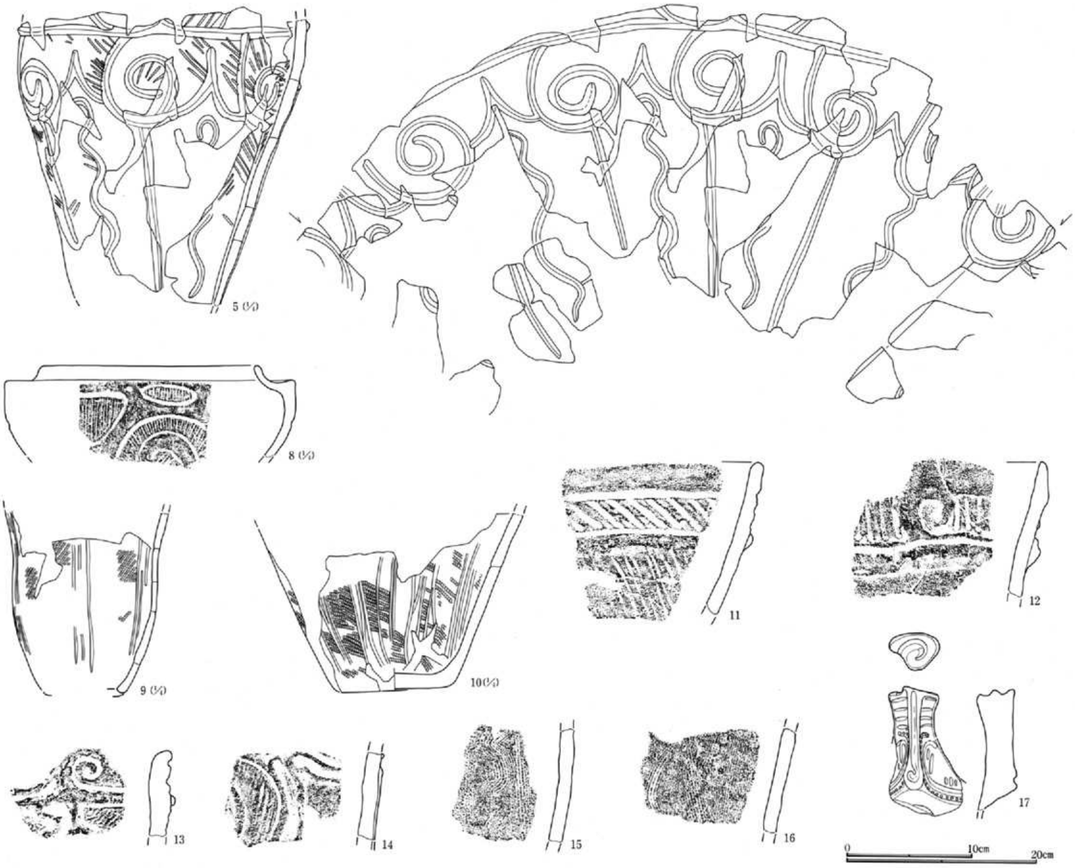
1　黒褐色土　砂礫・炭化物・焼土を僅かに含む。
2　暗褐色土　砂礫・炭化物・焼土を僅かに含む。
3　暗褐色土　砂礫を少量含む。
4　暗褐色土　粒子細かく、砂礫を少量含む。
5　暗褐色土　粒子細かく、白色・黄色粒子を含む。
6　暗褐色土　粒子細かく、砂礫・黄色粒子を含む。



第30図　33号住居跡　炉



第31図　33号住居跡出土遺物（1）



第32図　33号住居跡出土遺物（2）

33号住居跡出土土器（第31・32図、PL123〜125）

1は口縁部から胴部下半部にかけての深鉢型土器。口径37.5cm。比較的縮まった底部から胴部はやや開いて立ち上がる。胴部上位でわずかに縮まり、口縁部はわずかに開く。施文は口縁部隆帯により、端部が渦巻文となる区画文が構成され、区画内には斜位沈線。胴部は口縁部隆帯からつながる隆線による渦巻文を横位連結する。渦巻文から隆線が垂下し、さらにその間には、上端が蕨手状となる波状隆線が垂下。地文には部分的に斜位の沈線文が見られる。

2はほぼ完形の深鉢型土器。口径23.1cm、器高（37.3cm）、底径8.9cm。胴部の膨らみは弱く、上位部分でわずかに縮まる。口縁部は隆帯により、連結部が口縁部上にまで盛り上がり、渦巻となる弧状文が構成される。区画文内には縦位沈線が充塡される。渦巻から2本の隆線が垂下し、胴部には縄文RLが施文されるが、下半部分には施文が見られない。

3は比較的大型の深鉢型土器。口縁部がわずかに外反する樽形を呈す。口径38.4cm。口縁部に沿って横位沈線が廻り、以下区画帯には2本単位の沈線で横位の連弧文を配す。頸部には接合部分が押圧で幅広になった隆帯が見られる。胴部には縦位集合条線が施文される。

4は深鉢型土器。口径33.4cm。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部には上端が丸まったヘアピン状の縦位沈線文が描かれる。

5は深鉢型土器の胴部片。器形がやや異なるものの、隆線により1とほとんど同様の文様を描く。器面上に砂粒が目立つ。

6は胴部片。横位隆帯により上下文様帯を区切る。上位には横位に円形区画文。区画内には沈線による円形文、C字状文が配される。胴部には隆帯による曲線文が垂下し、曲線文間には斜沈線が付される。かなり脆弱な土器である。

7は胴部から底部。底径7.4cm。沈線による紡錘文を描き中を縄文施文する。

8は鉢型土器。口径(22.6cm)。口縁部は段をもって内側に入り、短く立ち上がる。胴部には沈線で画した楕円文、円形文を描き文様内部を縦位沈線で埋める。

9は深鉢型土器の胴部。3本単位の沈線が垂下し、縄文RLが施文されている。

10は底部。底径11.5cm。縄文施文後、3本単位の縦位沈線。

11は口縁部片。隆帯で口縁部文様帯を画す。2本の横位沈線文間を斜めの短沈線で埋める。隆線以下には斜位の集合沈線文。

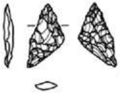
12は口縁部片。口唇部がやや薄く仕上げられている。隆帯で口縁部文様帯を画す。隆線による渦巻文で横単位に区切り、単位文内には縦位沈線文。

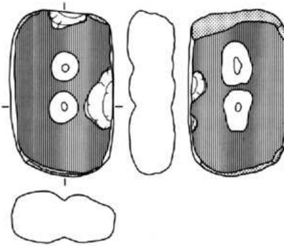
13は口縁部の小波頂部分片。波頂部に横位隆線でつながった渦巻文が描かれる。以下隆線による区画文が描かれ、縄文が充塡される。

14は胴部片。隆帯による曲線文を描く。

15・16は胴部片。縦位波状集合条線が施文される。

17は把手片。口縁部に三角柱状に立ち上がり、沈線、刺突文で加飾施文される。


1 (2/3)


15(1/3)

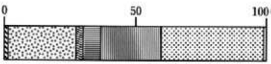
第33図　33号住居跡出土遺物（３）

33号住居跡出土石器観察表

№	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	完形	2.1	1.1	0.3	0.6	黒曜	平基無茎鏃。基部斜状。破損後の再調整のためか。
2	打斧	床直	一部欠	10.7	5.2	1.8	106.6	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。Ⅲ類。
3	打斧	床直	ほぼ完	12.3	5.3	2.4	169.5	変安	基部・刃部一部欠損。Ⅲ類。
4	打斧	中位	完形	11.1	4.6	2.1	106.1	硬泥	刃部磨耗。基部側にも一部磨耗みられる。Ⅲ類。
5	打斧	下位	2/3	7.5	3.8	1.5	57.4	硬泥	基部破片。Ⅲ類。
6	打斧	下位	完形	13.8	4.3	2.1	165.8	デイ	Ⅲ類。
7	打斧	床下	一部欠	11.9	4.6	1.4	96.4	粗安	刃部一部欠損。Ⅲ類。
8	打斧	床下	完形	12.8	4.7	3.1	230.0	硬泥	刃部磨耗。Ⅲ類。
9	打斧	床直	1/2	6.5	4.5	1.4	54.4	粗安	基部破片。形状不明。
10	打斧	床直	1/2	6.8	4.6	2.0	64.5	硬泥	両端欠損。Ⅱｂ類。
11	打斧	床直	1/3	6.5	6.0	1.7	73.5	粗安	刃部破片。先端かなり磨耗。Ⅱｂ類。
12	打斧	覆土	1/2	8.8	5.4	2.3	138.0	珪頁	刃部磨耗。Ⅲ類。
13	打斧	床下	破片	7.6	5.7	2.9	141.2	硬泥	刃部破片。形状不明。
14	凹石	床下	一部欠	12.1	7.1	4.2	480.9	変安	盤状の円礫。表面に凹み・敲打痕、裏面・上端に敲打痕。
15	凹石	下位	完形	13.1	8.3	4.0	710.8	砂岩	両側を面取り、両端に敲打。表裏に凹み各２個・研磨面。
16	敲石	床直	完形	9.2	5.7	4.5	397.9	閃緑	棒状の円礫。両端に敲打痕。
17	多孔	下位	1/3	13.7	22.2	7.0	1643.2	砂岩	盤状の角礫。表裏に大小の凹み。

33号住居跡器種組成表

器　種	石鏃	打斧	二次	微細	石核	原石	凹石	敲石	多孔	剥片
個　数	1	12	1	5	3	1	2	1	1	31



33号住居跡石材重量組成グラフ

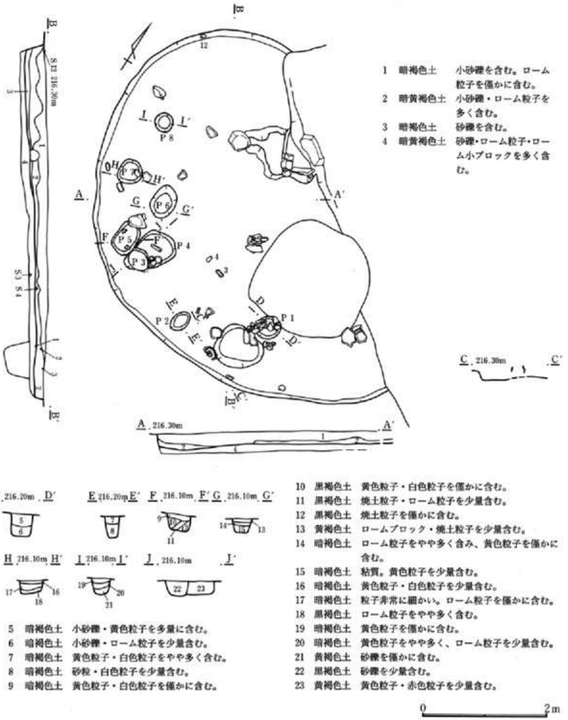
35号住居跡（第34～37図、PL ７・126・220・221）

本住居跡は、34号住居跡および１号井戸によって約半分が破壊されている。平面形は小判形になるものと推定される。

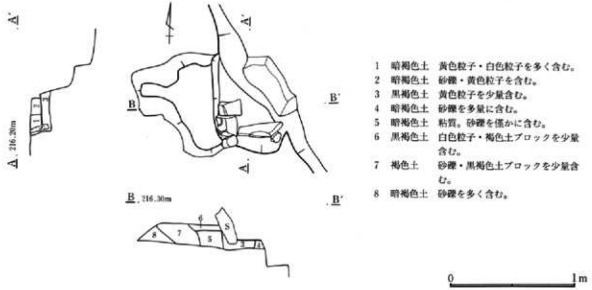
床面はほぼ平坦で、ローム粒・ロームブロックを多く含む褐色土で貼床しており、比較的しっかりしている。柱穴とも考えられる Pit は、住居西側から南側にかけて集中している。また深さ約30cm前後で、やや大きな掘り込みもみられる。

掘り方は凹凸が少なく、ほぼ水平である。炉跡は住居の中心よりやや北側に発見されたが、34号住居跡によって半分以上は破壊されていた。炉の残存部分から推定すると、方形に地山を掘り込み、炉壁に石を巡らしていたものと思われる。

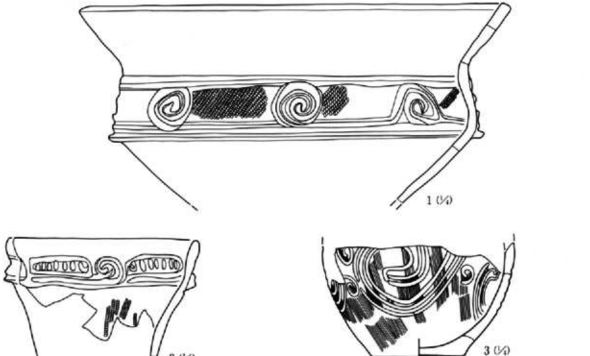
出土遺物として深鉢型土器・浅鉢型土器・打製石斧・磨製石斧・磨石がある。いずれも床面付近およびやや浮いた状態で出土している。



第34図　35号住居跡



第35図　35号住居跡　炉



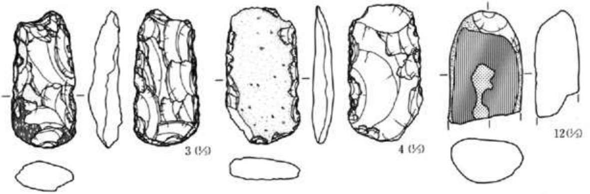
第36図　35号住居跡出土遺物（1）

35号住居跡出土土器（第36図、PL126）

1は鉢型土器。頸部で「く」の字に折れて外反する。口縁部は無文、文様帯は上下を隆帯によって画し、隆帯により、渦巻文が構成され、縄文が施文される。口径（45.6cm)。

2は胴上半部。口径20.0cm、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、区画内に縦沈線文。

3は胴下半部丸みを持つ。底径9.5cm、縦位条線施文後、3本単位の沈線で渦巻文。



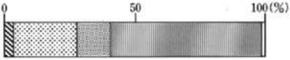
第37図　35号住居跡出土遺物(２)

35号住居跡出土石器観察表

№	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	覆土	完形	11.4	5.4	2.4	153.2	変安	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
2	打斧	中位	一部欠	10.3	5.0	1.3	85.4	変玄	基部一部欠損。Ⅱｂ類。
3	打斧	下位	完形	10.7	5.1	2.6	149.7	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。Ⅲ類。
4	打斧	床直	ほぼ完	10.8	5.9	1.8	131.5	粗安	Ⅲ類。
5	打斧	覆土	1/2	6.9	4.4	1.6	59.1	硬泥	刃部欠損。Ⅲ類。
6	打斧	覆土	1/2	6.3	4.2	2.4	56.7	珪頁	刃部欠損。Ⅱｂ類。
7	打斧	覆土	破片	5.4	4.9	1.4	37.8	硬泥	基部破片。形状不明。
8	打斧	覆土	1/2	7.1	5.3	1.3	60.8	粗安	基部欠損。Ⅲ類。
9	打斧	覆土	完形	10.0	4.2	1.7	74.6	粗安	Ⅲ類。
10	磨斧	中位	破片	7.4	5.5	3.3	164.9	変玄	未製品の破片。剥離による整形途中。
11	磨石	覆土	完形	7.8	5.2	1.4	102.6	変玄	円盤状の円礫。表裏に研磨面・線状痕。
12	磨石	中位	1/2	8.8	5.9	3.5	251.0	変安	盤状の円礫。表面に研磨・敲打痕。

35号住居跡器種組成表

器種	打斧	磨斧	二次	微細	石核	磨石	剥片
個数	9	1	11	1	2	2	29



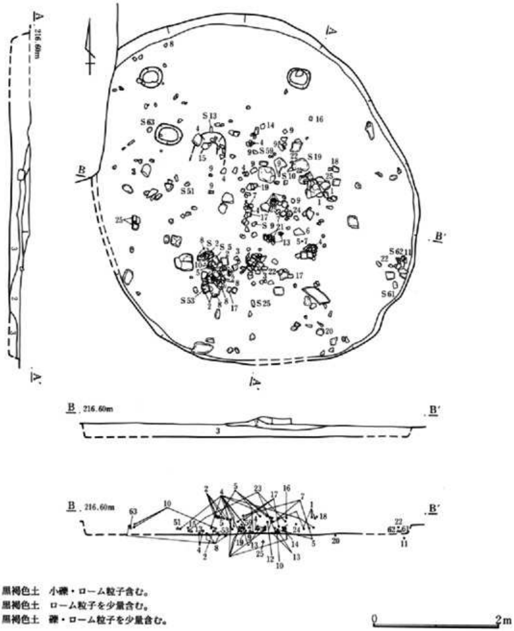
35号住居跡石材重量組成グラフ

37号住居跡（第38～44図、PL 7・8・126～128・221～223）

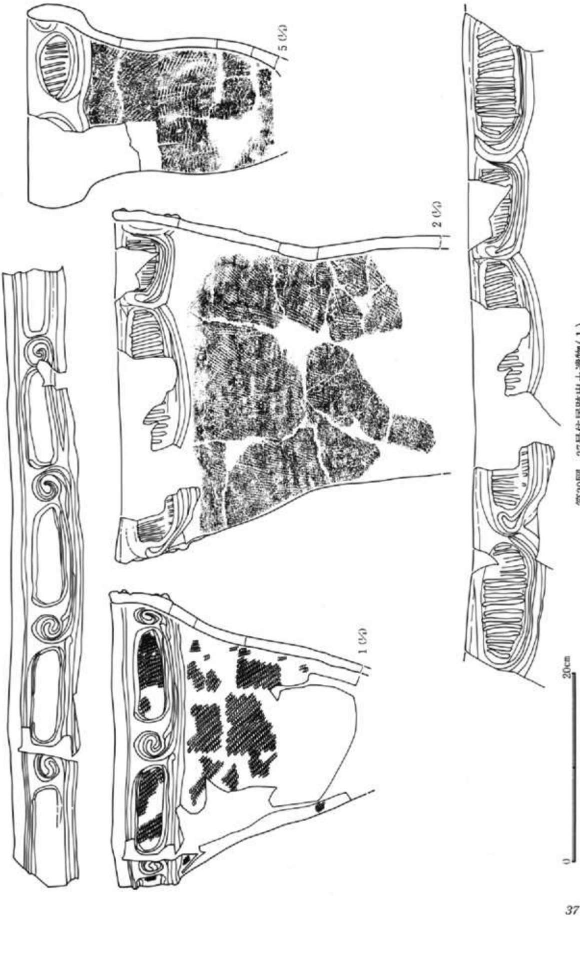
本住居跡は不整円形を呈する。壁の西北部は25号住居跡によって破壊されている。住居西側と南側の一部については、壁および床面を捉えることが困難な部分があり、破線で示した。

床面は、砂礫を含んだ黒褐色土で貼床をしており、平坦ではあるが住居中央付近の一部を除いて軟弱である。柱穴として可能性のある位置に3基の Pit が検出されているが、いずれも深さ5㎝と浅いものである。炉跡については確認されなかった。

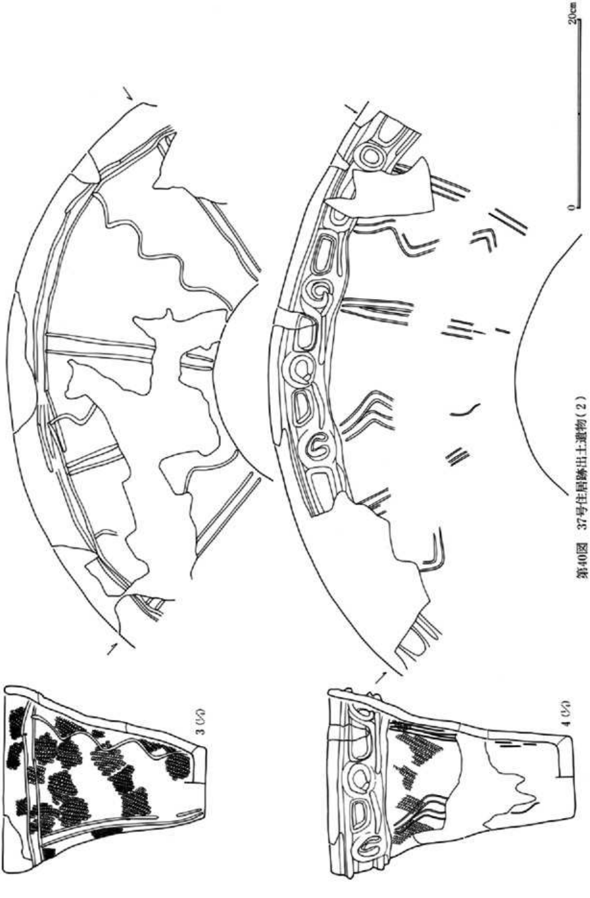
出土遺物は多く、住居全体から出土しているが、比較的床面に近い遺物については住居中央付近に集中する傾向がみられる。出土遺物には打製石斧・石核・磨石・石皿・石匙等がある。図示した遺物については、いずれも床面直上から約30cm上方の間である。



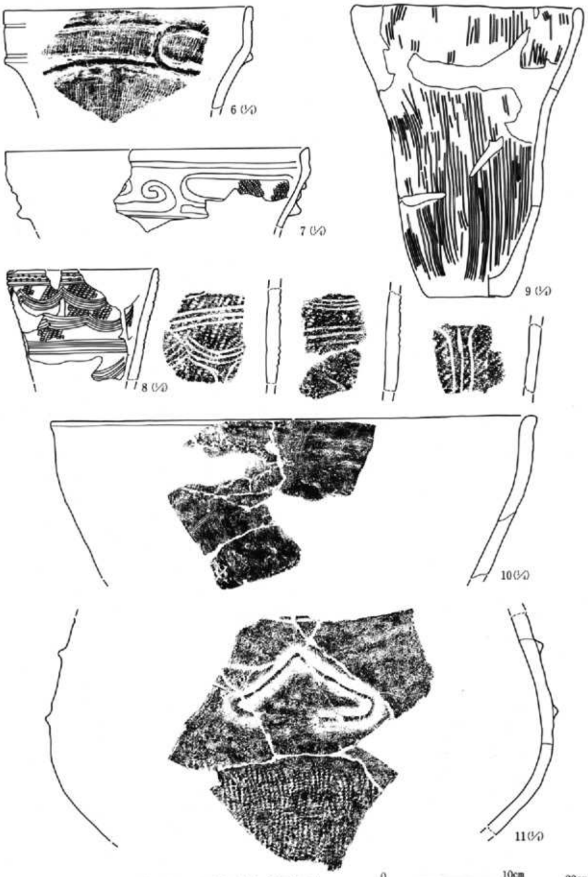
第38図　37号住居跡



第39図　37号住居跡出土遺物（１）

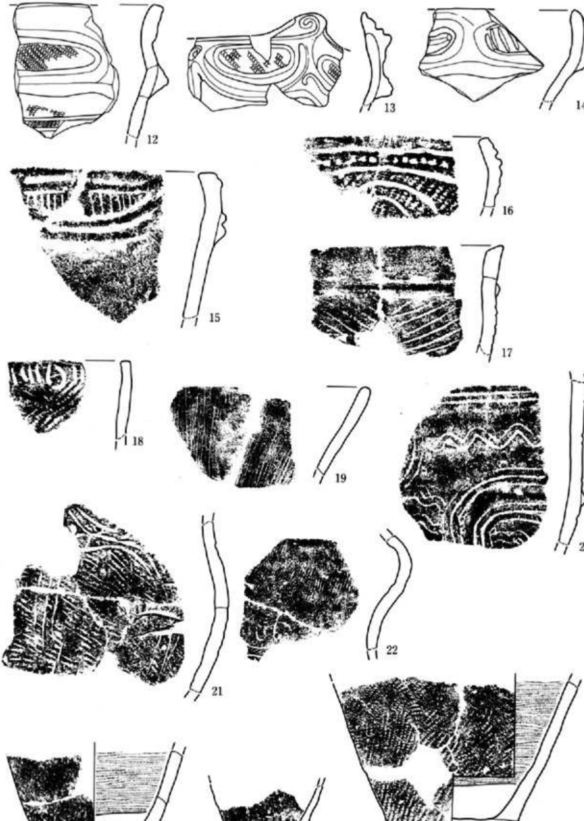


第40図　37号住居跡出土遺物（２）



第41図　37号住居跡出土遺物（３）

0　10cm　20cm



第42図　37号住居跡出土遺物（４）

37号住居跡出土土器（第39～42図、PL126～128）

1は口縁部から胴部にかけての深鉢型土器。胴下部はやや締まる。口径30.7cm。口縁部に沿って横位の隆帯が廻る。口縁部文様帯は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、区画内には縄文が充填される。胴部は縄文LRが縦位施文される。

2は口縁部から胴部。胴中位でやや括れる。口径36.5cm。口縁部は隆帯により、楕円文が構成され、縦位沈線が充填施文される。胴部は縄文RLが縦位施文される。

3はほぼ完形の深鉢型土器。口径19.3cm、器高21.6cm、底径7.2cm。口縁部に2本の沈線を横に廻し、2本単位の沈線が4本、および1本の波状沈線が3本交互に垂下する。地文には縄文RLが施文されるが部分的に無文部分が見られる。

4は口縁部から底部。口径19.5cm、器高（26.1cm）、底径8.1cm。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部はRL縄文施文後、2本単位の並行、波状沈線が垂下する。

5は口縁部から胴部。口径(19.9cm)。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、縦位沈線が充填される。胴部には縄文が充填施文される。

6は口縁部。口径(26.6cm)。口縁部は隆帯により、楕円区画文が構成される。口縁部、胴部に縦位の条線が見られる。

7は口縁部。口径（32.0cm)。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。

8は口縁部から胴上半部。口径(15.7cm)。口縁部、胴部に横位の沈線を廻す。口縁部の沈線は刺突文を伴う。以下2段の連孤文が施文される。縄文RLが施文される。

9は口縁部から底部。口径24.2cm、器高31.0cm、底径8.8cm。縦位条線が充填施文される。

10は口縁部。口径（52.0cm)。大型の無文土器。

11は大型深鉢の胴部片。中位に最大径を持つ丸みを帯びた器形を呈す。横位沈線、隆線による三角文。下半部には縄文RLが施文される。

12は口縁部片。隆帯により、楕円文が構成され、内部は縄文が施文される。

13は口縁部片。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。口縁部には肥厚した渦巻文。

14は口縁部片。隆帯により、縦位沈線を持つ楕円文が構成される。

15は口縁部片。隆帯により、縦位沈線を持つ楕円文が構成される。

16は口縁部片。口縁部に沈線と刺突文列。下位に沈線による渦巻文。縄文RLが施文される。

17は口縁部に隆帯で画された無文帯を持ち、以下、矢羽状の縦位沈線文。

18は口縁部片。口縁部に沿って縦位沈線文。地文には羽状縄文。

19は口縁部片。縦位条線文。

20は胴部片。並行沈線による横位線文、波状文。隆帯による区画文が描かれる。

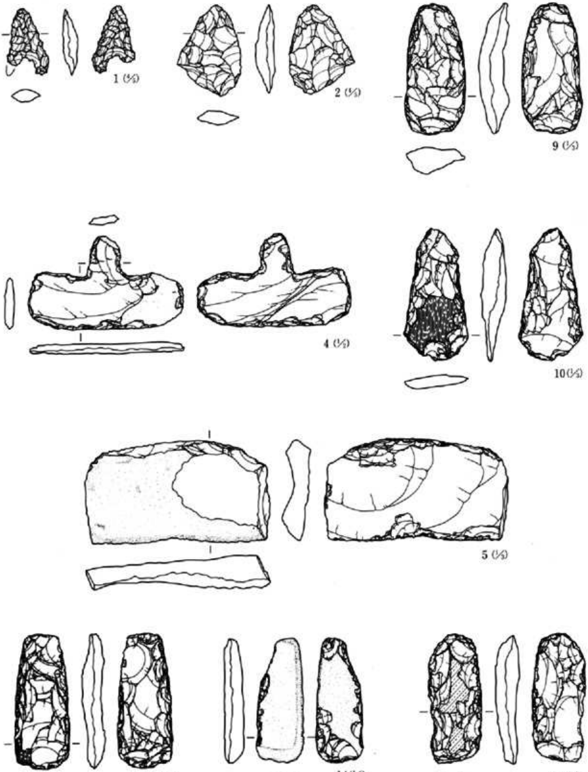
21は胴部片。地文にLR縄文。沈線による曲線文が見られる。

22は屈曲した胴部片。細縄文RLが施文される。

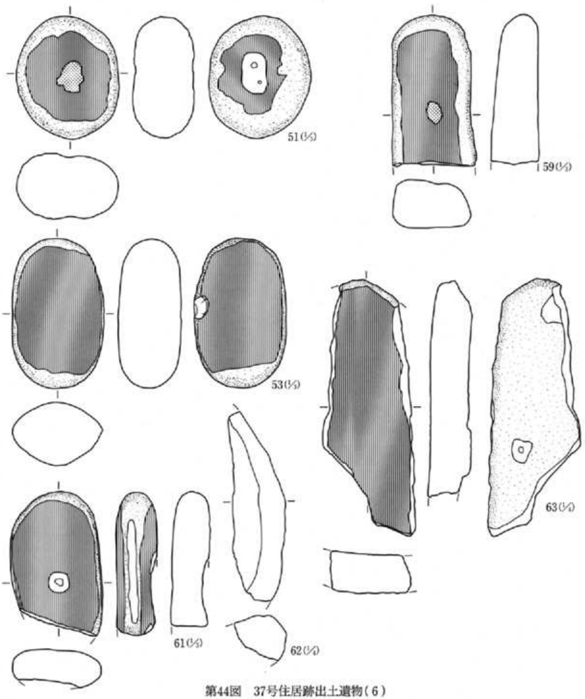
23は底部片。底径（9.0cm)。縄文が施文されるが不鮮明である。

24は底部片。底径6.8cm。施文は不明。

25は底部。底径12.9cm。縄文RLが施文される。



第43図　37号住居跡出土遺物（５）



第44図　37号住居跡出土遺物（６）

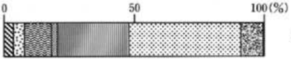
37号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　　　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	一部欠	2.2	1.4	0.5	1.0	黒曜	凹基無茎鏃。左脚欠損。
2	石鏃	床直	完形	3.0	2.1	0.7	3.5	黒安	凸基無茎鏃。調整やや粗い。未製品か。
3	楔	覆土	完形	1.6	1.3	0.4	0.7	黒曜	両端に剥離痕。
4	石匙	下位	完形	4.9	8.2	0.6	23.2	珪準	横型。周辺両面に調整。
5	ＳＳ	下位	完形	8.1	14.6	2.6	311.0	粗安	横長剥片の両端に調整。
6	打斧	中位	完形	9.5	4.7	1.9	99.3	硬泥	刃部先端わずかに磨耗。基部磨耗。Ⅱｂ類。
7	打斧	中位	完形	9.1	4.1	1.5	63.2	硬泥	剥片素材。刃部磨耗。Ⅱｂ類。
8	打斧	下位	一部欠	10.8	4.9	2.4	127.3	硬泥	刃部磨耗。一部欠損。Ⅱｂ類。
9	打斧	床直	完形	10.3	4.8	2.4	116.4	細安	器表面一部熱により剥落。Ⅱｂ類。

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
10	打斧	床直	完形	10.5	5.1	2.0	88.2	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。Ⅱｂ類。
11	打斧	覆土	完形	9.5	4.7	2.1	102.4	硬泥	Ⅱｂ類。
12	打斧	覆土	完形	9.8	4.3	1.9	84.2	珪頁	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
13	打斧	床直	完形	10.6	4.3	1.8	86.4	硬泥	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
14	打斧	下位	完形	9.8	3.7	1.5	74.8	硬泥	小型盤状礫の周辺に調整加え整形。Ⅱｂ類。
15	打斧	中位	完形	12.3	4.9	2.0	125.8	硬泥	Ⅱａ類。
16	打斧	覆土	完形	10.3	4.2	0.9	68.4	緑片	刃部磨耗。Ⅲ類。
17	打斧	覆土	完形	7.5	3.3	1.2	30.8	珪頁	器表面かなり風化。Ⅱｂ類。
18	打斧	下位	1/2	6.6	4.0	1.8	48.8	硬泥	基部破片。Ⅲ類。
19	打斧	覆土	1/3	6.0	4.1	1.6	47.5	硬泥	基部破片。形状不明。
20	打斧	覆土	1/2	6.3	3.9	1.9	42.8	硬泥	基部破片。形状不明。
21	打斧	中位	破片	5.1	4.0	1.6	3.7	珪頁	両端欠損。形状不明。
22	打斧	下位	1/2	7.2	4.6	1.1	37.3	硬泥	基部欠損。Ⅱｂ類。
23	打斧	中位	1/2	6.5	4.4	1.4	53.6	硬泥	基部欠損。Ⅱｂ類。
24	打斧	下位	1/3	5.9	4.2	1.0	31.7	硬泥	両端欠損。形状不明。
25	打斧	床下	完形	10.1	4.2	1.9	82.9	細安	Ⅲ類。
26	打斧	床直	完形	12.7	4.8	2.5	183.5	頁岩	Ⅲ類。
27	打斧	中位	3/4	9.9	5.2	1.5	92.2	珪頁	基部欠損。Ⅲ類。
28	打斧	下位	1/2	9.7	6.4	3.5	244.2	粗安	刃部欠損。Ⅲ類。
29	打斧	床下	1/2	8.1	4.1	2.1	72.8	凝砂	刃部欠損。Ⅲ類。
30	打斧	床直	1/2	7.2	4.9	2.5	101.3	変安	刃部磨耗。基部欠損。Ⅱｂ類。
31	打斧	床下	1/2	7.3	5.2	2.3	105.6	硬泥	刃部破片。形状不明。
32	打斧	下位	1/2	8.3	4.5	1.6	66.2	細安	刃部先端磨耗。基部欠損。Ⅲ類。
33	打斧	下位	2/3	8.4	3.8	1.1	45.2	珪頁	刃部欠損。Ⅲ類。
34	打斧	下位	3/4	10.2	3.4	1.0	28.9	硬泥	刃部磨耗。右側下半欠損。Ⅱｂ類。
35	打斧	下位	3/4	9.9	3.7	1.2	62.3	珪頁	刃部欠損。Ⅲ類。
36	打斧	下位	破片	5.4	4.9	2.0	58.2	硬泥	基部破片。形状不明。
37	石核	床下	完形	7.9	7.3	3.6	92.8	硬泥	剥片の腹面を打面とし背面側で小型の剥片剥離。
38	石核	床下	完形	9.3	6.9	4.7	321.1	硬泥	盤状の石核。表裏で周辺から剥片剥離。
39	石核	下位	完形	10.6	8.1	3.1	249.7	硬泥	剥片の周辺一部で剥片剥離。
40	石核	下位	完形	9.9	6.0	2.9	164.6	硬泥	剥片端部で少数の剥片剥離。
41	石核	中位	完形	6.6	6.9	4.0	174.6	細安	両面の一部周辺から剥片剥離。
42	石核	覆土	完形	6.0	7.9	3.6	116.7	硬泥	盤状の石核。剥片の両面で周辺から剥片剥離。裏面に磨耗。
43	石核	中位	完形	7.7	8.1	3.0	184.1	硬泥	小型の礫素材。主に表面で周辺から剥片剥離。
44	石核	床下	完形	7.6	6.4	3.5	208.0	硬泥	剥片の周辺を折りとるように剥片剥離。
45	石核	床直	完形	8.8	6.2	3.7	251.4	硬泥	小型の礫素材。打面・作業面を90°転移して剥片剥離。
46	石核	下位	完形	12.6	7.4	5.8	543.4	硬泥	分割礫の両端で剥片剥離。
47	石核	床直	完形	12.2	11.0	5.4	578.4	硬泥	剥片の端部両面で小型の剥片剥離。
48	石核	中位	完形	8.0	13.6	6.7	873.5	砂岩	礫の分割面打面とし周辺で剥片剥離。下辺からも両面で剥片剥離。
49	石核	下位	2/3	12.0	11.3	6.5	576.8	硬泥	大型の剥片の周辺を折りとるように剥片剥離。下半欠損。
50	石核	下位	完形	7.1	7.8	5.6	323.1	細安	厚手の盤状石核。表裏周辺から求芯状に剥片剥離。
51	凹石	下位	完形	9.5	8.2	5.1	512.8	デイ	円盤状の円礫。表面に敲打痕・研磨面、裏面に凹み・研磨面。
52	敲石	下位	完形	8.9	4.5	3.6	180.2	変安	棒状の円礫。両端に敲打痕。
53	磨石	床直	完形	11.7	7.3	5.0	568.9	デイ	盤状の円礫。表裏に弱い研磨面。
54	磨石	下位	完形	6.1	4.9	3.5	128.3	デイ	円盤状の円礫。表裏に研磨面。
55	磨石	覆土	完形	6.9	2.4	1.2	25.1	硬泥	盤状の円礫。全面に研磨。
56	磨石	床直	完形	16.2	9.6	6.1	1205.6	デイ	盤状の円礫。右側面取り。表裏に研磨面。
57	磨石	下位	完形	16.0	7.2	6.5	1041.8	砂岩	棒状の円礫。右側面取り。表裏に研磨面。
58	磨石	下位	完形	11.9	10.3	3.2	536.3	砂岩	円盤状の円礫。表裏に研磨面。両端・右側に敲打痕。
59	磨石	覆土	2/3	11.9	6.7	3.9	491.3	デイ	棒状の円礫。表面に敲打痕・研磨面。裏面に一部敲打痕。
60	磨石	下位	破片	4.9	7.9	4.8	265.9	デイ	表裏に研磨面。両端欠損。
61	磨石	下位	2/3	11.3	7.3	3.2	387.0	砂岩	盤状の円礫。両側敲打、表面凹み・研磨、裏面研磨。裏面大きく剥落。
62	石皿	下位	破片	20.2	5.9	4.9	619.6	緑片	内面使用により平滑。
63	石皿	下位	破片	27.0	9.9	4.8	1962.4	緑片	内面緩やかにへこみ、裏面に凹みあり。
64	砥石	覆土	破片	4.8	5.1	0.9	28.0	砂岩	薄い盤状。表裏に使用面。
65	台石	中位	1/2	44.0	18.5	10.8	10.6kg	砂岩	盤状の亜角礫。表面敲打により皿状に凹む。研磨面あり。右側欠損。

37号住居跡器種組成表

器　種	石鏃	楔	石匙	ＳＳ	打斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	石皿	砥石	台石	剥片
個　数	2	1	1	1	31	18	35	20	1	1	9	2	1	1	104

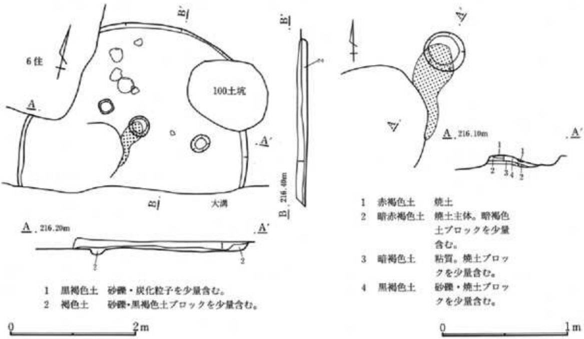


37号住居跡石材重量組成グラフ

45号住居跡（第45図、PL ８・223）

本住居跡は円形あるいは小判形と考えられる。地山を平坦に掘り込み、その面を床面としているが、床面は比較的軟弱である。柱穴は明確ではないが、３基の Pit のうち東側の Pit は深さ17cmであり、柱穴とも考えられる。しかし西側の Pit は深さ８cmで、東側の Pit とは異なる。

炉は住居跡中央付近に確認された。床面を浅い皿状に掘り込んでおり、使用面には焼土が堆積していた。



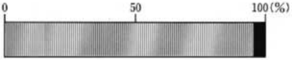
第45図　45号住居跡　炉

45号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	敲石	覆土	ほぼ完	12.1	3.4	3.1	197.5	珪質	棒状の円礫。両端に敲打痕。

45号住居跡器種組成表

器　種	二次	敲石	剥片
個　数	2	1	3



45号住居跡石材重量組成グラフ

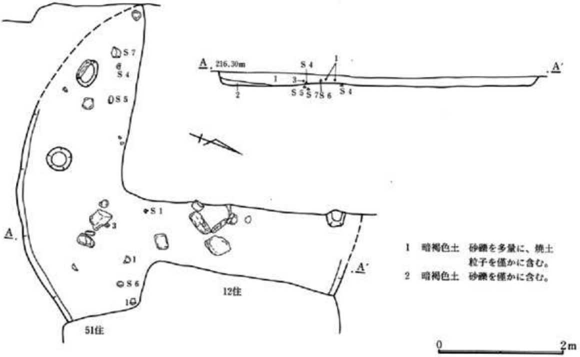
48号住居跡（第46～50図、PL 8・128・224）

本住居跡は、埋設後に造られた他の住居等によって多くの部分が破壊されている。そのため住居の平面形ははっきりしないが、円形となる可能性がある。

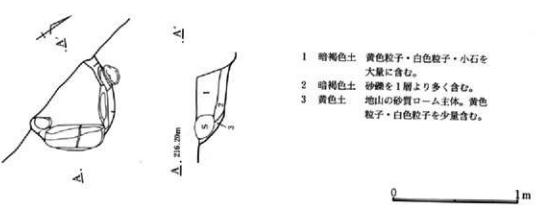
床面はほぼ平坦である。地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている。柱穴とも考えられるPitは、北側および南側の壁近くにある。いずれも深さ約25cm～30cmである。

炉跡は住居のほぼ中央で確認された。炉は床面を皿状に掘り込み、石を方形に組んで造られていたものと考えられる。なお、炉内に焼土は確認されなかった。

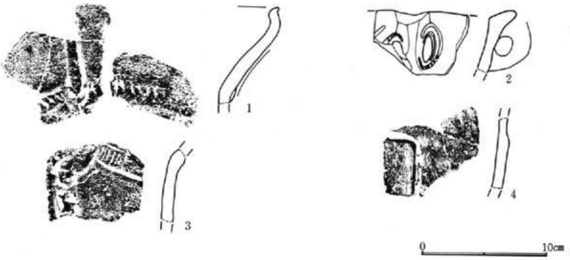
出土土器には深鉢型土器があるが、いずれも小破片である。出土石器には打製石斧・磨製石斧・磨石・石匙・凹石・多孔石がある。



第46図　48号住居跡



第47図　48号住居跡　炉



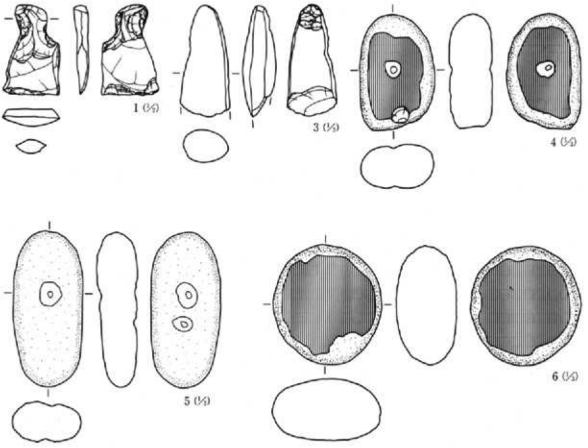
第48図　48号住居跡出土遺物（１）

48号住居跡出土土器（第48図、PL128・224）

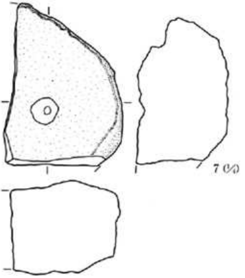
１は深鉢型土器の口縁部片。口縁部から隆帯が垂下し、頸部にも刻みを持つ横位隆帯。

２は頸部に付された眼鏡状把手部分。

３・４は胴部片。隆帯文が付される。



第49図　48号住居跡出土遺物（２）



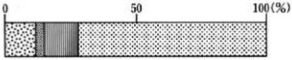
第50図　48号住居跡出土遺物（３）

48号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石匙	床下	1/2	4.7	3.0	0.9	14.0	珪頁	横型。両側欠損。器表面かなり風化。
2	打斧	覆土	1/3	7.3	5.3	1.3	55.3	硬泥	基部破片。形状不明。
3	磨斧	覆土	2/3	8.7	4.0	2.7	126.5	変玄	あまりきちんと整形されず素材の形状残す。刃部欠損。
4	凹石	床直	完形	9.1	5.9	3.4	271.6	砂岩	盤状の円礫。表裏に凹み・研磨面。
5	凹石	床下	完形	12.1	5.5	3.3	287.7	砂岩	盤状の円礫。表裏に凹み。外面かなり磨滅。
6	磨石	床直	完形	9.3	8.8	4.8	493.3	変安	円盤状の円礫。表裏に研磨面。
7	多孔	床下	破片	17.1	12.5	9.9	2450.0	砂岩	表面に凹み。

48号住居跡器種組成表

器種	石匙	打斧	磨斧	二次	凹石	磨石	多孔	剥片
個数	1	1	1	5	2	1	1	3



48号住居跡石材重量組成グラフ

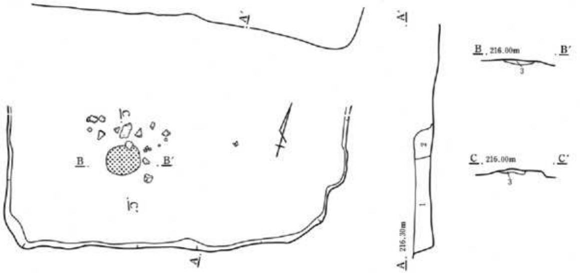
49号住居跡（第51図、PL ８）

本住居跡は、２号住居跡等によって削られている部分が多い。近くに存在する縄文時代の21号住居跡および22号住居跡と重複していた可能性が考えられるが、住居の重複による新旧関係については確認出来なかった。住居の形態については残存部分から判断すると方形あるいは長方形と考えられる。住居は南壁にたいして東壁が鈍角となっており、また、コーナー部はいずれも丸味をおびている。

床面は、ほぼ平坦で比較的固くしまっている。床面下から掘り方は検出されず、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としているとみられる。柱穴は確認されなかった。

炉は直径約50cmの円形で、床面を６cmほど皿状に掘り込んで造られている。炉内には炭化物を含んだ焼土が残されていた。

出土遺物は皆無に等しく、図示出来るものは存在しなかった。

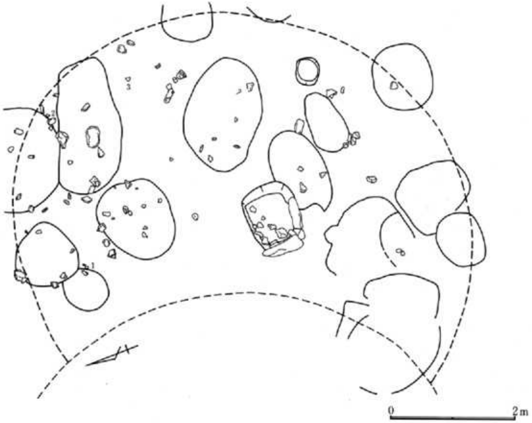


1　明褐色土　ロームブロック・小礫・黄色粒子を多量に含み、炭化材を少量含む。
2　暗褐色土　小礫を多く含み、橙色粒子・黄色粒子を少量含む。
3　焼土　　暗褐色土・炭化物を含む。

0　2m

第51図　49号住居跡

50号住居跡（第52～55図、PL 8・128・224）

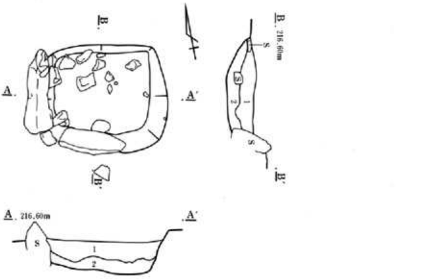


第52図　50号住居跡

50号住居跡は、32号・33号・78号住居跡および多くの土坑と重複している。重複遺構の殆どが縄文時代で埋没土の差異が顕著ではなく、遺構の重複状態から重複遺構との新旧関係を明らかにすることは出来なかった。

本住居においては、炉跡周辺を除いて床面は確認出来ていない。また柱穴も確認されなかった。炉は床面を方形の皿状に掘り込み、方形に石組みをして造られている。炉内には炭化物が若干みられたものの、焼土は殆ど確認されなかった。

出土遺物として深鉢型土器・磨製石斧・敲石がある。



1　黒褐色土　小礫・炭化物・白色土粒・ローム塊を僅かに含む。
2　黒褐色土　炭化物を少量含む。

第53図　50号住居跡　炉

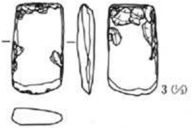
第54図　50号住居跡出土遺物（１）

50号住居跡出土土器（第54図、PL128）

１は口縁部片。「く」の字に折れた口縁部にはペン先状の連続刺突文を巡らす。浅鉢か。

２は口縁部片。口唇部は外側に折り返されて肥厚。口縁部は隆帯に画された無文帯。

３は胴部片。ひだ状文。結節沈線で渦巻文を描く。



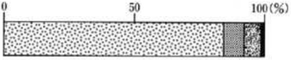
第55図　50号住居跡出土遺物(２)

50号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	覆土	完形	12.6	5.3	2.8	225.3	硬泥	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
2	打斧	覆土	完形	12.2	4.7	1.4	87.7	輝凝	Ⅱｂ類。
3	磨斧	覆土	完形	7.1	4.0	1.4	70.8	変玄	刃部は片刃状。かなり薄手。基部に剥離痕残す。
4	敲石	上位	完形	16.7	6.6	5.1	773.5	変安	棒状の円礫。表裏・両端に敲打痕。
5	磨石	覆土	完形	10.0	11.4	5.2	826.0	流紋	円盤状の円礫。表裏に研磨面、両端に敲打痕。

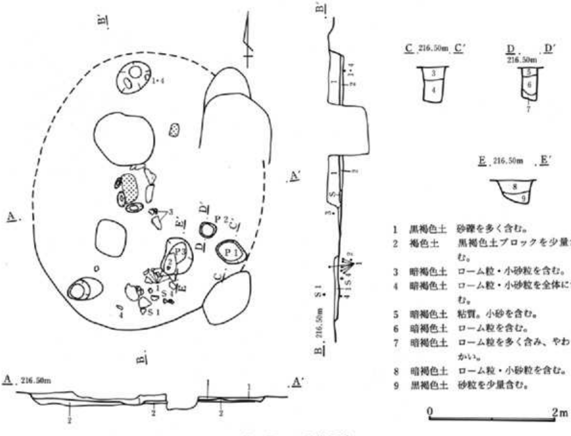
50号住居跡器種組成表

器種	磨斧	打斧	二次	石核	磨石	敲石
個数	1	2	2	1	1	1



50号住居跡石材重量組成グラフ

52号住居跡（第56～58図、PL 8・128・129・224）



1　黒褐色土　砂礫を多く含む。
2　褐色土　黒褐色土ブロックを少量含む。
3　暗褐色土　ローム粒・小砂粒を含む。
4　暗褐色土　ローム粒・小砂粒を全体に含む。
5　暗褐色土　粘質。小砂を含む。
6　暗褐色土　ローム粒を含む。
7　暗褐色土　ローム粒を多く含み、やわらかい。
8　暗褐色土　ローム粒・小砂粒を含む。
9　黒褐色土　砂粒を少量含む。

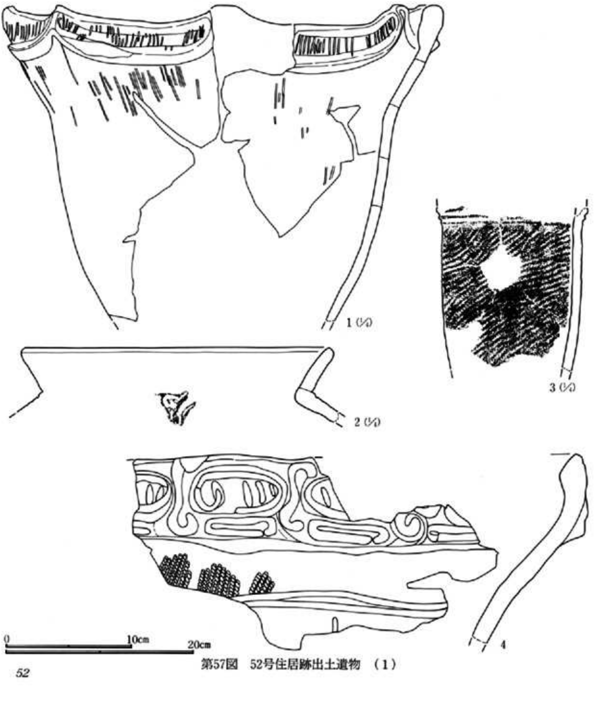
第56図　52号住居跡

52号住居跡は、14号住居跡によって北西部分を削られている。また東側部分は33号住居跡と重複しているが、両住居跡の埋没土が近似しているため、重複の状況から新旧を明らかにすることは出来なかった。

住居南側部分においては、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としているが、中央付近より北側にかけては、褐色土で埋めた面を床面としている。柱穴ははっきりしないが、柱穴とも考えられるPitが住居南半分に3基確認されている。

炉跡はほぼ中央と考えられる位置に確認された。床面を皿状に掘り込み、方形に石組みをしている。なお、炉中央部には焼土が残されていた。

出土遺物として深鉢型土器片・多孔石・石皿・凹石・砥石がある。土器3は炉跡および周辺から出土している。



第57図　52号住居跡出土遺物　（1）

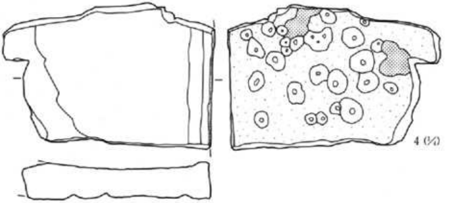
52号住居跡出土土器（第57・58図、PL128・129）

1は口縁部から胴部。口径(45.0cm)。口縁部は隆帯により、楕円文が構成され、区画内には縦位沈線文が施文される。胴部には縦位条線文がわずかに見られる。

2は「く」の字に折れた口縁部片。口径（32.0cm)。頸部に隆起文。

3は深鉢型土器胴部。上部には沈線を伴う隆線が廻り、以下縄文が全面施文される。

4は深鉢型土器の口縁部。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、以下縄文が施文されている。頸部には2条の沈線が廻り、縦位沈線が見える。



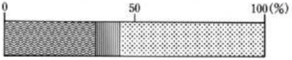
第58図　52号住居跡出土遺物（2）

52号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石棒	上位	破片	11.8	11.8	9.0	1637.6	デイ	未製品。柱状節理にそって割れた角礫。ほとんど未加工。
2	凹石	覆土	完形	11.7	9.8	5.5	867.6	粗安	右側面取り。表面に3、裏面に1個の凹み。表裏に研磨面。
3	石皿	床直	1/3	19.7	13.3	2.7	800.3	砂岩	盤状の亜角礫。裏面使用により平滑。表面に凹み。
4	石皿	床下	1/3	15.5	22.6	4.2	1777.5	砂岩	内面片側に直線状の縁、他方は欠損。裏面に大小の凹み。
5	砥石	覆土	完形	10.2	7.8	1.2	99.9	砂岩	盤状の亜円礫。表裏に使用面。

52号住居跡器種組成表

器　種	石棒	凹石	砥石	石皿	剥片
個　数	1	1	1	2	12



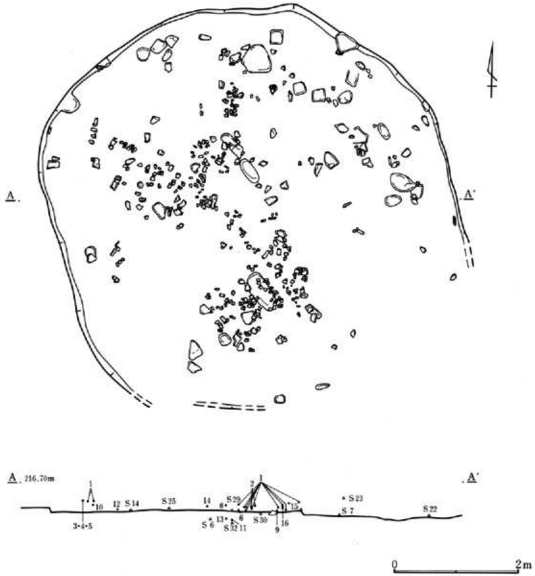
52号住居跡石材重量組成グラフ

65号住居跡（第59～67図、PL 9・129・130・225～227）

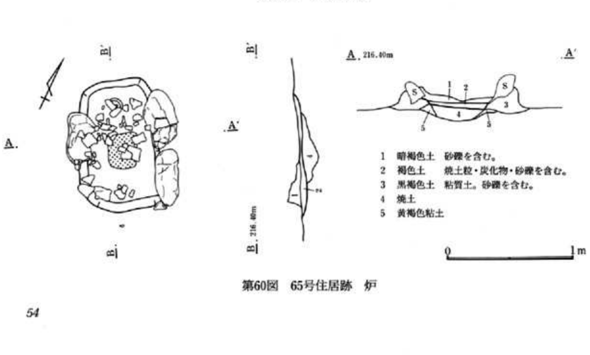
本住居跡は南側の一部を7号住居跡によって削られ、また土坑と重複している。平面形はほぼ円形になるものと考えられる。床面は掘り方面をそのまま床面として使用していると考えられるが、はっきりしない。

柱穴とも考えられるPitは数ヶ所で存在するが、本住居のPitであるか否かは明確ではない。炉は住居中央やや北寄りに発見されており、長方形の掘り方をもち壁に接して河原石を組んでいる。使用面には若干焼土および炭化物が残されていた。

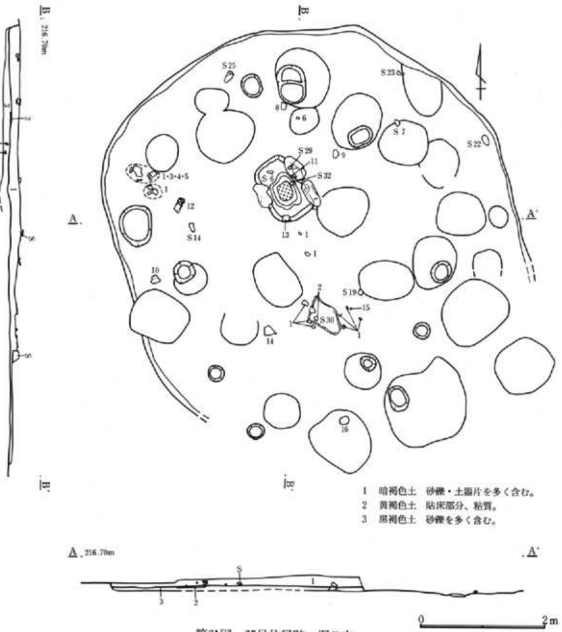
出土遺物として土器と石器があるが、石器に比べて土器の量は少ない。土器としては深鉢の破片のみであるが、炉内に小破片が散乱していた。石器には打製石斧・多孔石・磨石等34点が出土している。



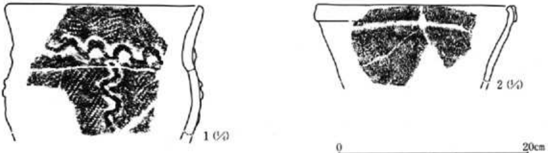
第59図　65号住居跡



第60図　65号住居跡　炉

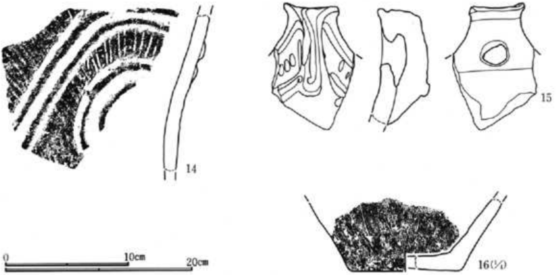


第61図　65号住居跡　掘り方



第62図　65号住居跡出土遺物（１）

第63図　65号住居跡出土遺物（２）



第64図　65号住居跡出土遺物（３）

65号住居跡出土土器（第62～64図、PL129・130）

１は口縁部から胴部。口径20.6cm縄文 RL が全面に施文され、粘土紐により横位、縦位の波状文が付される。

２は口縁部片。口径（20.3cm）、口縁部には粘土帯が廻り、以下無文。

３は口縁部片。口唇部内側に肥厚する。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部にはわずかに縦位の条線が見える。

４は胴部片。地文に縦位条線施文後、沈線により曲線文様を描く。

５は胴部片。上部には隆帯による曲線文、鉤状に垂れた隆線に縦位隆線、沈線が沿って走り、縦位条線文が見られる。

６・８は口縁部片。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内には縦位沈線。６は胴部に縦位条線が見られる。

７は口縁部内屈し、隆線による口縁部区画文。隆線上には小さい円形の刺突文が付され、内側には連続の爪形文が巡らされる。

９は口縁部隆帯による連弧状の区画文。縦位沈線が施文される。

10は口縁部片。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。

11は無文の口縁部片。円孔が穿けられる。

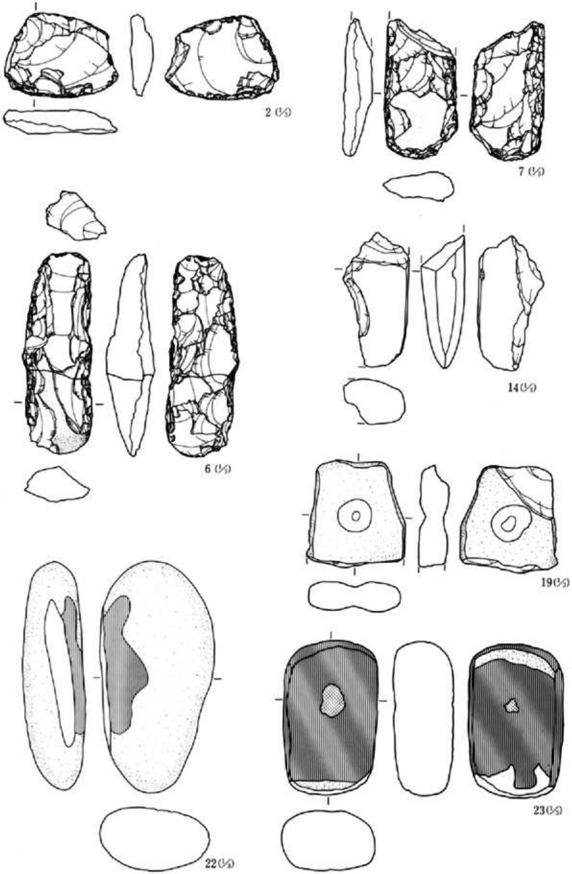
12は口縁部には刺突文を持つ隆帯が廻され、胴部には縦の沈線が付される。

13は口縁部片。隆帯による連弧状の区画文。内部には縦位の沈線文、胴部は縦位条線。

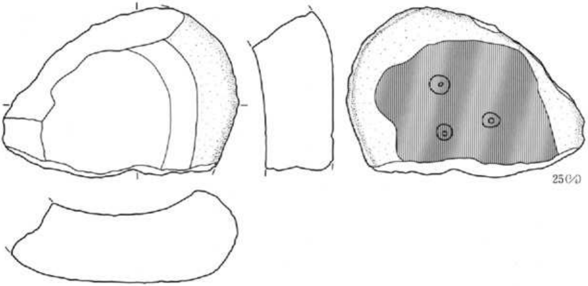
14は胴部片。条線施文後、隆線による曲線文を描く。

15は波頂部片。区画文を構成する左右からの隆線が口縁部に突起し、先端部は扇状を呈す。突起部面には沈線によるＳ字文。また口縁部には内側から穿けられた穴が見られる。

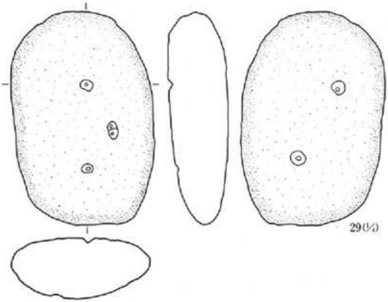
16は底部片。底径（11.5cm）、縦位条線が見られる。



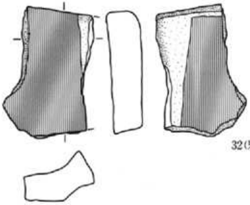
第65図　65号住居跡出土遺物（４）



25(1/4)

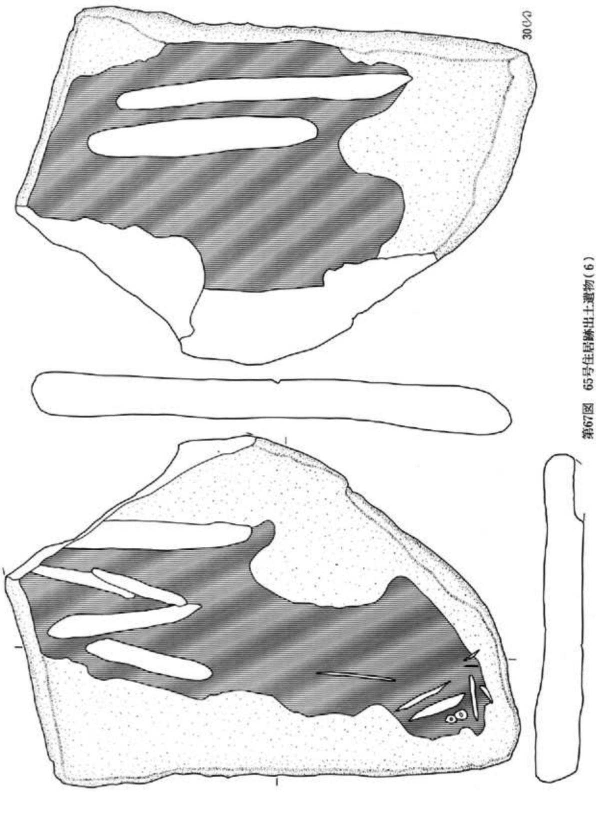


29(1/4)



32(1/3)

第66図　65号住居跡出土遺物(５)



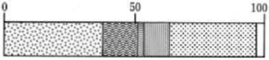
第67図　65号住居跡出土遺物(６)

65号住居跡出土石器観察表

№	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	2.9	1.8	0.8	3.7	黒曜	剝片の周辺両面に調整。
2	ＳＳ	覆土	完形	9.0	6.5	1.9	16.0	硬泥	剝片の周辺に調整。器体下辺のみ両面に調整加え刃部形成。
3	打斧	床直	2/3	10.4	5.3	1.5	87.0	硬泥	刃部欠損。Ⅱａ類。
4	打斧	覆土	完形	10.5	4.2	1.1	69.9	緑片	Ⅱｂ類。
5	打斧	覆土	一部欠	8.6	4.3	1.1	50.3	珪頁	刃部磨耗を切って再調整。基部一部欠損。Ⅱｂ類。
6	打斧	床下	完形	15.9	5.6	3.8	294.0	硬泥	Ⅲ類。
7	打斧	床直	2/3	10.9	5.8	2.3	167.8	粗安	基部欠損。Ⅲ類。
8	打斧	床直	2/3	9.8	5.2	2.5	171.2	緑片	基部欠損。Ⅲ類。
9	打斧	覆土	完形	9.8	3.8	1.3	58.2	珪頁	Ⅲ類。
10	打斧	覆土	ほぼ完	8.7	4.2	1.4	58.9	硬泥	刃部磨耗。刃部左側わずかに欠損。Ⅱｂ類。
11	打斧	覆土	1/2	7.0	4.6	2.0	69.4	硬泥	基部欠損。Ⅲ類。
12	打斧	覆土	完形	7.1	4.6	1.8	48.5	硬泥	幅に比して長さ短い。再調整の結果か。Ⅱｂ類。
13	打斧	覆土	1/3	7.8	5.0	2.6	89.1	硬泥	基部破片。Ⅱｂ類。
14	磨斧	床直	破片	10.6	5.2	3.5	240.9	変玄	刃部破片。
15	石核	下位	完形	10.5	14.3	4.2	646.6	硬泥	剝片の先端背面側で小型の剝片剝離。
16	石核	覆土	完形	10.9	10.3	3.0	391.3	硬泥	盤状の石核両面で周辺から剝片剝離。
17	石核	床下	完形	12.0	11.7	3.8	418.0	粗安	剝片の一側背面側で剝片剝離。
18	石核	下位	完形	4.9	5.5	3.1	86.2	硬泥	小型の剝片の一端で少数の剝片剝離。
19	凹石	床直	完形	8.3	7.8	2.4	194.3	砂岩	円盤状の角礫素材。表裏に凹み。
20	敲石	床直	完形	14.5	7.4	4.3	682.8	粗安	盤状の円礫。両端に敲打痕。
21	敲石	床下	2/3	15.3	8.0	5.5	762.4	デイ	両側面取り。両端に敲打痕。
22	磨石	床直	完形	18.3	9.1	4.9	1034.4	デイ	盤状の円礫。左側を面取り。表面左端に研磨面。
23	磨石	中位	完形	12.1	7.5	4.9	753.2	石閃	両側・両端面取りし直方体状。表裏に研磨・敲打、両側・上面弱い研磨。
24	磨石	床下	完形	8.5	7.7	2.3	218.5	石閃	円盤状の円礫。両面に研磨、全周に敲打・敲打による剝離痕。
25	石皿	床直	1/2	18.0	25.1	9.7	5600.0	粗安	石皿破片。内面強い研磨。裏面に研磨面と凹み３個。
26	石皿	床直	破片	17.1	7.3	3.0	387.6	緑片	内面使用により平滑。
27	台石	下位	1/2	25.2	13.1	8.2	4100.0	変安	盤状の円礫。表裏に磨耗。
28	多孔	床直	完形	20.5	22.0	6.0	3450.0	デイ	円盤状の円礫。表面に３個、裏面に１個の凹み。
29	多孔	床直	完形	22.7	15.2	6.5	3050.0	変安	盤状の円礫。表裏に凹み。
30	砥石	床下	一部欠	54.7	37.3	5.5	11.3kg	砂岩	盤状の角礫素材。表裏に使用面・浅い溝状のへこみあり。
31	砥石	床下	1/2	15.0	22.5	4.5	1500.0	砂岩	盤状の亜円礫。表面に使用面。
32	砥石	床下	破片	10.4	7.1	3.9	217.5	砂岩	盤状の角礫素材。表裏に研磨面。

65号住居跡器種組成表

器種	楔	ＳＳ	打斧	磨斧	二次	微細	石核	原石	凹石	敲石	磨石	石皿	多孔	砥石	台石	剝片
個数	1	1	11	1	7	1	6	1	1	2	3	2	2	3	1	48



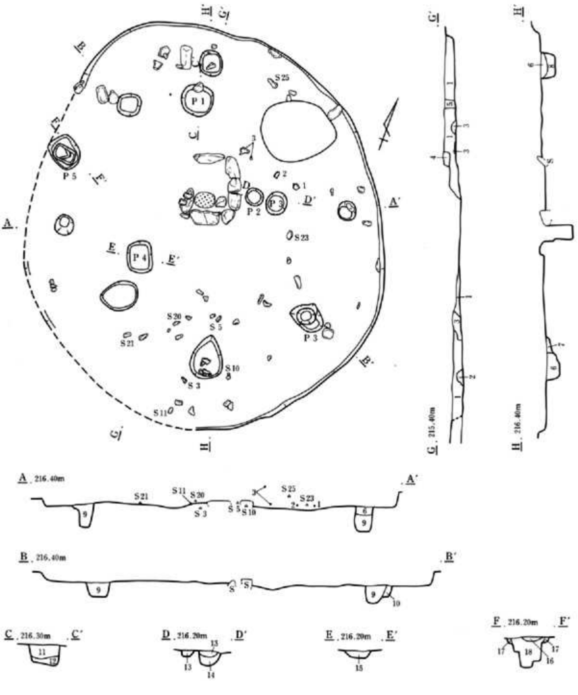
65号住居跡石材重量組成グラフ

68号住居跡（第68～73図、PL 9・130・227・228）

住居は西側を23号住居跡・36号住居跡によって壁および床面の一部を削られている。平面形はほぼ円形を呈する。床面は若干凹凸はあるものの、ほぼ平坦である。住居内から多くの Pit が検出された。これらの Pit には柱穴となるもののほか、本住居に属さないものも含まれている可能性があるが、個々の Pit についてその性格ははっきりしない。

掘り方は検出されず、掘り方面が床面であったと考えられる。炉は住居中央やや北寄りに発見された。炉は長方形の石組炉で、長方形に床面を掘り内側に河原石を置いて造られている。なお使用面には焼土が残されていた。

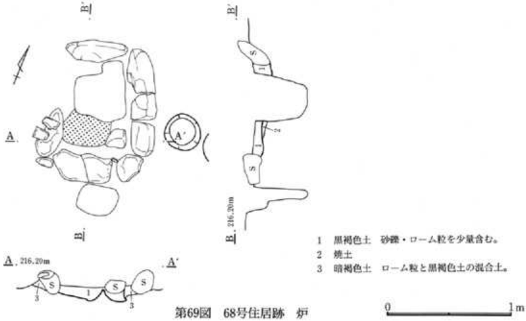
出土遺物としては、少量の深鉢型土器片と石器がやや多く出土している。出土位置は床面付近が多いものの25cmほど床面より浮いた遺物も少なくない。



1　黒褐色土　小礫・白色粒子を少量含む。　2　地山砂質土の２次堆積。　3　褐色土と粘質褐色土との混合層。
4　粘質黄褐色土ブロック。　5　黒褐色土　1層に似るが黒い。　6　黒褐色土　粘質。小礫を多く含む。
7　黒褐色土　粘質。小礫を若干含む。　8　暗褐色土　粘質。小礫を少量含む。　9　暗褐色土　小礫を多く含む。
10　暗褐色土　小礫を少量含む。　11　黄褐色土　ローム粒と黒褐色土の混合層。小砂礫を含む。
12　黄褐色土　11層よりもローム粒を多く含む。　13　黒色土　微細な炭化物を含む。　14　暗褐色土　砂質。
15　暗褐色土　砂礫を含む。　16　黄褐色土　粘質。　17　地山砂礫の２次堆積。
18　黒色土　粘質。砂礫・白色粒子を少量含む。

0　2 m

第68図　68号住居跡



第69図　68号住居跡　炉

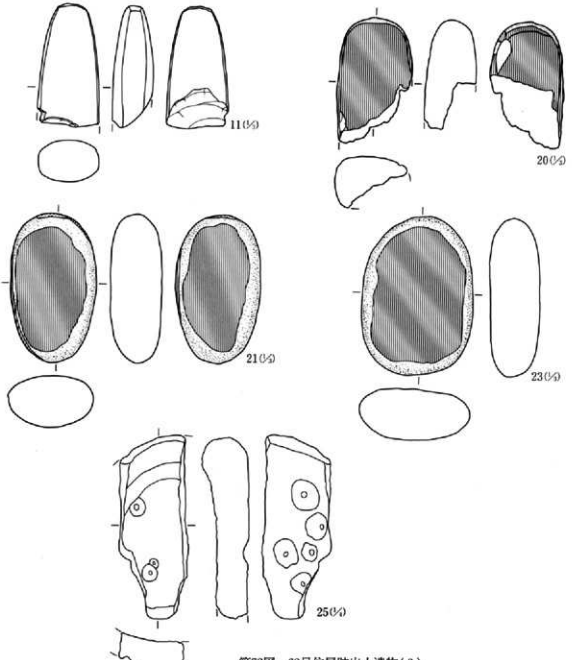
第70図　68号住居跡出土遺物(１)

68号住居跡出土土器（第70図、PL130）

１・２は口縁部片。隆帯により楕円文が構成され、区画内には縦位沈線文、胴部には縦位条線。

３は底部片。底径9.6cm。縄文 LR が縦位施文される。やや上げ底状を呈す。

第71図　68号住居跡出土遺物(２)



第72図　68号住居跡出土遺物(３)

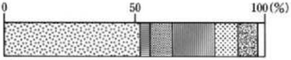
68号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	一部欠	1.7	1.5	0.3	0.7	黒曜	凹基無茎鏃。右脚欠損。
2	打斧	覆土	破片	6.7	2.7	1.3	37.1	変輝	刃部破片。形状不明。
3	打斧	床直	完形	11.9	4.3	2.0	106.1	硬泥	刃部磨耗。II b類。
4	打斧	覆土	完形	11.3	4.8	2.1	121.6	硬泥	II b類。
5	打斧	下位	完形	10.3	4.7	2.5	137.2	硬泥	刃部磨耗。II b類。
6	打斧	下位	一部欠	11.1	4.3	2.1	116.8	硬泥	刃部欠損。II b類。
7	打斧	覆土	完形	11.5	5.2	1.9	127.6	硬泥	刃部磨耗。III類。
8	打斧	覆土	ほぼ完	8.7	5.7	1.7	119.5	細安	刃部磨耗。基部も一部磨耗。III類。
9	打斧	床直	破片	5.8	6.2	2.8	114.4	粗安	刃部破片。形状不明。

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　　　　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
10	磨斧	下位	破片	5.2	4.5	3.0	96.2	変玄	基部破片。
11	磨斧	下位	2/3	9.6	5.0	3.3	275.3	変玄	刃部欠損。
12	磨斧	床直	1/2	8.2	5.8	3.7	285.3	変玄	未製品の基部破片。敲打による整形途中。
13	磨斧	下位	1/2	10.0	8.7	3.6	514.1	変玄	未製品の刃部破片。剥離・敲打による整形途中。
14	石核	下位	完形	7.9	8.3	2.4	164.2	硬泥	盤状石核の両面で周辺から剥片剥離。
15	石核	中位	完形	7.1	11.2	3.3	251.9	硬泥	剥片の腹面側で少数の剥片剥離。
16	敲石	床下	完形	17.2	6.9	4.6	815.9	粗安	盤状の亜円礫。両端に敲打・敲打による剥離痕。
17	敲石	覆土	1/2	6.4	5.3	3.2	174.9	粗安	盤状の円礫。表裏・上端に敲打痕。下半欠損。
18	磨石	覆土	一部欠	13.9	8.8	6.3	1083.6	粗安	盤状の円礫。両側面取り。表裏に研磨、上端に敲打痕。
19	磨石	床直	完形	8.3	6.7	5.1	398.1	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
20	磨石	下位	1/2	9.8	5.9	4.0	257.5	粗安	両側を面取り。表裏に研磨面。上端に敲打痕。下半欠損。
21	磨石	下位	完形	11.7	6.8	4.1	508.3	閃緑	盤状の円礫。表裏・両側に研磨面。上端に敲打痕。
22	磨石	下位	一部欠	12.5	6.2	2.7	259.0	デイ	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
23	磨石	床直	完形	12.5	8.8	4.1	728.0	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
24	砥石	中位	破片	8.9	13.9	3.1	465.3	砂岩	盤状の亜角礫。表裏に使用面。
25	石皿	下位	破片	19.4	7.4	5.0	1051.8	緑片	石皿の破片。皿部内面および裏面に凹みあり。
26	多孔	中位	ほぼ完	29.0	14.0	7.0	3400.0	粗安	盤状の円礫。表裏に凹み。
27	多孔	中位	1/2	13.4	11.2	2.6	481.0	砂岩	盤状の亜円礫。表面に凹み。裏面に敲打痕。
28	砥石	中位	破片	8.0	11.8	2.7	297.9	砂岩	盤状の亜角礫。表裏に弱い使用面。

68号住居跡器種組成表

器　種	石鏃	打斧	磨斧	二次	微細	石核	敲石	磨石	石皿	多孔	砥石	剥片
個　数	1	8	4	5	2	4	2	6	1	2	2	17



68号住居跡石材重量組成グラフ

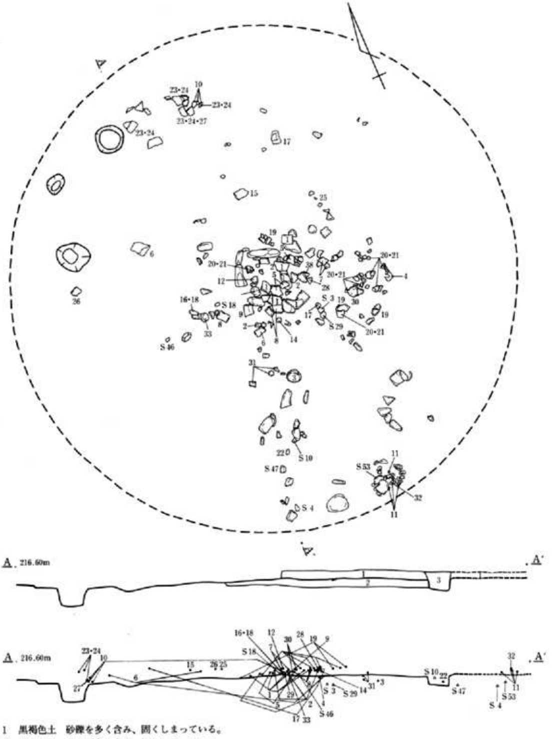
70号住居跡（第73～81図、PL. 9・10・130～133・228～230）

本住居跡は36号住居跡によって東側部分を削られ、縄文時代の78号住居跡と重複しているとみられる。住居の壁および床面は、調査の過程において殆ど確認出来なかった。なお、住居の推定範囲図は、調査の過程で作成した遺物分布図と、僅かに確認出来た床面より作成したものである。

柱穴については、住居の推定範囲内に3基のPitが存在しており、比較的大きなPit 2基については、いずれも直径約40cm、深さ約35cmで柱穴の可能性が考えられなくもない。住居の他の部分における柱穴の可能性のあるPitについては、床下に多くの土坑が存在しているので、検出は困難であった。掘り方については、炉周辺で確認されており、床面から約6cm、凹凸はあまりない。

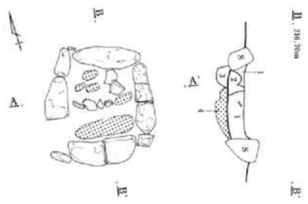
炉は河原石による石組炉である。炉は長辺1m、短辺90cm、深さ30cmの隅丸方形の掘り込みをもち、この内側で河原石を方形に組んでいる。炉跡には、炉掘り方面直上に焼土が認められ、この焼土は炉跡内全域にわたっている。なお焼土の厚さは約9cmであるが、焼土の上面は床面より約15cm下方であり、床面レベルから焼土上面までの間においては、焼土は殆ど含まれていない。

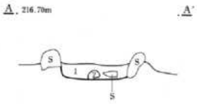
出土遺物は多い。土器については、浅鉢型土器および深鉢型土器がある。深鉢1は、炉跡内およびその周辺からの出土である。石器には台石・凹石・砥石・磨石・打製石斧・磨製石斧・石核等がある。これらの遺物は、床面直上あるいは床面より約10cm上方から出土している。



1　黒褐色土　砂礫を多く含み、固くしまっている。
2　暗褐色土　砂礫を多く含み、固くしまっている。
3　黒色土　　砂礫を含む。

第73図　70号住居跡

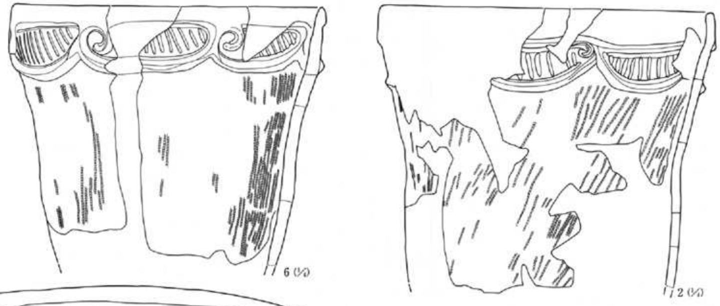


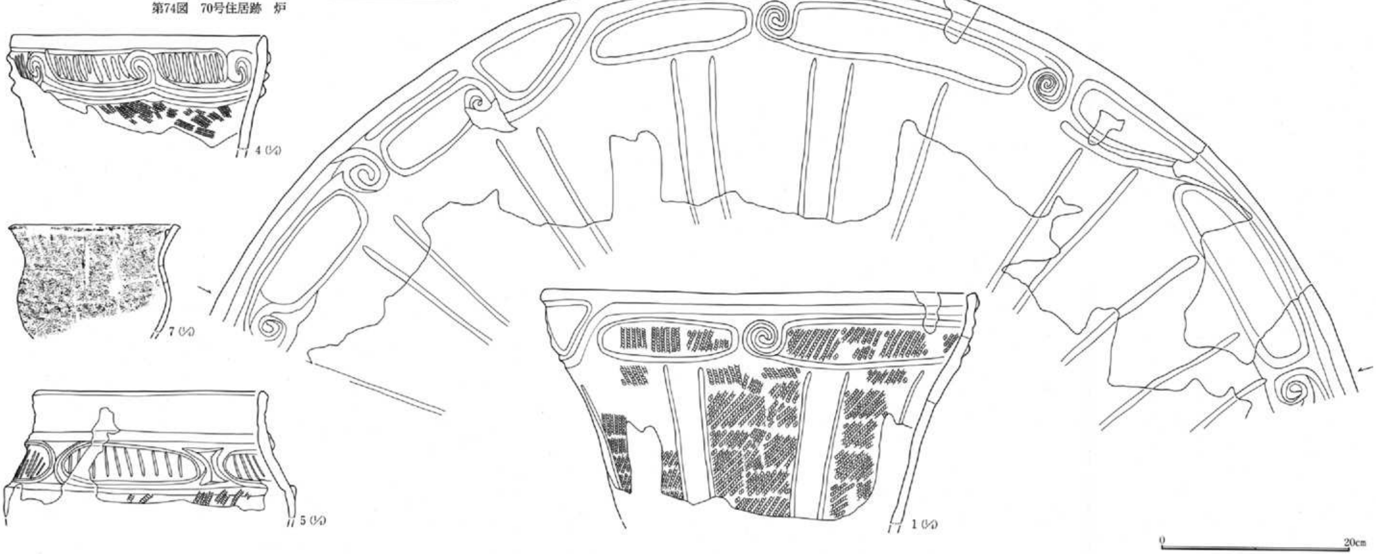


1 暗褐色土 炭化粒子・焼土粒子・ローム粒子を僅かに含む。
2 暗黄褐色土 褐色土ブロックを僅かに含む。
3 暗褐色土 砂質。砂礫・焼土粒を含む。
4 焼土

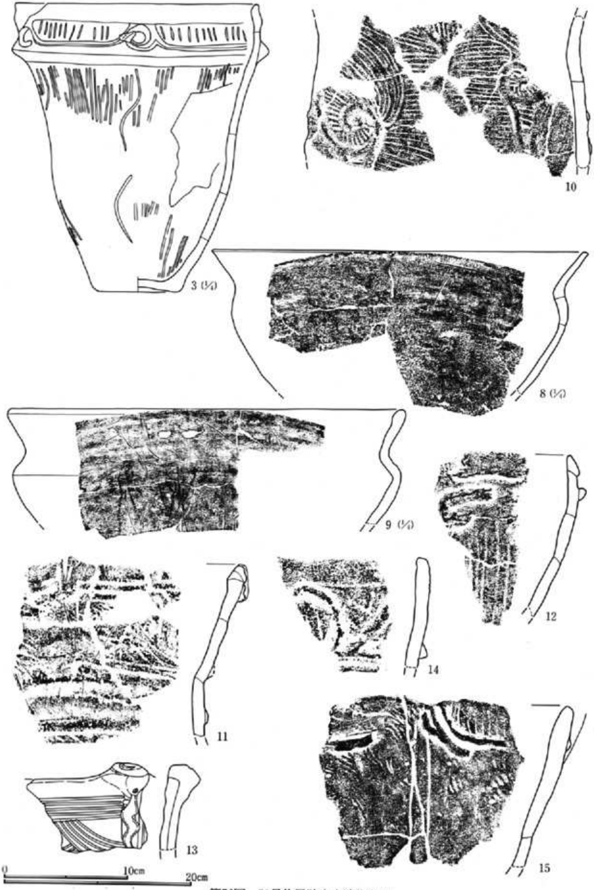
0 1m

第74図 70号住居跡 炉



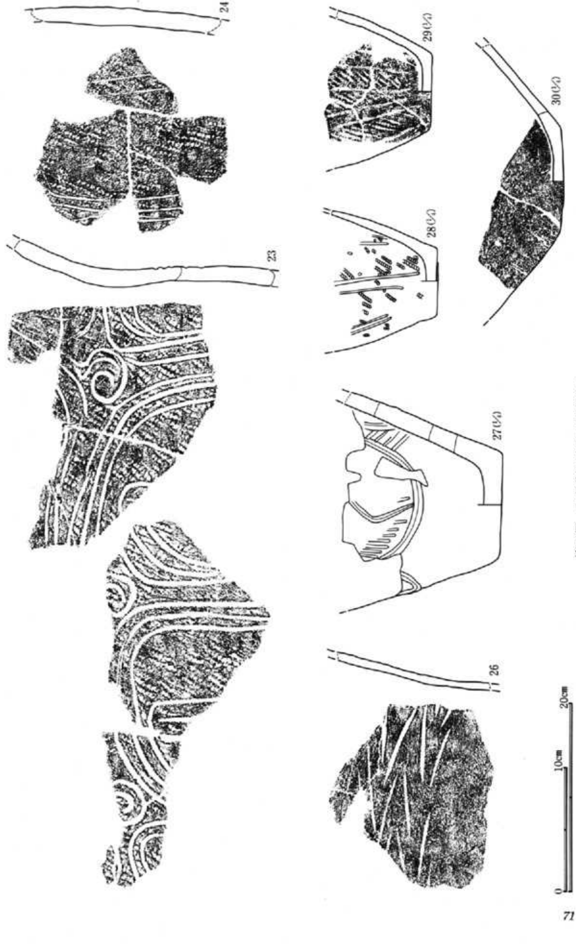


第75図 70号住居跡出土遺物（1）



第76図　70号住居跡出土遺物(２)

第77図　70号住居跡出土遺物（３）



第78図　70号住居跡出土遺物（４）

第79図　70号住居跡出土遺物（５）

70号住居跡出土土器（第75～79図、PL130～133）

１は大形の深鉢型土器胴上半部分。口径45.5cm、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内、胴部には縄文が施文され、胴部は沈線で縦位無文帯を構成する。

２は深鉢型土器。口径(34.2cm)、口縁部には隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内は縦の沈線文、胴部には間隔を持つやや斜方向の撚糸文Ｌが施文される。

３はほぼ完形の深鉢型土器。口径25.3cm、器高30.5cm、底径8.4cm。口縁部は下位の隆帯が強く肥厚した、渦巻文、楕円文が構成される。区画内には縦位沈線文が、胴部には縦位条線と波状文が見られる。

４は口縁部。口径(26.7cm)。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、区画内は縦の沈線で、胴部は縄文LRが施文される。

５は口縁部。口径24.0cm。口縁部がやや締まる。直立気味の口縁部には無文帯、口縁部文様帯は隆帯により、楕円文が構成される。楕円文内は縦位沈線文、胴部には縄文RLが施文される。

６は深鉢型土器。口径32.6cm。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内は縦位沈線で埋められ、胴部には縦位の撚糸文Ｒが施文される。

７は胴部。丸みを持ち、口縁部が外反。口径（16.7cm)、口唇部はやや厚みを持つ。無文土器である。

８・９は無文の鉢型土器である。共に頸部で「く」の字に折れて口縁部は外反する。８は口径（39.0cm)。９は口径（41.0cm）である。

10は深鉢型土器の胴部。隆線により蕨手状文を描き、周囲には斜沈線文が施文される。

11は深鉢型土器の口縁部片。口縁部に隆線による区画帯、斜沈線で充填する。頸部には横位隆帯で画された無文帯が見られる。

12は口縁部に隆帯文、胴部には縦位条線文。

13は口縁部片。口縁部が丸く突起状に肥厚し、そこに波状隆線が垂下する。５本単位の沈線で文様が描かれる。

14は口縁部片。隆帯により円文が構成される。

15は口縁部片。隆帯により弧状文が構成される。連結部より２本単位の沈線が垂下する。

16は口縁部片。隆帯により、楕円文が構成される。連結部から沈線が垂下し、その間は綾杉状の沈線文が付される。

17は口縁部片。沈線により、横長の区画文が構成される。区画の中は縦位沈線文、胴部には縦位の撚糸文Ｌが施文される。

18は胴部片。２本の縦沈線と綾杉文が見られる。16と同一個体か。

19は胴部片。地文に縄文施文後、縦位２本単位の沈線文を垂下させている。

20は胴部片。横位隆帯以下縄文 RL が縦位施文される。

21は胴部片。縄文 RL と、縦位の沈線文。

22は胴部片。横位、縦位の隆線文。

23は地文に縄文 RL を縦位施文後、沈線による曲線文、渦巻文を組み合わせて文様を描く。

24は胴部片。縄文施文後沈線による文様を描く。

25は上部に透かし孔を有す環状把手部分。上面に沈線による渦巻文が見られる。

26は胴部片。横位矢羽状の沈線文が見られる比較的薄手の土器である。時期的には後期後半に比定されるもので、本址には伴わないものである。

27〜33は底部である。27は底径11.0cm厚手の土器である。隆線による弧状文、沈線文が付される。

28は底径7.0cm。縄文 RL 施文後、縦位の並行沈線を施文。

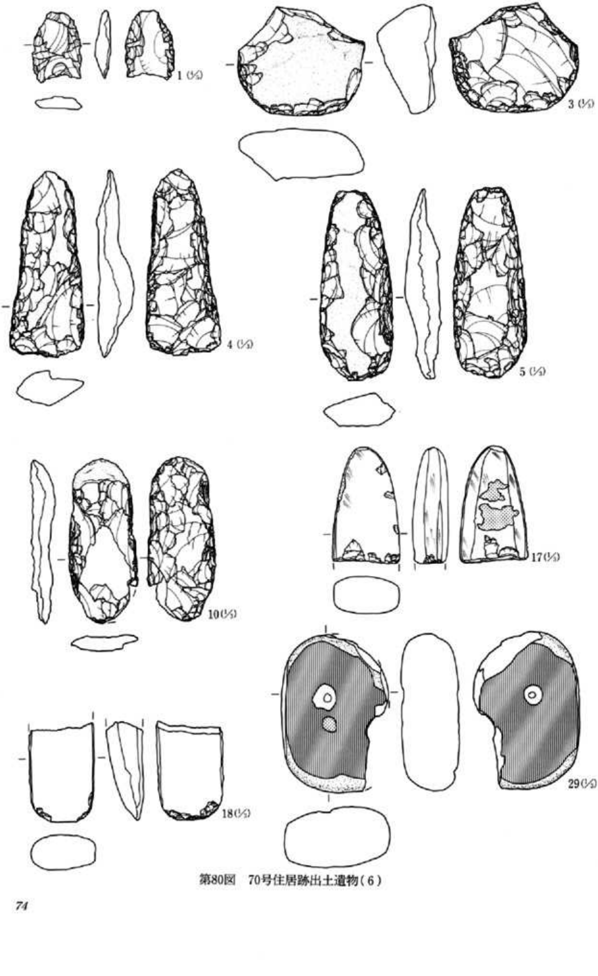
29は底径8.0cm。施文は28と同様である。

30は鉢の底部と思われる。底径11.0cm。大きく開き無文である。

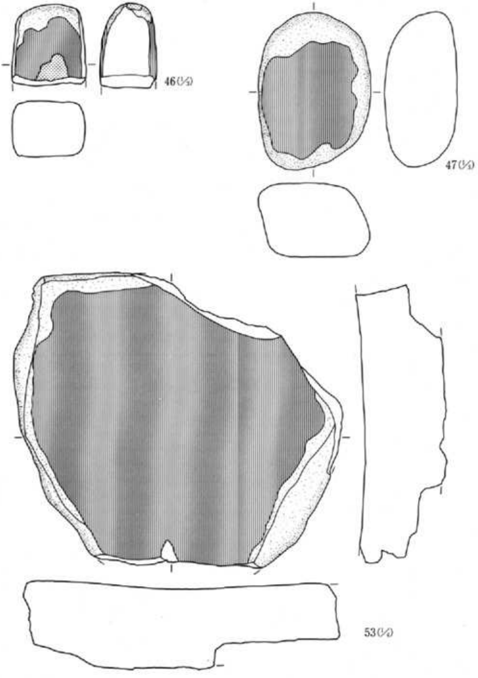
31は底径7.6cm。撚糸文かとも見えるがはっきりしない。

32は底径（11.0cm)。胴部は直立して立ち上がる。縄文が施文されるが不鮮明。

33は底径10.0cm。施文は RL か。



第80図　70号住居跡出土遺物（６）



第81図　70号住居跡出土遺物（７）

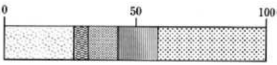
70号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	完形	2.2	1.6	0.6	2.0	黒曜	未製品。剥片の周辺両面に調整。
2	楔	覆土	完形	1.8	1.2	0.6	1.6	黒曜	下端に剥離痕。
3	ＳＳ	床下	完形	8.6	10.1	5.7	435.9	硬泥	剥片の打面側両面に調整加え弧状の刃部形成。
4	打斧	床下	完形	14.7	5.9	2.9	205.3	硬泥	II b類。
5	打斧	覆土	完形	15.0	5.7	2.8	236.8	硬泥	II b類。
6	打斧	覆土	2/3	9.6	5.4	2.2	132.9	硬泥	基部欠損。II b類。
7	打斧	覆土	2/3	8.4	4.8	2.3	95.5	珪頁	刃部磨耗。基部欠損。II b類。
8	打斧	床下	完形	12.9	4.9	2.0	85.8	硬泥	II b類。
9	打斧	床下	1/2	9.2	5.4	2.6	115.4	硬泥	刃部欠損。II b類。

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
10	打斧	P内	一部欠	12.9	5.5	2.0	135.9	硬泥	器表面熱により一部剥落。刃部一部欠損。III類。
11	打斧	床下	ほぼ完	12.4	4.5	2.5	148.0	硬泥	刃部磨耗。器表面熱によりかなり剥落。III類。
12	打斧	覆土	1/3	6.7	4.0	2.2	49.5	細安	基部破片。形状不明。
13	打斧	床直	2/3	11.1	5.1	1.5	87.0	粗安	刃部欠損。III類。
14	打斧	覆土	1/3	6.1	4.0	1.5	37.4	珪頁	基部破片。形状不明。
15	打斧	覆土	1/4	4.8	4.6	1.6	37.3	細安	刃部破片。磨耗みられる。形状不明。
16	打斧	覆土	1/2	7.3	4.6	2.1	75.1	変安	刃部磨耗。基部欠損。III類。
17	磨斧	覆土	1/2	9.2	5.3	2.9	256.3	変玄	刃部欠損。表裏に剥離・敲打痕残る。
18	磨斧	下位	1/2	7.8	5.2	2.9	188.2	変玄	基部破片。器体表面かなり風化。
19	磨斧	覆土	1/2	8.8	6.8	4.5	346.8	変玄	未製品の基部破片。剥離・敲打による整形途中。
20	磨斧	下位	1/3	7.7	6.2	3.3	213.3	変玄	未製品の基部破片。剥離・敲打による整形途中。
21	磨斧	覆土	1/3	6.5	4.6	2.6	107.6	変玄	未製品の刃部破片。剥離・敲打による整形途中。
22	磨斧	覆土	1/2	7.1	5.1	3.0	184.1	変玄	基部破片。器表面かなり風化。
23	磨斧	覆土	1/2	7.6	5.3	2.5	144.3	変玄	未製品の破損品。両端欠損。
24	磨斧	覆土	1/2	8.8	4.9	2.5	165.8	変輝	刃部破片。
25	石核	床直	完形	10.7	13.3	6.4	948.5	硬泥	礫の一端両面で交互に剥片剥離。
26	石核	下位	完形	11.7	9.8	5.1	691.5	変玄	分割礫の周辺を折り取るように剥片剥離。
27	石核	下位	完形	17.3	8.2	4.9	561.1	硬泥	礫の両端・両面で交互に剥片剥離。
28	石核	覆土	完形	7.4	8.1	3.1	180.6	硬泥	盤状石核の両面で周辺から剥片剥離。
29	凹石	床下	一部欠	12.4	8.4	4.7	668.0	デイ	盤状の円礫。両側を面取り。表裏に凹み・研磨面。
30	凹石	床下	完形	22.5	12.5	5.5	2050.0	砂岩	盤状の円礫。表裏に凹み各1個。
31	凹石	覆土	完形	13.7	7.6	4.1	452.1	砂岩	盤状の角礫。表裏に凹み各1個。
32	敲石	床直	完形	8.8	6.2	4.4	389.8	粗安	盤状の円礫。上端に敲打痕。
33	敲石	下位	破片	5.8	7.5	6.5	261.6	デイ	上端に敲打痕。下部欠損。
34	敲石	下位	完形	20.1	5.9	4.3	804.9	粗安	棒状の円礫。表面上部・両端に敲打痕。
35	敲石	床下	一部欠	19.0	6.6	5.0	910.1	変安	棒状の亜円礫。表裏・上端に敲打痕。下端欠損。
36	敲石	床下	完形	19.6	5.0	4.7	704.6	粗安	棒状の円礫。両端に敲打痕。
37	敲石	床下	完形	11.2	5.1	4.3	328.8	粗安	棒状の円礫。下端に敲打痕。
38	敲石	下位	完形	7.7	5.3	2.8	162.9	溶凝	盤状の亜円礫。両端に敲打痕。
39	敲石	下位	完形	13.4	5.0	2.8	289.6	変玄	盤状の円礫。両端に敲打痕。
40	敲石	床直	完形	16.9	8.3	7.0	1406.8	変安	左側面取り。表面・上端に敲打痕。
41	磨石	下位	完形	7.3	5.8	3.8	220.1	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。両端に敲打痕。
42	磨石	下位	一部欠	8.0	7.3	5.4	455.4	粗安	円盤状の円礫。表裏に研磨面。裏面一部欠損。
43	磨石	下位	破片	9.8	6.0	4.9	324.9	デイ	表裏に研磨面。上端に敲打痕。下部欠損。
44	磨石	床直	完形	6.5	8.1	4.9	668.9	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨。表面・両端に敲打痕。
45	磨石	床直	一部欠	16.3	10.1	3.9	712.9	デイ	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。裏面一部欠損。
46	磨石	床直	1/3	6.4	5.9	4.6	271.9	変安	両側を面取り。表裏に敲打・弱い研磨面。上端に敲打痕。
47	磨石	床下	完形	12.4	9.0	5.7	1020.5	変安	盤状の円礫。表面に研磨面。
48	石皿	下位	破片	17.0	14.8	5.2	1548.6	粗安	表面浅く凹み、内面研磨。
49	砥石	床直	破片	11.1	12.1	4.5	747.8	砂岩	盤状の角礫。表面に使用面。
50	砥石	下位	1/2	7.6	8.5	2.0	155.1	砂岩	盤状の亜円礫。表面に使用面。下部欠損。
51	砥石	床下	破片	6.3	19.3	6.5	809.2	砂岩	盤状の亜角礫。表面に使用面、緩く内湾。
52	台石	下位	破片	15.6	11.7	6.0	1423.1	粗安	盤状の亜角礫。表裏に使用による磨耗面。
53	台石	床直	一部欠	31.2	35.0	9.8	12.1kg	砂岩	盤状の角礫。表面使用により平滑。

70号住居跡器種組成表

器種	石鏃	楔	ＳＳ	打斧	磨斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	石皿	砥石	台石	剥片
個数	1	1	1	13	8	5	4	4	3	9	7	1	3	2	36



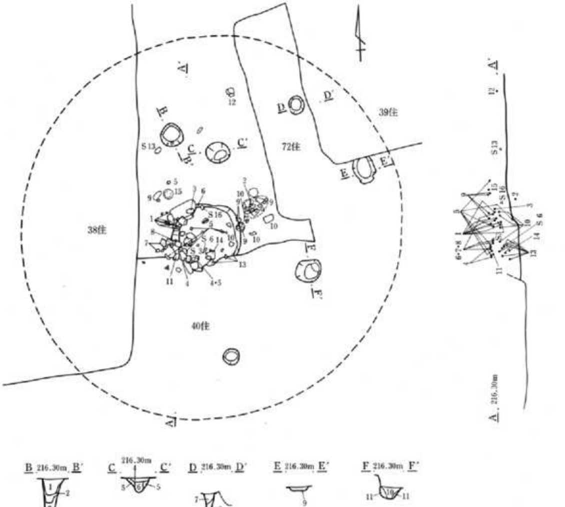
70号住居跡石材重量組成グラフ

73号住居跡（第82〜87図、PL10・133・134・230・231）

住居は他の住居によって多くの部分が削られている。壁が確認出来なかったため、残存床面部分から範囲を推定した。床面は砂礫を含む黄褐色土で貼床をしているが、軟弱である。Pit は６基検出されたが、柱穴・他遺構に関わる Pit 等存在すると思われるが、個々の Pit について性格は明確ではない。

炉は円形の掘り込みの内側に河原石を並べて造られている。火床面は床面よりやや下がった位置にあるが、焼土が若干みられる程度である。なお火床面の下の掘り方からは、河原石および砂岩の割石が敷かれたような状態で発見されている。

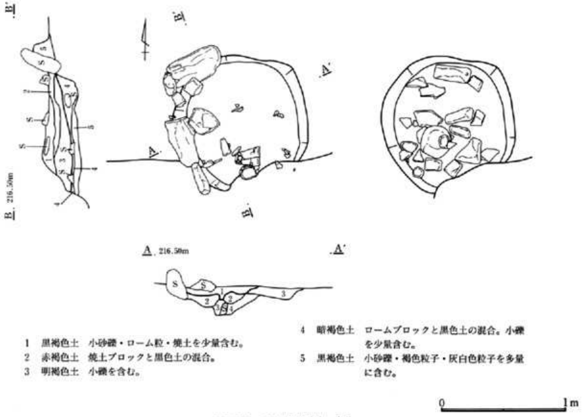
出土遺物として深鉢型土器・石皿・凹石・磨石・打製石斧等がある。炉周辺に遺物は集中しているが、床面より20cmほど浮いた状態での出土遺物が多い。



1　黒褐色土　砂礫を少量含む。
2　黒褐色土　大粒の砂礫を少量含む。
3　黒褐色土　砂質地山土を含む。
4　黒褐色土　ロームブロック・砂礫を若干含む。
5　黄褐色土　ロームブロック・砂礫を含む。
6　黄褐色土　ローム粒を多く含む。
7　黒褐色土　砂礫を多く含む。
8　黒褐色土　砂礫を特に多く含む。
9　黒褐色土　砂礫・ローム粒子を含む。
10　黒褐色土　砂礫を多く含む。
11　黒褐色土　砂礫を多く含み、地山砂質土を若干含む。

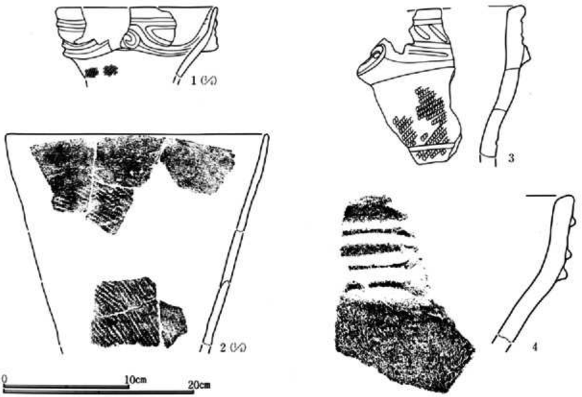
0　2m

第82図　73号住居跡

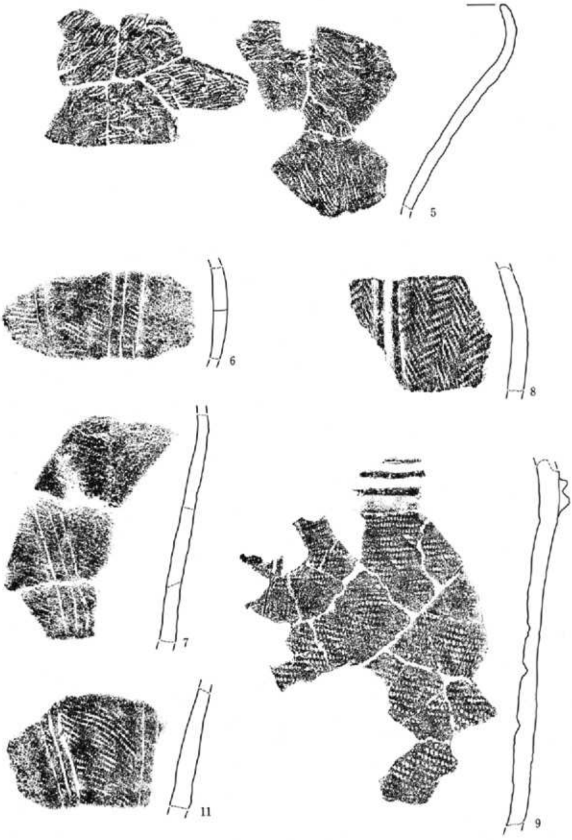


1　黒褐色土　小砂礫・ローム粒・焼土を少量含む。
2　赤褐色土　焼土ブロックと黒色土の混合。
3　明褐色土　小礫を含む。
4　暗褐色土　ロームブロックと黒色土の混合。小礫を少量含む。
5　黒褐色土　小砂礫・褐色粒子・灰白色粒子を多量に含む。

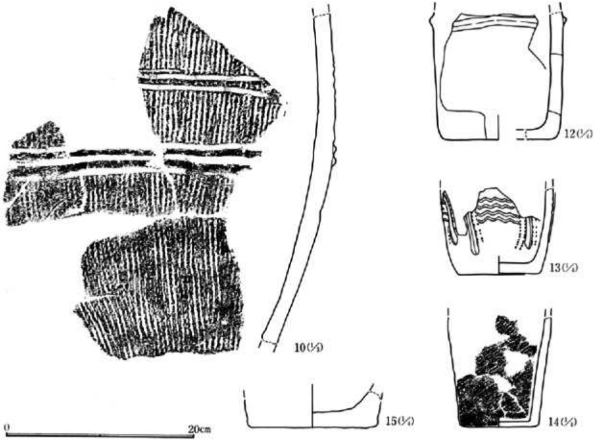
第83図　73号住居跡　炉



第84図　73号住居跡出土遺物（１）



第85図　73号住居跡出土遺物（２）



第86図　73号住居跡出土遺物(３)

73号住居跡出土土器（第84〜86図、PL133・134）

１は口縁部。口径(16.7cm)、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部には縄文 RL が縦位施文される。

２はほぼ直線的に立ち上がる深鉢型土器。口径(28.0cm)、口縁部に無文部分を持ち、胴部は LR が充填施文される。

３は口縁部片。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内は縦沈線が、胴部には縄文が施文され、横位沈線文が見られる。

４は口縁部に隆帯による区画文が構成されている。

５は口縁部片。縄文Ｌが充填施文される。

６〜８は胴部片。縄文施文後、３本単位の沈線を垂下させている。

９は横位隆帯を持ち以下縄文 RL が全面に施文されている。

10は胴部片。縦位縄文Ｌ施文後、横位の沈線、隆線が廻される。

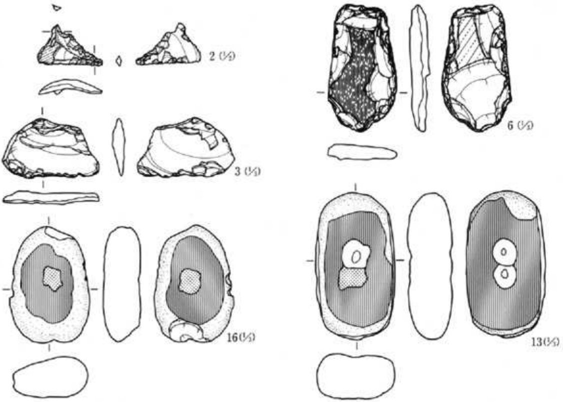
11は胴部片。LR・RL で羽状縄文を作り、縦位の沈線文。

12〜15は底部片。12は底径（12.0cm）。無文で横位隆帯を持つ。

13は底径8.3cm。半截竹管による横位波状沈線文施文後、縦に刺突文を伴う隆線が垂下。

14は底径8.4cm。全面に縄文 RL が縦位施文される。

15は底径13.6cm。無文。



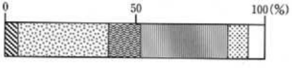
第87図　73号住居跡出土遺物(４)

73号住居跡出土石器観察表

№	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	1.9	1.5	0.5	1.6	黒曜	両端に剥離痕。
2	石匙	覆土	完形	2.2	3.4	0.8	3.1	黒曜	横型。右側を細く作り出す。
3	ＳＳ	中位	完形	4.7	7.7	1.1	38.6	細安	横長剥片の先端両面に調整加え刃部形成。
4	打斧	中位	2/3	7.5	4.6	1.5	57.3	硬泥	撥形。刃部磨耗。基部欠損。
5	打斧	上位	1/3	10.1	7.4	2.9	249.4	粗安	大型の基部破片。調整粗く、未製品か。
6	打斧	上位	完形	10.0	5.5	1.6	108.9	珪頁	表面磨耗を切って再調整。Ⅱｂ類。
7	打斧	覆土	1/2	9.6	5.2	1.7	106.3	硬泥	基部・刃部一部欠損。刃部磨耗。Ⅲ類。
8	打斧	中位	2/3	10.1	4.4	3.4	134.8	硬泥	両端欠損。Ⅲ類。
9	打斧	覆土	完形	10.6	4.5	2.1	146.0	細安	両端磨耗。Ⅲ類。
10	打斧	中位	破片	4.6	4.6	1.9	44.1	硬泥	刃部破片。形状不明。
11	打斧	覆土	1/3	6.0	4.4	0.9	36.1	細安	両端欠損。形状不明。
12	石核	覆土	完形	8.5	7.3	3.7	185.0	硬泥	剥片の両面で周辺から剥片剥離。
13	凹石	中位	完形	11.6	6.3	3.6	398.0	デイ	両側を面取り。表裏に凹み・研磨面。
14	凹石	覆土	1/2	8.1	7.9	4.4	381.3	砂岩	盤状の円礫。表面に凹み・研磨、裏面研磨。上端・側辺に敲打痕。
15	磨石	床直	完形	6.0	4.9	4.7	185.2	ひん	球状の円礫。ほぼ全面に弱い研磨。両端に敲打痕。
16	磨石	中位	ほぼ完	9.1	6.3	3.2	257.4	砂岩	盤状の円礫。表裏に研磨・敲打痕。両側に刻み入る。
17	石皿	中位	破片	10.8	7.5	6.1	840.6	粗安	表面使用により平滑。熱により赤化。

73号住居跡器種組成表

器　種	楔	石匙	ＳＳ	打斧	二次	微細	石核	凹石	磨石	石皿	剥片
個　数	1	1	1	8	5	1	4	2	2	1	19

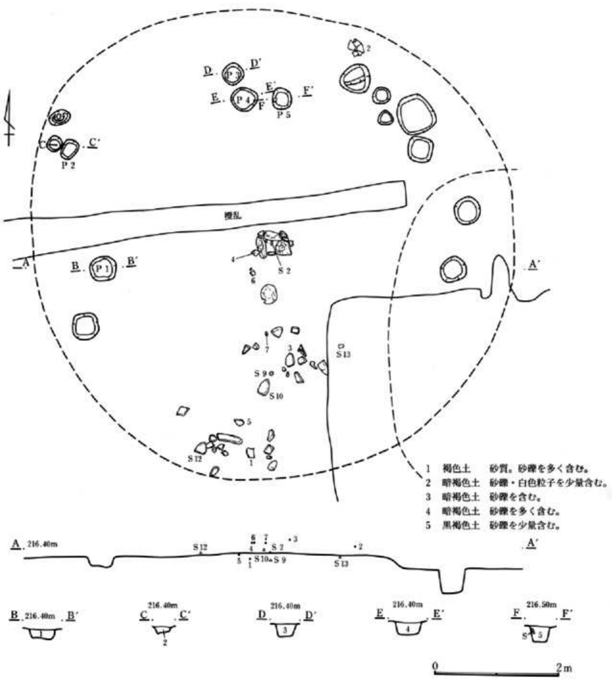


73号住居跡石材重量組成グラフ

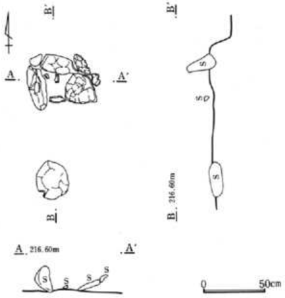
78号住居跡（第88～92図、PL10・134・231・232）

本住居跡は炉および炉周辺の床面のみの確認である。床面は炉周辺がやや高くなっているが、比較的凹凸は少ない。柱穴については、本住居跡が他の遺構によって削られている部分が多いことから、既に消滅したものが多いと思われる。なお、住居推定範囲におけるPitは図示したが、柱穴を確定することは難しい。

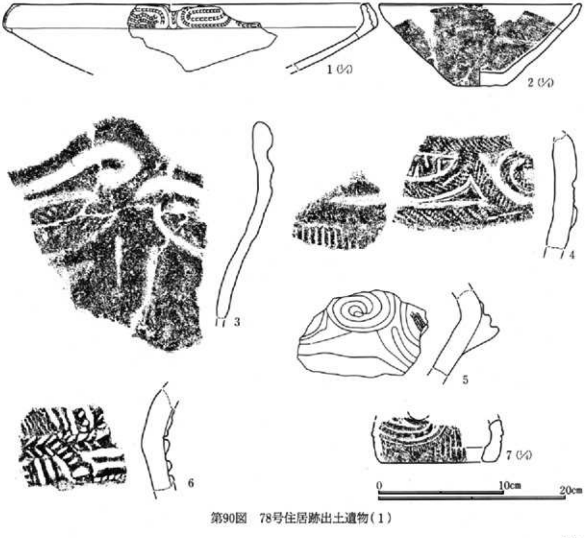
炉は床面上に河原石をほぼ正方形に組んでいる。炉内に焼土はあまりみられなかった。出土土器として浅鉢および深鉢がある。深鉢については小破片での出土である。出土石器には石皿・打製石斧・石核・敲石・磨石・砥石・石棒・多孔石・石匙がある。



第88図　78号住居跡



第89図　78号住居跡　炉



第90図　78号住居跡出土遺物（１）

78号住居跡出土土器（第90図、PL134）

１は浅鉢である。大きく開いた胴部に内屈した口縁部が付く。口径(38.0cm)、口縁部は隆帯により、楕円文が構成される。区画文内には隆帯に沿って結節沈線が配され、さらに波状文が描かれる。

２もほぼ完形の浅鉢型土器である。口径21.6cm、器高8.7cm、底径5.6cm。器形は大きく逆「ハ」の字形に開く。無文である。

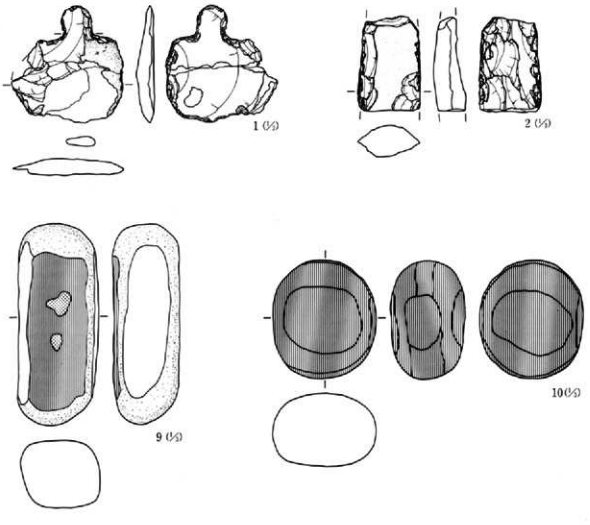
３は口縁部波頂部。隆帯により、楕円文が構成され、波頂部には横位蕨手状に凹線。区画文内には縄文が充填される。

４は胴部片である。隆帯による楕円文、渦巻文が描かれ、隆帯上には縄文が付される。また各文様内には縦位沈線が見られる。

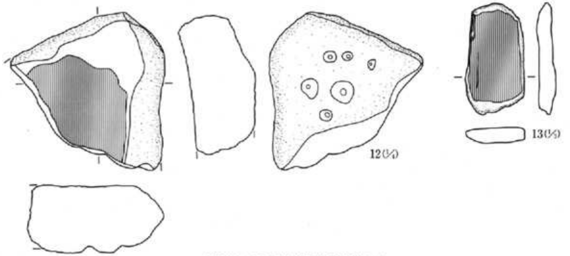
５は口縁部。隆帯による渦巻文部分。

６は胴部片。刻みをもつ横位、縦位の隆帯文。地文に撚糸文Ｌが付される。

７は器台型土器。脚の端部はやや内湾気味に内側に入る。底径(12.0cm)。縦位沈線、渦巻文を有し、円形の透かし孔を持つ。



第91図　78号住居跡出土遺物（２）



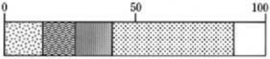
第92図　78号住居跡出土遺物(3)

78号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	石材名	特徴
1	石匙	覆土	一部欠	8.9	9.3	1.3	93.9	珪頁	剥片の周辺両面に調整。熱により器表面一部剥落。
2	打斧	床直	1/2	7.5	4.9	2.5	118.7	変玄	両端欠損。III類。
3	石核	下位	完形	9.9	8.9	5.5	538.7	硬泥	礫の一端で交互に剥片剥離。
4	石核	覆土	完形	11.7	10.6	4.4	626.7	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
5	石核	覆土	完形	9.3	7.8	3.2	263.3	硬泥	剥片端部で交互に剥片剥離。
6	石核	下位	1/2	8.5	6.9	3.9	214.1	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。右側欠損。
7	石棒	覆土	破片	10.0	3.3	1.9	88.0	緑片	表面に敲打痕。形状不明。
8	敲石	下位	一部欠	13.6	10.0	6.8	1047.0	粗安	盤状の円礫。表裏に敲打痕。
9	磨石	床下	完形	15.8	6.4	5.3	889.9	流紋	棒状の円礫。表面に敲打痕・研磨面。両側を面取り。
10	磨石	下位	完形	9.4	8.2	5.8	663.6	ひん	円盤状の円礫。ほぼ全面研磨、表裏面の中央特に強い。
11	多孔	下位	破片	6.3	11.3	3.5	269.9	凝砂	裏面に凹み。
12	石皿	床直	1/4	16.6	16.4	8.2	1985.7	砂岩	盤状の角礫。表面皿部分研磨。裏面に凹み6個。
13	砥石	床下	完形	8.8	4.7	1.5	63.5	凝砂	盤状の亜角礫。表面に弱い使用面・線状痕。
14	砥石	下位	ほぼ完	15.8	10.2	5.6	1043.1	砂岩	盤状の亜角礫。表裏に使用面。

78号住居跡器種組成表

器　種	石匙	打斧	石核	石棒	敲石	磨石	石皿	多孔	砥石	剥片
個　数	1	1	4	1	1	2	1	1	2	3



78号住居跡石材重量組成グラフ

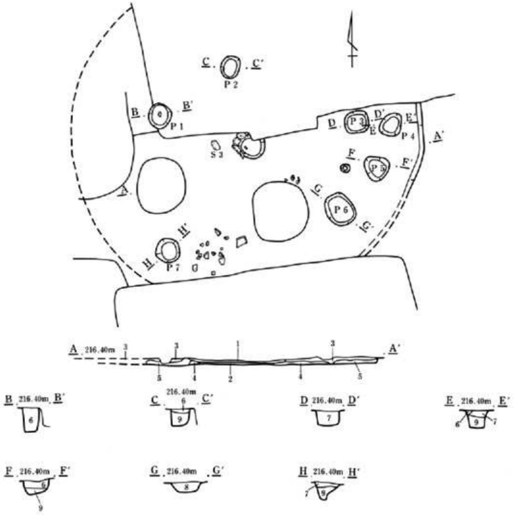
83号住居跡（第93～95図、PL11・232）

住居は他の住居および土坑によって多くの部分が削られている。平面形は残存している壁・床面から円形となる可能性もあるが、明確ではない。

床面は、平坦にした掘り方の面をそのまま床面として使用している。床面は炉周辺を中心として比較的しっかりしている。柱穴については明確ではないが、柱穴の可能性のあるPitを図示した。

炉は深皿状の円形の穴を掘り込み、周囲に砂岩の割石および河原石を置いて造られている。炉内には焼土がみられず、埋没土中に焼土粒子が僅かに含まれていたのみである。

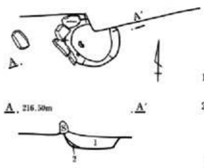
出土遺物には磨石・スクレイパー・ピエスエスキーユがある。いずれも床面からは浮いた状態での出土である。なお土器については、極小破片を除いては存在しなかった。



1　暗褐色土　黄褐色粒子・砂礫を僅かに含む。
2　暗褐色土　黄褐色土粒・砂礫を僅かに含む。固くしまっている。
3　褐色土　　黄褐色土・暗褐色土ブロック・砂礫を僅かに含む。
4　褐色土　　黄褐色土を多く、砂礫を少量含む。
5　褐色土　　黄褐色土やや多く、砂礫を僅かに含む。
6　暗褐色土　やや粘質。褐色土粒・砂礫を僅かに含む。
7　暗褐色土　褐色土ブロック・砂礫を僅かに含む。
8　黒褐色土　やや砂質。砂礫をやや多く含む。
9　褐色土　　砂礫をやや多く含み、暗褐色土ブロックを僅かに含む。

0　2m

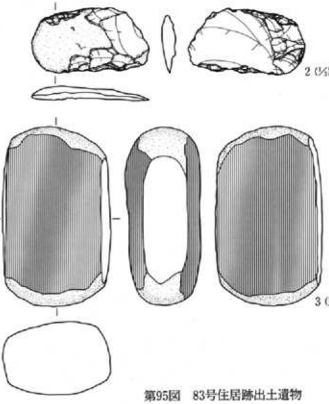
第93図　83号住居跡



1　暗褐色土　砂礫・炭化粒子・焼土粒子を僅かに含む。
2　暗褐色土　砂礫・暗黄褐色土粒子・炭化粒子を僅かに含む。

0　1m

第94図　83号住居跡　炉



2 (½)

3 (½)

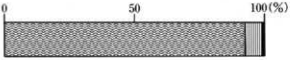
第95図　83号住居跡出土遺物

83号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	2.7	2.0	0.8	3.3	黒曜	両端に剥離痕。
2	ＳＳ	覆土	完形	5.1	9.3	1.1	52.4	珪頁	横長剥片の両端を調整。
3	磨石	下位	完形	14.1	8.6	6.0	1072.9	デイ	両側を面取り。表裏に研磨面。

83号住居跡器種組成表

器種	楔	ＳＳ	二次	磨石	剥片
個数	1	1	1	1	3



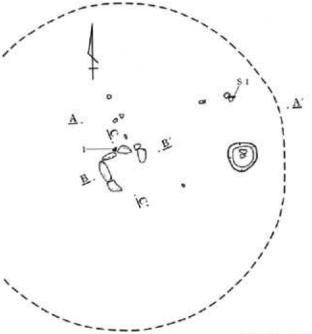
83号住居跡石材重量組成グラフ

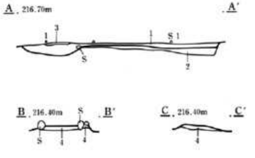
92号住居跡（第96～98図、PL11・232）

本住居跡は多くの住居・土坑によって削られており、炉周辺のみの確認である。床面は炉周辺では比較的しっかりしているが、周辺部ではしだいに不明確となる。住居掘り方は凹凸があり、砂礫を含む暗褐色土で貼床をしている。

炉は床面を方形に浅く掘り込み、この掘り込みの周囲に河原石を置いて造られている。なお、炉内には焼土がみられなかった。

出土遺物には深鉢型土器片・打製石斧がある。

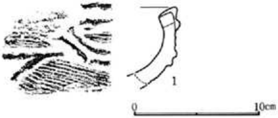




1　暗褐色土　砂礫・ローム粒をやや多く含む。
2　暗褐色土　砂礫・ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
3　黒褐色土　（土坑覆土）
4　暗褐色土　小砂礫・ローム粒を含む（焼土含まず）。

0　2m

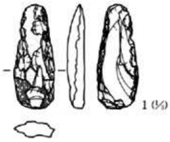
第96図　92号住居跡



第97図　92号住居跡出土遺物（１）

92号住居跡出土土器（第97図、PL135）

１は口縁部片。地文に撚糸文Ｒを横位施文後、隆線による横位の区画状文。



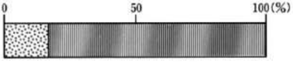
第98図　92号住居跡出土遺物（２）

92号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	床直	完形	8.2	3.2	1.4	37.5	硬泥	小型のⅡｂ類。刃部磨耗。
2	打斧	覆土	破片	4.3	4.7	1.5	36.9	珪頁	基部破片。形状不明。

92号住居跡器種組成表

器　種	打斧	二次	剥片
個　数	2	2	3



92号住居跡石材重量組成グラフ

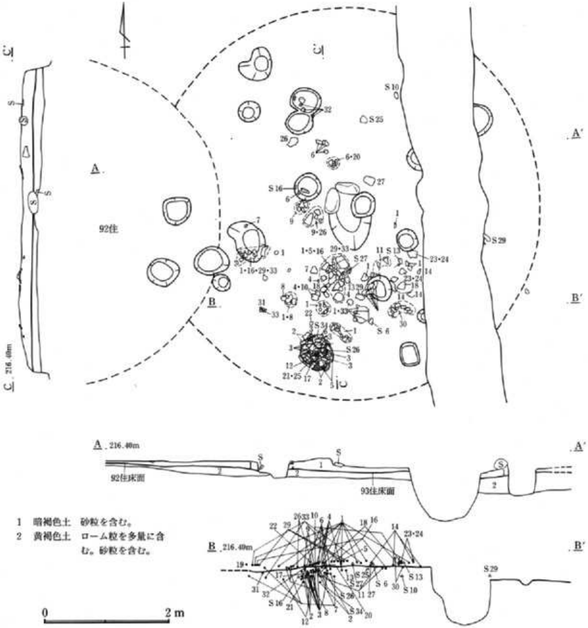
93号住居跡（第99～107図、PL11・135～138・232・233）

本住居跡は他の住居・土坑・溝等により多くの部分が削られている。住居の壁については、壁部分が他の住居との重複が多いこと、また床面が浅いことから壁残存部分においても確認が難しかったことによる。

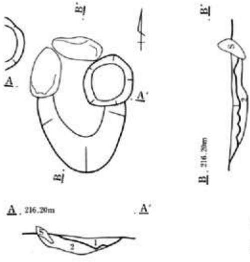
床面は砂粒を含む黄褐色土で貼床をしており、比較的しっかりしている。柱穴については、その可能性のあるPitを図示したが、本住居跡と無関係のPitも含まれているものとみられ、柱穴の確定は難しい。

炉は床面を楕円形の皿状に掘り込み、内側の周囲に扁平な河原石を貼り付けて造られている。火床面には焼土が残されていたが僅かである。

出土遺物については、土器および石器とも多い。土器は深鉢および浅鉢であるが、炉付近から南側にかけて集中している。石器については、総数41点と多い。遺物は床面に密着しているものもあるが、大部分は床面より５cm前後浮いた状態での出土である。



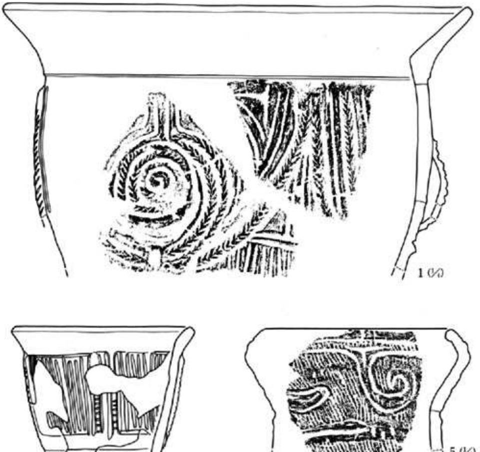
第99図　93号住居跡



1　黒褐色土　暗褐色土ブロックを多量に含む。砂粒・ローム粒若干、僅かに焼土を含む。
2　暗褐色土ブロック　黒褐色土・砂粒・ローム粒を若干、焼土を僅かに含む。

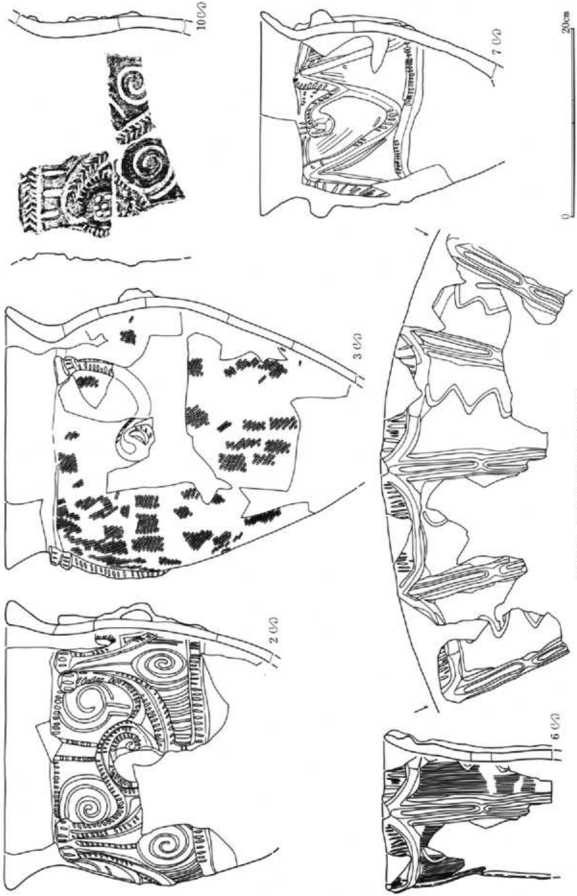
0　1m

第100図　93号住居跡　炉

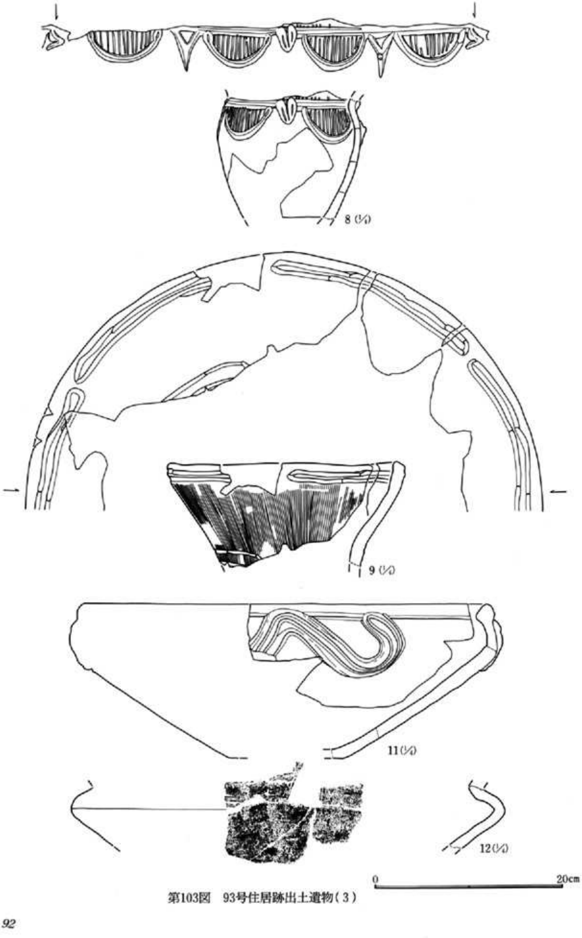


0　20cm

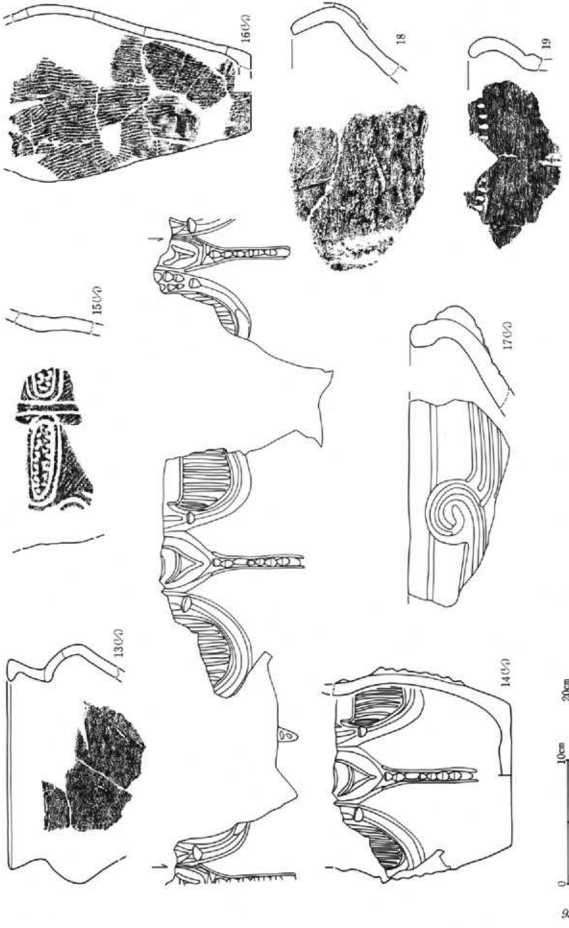
第101図　93号住居跡出土遺物（１）



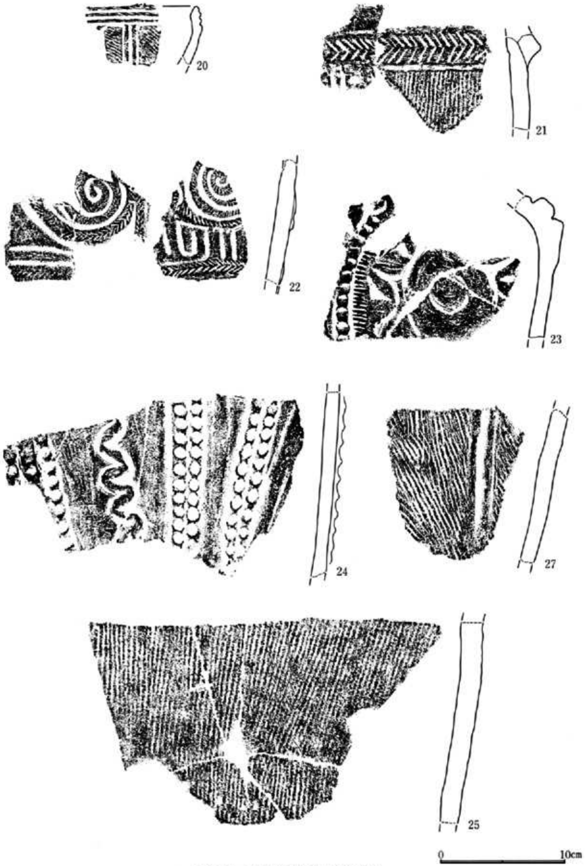
第102図　93号住居跡出土遺物（２）



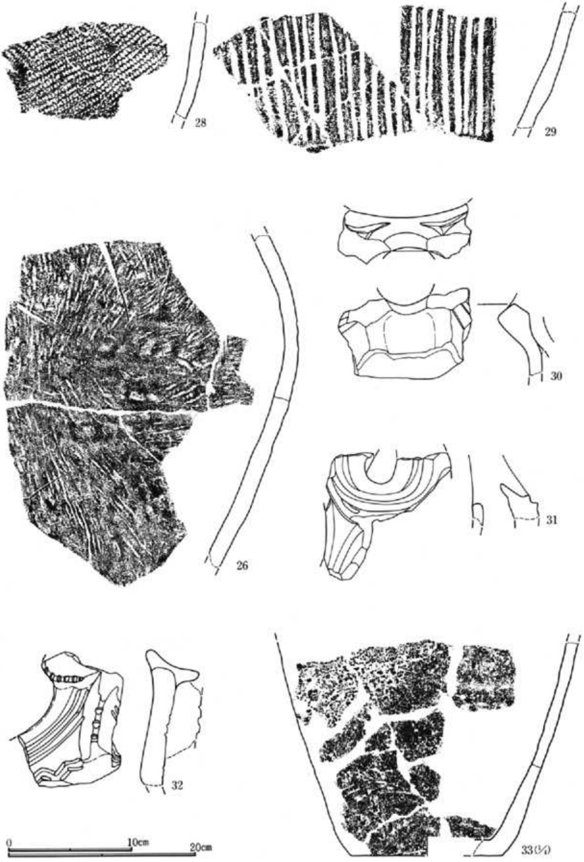
第103図　93号住居跡出土遺物（３）



第104図　93号住居跡出土遺物(4)



第105図　93号住居跡出土遺物（５）



第106図　93号住居跡出土遺物（６）

93号住居跡出土土器（第101～106図、PL135～138）

１は口縁部から胴部。口径（48.8cm）。頸部は「く」の字に折れて口縁部外反する。口縁部分は無文で、胴部には隆帯による渦巻を基調とした抽象文が描かれる。隆帯には矢羽状の刻み目を有す。また渦巻部分は盛り上がり中空となっている。

２は口縁部から胴部。口径(30.3cm)、口縁部は端部が肥厚し平らとなる。胴部には刻みを持つ隆帯による渦巻文を基調とした抽象文が描かれ、渦巻文部分は盛り上がり中空となる。また空隙にも沈線による渦巻文、縦位沈線文が配されている。文様のモチーフは１と共通する。

３は口縁部から胴部。口径(27.5cm)。胴上半部で最大径をとり、頸部は括れて口縁部は外反する。胴部には縄文LRが施文され、頸部より４本の「Ｊ」字状の隆帯文が垂れる。隆帯の端部は隆帯が付されて丸く肥厚している。また隆帯上には刻みが付されている。

４は比較的小型の深鉢型土器、口縁部から胴部。口径(18.6cm)。胴部は直線的に開いて立ち上がり、口縁部がわずかに肥厚する。胴上半部に文様帯を持ち、２本単位の隆帯が４カ所垂下し、その間は縦位沈線で埋められる。

５は口縁部から胴部上半部。口径(19.9cm)。地文は縦位の撚糸文か。口縁部に廻された沈線からつながった蕨手文が垂下する。頸部には横位の沈線文が廻る。

６は口縁部から胴部。口径(16.2cm)、口縁部は隆帯により、連弧状の区画文が構成され、区画内は縦の沈線で埋められる。また連結部より隆帯による縦長の「Ｈ」状文が胴部に垂下し、その間は縦位条線、波状沈線文が見られる。

７は口縁部から胴部。口径(21.4cm)。胴部には横位隆帯で画された文様帯を作る。隆帯により上下につながる波状文を描き、一部に端部が丸く肥厚する蕨手状に延びる部分を持つ。隆帯上には刻みを付し、地文には沈線文が見られる。

８は胴部。頸部に隆帯が廻りその下側に４単位の連弧状の区画文が隆帯によって描かれ、連弧間には「Ｖ」字状文、「Ｓ」字状文、眼鏡状の小突起文が付されている。

９は口縁部。口径23.8cm、口縁部には３単位の横長の沈線による楕円文が描かれる。以下縦位条線が施文され頸部にも横位沈線文が見られる。

10は深鉢型土器の胴部。頸部に横位隆帯、さらに胴部には隆帯、沈線による渦巻文が描かれる。隆帯上には矢羽状に刻みが付されている。

11は浅鉢型土器。口径（42.6cm）、器高（16.4cm）、底径（12.0cm）。大きく開いた胴部から口縁部はやや内湾する。口縁部下に沈線が廻され、口縁部には中央に凹線を持つ幅広の隆帯による横「Ｓ」字状文が描かれる。

12は浅鉢型土器。強く内湾する肩部に、屈曲して立ち上がる口縁が付くものと思われる。無文である。

13は深鉢型土器。口径(21.4cm)。肩部分が張り、屈曲して口縁部は立ち上がる。口唇部は平らで内側に肥厚する。撚糸文Ｌが全面施文される。

14は深鉢型土器の胴部から底部。底径14.6cm。連弧状の区画文が隆帯によって描かれ、連弧間には垂下した部分に篦押し文を持つ「Ｙ」字状文が付されている。弧文の中は縦の沈線で充填されている。８と共通のモチーフである。

15は胴部片。沈線による楕円文と縦に沈線。楕円文内には「Ｃ」字状の刺突文が配される。

16は胴部から底部。底径(8.0cm)。やや細身で、胴上半部分に最大径を持つ。撚糸文Ｒが全面施文される。

17は口縁部片。口縁部は隆帯により、渦巻文が構成される。

18は口縁部片。無文の口縁部分に隆帯が垂下する。

19は口縁部片。口縁部に横位の刺突文が見られる。

20は口縁部片。口縁部に２本の横位沈線を廻し、そこから縦方向に沈線を下げ区画し、区画内には縄文 RL が施文される。

21は胴部片。矢羽状の刻みを持つ横位隆帯と縦位の沈線文。縦位条線が見られる。

22は胴部片。隆帯による渦巻文が描かれ、隆帯上には矢羽状に刻みが付されている。空隙部分には縦の沈線が見られる。

23は胴部片。刻みを持った隆帯文、および印刻による三叉文が見られる。

24は胴部片。円形の押圧文を持った隆帯と波状隆帯が縦位に付される。

25は胴部片。縦位撚糸文Ｒか。

26は胴部片。無節縄文が多方向施文される。

27は胴部片。中央に凹線を伴う縦位隆帯および縄文が施文される。

28は胴部片。縄文 RL が施文される。

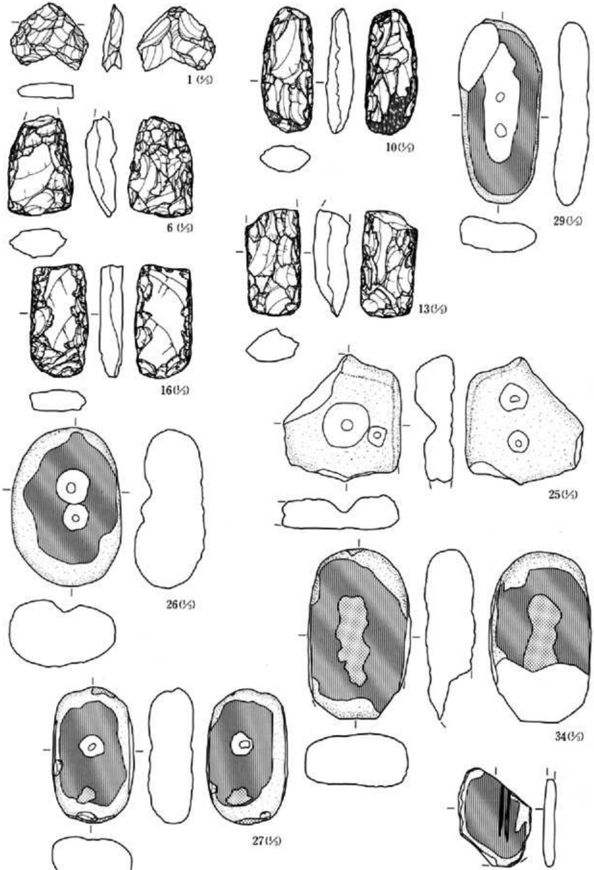
29は胴部片。縦位沈線文。

30は把手部分。横向きの環状把手か、環部分を欠損している。上面土器との接合部に三叉文が見られる。

31は把手部分。上下方向の眼鏡状を呈すものと思われるが、欠損している。

32は口縁部、扇状把手部分。隆帯に刻みを持ち、沈線による平行線文、山形文が見られる。

33 底部。底径（16.0cm)。無文である。



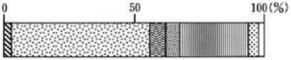
第107図　93号住居跡出土遺物（７）

93号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g） 長さ	幅	厚さ	重量	石材名	特徴
1	石鏃	覆土	完形	2.2	2.6	0.7	3.0	黒曜	未製品。凹基無茎鏃か。
2	打斧	覆土	完形	9.4	4.9	1.8	82.0	珪頁	刃部磨耗。Ⅱb類。
3	打斧	覆土	完形	9.0	4.1	6.8	78.8	珪頁	刃部再調整により斜状。Ⅱb類。
4	打斧	覆土	一部欠	9.8	5.2	1.4	92.8	硬泥	刃部磨耗。基部わずかに欠損。Ⅱb類。
5	打斧	下位	1/2	7.8	5.2	1.9	77.9	細安	刃部欠損。Ⅱa類。
6	打斧	下位	2/3	7.9	5.1	2.4	100.3	硬泥	基部欠損。Ⅱb類。
7	打斧	下位	1/2	7.5	4.4	1.5	56.9	粗安	刃部欠損。Ⅱb類。
8	打斧	覆土	1/2	7.3	5.1	1.7	59.2	硬泥	基部欠損。Ⅲ類。
9	打斧	床直	完形	9.2	3.7	1.6	56.8	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。Ⅲ類。
10	打斧	床下	完形	9.8	4.1	2.2	96.6	硬泥	刃部磨耗。Ⅲ類。
11	打斧	覆土	完形	8.6	4.8	1.6	85.8	粗安	刃部磨耗。Ⅲ類。
12	打斧	覆土	3/4	11.3	5.2	2.5	178.4	硬泥	刃部欠損。Ⅲ類。
13	打斧	下位	1/2	8.4	4.4	2.8	117.9	硬泥	基部欠損。Ⅲ類。
14	打斧	覆土	破片	4.3	4.7	1.3	36.7	細安	基部破片。形状不明。
15	磨斧	下位	完形	12.3	5.5	4.5	368.4	変玄	未製品。敲打により整形後基部を一部研磨。
16	打斧	床下	2/3	8.9	4.5	1.8	144.3	変玄	基部欠損。Ⅲ類。
17	石核	覆土	完形	10.7	8.3	3.3	292.8	硬泥	剥片の周辺を折り取るように剥片剥離。
18	石核	床直	完形	7.2	9.2	2.3	144.2	粗安	剥片の背面側で一部周辺から剥片剥離。
19	石核	覆土	完形	8.1	8.0	2.5	161.0	細安	小型盤状の円礫の一端両面で剥片剥離。
20	石核	床下	完形	5.5	7.0	2.7	82.9	黒安	盤状の石核。主に表面で周辺から剥片剥離。
21	石核	下位	完形	7.5	7.3	5.7	351.2	赤珪	礫の分割面を打面とし、周辺で剥片剥離。
22	石核	床下	完形	8.3	6.5	3.5	222.7	硬泥	剥片の腹面側で両極打撃による剥片剥離。
23	石核	床下	完形	11.5	8.7	4.8	480.3	硬泥	剥片の両面で一部周辺から少数の剥片剥離。
24	石核	床下	完形	12.1	9.8	6.3	715.8	硬泥	厚手の盤状石核。両面で周辺から剥片剥離。
25	凹石	床下	2/3	10.0	9.3	3.2	294.0	凝砂	盤状の角礫。表裏に凹み。
26	凹石	床下	完形	12.3	8.8	5.6	798.9	粗安	盤状の円礫。表面に凹み・研磨面。
27	凹石	床直	完形	10.6	6.4	3.7	462.1	変玄	盤状の円礫。表裏に凹み・研磨面。両側を面取り。両端に敲打痕。
28	凹石	床下	完形	10.2	9.9	5.5	679.9	粗安	円盤状の円礫。表裏に凹み・研磨・敲打痕。両端・両側に敲打痕。
29	凹石	床下	ほぼ完	14.3	6.6	2.6	262.0	砂岩	盤状の円礫。表面に凹み・研磨面。裏面磨滅著しい。
30	敲石	床下	完形	10.8	8.7	4.7	549.1	粗安	盤状の円礫。ほぼ全周に敲打痕。
31	磨石	床下	2/3	9.8	8.8	5.8	585.6	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨・敲打痕、上端に敲打痕。下部欠損。
32	磨石	床下	2/3	9.7	9.1	6.1	693.2	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。上端敲打痕。下部欠損。
33	磨石	床下	一部欠	13.5	8.4	4.5	671.5	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨・敲打痕。左側に敲打痕。上端一部欠損。
34	磨石	床下	2/3	13.5	8.1	4.2	561.3	粗安	盤状の円礫。両側面取り。表裏に敲打・研磨面。上端に敲打痕。
35	磨石	床下	1/3	6.8	7.1	5.1	281.0	粗安	両側面取り。表裏研磨面。上端敲打痕。下部欠損。
36	磨石	覆土	破片	5.8	7.7	3.5	136.9	粗安	盤状の円礫。表面に弱い研磨。上端に敲打痕。
37	磨石	床下	完形	13.3	9.5	8.0	1150.3	デイ	棒状の円礫。表裏に弱い研磨。器表面の風化激しい。
38	磨石	床下	完形	12.5	10.5	7.0	1212.6	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨・敲打痕。両端に敲打痕。器表面の風化激しい。
39	磨石	床下	完形	11.5	6.8	4.6	471.8	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
40	砥石	覆土	破片	5.8	7.7	1.1	49.2	砂岩	薄い盤状の亜角礫。表面に使用面・浅い溝2条。
41	台石	下位	1/3	13.1	24.9	6.1	2750.0	変安	盤状の円礫。表面に使用面。

93号住居跡器種組成表

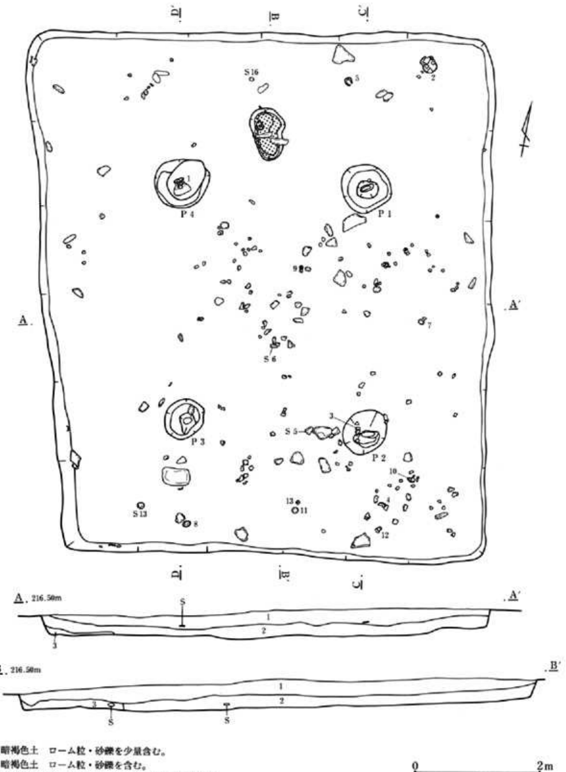
器種	石鏃	打斧	磨斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	砥石	台石	剥片
個数	1	14	1	12	9	10	5	1	9	1	1	48



93号住居跡石材重量組成グラフ

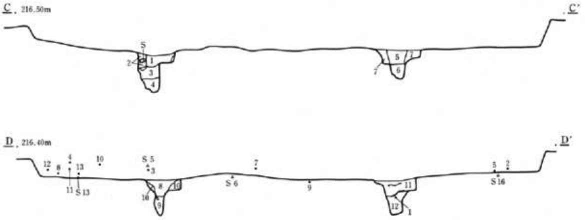
第２節　弥生時代の住居跡と出土遺物

２号住居跡（第108～112図、PL12・195・234）



1　暗褐色土　ローム粒・砂礫を少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒・砂礫を含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを多量に含む。

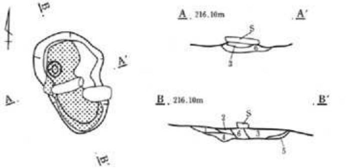
第108図　２号住居跡



1	暗褐色土	砂礫を多く含む。	
2	暗褐色土	砂礫少量、粘質地山ブロックを多く含む。	
3	暗褐色土	砂礫多量、粘質地山ブロックを少量含む。	
4	暗褐色土	砂礫少量、粘質地山ブロックを少量含む。	
5	暗褐色土	砂礫を少量含む。	
6	暗褐色土	細かい砂、小礫を含む。	
7	暗褐色土	砂礫少量、粘質地山ブロックを少量含む。	
8	暗褐色土	砂礫少量、粘質地山ブロックを少量含む。	
9	暗褐色土	砂礫微量、粘質地山ブロックを少量含む。	
10	暗褐色土	砂礫少量、粘質地山ブロックを多量に含む。	
11	暗褐色土	砂礫を少量含む。	
12	暗褐色土	砂礫微量、粘質地山ブロックを多量に含む。	

0　2m

第109図　２号住居跡　柱穴



1　暗褐色土　砂礫を少量含む。
2　焼土
3　明褐色土　焼土ブロックを多く含む。
4　明褐色土　粘土ブロック・焼土ブロックを多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒子を少量含む。
6　暗褐色土　小石を多く含む。

0　1m

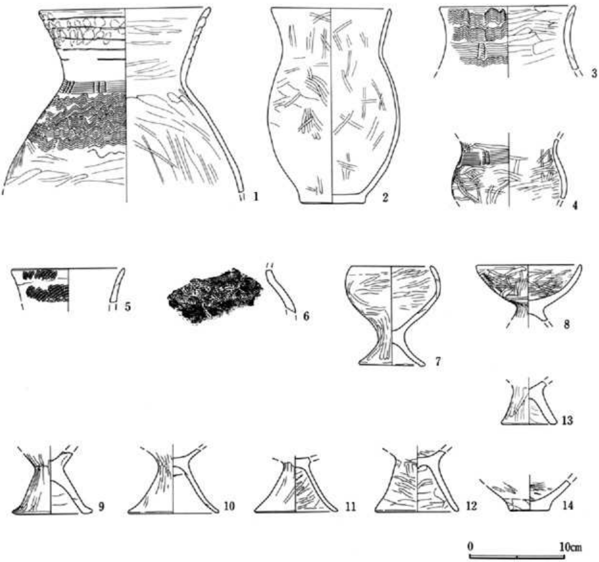
第110図　２号住居跡　炉

２号住居跡はほぼ正方形を呈する。北東コーナー部は直角であるが、西壁と南壁がやや短くなっており、そのため南西壁は鈍角となる。

床面は若干の凹凸はあるものの、ほぼ平坦である。地山を掘り込み、その面を床面としている。柱穴は住居のほぼ対角線上に４ヶ所確認された。

炉は北壁近くの柱穴より外側に確認できた。地山を浅く掘り凹めて造られており、２個の炉石とともに、使用面にはほぼ全面に焼土が残されていた。

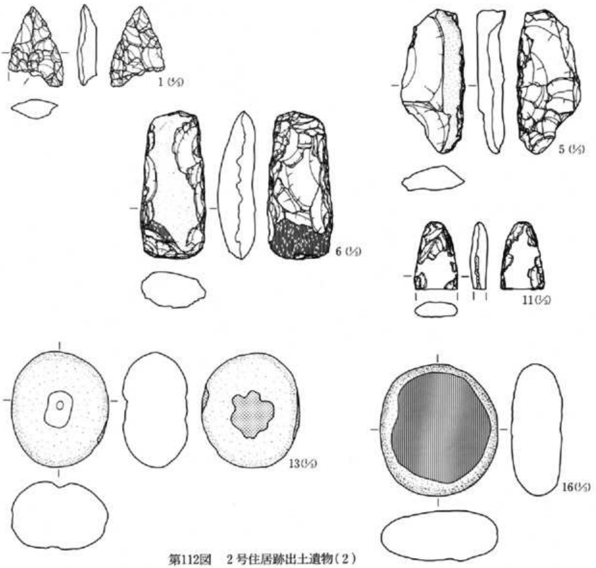
遺物は住居の全域から出土している。土器については甕・高坏があるが中規模の甕についてはいずれも破片である。石器は磨石・凹石・打製石斧等がある。



第111図　２号住居跡出土遺物（１）

２号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴	施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　頸(b)　胴(c)	幅(mm)/本数	内	外					
1	195	甕	180			a 5横上　b 3止簾　c 5波	13/7	口ミガキ胴ナデ	ミガキ	A	橙	胴煤	口～胴	ピット４
2	195	小型甕	127	210	68			ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	胴下被熱	口～底1/3	埋土
3		小型甕	(144)			a 2波　b 2止簾　c波	15/8	ミガキ		A	にぶい黄橙	被熱	口片	埋土
4		(台付甕)				b 2止簾	16/9	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	胴被熱か	頸～胴1/2	埋土
5		小型甕	(120)			a 斜縄	LR			A	にぶい橙		口1/4	ピット２
6		壺				c 編紐		ミガキ		A	にぶい橙		胴片	埋土
7	195	小型台付鉢	(85)	104	70			ミガキ	ミガキ	B	橙		口～体1/2欠	埋土
8	195	小型高杯	112					ミガキ	ミガキ	A	淡黄		杯部のみ	床入口中央
9	195	高杯			(84)			ナデ	ミガキ	D	橙		脚1/2	埋土
10	195	小型高杯			96			ナデ	ミガキ	D	淡黄		脚のみ	床入口
11	195	小型高杯			89			ミガキ	ミガキ	A	淡黄		脚のみ	埋土
12		台付甕			87			ケズリ	ミガキ	C	橙	被熱	脚のみ	床中央
13		小型台付甕			60			ナデ	ミガキ	C	橙	被熱	脚のみ	埋土
14		(鉢)			40			ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		底部	埋土



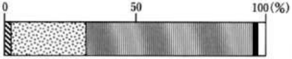
第112図　２号住居跡出土遺物（２）

２号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	一部欠	2.6	1.8	0.7	2.1	黒曜	凹基無茎鏃。左脚欠損。
2	楔	覆土	完形	2.8	2.0	0.9	3.4	黒曜	表面周辺に調整。裏面両端に剥離痕。
3	打斧	覆土	完形	11.4	5.8	2.1	141.2	頁岩	刃部先端磨耗。Ⅱｂ類。
4	打斧	覆土	1/2	12.4	5.8	1.8	1232.0	硬泥	両端欠損。形状不明。
5	打斧	下位	一部欠	11.2	5.1	2.2	121.9	硬泥	刃部一部欠損。Ⅱｂ類。
6	打斧	床下	完形	11.7	5.2	3.0	226.9	粗安	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
7	打斧	覆土	一部欠	10.3	5.4	2.2	143.4	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。Ⅲ類。
8	打斧	中位	1/3	8.9	4.6	1.6	57.5	硬泥	基部欠損。形状不明。刃部磨耗。
9	打斧	覆土	1/3	7.0	4.7	1.5	67.1	硬泥	基部破片。形状不明。
10	打斧	覆土	1/2	8.7	5.9	2.0	91.2	硬泥	両端欠損。形状不明。
11	磨斧	覆土	1/2	5.3	3.4	1.4	40.5	変玄	両面に剥離痕残す。刃部欠損。
12	石核	床下	完形	8.8	9.7	5.4	392.0	硬泥	剥片端部の背面側で剥片剥離。
13	凹石	床下	完形	9.1	7.7	5.3	506.6	粗安	円盤状の円礫。表面に凹み。裏・両側に敲打痕。器表面磨耗激しい。
14	敲石	中位	完形	10.9	9.0	2.7	384.1	粗安	円盤状の円礫。両側に敲打による剥離痕。
15	磨石	中位	破片	12.2	3.5	3.8	176.5	変安	側辺面取り。両面に研磨面。両端に敲打痕。
16	磨石	床下	完形	10.4	9.3	4.0	532.7	粗安	円盤状の円礫。表面に弱い研磨面。
17	砥石	覆土	破片	5.4	4.1	1.1	24.4	砂岩	盤状の円礫。表裏に使用面。表面に溝２条。

２号住居跡器種組成表

器　種	石鏃	楔	打斧	磨斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	砥石	剥片
個　数	1	1	8	1	13	15	10	1	1	2	1	72



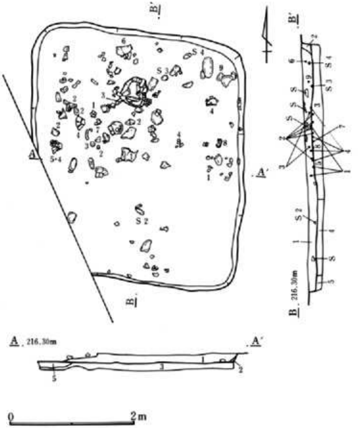
２号住居跡石材重量組成グラフ

６号住居跡（第113〜116図、PL12・195・234）

小規模な住居跡である。平面形は隅丸長方形であるが、やや菱形である。西南コーナー部は調査区域外となっている。

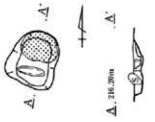
床面は概して平坦ではあるが、部分的には凹凸もみられる。床面は貼床で、直径２cm〜５cmの地山ブロックを多量に含む暗褐色土を貼っている。柱穴は確認されなかった。掘り方は約12cmと深いが、ほぼ平坦である。

炉は住居中央と北壁のほぼ中間に確認された。炉は35cm×45cmの規模で、皿状に掘り凹められており、河原石の炉石が炉内南寄りに置かれていた。また炉内北半部には20cm×30cm、深さ６cmの範囲に焼土が堆積し



1　暗褐色土　黄色・赤色小粒子を含む。
2　黄褐色土　ローム粒を大量に含む。
3　暗褐色土　地山ブロックを大量に含む。
4　黒褐色土　地山ブロック・砂礫を少量含む。
5　黒褐色土　砂礫を少量含む。

第113図　６号住居跡



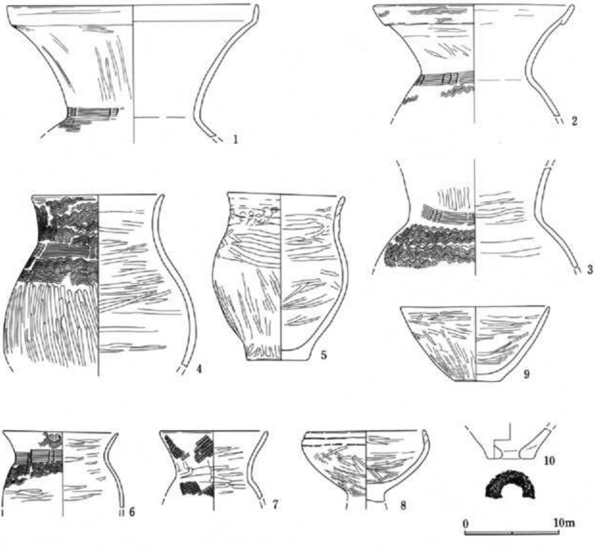
1　暗褐色土　砂粒・焼土粒を含む。
2　焼土　　　暗褐色土を少量含む。

0　50cm

第114図　６号住居跡　炉

ていた。

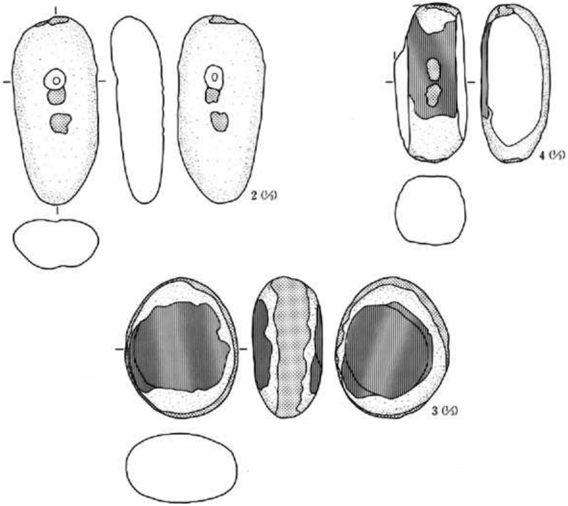
出土遺物として壺・甕・高坏・凹石・磨石・石核があり、床面より２cm～５cmほど浮いた状態での出土が多い。住居内での遺物出土位置は炉が位置する北半部に集中している。



第115図　６号住居跡出土遺物（１）

6号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値（㎜）			文様の特徴	施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　頸(b)　胴(c)	幅(㎜)/本数	内	外					
1	195	大型壺	266			b４止簾　c波	17/10	剥離	ミガキ	B	橙		口～頸2/3	埋土
2	195	壺	213			a波　b３止簾　c波	15/8	ミガキか	ミガキ	E	にぶい橙		口～肩	埋土
3		（壺）				b３止簾　c波	16/8	口ミガキ胴ナデ	ミガキ	A	にぶい黄橙		胴片	埋土
4	195	小型甕	140			a４波　b２止簾　c２波	17/13	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	胴下被熱	口～胴3/4	埋土
5	195	小型甕	124	174	66	a３横上		ミガキ	ミガキ	C	にぶい赤褐	全体被熱	3/4	埋土
6	195	小型甕	(120)			a２波　b２止簾　c２波	14/9	ミガキ	ミガキ	A	褐色	胴被熱	口～胴2/3	埋土
7		小型甕	(115)			a斜縄　c斜縄		ミガキ	ナデ	G	褐色		口片	埋土
8	195	高杯	(125)			a２横上		口ナデ胴ミガキ	ミガキ	A	橙		口～体1/2	埋土
9	195	鉢	(158)	78	48			ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙		口～底1/3	埋土
10		有孔鉢			50	孔18		ミガキ	剥離	B	にぶい黄橙		底1/2	埋土



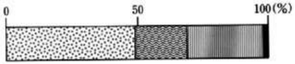
第116図　6号住居跡出土遺物（２）

6号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石核	下位	完形	11.3	8.2	5.8	544.8	硬泥	礫の両面で周辺から剥片剥離。
2	凹石	下位	完形	14.8	6.8	4.1	508.5	変安	盤状の円礫。表裏に浅い凹みと敲打痕。上端に敲打痕。
3	磨石	下位	完形	11.1	8.9	5.5	792.8	粗安	円盤状の円礫。表裏に研磨面。側面全周に敲打痕。
4	磨石	下位	一部欠	12.5	5.8	5.4	534.9	デイ	両側を面取り。表面に敲打痕・研磨面。両端に敲打痕。

6号住居跡器種組成表

器　種	二次	微細	石核	凹石	磨石	剥片
個　数	3	2	3	1	2	19

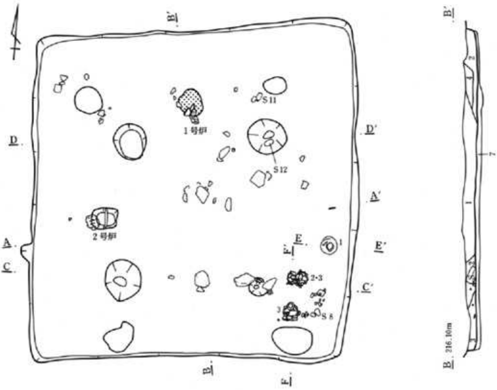


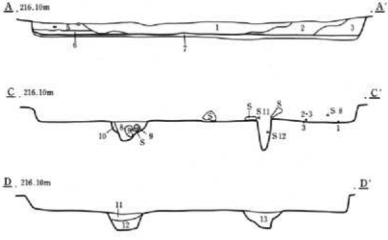
6号住居跡石材重量組成グラフ

10号住居跡（第117～122図、PL12・13・195・235）

住居はほぼ正方形を呈するが、西壁が東壁に比べてやや短くなっている。床面は地山の粘質土を貼っており、平坦である。柱穴はほぼ対角線上に４本確認されている。掘り方は浅く、比較的平坦である。

炉は２ヶ所確認された。共に柱穴の外側で、１号炉跡は北壁近く、２号炉跡は柱穴の西側である。１号炉は皿状の浅い掘り込みで、使用面には全面焼土が確認された。２号炉跡は中央南北に炉石が置かれており、





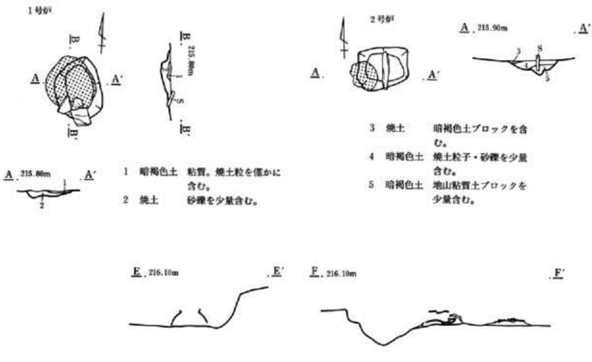
1	黒褐色土	地山粘質土ブロックを多量に、砂礫・炭化粒子を少量含む。
2	暗褐色土	地山粘質土ブロック・砂礫を少量含む。
3	黒褐色土	砂礫を少量含む。
4	褐色土	地山粘質土ブロック・黒褐色土ブロック・焼土ブロックを含む。
5	黒褐色土	地山粘質土ブロック・砂礫を少量含む。
6	黒褐色土	粘質地山ブロックを少量含む。
7	褐色土	粘質地山土が主体。黒褐色土ブロック・砂礫を少量含む。
8	暗褐色土	黄色粒子・ロームブロックがやや多く、橙色粒子を少量含む。
9	ロームブロック	
10	暗褐色土	黄色粒子を僅かに含む。
11	暗褐色土	粒子細かく、小砂粒を含む。
12	暗褐色土	ロームブロックを含む。
13	暗褐色土	砂粒・ロームブロックを含む。

第117図　10号住居跡

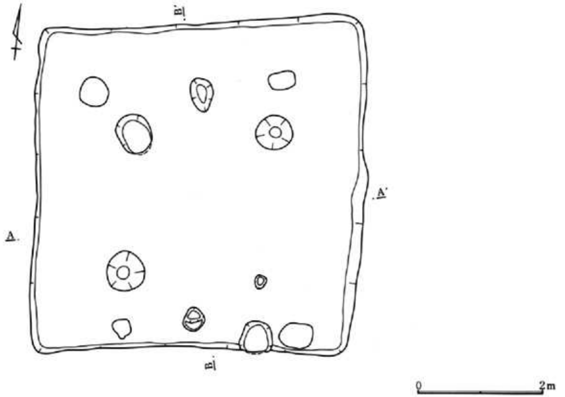
0　2m

使用面に遺存した焼土は量も少なく範囲も狭い。

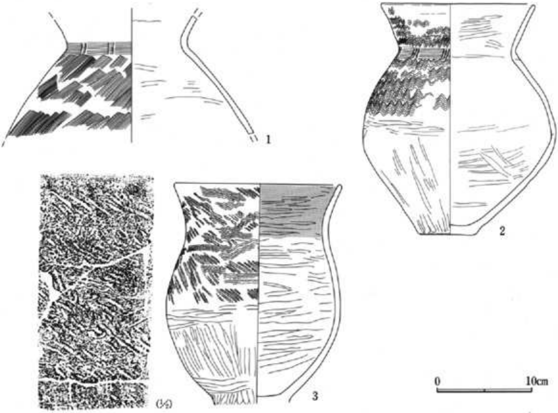
出土遺物としては壺・甕のほか、磨石・打製石斧・石錘等がある。いずれも床面付近の出土である。



第118図　10号住居跡　炉・遺物出土状況断面



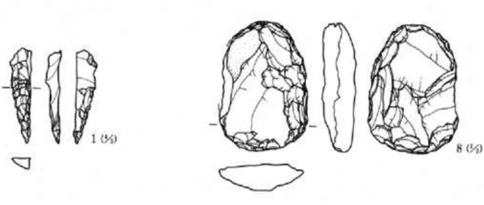
第119図　10号住居跡　掘り方



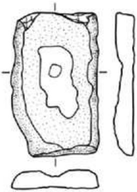
第120図　10号住居跡出土遺物（１）

10号住居跡出土土器観察表

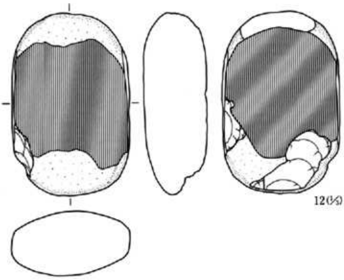
番号	PL	器種	計測値（mm）			文様の特徴	施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　頸(b)　胴(c)	幅(mm)/本数	内	外					
1		壺				a２止簾　c３斜線	14/8	ナデ	ミガキ	D	にぶい橙		頸～胴	床壁際
2	195	甕	(163)	242	60	a４波　b３止簾　c５波	13/8	ミガキ	ミガキ	C	にぶい橙	頸部胴被熱	口胴一部欠	床壁際　内面コゲ
3	195	甕	176	236	78	a～c斜綱の上に波	R	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	胴被熱か	口一部欠	床壁際



第121図　10号住居跡出土遺物（２）



11(1/2)



12(1/3)

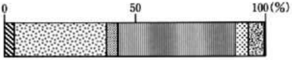
第122図　10号住居跡出土遺物（３）

10号住居跡出土石器観察表

№.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	完形	3.1	0.7	0.6	0.6	黒曜	調整は表面と裏面右側。
2	ＳＳ	覆土	2/3	11.2	4.6	1.4	73.7	粗安	横長剥片素材。器体左側に刃部形成。下部欠損。
3	打斧	覆土	完形	11.3	4.5	2.7	144.1	硬泥	細身で刃部わずかに広がる。撥形。
4	打斧	覆土	完形	10.1	4.8	2.2	102.7	硬泥	II b類。
5	打斧	覆土	完形	8.9	4.5	1.8	72.2	硬泥	刃部磨耗。II b類。
6	打斧	下位	1/2	9.0	5.0	2.5	130.6	硬泥	刃部欠損。形状不明。
7	打斧	覆土	1/2	7.4	5.0	1.4	51.0	硬泥	刃部破片。磨耗みられる。
8	打斧	下位	ほぼ完	10.2	7.1	2.7	197.0	砂岩	幅に比して長さ短い。左側一部欠損。II b類。
9	磨斧	下位	1/2	8.1	4.7	2.5	152.5	変玄	表裏に剥離・敲打痕残す。刃部欠損。
10	石核	下位	完形	9.8	7.3	3.6	295.5	硬泥	盤状石核。両面で周辺から剥片剥離。
11	凹石	下位	1/2	11.3	7.0	1.7	236.3	緑片	盤状の円礫。表面に凹み。裏面剥落。
12	磨石	Ｐ内	ほぼ完	14.2	9.4	5.0	1076.3	粗安	盤状の円礫。両側を面取り。表裏に研磨面。

10号住居跡器種組成表

器　種	石鏃	ＳＳ	打斧	磨斧	二次	微細	石核	凹石	磨石	剥片
個　数	1	1	6	1	4	4	3	1	1	22

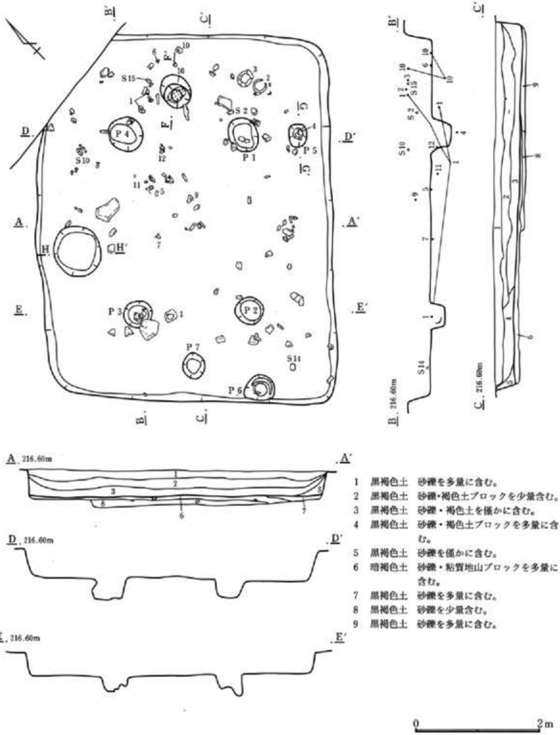


10号住居跡石材重量組成グラフ

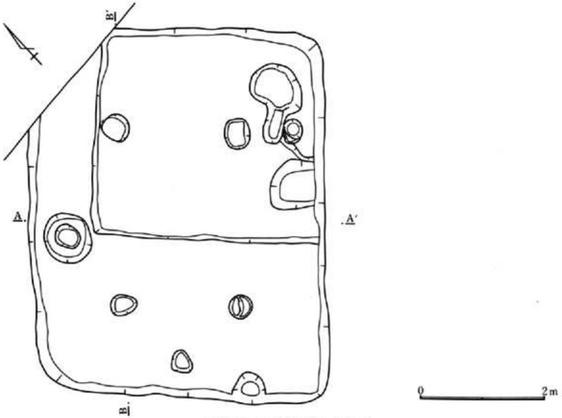
13号住居跡（第123～128図、PL13・196・235・236）

住居の形態は隅丸長方形である。床面は砂礫を多量に含んだ黒褐色土で貼床としており、平坦ではあるがやや軟弱である。

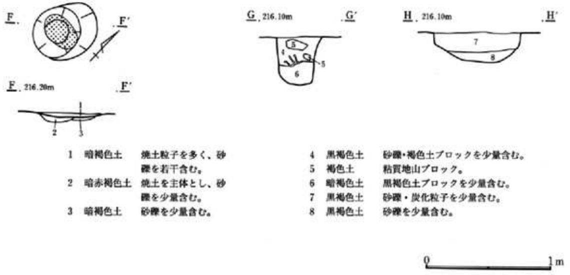
柱穴は対角線上に４ヶ所存在する。またこの柱穴の外側に柱穴状のPitが３ヶ所存在する。掘り方はほぼ平坦であるが、西壁近くには床下土坑があり、住居の北東部分には約10cmほど深くなった方形の部分がある。



第123図　13号住居跡



第124図　13号住居跡　掘り方

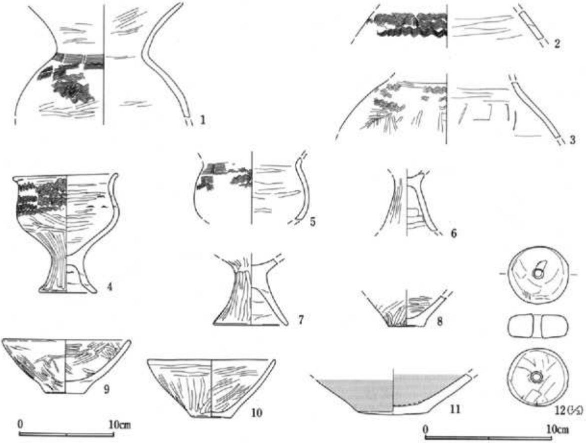


1　暗褐色土　焼土粒子を多く、砂礫を若干含む。
2　暗赤褐色土　焼土を主体とし、砂礫を少量含む。
3　暗褐色土　砂礫を少量含む。
4　黒褐色土　砂礫・褐色土ブロックを少量含む。
5　褐色土　粘質地山ブロック。
6　暗褐色土　黒褐色土ブロックを少量含む。
7　黒褐色土　砂礫・炭化粒子を少量含む。
8　黒褐色土　砂礫を少量含む。

第125図　13号住居跡　炉・床下 Pit・土坑

炉跡は柱穴の外側、北側壁との間で確認された。浅く皿状に掘り込んでおり、使用面には焼土が遺存していた。

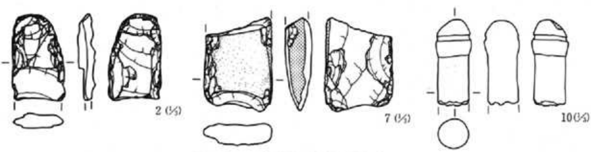
出土遺物には土器と石器がある。土器は甕・壺・小型甕・高坏・紡錘車が、石器は磨石・打製石斧・磨製石斧・石棒・石核等が出土している。



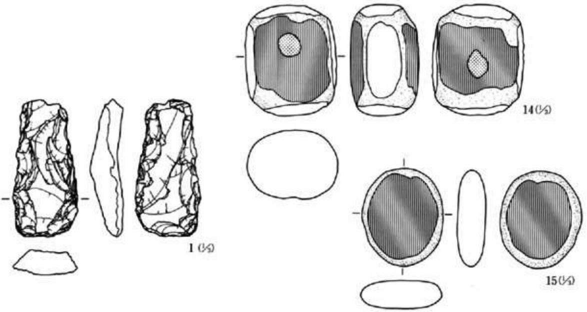
第126図　13号住居跡出土遺物（１）

13号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器　種	計測値（mm）			文様の特徴		施文具	整　形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　頸(b)　胴(c)		幅(mm)/本数	内	外					
1	196	壺	(167)			b２止簾　c６波		13/‐	ミガキ	ミガキ	C	橙		口～肩3/4	床中央
2		壺				c波		10/7	ナデ	―	B	明黄褐		肩	埋土
3		壺				b簾　c３波			ナデ	ミガキ	A	橙	被熱	肩	炉周辺
4	196	小型台付甕	110	123	60	a～c４波		11/6	口ナデ胴ミガキ	ミガキ	A	褐色	胴中被熱	完形	不明
5	196	台付甕				b２止簾　c波		‐/‐	ミガキか	胴ミガキか	A	にぶい黄橙	被熱か	頸～胴1/2	埋土
6		高杯							ナデ	ミガキ	D	浅黄		脚柱部	床奥
7	196	台付甕			76				ナデ	ミガキ	A	にぶい橙	被熱	脚のみ	床中央
8		小型鉢			40				ミガキ	ミガキ	B	にぶい黄橙		底のみ	埋土
9		小型鉢	(135)	55	(40)				ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		口～底1/4	埋土
10	196	小型鉢	137	60	40				ミガキ	口ナデ体ミガキ	D	にぶい橙		口～底2/3	炉周辺
11		壺			(74)				ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		底のみ	床中央
12	196	紡錘車	48	厚 19	孔 6	重49g			ナデ	ナデ	A	にぶい黄橙		完形	埋土



第127図　13号住居跡出土遺物（２）



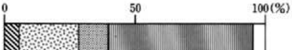
第128図　13号住居跡出土遺物(３)

13号住居跡出土石器観察表

№.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	覆土	完形	10.8	5.1	2.6	128.2	細安	Ⅱｂ類。
2	打斧	中位	1/2	6.8	4.2	1.4	100.1	硬泥	基部破片。形状不明。基部末端に磨耗。
3	打斧	上位	2/3	12.3	4.8	2.9	195.7	硬泥	刃部欠損。Ⅱｂ類。
4	打斧	覆土	ほぼ完	11.3	4.2	1.6	129.1	緑片	刃部に潰れ。Ⅲ類。
5	打斧	覆土	2/3	8.6	5.6	3.3	172.1	粗安	両端欠損。Ⅱｂ類。
6	打斧	覆土	2/3	7.1	4.3	1.1	44.1	細安	両端欠損。Ⅱｂ類。
7	磨斧	覆土	1/3	7.3	5.5	2.2	139.1	変玄	未製品の刃部破片。剝離・敲打による整形途中。
8	石核	上位	完形	10.2	13.4	7.0	970.3	硬泥	礫の分割面打面とし、一部で剝片剝離。
9	石核	上位	完形	8.2	11.8	4.2	456.3	硬泥	剝片端部で交互に剝片剝離。
10	石棒	上位	破片	6.8	2.8	2.8	83.3	緑片	頭部破片。先端に一条の溝めぐる。
11	敲石	覆土	完形	10.4	3.1	2.0	79.1	珪頁	棒状の円礫。両端に敲打痕。
12	敲石	中位	完形	17.5	5.7	3.8	581.5	変輝	棒状の円礫。表裏上部・両端に敲打痕。
13	敲石	上位	完形	11.1	9.0	5.2	830.0	粗安	円盤状の円礫。表裏に敲打痕。
14	磨石	下位	完形	8.6	7.2	5.4	519.2	粗安	両側・両端面取し隅丸の直方体状に整形。表裏に研磨。下半欠損。
15	磨石	上位	完形	7.7	6.4	2.2	139.0	泥岩	円盤状の円礫。表裏に研磨面。
16	磨石	上位	1/2	7.5	7.5	5.2	348.1	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。下半欠損。

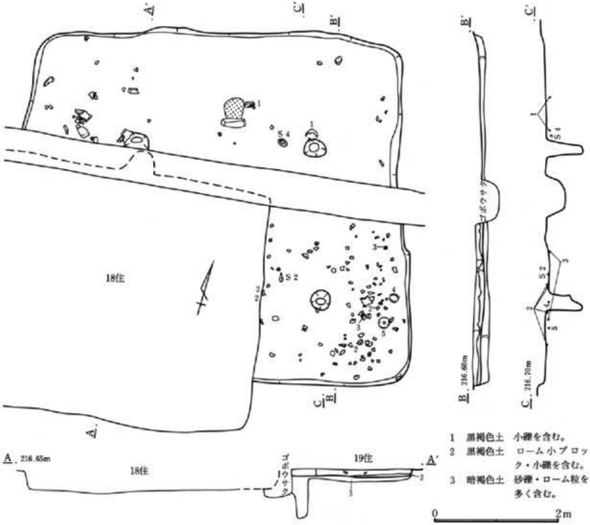
13号住居跡器種組成表

器　種	打斧	磨斧	二次	微細	石核	石棒	敲石	磨石	剝片
個　数	6	1	9	8	2	1	3	3	22

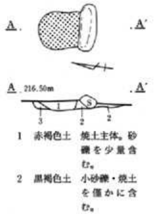


13号住居跡石材重量組成グラフ

19号住居跡（第129～132図、PL13・14・196・236）



第129図　19号住居跡

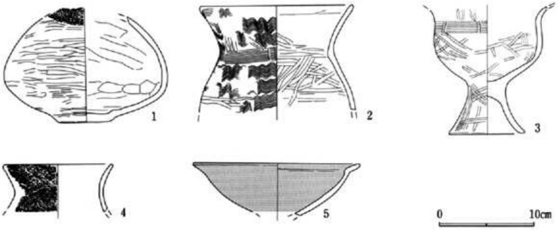


第130図　19号住居跡　炉

本住居跡は、18号住居およびゴボウの耕作溝によって一部が破壊されている。平面形は隅丸方形と推定される。床面には若干凹凸があり、比較的軟弱である。

柱穴は３ヶ所で確認されているが、本来は対角線上に４ヶ所存在したものと考えられる。掘り方はほぼ平坦で、掘り込み等はみられなかった。炉跡は柱穴の外側北寄りで確認されたが、浅い皿状の掘り込みで、焼土によって埋まっていた。

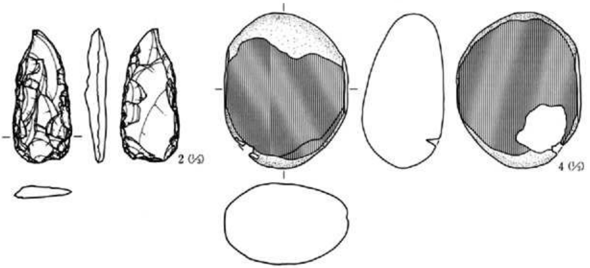
出土遺物として、壺・甕・台付甕・高坏・磨石・打製石斧がある。いずれも床面付近の出土である。



第131図　19号住居跡出土遺物(１)

19号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値（mm）			文様の特徴	施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　頸(b)　胴(c)	幅(mm)/本数	内	外					
1	196	小型壺			56	c 編細		ケズリ　ナデ	ミガキ	B	にぶい橙		頸～底3/4	炉周辺 ピット1
2	196	甕	163			a 波　b 2止簾　c 波	14/10	口ナデ胴ミガキ	ミガキ	B	橙	肩煤	口～胴1/2	埋土
3	196	小型台付甕			(80)	b 2止簾	12/7	ミガキ	ミガキ	A	橙	脚部被熱	口～体3/4欠	埋土
4		小型甕	116			a 2斜縄	R	ミガキか		A	にぶい橙		口～頸	埋土
5	196	高杯	175					ミガキ	ミガキ	F	にぶい橙		口一部、脚欠	床右壁際



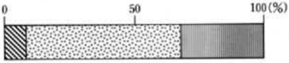
第132図　19号住居跡出土遺物(２)

19号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	床下	1/3	8.2	6.1	2.4	110.8	硬泥	両端欠損。Ⅱb類。
2	打斧	床直	完形	10.5	4.7	1.8	75.5	硬泥	Ⅱb類。
3	打斧	床下	1/2	7.4	3.7	1.4	43.2	硬泥	刃部欠損。Ⅲ類。
4	磨石	床下	ほぼ完	12.1	9.9	6.5	989.4	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。両側を面取り。

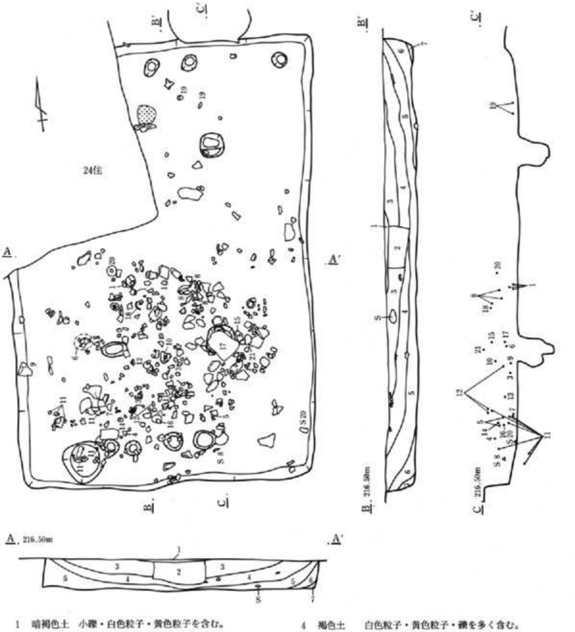
19号住居跡器種組成表

器種	打斧	微細	磨石	剥片
個数	3	2	1	8



19号住居跡石材重量組成グラフ

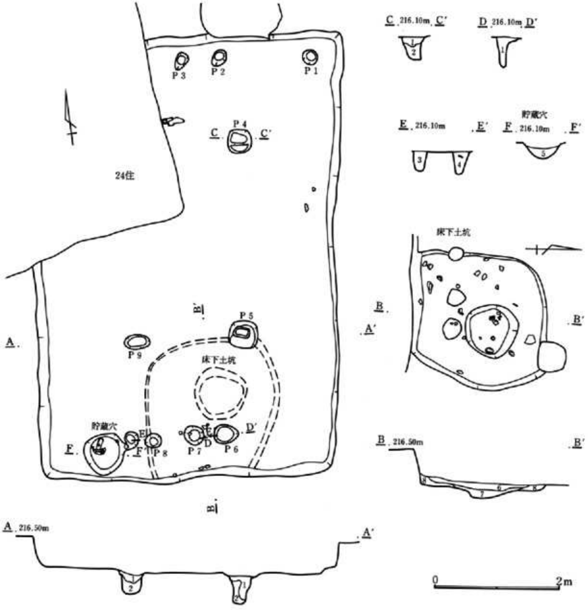
25号住居跡（第133～138図、PL14・196・197・236・237）



1　暗褐色土　小礫・白色粒子・黄色粒子を含む。
2　黒褐色土　白色粒子・黄色粒子・小礫を含む。
3　暗褐色土　白色粒子・黄色粒子・小礫を多く含む。遺物の混入が最も多い。
4　褐色土　白色粒子・黄色粒子・礫を多く含む。
5　暗褐色土　白色粒子・黄色粒子・礫を含む。
6　暗褐色土　白色粒子・黄色粒子・小礫を少量含む。
7　黄褐色土　シルト質。壁面の地山崩落層。

0　2m

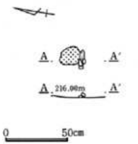
第133図　25号住居跡遺物出土状況



1　黒褐色土　小砂礫・褐色土粒・灰白色粒子を含む。
2　暗褐色土　砂礫・褐色土を大量に、黒褐色土塊・暗褐色土塊を若干含む。
3　明褐色土　ローム粒・砂礫を多く含む。
4　明褐色土　ローム粒・小石を多く含む。
5　黒褐色土　砂礫・黄色粒子を少量含む。
6　黒褐色土　砂礫・ローム粒を若干、炭化物を僅かに含む。
7　黒褐色土　砂礫・ローム粒を多く含む。
8　黄褐色土　ローム粒を主体とし、黒色土ブロックを含む。

第134図　25号住居跡

本住居跡は長方形を呈する。北西コーナー部付近は、24号住居跡により破壊されているため存在しない。床面はほぼ平坦であり、地山を掘り凹め、それをそのまま床面としている。主柱穴は3ヶ所確認された。24号住居によって破壊された部分に1ヶ所存在したことが推定出来るため、対角線上に4ヶ所存在したものと考えることができる。なお北側壁近くに3ヶ所、南側壁近くに4ヶ所、それぞれ小規模な柱穴状のPitが並んでいる。また南壁に接して西寄りに貯蔵穴がある。

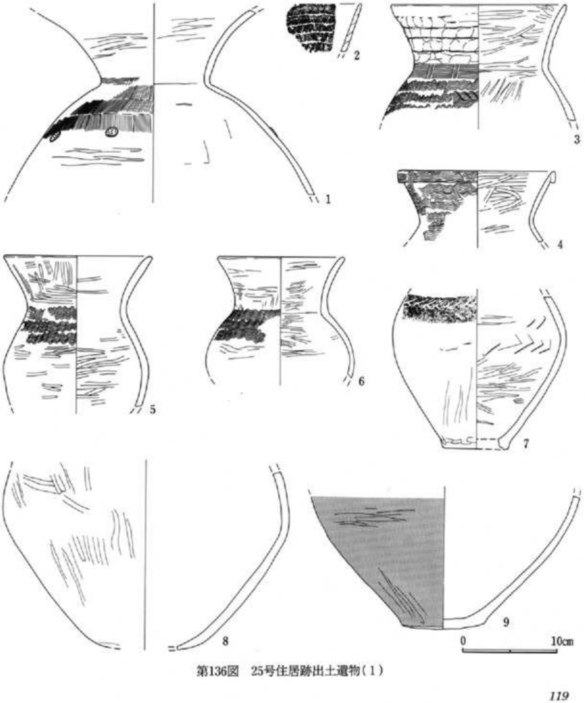


第135図　25号住居跡　炉

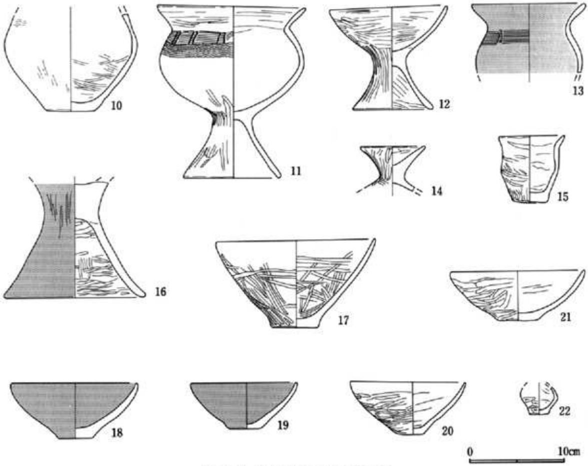
住居跡床面を削ったところ、南壁に接して床下土坑が確認された。床下土坑の形状は不整形、比較的浅く大きい。

炉跡は北側柱穴のやや北側、東側壁と西側壁のほぼ中間で発見された。極めて浅い皿状の掘り込みで、底面には炉石と共に焼土が遺存していた。

住居からの出土遺物として、土器と石器がある。土器は壺・甕・台付甕・高坏・坏等であるが、床面よりやや浮いた状態での出土が少なくない。また石器も多く出土しているが、出土位置は土器と同様で床面よりやや浮いた状態のものがある。



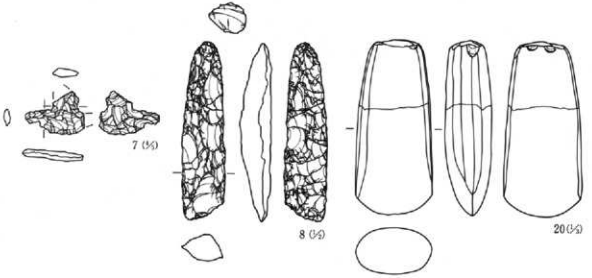
第136図　25号住居跡出土遺物（１）



第137図　25号住居跡出土遺物(2)

25号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴	施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　頸(b)　胴(c)	幅(mm)/本数	内	外					
1	196	大型壺				b 3 止簾　c 3 羽 円形貼付		口ミガキ胴ナデ	ミガキ	D	にぶい橙		口1/2～胴1/4	埋土
2		甕				a 編紐 横上		ミガキ		A	にぶい橙		口片	埋土
3	196	甕	186			a 4 横上　b 2 止簾　c 波	17/13	ミガキ	口ナデ	B	橙	片面被熱	口～肩	埋土
4	196	甕	(167)			a～c 波		ミガキ		B	橙		口～頸1/2	埋土
5	196	甕	(155)			c 3 波	11/7	ミガキ	ミガキ	B	にぶい黄橙	全体被熱	口～胴1/2	埋土
6	197	小型甕	(134)			c 3 波	15/9	ミガキ	ミガキ	C	明褐灰		口～胴1/3	埋土
7	197	甕				c 斜縄	LR	ケズリ ミガキ	ミガキか	D	橙	全体被熱	頸～底	埋土
8	197	壺							ミガキ	D	橙	被熱	胴下半	埋土
9	197	壺			86			ナデ	ミガキ	D	にぶい褐		胴下半1/2	埋土
10	196	小型壺			50	b 簾か		ミガキ	ミガキ	C	橙		胴～底1/3	埋土
11	197	台付甕	156	181	103	b 2 止簾　c 波	17/10	ナデ	口ナデ胴ミガキ	D	浅黄橙	胴下煤	口胴一部欠	埋土
12	197	小型高杯	125	108	85			口ナデ胴ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		杯1/2欠	埋土
13		台付鉢	(120)			b 2 止簾	15/9	ミガキ	ミガキ	A	橙		口～胴1/5	埋土
14		(蓋)	68					ナデ	ミガキ	A	橙	被熱	つまみ	埋土
15	197	小壺	70	71	37			ナデ	ミガキ	C	にぶい橙	被熱	口一部欠	埋土
16		高杯			(150)			ミガキ	ミガキ	D	淡橙		脚4/5	埋土
17	197	小型鉢	(169)	90	50			ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	全体被熱	口2/3欠	埋土
18	197	小型鉢	(133)	59	36			ミガキ	ミガキ	A	橙			埋土
19		小型鉢	(133)	49	35			ミガキ	ミガキ	F	浅黄橙		口～底1/3	埋土
20	197	小型鉢	122	57	31			ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙		口1/3欠	埋土
21	197	小型鉢	(143)	53	45			ミガキ	ミガキ	C	にぶい橙		口～底1/2	埋土
22	197	ミニチュア壺			20			ナデ	ケズリ	A	にぶい橙		口～頸欠	埋土



第138図　25号住居跡出土遺物（３）

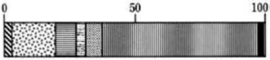
25号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）長さ	幅	厚さ	重量	石材名	特徴
1	石鏃	覆土	完形	2.3	2.1	0.6	3.0	黒曜	未製品。
2	石鏃	覆土	完形	1.8	1.8	0.4	1.2	黒曜	未製品。両面全面に調整及ぶがやや粗い。
3	石鏃	覆土	一部欠	1.9	1.7	0.4	1.0	黒曜	凹基無茎鏃。脚部欠損。
4	石鏃	覆土	ほぼ完	1.6	1.2	0.4	0.5	黒曜	周辺にのみ調整。未製品か。先端わずかに欠損。
5	楔	覆土	2/3	2.4	1.7	0.8	2.5	黒曜	表面周辺に調整。左側欠損。
6	楔	覆土	完形	2.3	1.8	0.5	1.6	黒曜	両端に剥離痕。
7	*	覆土	一部欠	1.4	1.9	0.3	0.7	黒曜	*異形石器。上部つまみ状。先端欠損。左側細く作出。石匙破損品か。
8	*	覆土	完形	9.4	2.3	1.7	33.5	黒曜	*ヘラ状石器。両面丁寧に調整。断面三角形状。先端片刃状。
9	楔	下位	完形	6.9	4.4	1.2	39.5	珪頁	剥片の両端に細かな調整。かなり薄手。
10	打斧	中位	一部欠	10.1	5.9	2.0	125.5	硬泥	両端・抉り部分に磨耗。上端一部欠損。Ⅰ類。
11	打斧	下位	完形	13.2	4.7	1.7	126.4	硬泥	刃部磨耗。Ⅱb類。
12	打斧	上位	完形	10.4	5.3	1.7	115.9	硬泥	刃部磨耗。Ⅱb類。
13	打斧	下位	完形	9.7	4.2	2.2	98.1	硬泥	刃部弱い磨耗。Ⅱb類。
14	打斧	中位	2/3	7.4	3.7	1.4	37.7	硬泥	刃部欠損。Ⅱb類。
15	打斧	上位	3/4	13.5	5.3	1.8	13.7	変輝	刃部欠損。Ⅲ類。
16	打斧	下位	完形	10.7	4.4	1.6	98.0	硬泥	刃部磨耗。Ⅱb類。
17	打斧	下位	完形	9.2	4.5	1.7	103.0	硬泥	刃部磨耗。Ⅲ類。
18	打斧	上位	完形	10.9	4.6	1.6	97.6	硬泥	刃部弱い磨耗。Ⅲ類。
19	打斧	中位	1/2	9.3	5.6	2.5	153.4	硬泥	刃部欠損。Ⅲ類。
20	磨斧	下位	完形	13.8	6.1	3.7	576.4	変は	刃部丁寧に研磨されるが、上1/3程は敲打痕残す。着柄痕か。
21	石核	下位	完形	11.6	8.6	3.5	327.7	硬泥	盤状の石核の主に表面で剥片剥離。
22	石核	中位	完形	7.1	6.5	5.2	227.6	硬泥	礫の分割面打面とし周辺で剥片剥離。
23	石核	中位	完形	11.4	7.9	5.1	410.4	硬泥	分割礫の一端で少数の剥片剥離。
24	石核	下位	完形	10.1	9.0	4.0	433.5	珪頁	円盤状の石核両面で周辺から剥片剥離。
25	石核	中位	完形	10.5	12.2	6.8	1000.3	硬泥	厚手の石核の裏面と側面で剥片剥離。
26	凹石	中位	2/3	7.5	7.8	3.5	243.6	粗安	両側を面取り。表裏に凹み・研磨面。両端欠損。
27	敲石	上位	完形	10.8	9.0	6.5	820.7	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。表面に敲打痕。
28	敲石	下位	1/2	9.4	8.2	3.2	279.5	変安	盤状の円礫。表面に敲打痕。裏面欠損。
29	磨石	中位	1/2	9.0	6.6	4.9	335.1	デ凝	盤状の円礫。表裏に研磨面。両端欠損。
30	磨石	上位	完形	13.3	8.6	4.1	734.1	閃緑	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。両端・両側に敲打痕。
31	砥石	覆土	破片	3.5	3.5	0.7	10.4	砂岩	薄手・小型の砥石。表裏に使用面。

25号住居跡器種組成表

器　種	*1	*2	石鏃	楔	打斧	磨斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	砥石	剥片
個　数	1	1	4	3	10	1	17	4	12	1	2	2	1	63

*1　異形石器　*2　ヘラ状石器

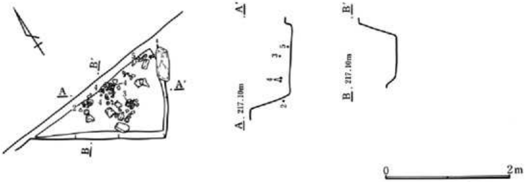


25号住居跡石材重量組成グラフ

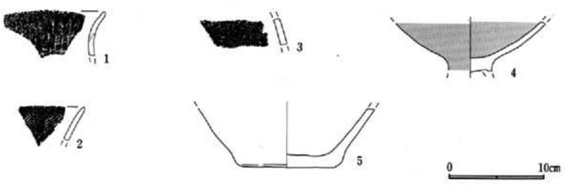
27号住居跡（第139・140図、PL14・237）

住居は大部分が調査区域外と考えられる。南側コーナー部のみの確認である。住居周辺部のためか、貼床は確認出来なかった。掘り方を床面としている可能性もある。検出範囲内には、柱穴・炉跡は確認されなかった。

出土遺物として壺・甕・高坏があるが、いずれも破片である。石器は台石と磨石が出土している。



第139図　27号住居跡



第140図　27号住居跡出土遺物

27号住居跡出土土器観察表

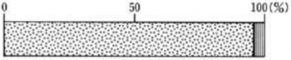
番号	PL	器種	計測値(mm) 口	高	底・脚	文様の特徴 口(a) 胴(b) 脚(c)	施文具 幅(mm)/本数	整形 内	外	胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置 備考
1		甕				a波		ミガキ		A	明黄橙		口片	埋土
2		甕				a斜縄	LR	ミガキ		A	にぶい黄橙		口片	埋土
3		甕				c斜縄	LR	ミガキ		A	明黄褐		胴片	埋土
4		高杯						ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙		杯1/4	埋土
5		大型壺			108			ナデ	ミガキ	E	橙		底	埋土

27号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	磨石	床下	3/4	9.5	7.7	6.6	694.0	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。
2	磨石	上位	ほぼ完	7.5	7.4	4.5	308.0	粗安	円盤状の円礫。表裏に研磨面。
3	台石	上位	破片	11.5	12.0	7.0	1899.1	粗安	盤状の円礫。

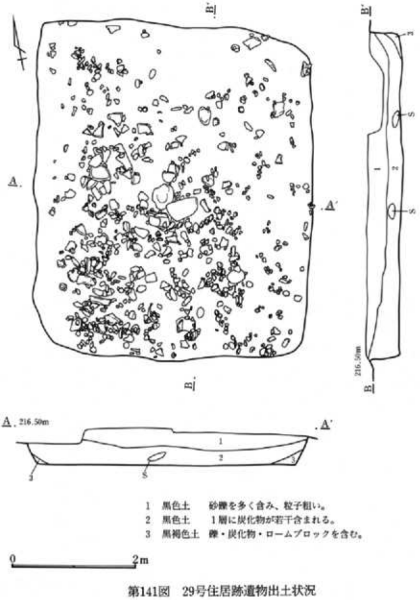
27号住居跡器種組成表

器　種	微細	磨石	砥石	剥片
個　数	1	2	1	1



27号住居跡石材重量組成グラフ

29号住居跡（第141～148図、PL14・197・198・238～240）



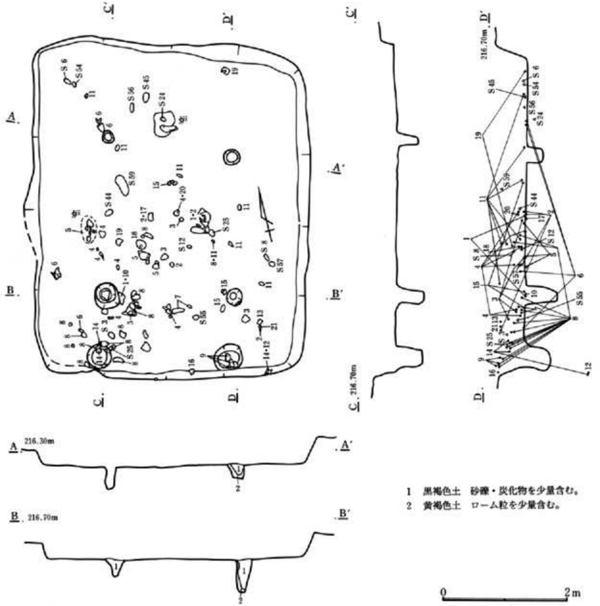
第141図　29号住居跡遺物出土状況

住居は隅丸長方形を呈する。しかし東側壁よりも西側壁の方が若干長くなっており、そのため北側壁と南側壁は僅かなところで平行しない。

床面は、地山を掘り込んだ面をそのまま使用しており、平坦で比較的固くしまっている。柱穴と推定できる Pit は６ヶ所確認された。住居の対角線上に４ヶ所と、南側壁の近くおよび南側壁に接する２ヶ所である。

炉跡は柱穴と北側壁の間、柱穴寄りで西側壁と東側壁のほぼ中間で発見された。床面を皿状に掘り凹めており、炉石とともに使用面には焼土が遺存していた。

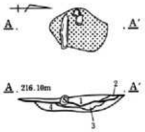
出土遺物はかなり多い。土器には壺・甕・台付甕・高坏等があり、石



1　黒褐色土　砂礫・炭化物を少量含む。
2　黄褐色土　ローム粒を少量含む。

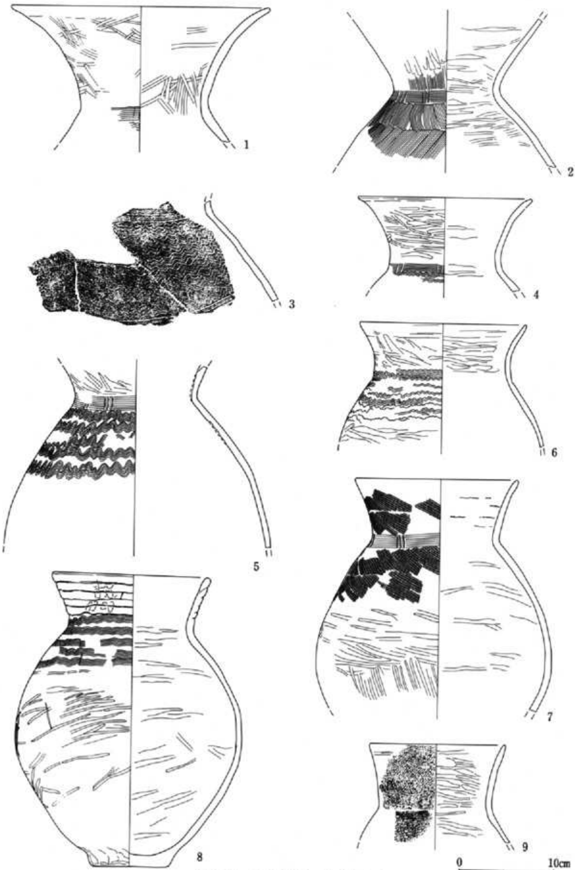
第142図　29号住居跡

器には砥石・凹石・磨石・打製石斧等がある。これらの遺物の大部分は床面より約25cmほど浮いた状態で出土している。

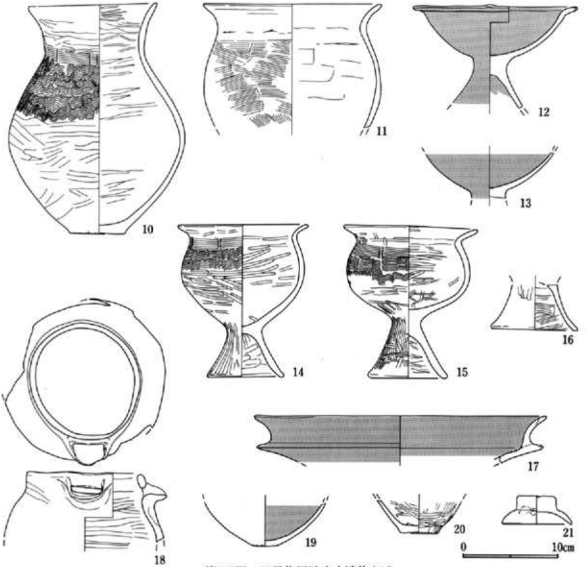


1　黒褐色土　炭化物・焼土粒を若干含む。
2　黄褐色土　砂礫・ローム粒・焼土を多く含む。
3　赤褐色土　砂礫・焼土を多量に含む。
4　赤褐色土　砂礫を多量に、黒色土ブロックを少量含む。

第143図　29号住居跡　炉



第144図　29号住居跡出土遺物(１)

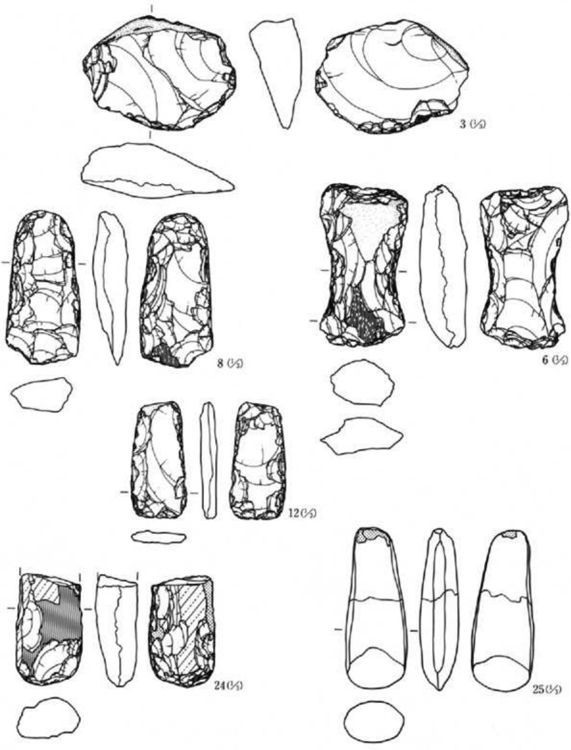


第145図　29号住居跡出土遺物（２）

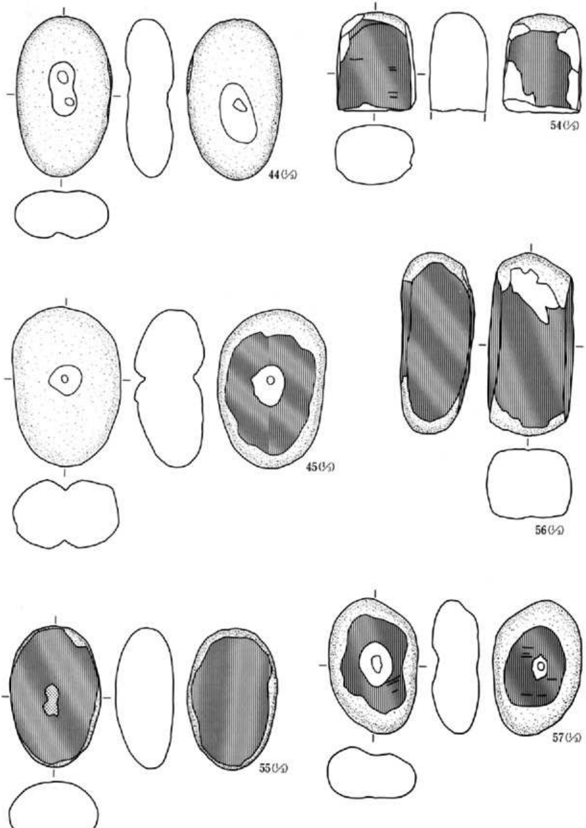
29号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値（mm）			文様の特徴	施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　頸(b)　胴(c)	幅(mm)/本数	内	外					
1	197	大型壺	(272)			b 2 止簾　c 波	15/7	ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙		口～頸	床中央
2	198	壺				b 3 止簾　c 羽	14/11	ミガキ	ハケのちミガキ	A	にぶい橙		頸～肩	床中央 埋土
3		壺				b 2 止簾　c 6 波 2 止簾	16/8			B	橙		胴片	床中央 埋土
4	198	甕	182			b 2 止簾　c 波	10/8	ミガキか	ミガキ	B	にぶい黄橙		口～頸2/3	床中央 埋土
5	198	壺				b 3 止簾　c 5 波	15/8	剥離	ミガキ	D	橙		頸～胴	床左壁際 床中央
6	198	甕	(177)			b～c 波	-/-	口ミガキ胴ナデ	ミガキ	A	にぶい橙	胴被熱	口～肩2/3	343土坑付近 埋土
7	198	甕	173			a 2 斜縄 b 2 止簾 c 2 斜縄	RL 16/7	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	肩一部煤	口～胴	床中央 埋土
8	198	甕	170	308	83	a 5 横上　b～c 5 波	9/6	ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	肩煤胴被熱	口～胴1/4欠	埋土
9	199	小型甕	(145)			a～c 縄紐		ミガキ	口ナデ	A	にぶい黄橙		口～肩1/3	埋土
10	198	小型甕	138	243	60	b 2 止簾　c 6 波	13/7	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	肩煤	口胴一部欠	床中央
11		甕	190					ナデ	口ナデ胴ハケメ	A	橙		口～胴1/4	埋土
12		高杯	(172)			a 瘤状突起		ミガキ	ミガキ	A	浅橙		口～脚1/2	埋土
13		高杯						ミガキ	ミガキ	A	にぶい黄橙		杯下	埋土
14	197	小型台付甕	140	162	80	b 2 止簾　c 2 波	14/8	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	脚被熱	口胴一部欠	埋土
15	199	小型台付甕	143	161	85	c 2 止簾　2 波	15/9	ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	胴下脚被熱	胴一部欠	床中央 埋土
16		台付甕			92			ハケナデ	剥離	B	橙	被熱	脚3/4	埋土
17		大型高杯	(310)					ミガキ	ミガキ	F	淡黄		口片	床中央
18	199	注口鉢	120					ミガキ	ミガキ	B	褐	体中煤	体上	埋土

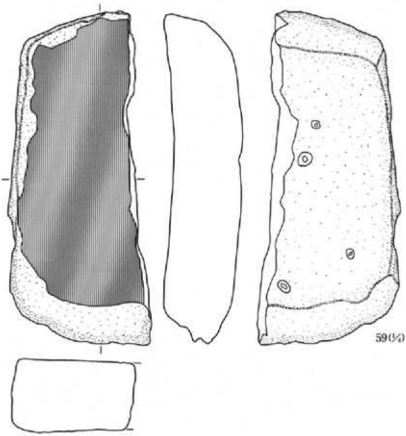
番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴	施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　頸(b)　脚(c)	幅(mm)/本数	内	外					
19		小型鉢			26			ミガキ	剥離	A	浅黄橙		体下〜底1/4	床奥　埋土
20		小型壺			40			ミガキ	ミガキ	A	にぶい黄橙		胴下〜底	埋土
21		(蓋)	(74)	30				ナデ	ナデ	C	浅黄橙		2/3	埋土



第146図　29号住居跡出土遺物（３）



第147図　29号住居跡出土遺物(４)



59(½)

第148図　29号住居跡出土遺物（５）

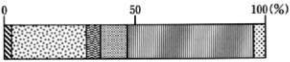
29号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　　　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	2.4	0.8	0.5	1.2	黒曜	両端に剥離痕。
2	ＳＳ	覆土	1/2	9.1	7.3	2.3	155.2	硬泥	剥片の先端に薄い刃部形成。打面側は厚い。右半欠損。
3	ＳＳ	中位	完形	8.9	12.2	4.3	409.9	硬泥	剥片の一側両面に調整加え刃部形成。
4	打斧	中位	完形	11.3	5.2	2.2	114.0	硬泥	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
5	打斧	上位	完形	10.3	5.4	2.3	110.0	硬泥	Ⅱｂ類。
6	打斧	下位	完形	12.9	7.0	3.8	390.0	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。基部にも磨耗。Ⅰ類。
7	打斧	床直	完形	10.5	3.5	1.6	74.2	緑片	側面敲打により整形。Ⅲ類。
8	打斧	中位	完形	12.2	5.9	2.8	204.9	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。Ⅱｂ類。
9	打斧	中位	2/3	11.1	5.5	2.1	140.9	硬泥	刃部欠損。Ⅲ類。
10	打斧	上位	完形	11.4	5.2	3.3	151.8	硬泥	Ⅲ類。
11	打斧	上位	完形	11.9	6.2	2.8	236.7	変玄	右側辺が外に広がる。Ⅲ類。
12	打斧	床直	完形	9.2	4.4	1.4	65.7	硬泥	刃部先端磨耗。Ⅱｂ類。
13	打斧	上位	一部欠	10.8	5.3	2.5	129.3	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。
14	打斧	中位	1/3	8.7	6.2	2.5	133.2	硬泥	刃部欠損。Ⅱｂ類。
15	打斧	下位	1/2	7.7	5.1	2.6	118.8	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。Ⅲ類。
16	打斧	中位	1/2	8.2	4.6	1.5	69.4	硬泥	刃部欠損。Ⅲ類。
17	打斧	中位	1/2	8.2	5.0	1.4	69.1	珪頁	基部破片。形状不明。
18	打斧	中位	1/2	7.4	5.1	3.2	110.7	硬泥	基部欠損。Ⅲ類。
19	打斧	中位	破片	5.6	4.1	1.7	46.8	硬泥	刃部破片。形状不明。
20	打斧	下位	1/2	7.1	6.6	1.8	71.2	細安	刃部磨耗。基部欠損。Ⅱａ類。
21	打斧	上位	1/2	8.3	5.7	2.2	97.6	硬泥	基部・裏面欠損。Ⅱｂ類。
22	打斧	覆土	1/3	7.7	5.9	2.2	88.9	細安	両端欠損。Ⅱｂ類。
23	打斧	床直	1/2	6.4	5.6	2.2	80.6	硬泥	基部欠損。Ⅲ類。
24	磨斧	床下	1/2	8.8	5.3	3.4	268.4	変は	未製品の刃部破片。表面研磨。裏面剥離・敲打による整形途中。
25	磨斧	中位	完形	12.6	5.0	3.2	314.9	変玄	素材形状大きく変えない。刃部強い研磨。上約1/2に手擦れ様の磨耗。

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
26	磨斧	下位	1/2	9.3	5.6	3.5	275.3	変玄	未製品の基部破片。剥離・敲打による整形途中。
27	磨斧	下位	1/3	8.6	6.7	4.3	376.8	変玄	未製品の基部破片。剥離・敲打による整形途中。
28	磨斧	下位	1/3	9.5	8.1	5.6	577.1	変玄	未製品の刃部破片。剥離による整形途中。
29	磨斧	覆土	1/2	8.2	5.1	2.0	143.5	硬泥	基部破片。両面に剥離痕残す。
30	磨斧	床直	破片	3.6	6.3	4.4	148.7	変玄	刃部破片。かなり厚手。
31	石核	下位	破片	6.2	8.2	5.9	278.3	硬泥	厚手の盤状石核の両面で周辺から剥片剥離。
32	石核	下位	完形	8.4	7.3	4.1	254.9	硬泥	盤状の礫の片面で、一端から剥片剥離。
33	石核	中位	完形	10.7	7.9	3.7	393.1	硬泥	盤状の石核の主に片面で周辺から剥片剥離。
34	石核	下位	完形	9.7	5.9	4.5	272.0	硬泥	不定形。礫の一端で少数の剥片剥離。
35	石核	下位	完形	8.3	7.6	4.0	226.9	硬泥	盤状石核の両面で周辺から剥片剥離。
36	石核	下位	完形	7.6	6.8	3.4	143.4	硬泥	盤状石核の両面で周辺から剥片剥離。
37	石核	床下	完形	6.8	9.7	3.6	285.9	珪頁	盤状の円礫の一端両面で交互に剥片剥離。
38	石核	床直	完形	10.3	9.4	7.5	787.9	硬泥	塊状。不規則に打面・作業面転移して剥片剥離。
39	石核	下位	完形	9.8	11.8	3.4	439.8	珪頁	円盤状の石核の主に片面で周辺から剥片剥離。
40	石核	下位	完形	10.9	9.7	3.7	581.2	変安	盤状の石核の一部で周辺から剥片剥離。
41	石核	中位	完形	10.3	12.9	5.3	765.0	硬泥	円盤状の石核の片面で周辺から剥片剥離。
42	原石	下位	完形	10.9	4.7	2.7	199.3	変玄	盤状の円礫。磨製石斧の原石か。
43	凹石	下位	完形	11.3	8.0	5.8	720.5	粗安	盤状の円礫。表面に凹み2個。表裏に弱い研磨。両端に敲打痕。
44	凹石	下位	完形	12.5	7.6	3.8	547.2	粗安	盤状の円礫。表裏に凹み。右側に敲打痕。
45	凹石	床直	完形	12.4	8.6	5.5	617.0	粗安	盤状の円礫。表裏に凹み。裏面に弱い研磨面。
46	凹石	床直	完形	12.3	12.4	9.7	1936.8	粗安	球状の円礫。表面に1、裏面に2個の凹み。
47	凹石	上位	一部欠	9.5	7.7	5.4	490.4	粗安	盤状の円礫。表面に凹み2個。表裏に研磨。裏面に敲打痕。
48	凹石	下位	2/3	10.2	5.7	3.3	262.3	粗安	盤状の円礫。表面に凹み・研磨面。裏面に研磨・敲打痕。
49	凹石	下位	破片	7.7	6.8	3.7	210.0	砂岩	表裏に凹み・研磨面。
50	凹石	下位	破片	5.2	10.7	7.2	587.4	デイ	表面に凹み。両端欠損。
51	凹石	中位	1/2	8.8	8.3	3.8	315.3	砂岩	両側面取り。表裏に凹み・研磨面。両端欠損。
52	敲石	上位	一部欠	10.7	8.0	6.2	536.9	粗安	盤状の円礫。表裏に敲打痕。
53	敲石	中位	ほぼ完	14.8	6.0	3.1	385.6	変玄	盤状の円礫。表裏・両端・両側の上部1/3程に敲打痕。
54	磨石	床直	1/2	7.7	6.2	4.6	374.5	デイ	盤状の円礫。両側を面取り。表裏に研磨面。表面横方向に線状痕。
55	磨石	床直	完形	11.0	7.2	4.6	536.4	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。表面に敲打痕。
56	磨石	床直	完形	14.3	6.7	5.5	847.0	粗安	棒状の円礫。両側を面取り。表裏に研磨面。
57	磨石	下位	完形	10.5	7.1	4.0	374.8	デイ	盤状の円礫。両面に凹み・研磨面、横方向の細かな線状痕。
58	磨石	床直	一部欠	12.1	5.3	5.2	428.3	粗安	両側を面取り。表裏に弱い研磨。両端に敲打痕。
59	砥石	上位	1/2	35.2	15.2	8.6	6200.0	砂岩	盤状の亜角礫。表面に使用面。裏面に小さな凹み。

29号住居跡器種組成表

器　種	槍	SS	打斧	磨斧	二次	微細	石核	原石	凹石	敲石	磨石	砥石	剥片
個　数	1	2	20	7	17	10	13	1	9	2	5	1	88



29号住居跡石材重量組成グラフ

34号住居跡（第149～156図、PL14・15・199～201・240～242）

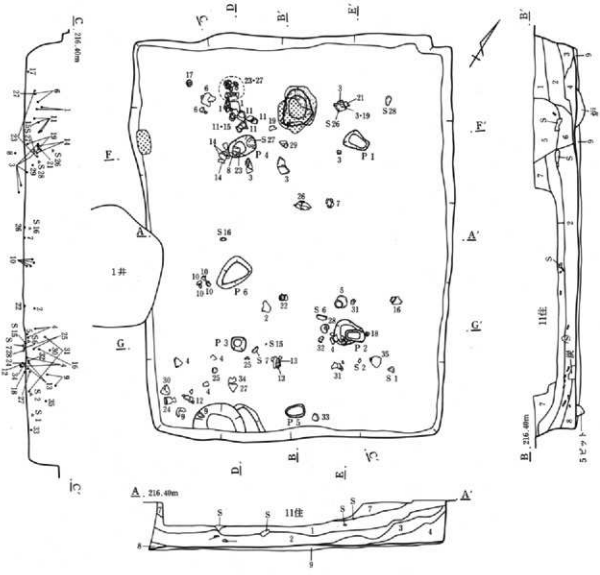
本住居跡はほぼ長方形を呈するが、北西壁は南東壁よりもやや長い。また北側コーナー部は異形を呈する。なお、南西壁の一部が1号井戸によって破壊され、本住居跡の覆土中には11号住居跡が存在した。

床面は、若干凹凸があるもののほぼ平坦で、ロームブロックを多く含んだ褐色土で貼床としている。柱穴は住居の対角線上に4ヶ所確認された。

掘り方はほぼ平坦であるが、北側コーナー部に1.5m×2mの範囲で深さ約15cmの掘り込みがある。しかしコーナー部から北東壁に接した部分では、この掘り込みはない。また西側コーナー部から西南壁に接して幅約0.6m、長さ約2.3m、深さ約8cmの掘り込みがある。

炉跡は北西壁寄りで柱穴の外側で確認された。床面を皿状に掘り凹めており、使用面には焼土・炭化物・灰が残されていた。

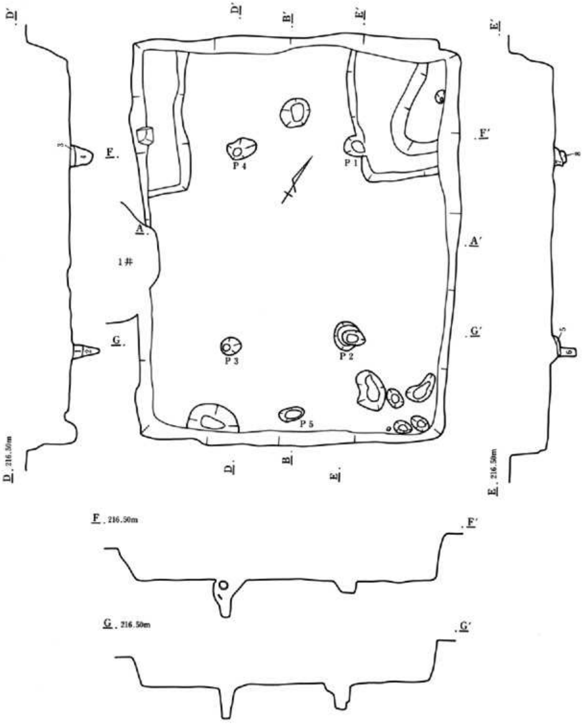
出土遺物として土器および石器があるが、いずれも量が多い。土器は壺・甕・台付甕・高坏・坏・有孔鉢・紡錘車があり、床面付近およびやや浮いた状態で出土している。石器には砥石・凹石・石皿・磨製石斧・打製石斧等がある。



1　暗褐色土　砂礫を多く含む。
2　暗褐色土　砂礫を多く含む。黒っぽい。
3　暗褐色土　砂礫・ローム小ブロックを含む。
4　暗褐色土　砂礫少量、ロームブロックを多く含む。
5　暗褐色土　砂礫を含む。
6　暗褐色土　砂礫・ロームブロックを含む。
7　暗褐色土　砂礫を多く含む。白っぽい。
8　暗褐色土　砂礫を少量、ローム粒を含む。
9　褐色土　　砂礫少量、ロームブロックを多く含む。

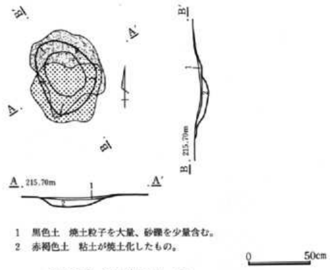
0　　　2m

第149図　34号住居跡

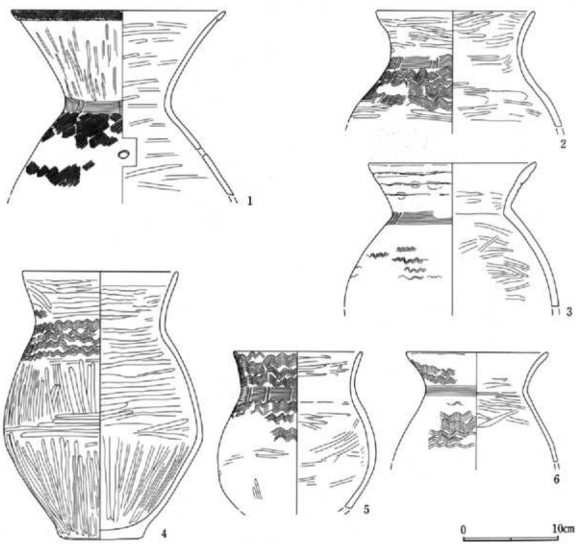


1　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
2　褐色土　　粘質。暗褐色土ブロックを少量含む。
3　暗褐色土　白色・褐色小粒子を少量含む。
4　暗褐色土　白色・褐色粒子を僅かに含む。
5　黒褐色土　砂礫・ロームブロックを少量含む。
6　暗褐色土　砂礫・ロームブロックを含む。
7　暗褐色土　砂礫・ロームブロックを少量含む。
8　褐色土　　粘質。暗褐色土ブロックを少量含む。

第150図　34号住居跡　掘り方

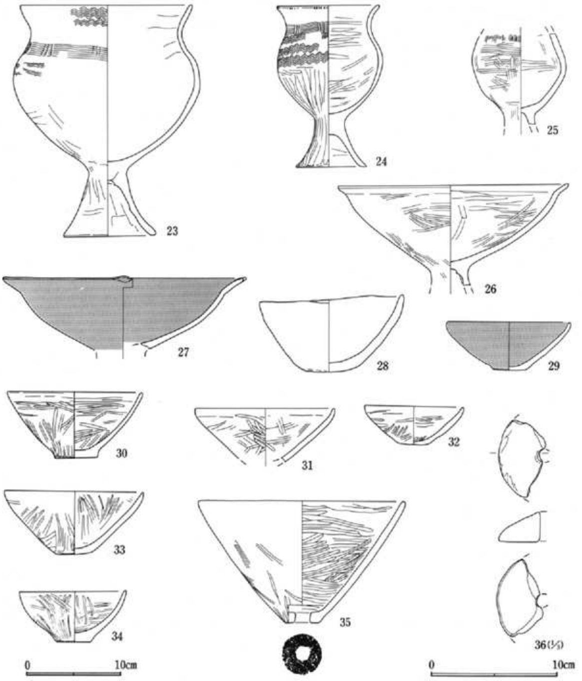


第151図　34号住居跡　炉



第152図　34号住居跡出土遺物（１）

第153図　34号住居跡出土遺物（２）

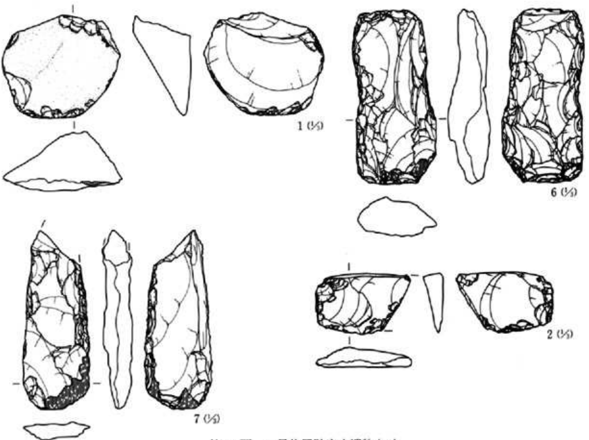


第154図　34号住居跡出土遺物（３）

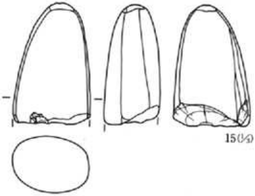
34号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値（mm）			文様の特徴	施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　頸(b)　胴(c)	幅(mm)/本数	内	外					
1	199	大型壺	(230)			a 斜縄　b 2 止簾　c 2 斜縄	15/10LR	ミガキ	ミガキ	A	橙		口～胴	埋土　胴中穿孔
2	199	甕	(169)			b 3 止簾　c 4 波	13/8	ミガキ	ミガキ	A	橙	胴煤	口～胴1/3	埋土
3	199	甕	178			a 3横上　b 2 止簾　c 波	17/10	ミガキ		AD	橙		口～胴	床中央 埋土
4	199	甕	166	283	86	b～c 6 波	10/5	ミガキ	ミガキ	A	褐色	胴煤	胴2/3欠	埋土
5	199	小型甕	137			a 3 波　b 2 止簾　c 3 波	15/10	ミガキ	ミガキか	C	にぶい橙	胴被熱	口～胴	床中央
6	199	甕	(150)			a 波　b 簾　c 波		ミガキ	剥離	A	にぶい橙	胴被熱	口～胴1/2	埋土
7	199	甕	(150)			a～c 波　b 2 止簾	14/12	ミガキ		A	にぶい橙		口～胴1/4	埋土
8	199	小型甕	129			a～c 7 波	11/5	ミガキ	ミガキか	A	にぶい橙	頸煤	口～胴上	埋土
9	199	小型甕	(150)			a～c 波　b 2 止簾	25/16	ミガキ		F	褐色		口～胴1/2	埋土

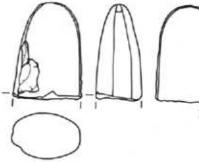
番号	PL	器　種	計測値 (mm)			文様の特徴		施文具	整　形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　胴(b)　脚(c)		幅(mm)/本数	内	外					
10	200	甕	150			a 3横上			ミガキ	剥離	B	褐灰			埋土
11	200	甕				a 横上　b～c 斜縄		RLR	ミガキ	ミガキ	B	赤褐	被熱		埋土
12	200	甕	(155)			a 斜縄　b 2止簾　c 3斜縄		16/- LR	ミガキ		A	にぶい橙	被熱	口～胴上1/3	床左
13	200	小型甕	170			a～c 2斜縄		LR	ミガキ		G	橙	全体被熱	口～胴上3/4	埋土
14	200	小型甕	135			a～c 斜縄		RL	ミガキ	ハケメ	A	にぶい橙		口～頸	埋土
15	200	小型甕	106			a 横上　a～c 斜縄		RL	ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	胴被熱	口～胴上	埋土
16		(台付甕)	(153)			b 2止簾　c 波		14/10	ミガキ		A	にぶい橙	口～肩被熱	口～肩1/4	埋土
17	200	小型甕	(98)	110	46				ミガキか	剥離	A	赤褐	全体被熱	口～底1/4	床奥左
18		小壺			37				ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		口～体2/3欠	床右
19	200	小型甕			58				剥離	剥離	G	橙		頸～底1/2	炉周辺 埋土
20		甕			(60)				ミガキ	ミガキ	A	橙	被熱	体下～底1/2	埋土
21		甕			60				ミガキ	ミガキ	A	明赤褐	胴被熱	底	埋土
22		甕			63				剥離	ミガキ	A	橙	胴下被熱	底	床中央
23	200	台付甕	183	244	99	a 波　b 3止簾　c 波		15/7	ナデか	ミガキ	A	淡黄		口胴1/4欠	埋土
24	200	小型台付甕	110	170	76	a 刻み　b 3止簾　c 3波		12/8	ミガキ	ミガキ	B	明褐	胴脚被熱	口一部欠	床入口左
25	200	小型台付甕				b 部分的簾状文			ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		口脚欠	床中央
26	200	高杯	245						ミガキ	ミガキ	A	橙		口1/3 脚欠	床中央
27		高杯	(280)			a 瘤状突起			ミガキ	ミガキ	F	褐色		杯1/4	埋土
28	200	鉢	154	82	54				ナデ	剥離	A	浅黄橙			床中央
29	200	小型鉢	130	52	37				ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		口一部欠	炉周辺
30	200	小型鉢	145	70	45				ミガキ	ミガキ	A	橙		口一部欠	埋土
31	201	(小型鉢)	143						ミガキ	ミガキ	A	浅黄橙		口～体1/2	埋土
32		小型鉢	(106)	51	32				ミガキ	ミガキ	A	明赤褐		口～底1/4	埋土
33	201	小型鉢	147	62	37				ミガキ	ミガキ	B	橙			埋土
34		小型鉢	114	53	35				ミガキ	ミガキ	B	橙		口1/2欠	床入口左
35	201	有孔鉢	(221)	129	39	孔13			ミガキ	剥離	A	橙		口～底1/3	埋土
36	201	紡錘車	(76)	厚 24		重40ｇ			ナデ	ナデ	A	橙		1/3	埋土



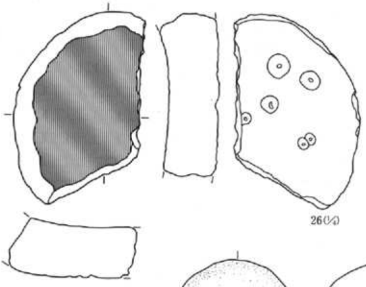
第155図　34号住居跡出土遺物(4)



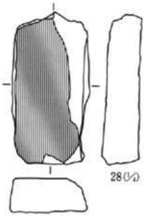
15(¼)



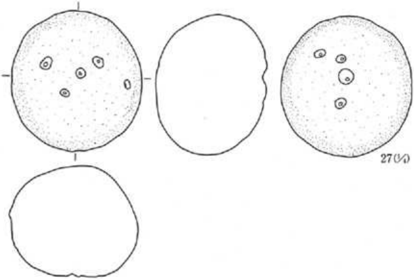
16(¼)



26(¼)



28(¼)



27(¼)

第156図　34号住居跡出土遺物(5)

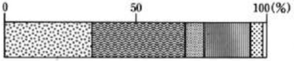
34号住居跡出土石器観察表

№	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	SS	床下	完形	8.1	9.4	4.7	290.8	硬泥	剥片先端両面に調整加え刃部形成。
2	SS	下位	1/2	4.8	7.6	1.6	59.7	硬泥	剥片の打面～一側両面に調整。右側欠損。
3	SS	覆土	完形	4.7	7.3	2.1	84.1	硬泥	剥片の一側表裏に調整加え刃部形成。

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　　　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
4	打斧	覆土	一部欠	7.2	4.8	1.3	51.1	硬泥	幅に比して長さ短い。再調整の結果か。刃部磨耗。Ⅲ類。
5	打斧	下位	完形	20.7	6.1	2.2	310.9	変玄	両面の周辺のみに調整。Ⅲ類。
6	打斧	床直	完形	13.7	6.5	3.3	307.1	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。Ⅲ類。
7	打斧	床直	一部欠	14.0	5.3	2.4	192.8	粗安	刃部磨耗。基部一部欠損。Ⅱｂ類。
8	打斧	覆土	完形	7.2	3.8	1.1	29.8	粗安	刃部わずかに磨耗。Ⅱｂ類。
9	打斧	覆土	一部欠	8.5	3.9	1.6	79.4	硬泥	基部欠損。刃部先端磨耗。Ⅲ類。
10	打斧	覆土	完形	10.5	4.8	1.6	129.0	硬泥	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
11	打斧	覆土	完形	9.9	3.8	1.5	70.2	粗安	Ⅲ類。
12	打斧	中位	1/2	8.5	5.1	2.6	129.9	硬泥	両端欠損。Ⅱａ類。
13	打斧	覆土	2/3	7.1	4.0	1.1	39.2	細安	刃部磨耗。基部欠損。Ⅲ類。
14	打斧	覆土	1/2	4.6	8.0	2.2	89.4	硬泥	両端欠損。形状不明。
15	磨斧	床直	1/2	9.5	6.2	4.4	385.7	変玄	刃部欠損。
16	磨斧	床下	1/2	7.6	5.5	3.7	258.5	変玄	刃部欠損。表面に一部剥離痕残す。
17	磨斧	覆土	2/3	6.3	2.7	1.2	34.9	変玄	小型で細身。刃部欠損。
18	磨斧	覆土	1/3	5.6	5.0	3.0	119.5	変玄	刃部破片。先端に使用による剥離痕。
19	石核	中位	完形	7.1	9.4	4.4	247.7	硬泥	剥片の背面側一端で剥片剥離。
20	石核	上位	完形	4.7	5.7	2.0	47.9	硬泥	剥片の一端で交互に剥片剥離。
21	石核	覆土	ほぼ完	7.1	9.3	4.5	234.0	硬泥	剥片の分割面を打面とし、腹面側で剥片剥離。
22	凹石	覆土	完形	11.1	4.0	3.4	215.2	粗安	棒状の円礫。表面凹み。表裏に研磨面。
23	凹石	上位	完形	21.1	10.3	7.7	2220.0	粗安	盤状の円礫。表面に凹み。
24	敲石	中位	完形	21.8	12.0	8.5	2900.0	デイ	盤状の円礫。両端・両側に敲打痕。
25	磨石	床直	破片	7.4	5.7	4.5	250.4	変安	側辺を面取り。両面に研磨面。
26	石皿	上位	1/4	13.7	20.5	7.5	2320.0	粗安	皿部分内面弱い研磨。裏面に凹みあり。
27	多孔	下位	完形	14.8	13.8	11.8	3000.0	デイ	球状の円礫。表面に５個、裏面に４個の凹み。
28	砥石	床下	完形	16.2	8.1	4.0	738.9	砂岩	盤状の角礫。表面に研磨面。

34号住居跡器種組成表

器　種	ＳＳ	打斧	磨斧	二次	微細	石核	原石	凹石	敲石	磨石	石皿	多孔	砥石	剥片
個　数	3	11	4	4	8	6	1	2	1	1	1	1	1	28



34号住居跡石材重量組成グラフ

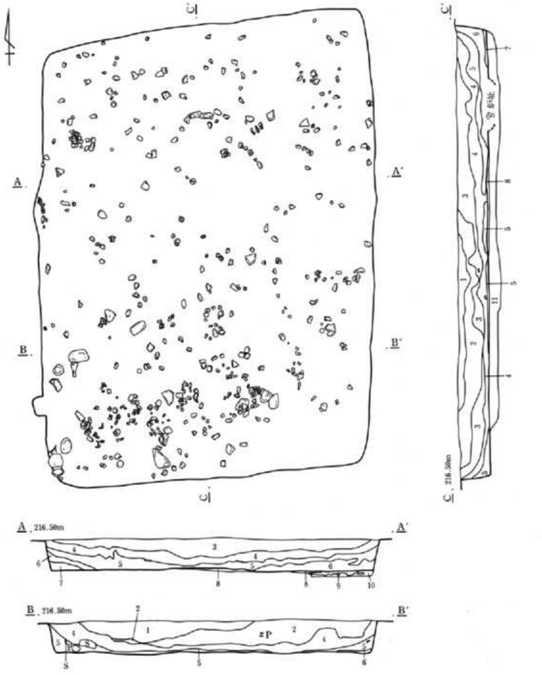
38号住居跡（第157～164図、PL15・201・202・242～244）

本住居跡はやや菱形となる長方形を呈する。床面は平坦であるが、やや軟弱である。地山を掘り凹め、地山土を平坦にならしてそれを床面としている。

柱穴は４ヶ所で、ほぼ対角線上に存在する。なお南壁近くに柱穴より小さなPitが４ヶ所存在する。掘り方は平坦ではなく、やや深く掘り込まれている部分、やや高く掘り残されている部分等が存在する。

炉は北壁よりの柱穴より外側で発見された。床面を皿状に掘り凹めており、使用面には炉石２個と焼土が一部残されていた。

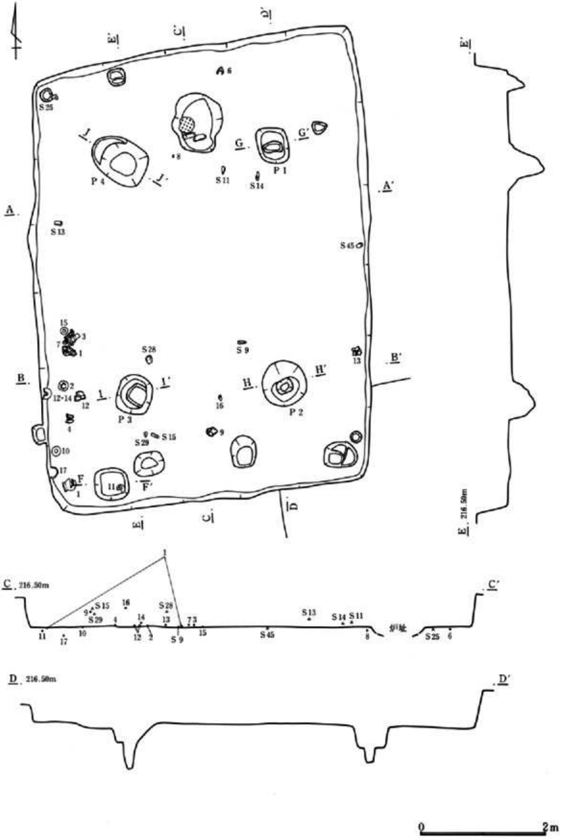
出土土器には壺・甕・高坏・坏・有孔鉢等があり、住居南西部コーナー付近には甕・坏・有孔鉢（１・12・17）がまとまって出土しているが、写真にある最も大きな甕については行方不明となった。出土石器はかなり多く54点となる。出土遺物は住居内全域にわたっており、床面より25cmほど浮いているものもあるが、床面付近からの出土が多い。



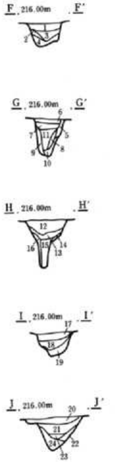
1	黒褐色土	砂礫・褐色土粒・褐色土塊・灰白色粒子を多量に含む。
2	黒褐色土	小砂礫・褐色粒子・灰白色粒子を含む。
3	黒褐色土	小砂礫・褐色粒子・灰白色粒子を多く含む。
4	暗褐色土	小砂礫・褐色土粒・褐色土塊を大量に含む。
5	黒褐色土	小砂礫・褐色土粒・褐色土塊を多く含む。
6	暗褐色土	小砂礫・褐色土粒・褐色土塊・黒褐色土を多く含む。
7	黒褐色土	砂礫・褐色土粒・灰白色粒子を含む。
8	褐色土	粘質。黒褐色土・灰白色粒子を含む。
9	黒褐色土	小砂礫・褐色土粒・褐色粒子・灰白色粒子を多く含む。
10	褐色土	砂粒を含む。
11	黄褐色土	砂質。砂礫・赤色粒子・橙色粒子を多量に含む。

0　2m

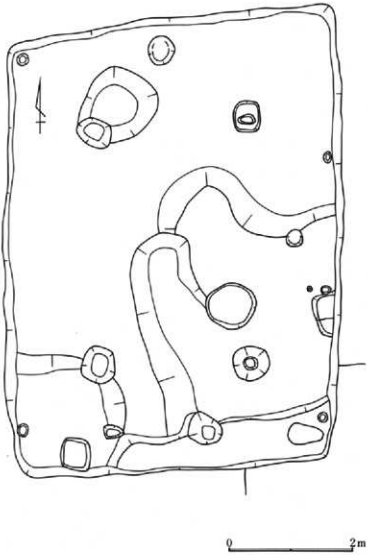
第157図　38号住居跡遺物出土状況



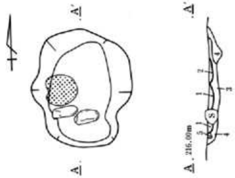
第158図　38号住居跡



1　暗褐色土　黄色粒子を少量含む。
2　黒褐色土　黄色粒子を少量含む。
3　暗褐色土　黄色粒子・砂礫を少量含む。
4　黒色土　砂質。礫を含む。
5　暗褐色土　黄色粒子を多く含む。
6　黒褐色土　ロームブロック・黄色粒子を少量含む。
7　暗褐色土　黒色土ブロック・砂礫を含む。
8　暗褐色土　ローム粒をやや多く、黒色土ブロックを少量含む。
9　黄褐色土　黒色土ブロックを多く含む。
10　黄色土　砂質。砂礫を少量含む。
11　黄褐色土　ローム粒・砂礫を多く、黒色土ブロックを若干含む。
12　黒褐色土　砂礫・黄色粒子をやや多く含む。
13　黄褐色土　黄色粒子・ローム粒を多量に、砂礫を少量含む。
14　黄色土　砂質。砂礫を少量含む。
15　黄褐色土　砂礫・黄褐色土ブロックを含む。
16　黄褐色土　小石を少量含む。
17　暗褐色土　黄色粒子・橙色粒子を少量含む。
18　暗褐色土　黄色粒子をやや多く、ローム粒を少量含む。
19　黄褐色土　砂質。ローム粒・砂粒を多量に含む。
20　暗褐色土　黄色粒子・白色粒子・砂礫を多量に含む。
21　暗褐色土　砂礫・黄色粒子を含む。
22　黄褐色土　砂質。砂礫を含む。
23　暗褐色土　小石・黄色粒子を含む。
24　黒褐色土　ローム粒・砂礫を少量含む。



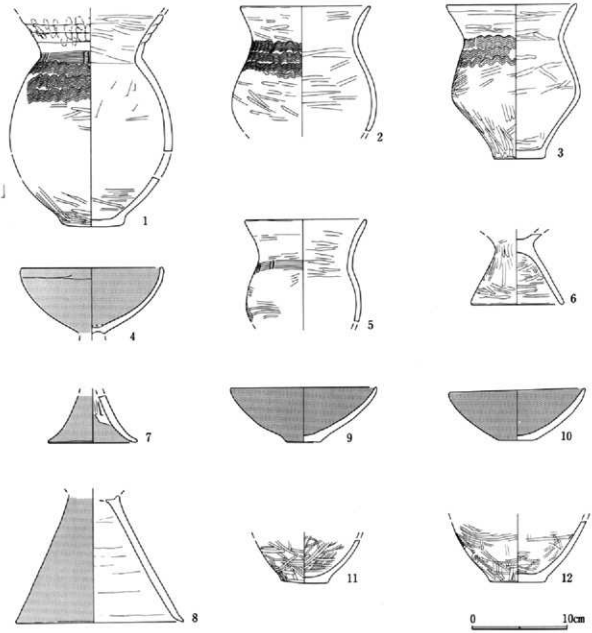
第159図　38号住居跡　掘り方



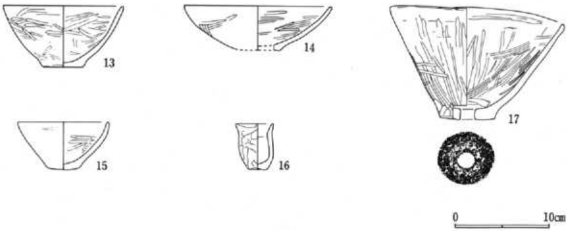
1　黒褐色土　小砂礫を多量に、褐色土粒・焼土粒を若干含む。
2　褐色土　淡褐色焼土塊と褐色土塊がまだら状に混合。
3　褐色土　小砂礫を多量に含む。
4　褐色土　小砂礫・淡褐色焼土塊を多く含む。
5　褐色粘性土塊

0　1m

第160図　38号住居跡　炉



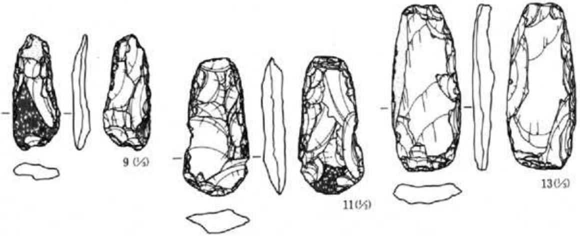
第161図　38号住居跡出土遺物（１）



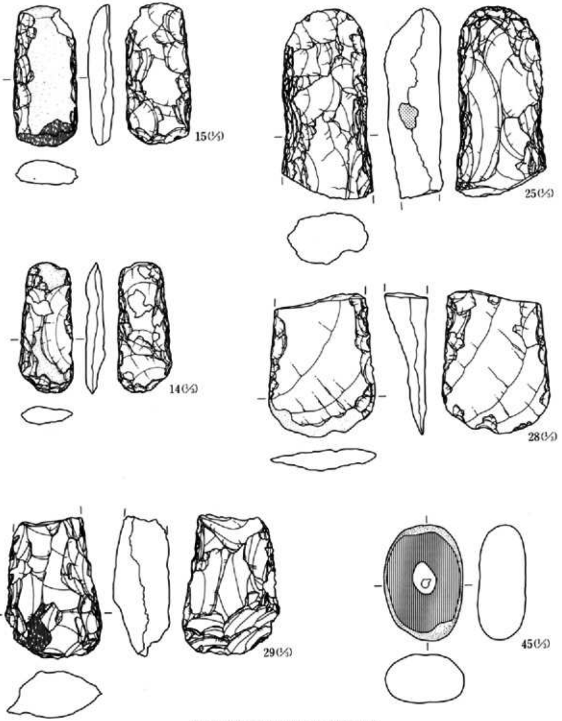
第162図　38号住居跡出土遺物（２）

38号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値（㎜）			文様の特徴	施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　頸(b)　胴(c)	幅(㎜)/本数	内	外					
1	201	甕	(150)		65	a 横上　b 2 止簾　c 3 波	17/11	口ミガキ胴ナデ	ミガキ	A	赤褐色	胴被熱	口～底	埋土
2	201	小型甕	(140)			b 3 波	11/7	ミガキ	ミガキ	A	褐色	肩煤	口～胴1/2	床壁際左
3	201	小型甕	140	162	53	b 3 波	10/5	ミガキ	ミガキ	A	褐色	口～胴被熱	口胴1/2欠	床左
4	201	高杯	150					ミガキ	ミガキ	F	橙		杯1/3	床壁際左
5	201	小型甕	130			b 2 止簾	10/7	ミガキ	ミガキ	A	褐色	被熱	口～胴	埋土
6		台付甕			98			ミガキ	ミガキ	A	橙		脚2/3	埋土
7	201	高杯			95			ナデ	ミガキ	F	にぶい橙		脚のみ	床壁際左
8	201	高杯			180			ナデ	ミガキ	A	にぶい橙		脚のみ	床壁際左
9	201	鉢	(152)	58	36			ミガキ	ミガキ	B	橙		1/3	埋土
10	201	小型鉢	145	55	40			ミガキ	ミガキ	F	浅黄		口一部欠	床壁際左
11		小型甕			50			ミガキ	ミガキ	A	赤褐	胴下被熱	底のみ	埋土
12		甕			60			ミガキ	ミガキ	A	にぶい赤褐	被熱	胴下～底	床壁際左
13	201	小型鉢	(128)	65	43			ミガキ	ミガキ	A	橙		口～体1/3欠	埋土
14	201	鉢	156	47	(45)			ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		1/2	床壁際左
15	201	小型鉢	98	50	33			ミガキ	剥離	B	にぶい橙		完形	床左
16	202	ミニチュア甕	41	48	19			ナデ	ナデ	A	にぶい黄橙		口一部欠	埋土
17	202	有孔鉢	184	117	58	孔15		ミガキ	ミガキ	B	橙		口一部欠	埋土



第163図　38号住居跡出土遺物（３）



第164図　38号住居跡出土遺物（4）

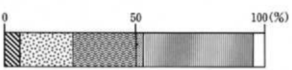
38号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	1.5	1.3	0.4	0.7	黒曜	両端に剥離痕。
2	楔	覆土	完形	1.5	1.3	0.6	1.1	黒曜	両端に剥離痕。
3	楔	覆土	完形	2.4	2.3	0.6	3.0	黒曜	両端に剥離痕。
4	打斧	覆土	ほぼ完	11.8	4.9	1.6	90.3	細安	II b類。

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
5	打斧	上位	完形	11.5	5.5	1.9	114.5	凝砂	Ⅱｂ類。
6	打斧	床直	2/3	10.0	5.5	3.3	177.4	硬泥	刃部欠損。Ⅱｂ類。
7	打斧	中位	2/3	10.2	4.4	1.7	81.5	珪頁	刃部欠損。Ⅱｂ類。
8	打斧	中位	2/3	9.0	4.8	1.8	90.1	硬泥	刃部欠損。Ⅱｂ類。
9	打斧	床直	完形	9.1	3.7	1.4	47.8	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。Ⅱｂ類。
10	打斧	中位	ほぼ完	10.0	5.1	2.2	123.0	硬泥	刃部磨耗。基部わずかに欠損。Ⅱｂ類。
11	打斧	下位	完形	10.9	5.2	1.8	111.0	硬泥	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
12	打斧	下位	完形	11.2	5.1	1.9	135.3	凝砂	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
13	打斧	下位	完形	13.1	5.4	1.7	176.1	緑片	Ⅱｂ類。
14	打斧	下位	完形	10.3	4.3	1.6	78.9	凝砂	熱により器表面一部剥落。Ⅱｂ類。
15	打斧	中位	ほぼ完	11.0	5.1	2.0	150.5	硬泥	刃部磨耗。Ⅲ類。
16	打斧	中位	完形	8.3	4.2	1.6	65.8	珪頁	器表面かなり風化。Ⅲ類。
17	打斧	覆土	1/2	8.8	4.6	1.7	75.6	硬泥	刃部欠損。Ⅱｂ類。
18	打斧	床下	1/3	6.8	3.9	2.5	71.4	硬泥	基部破片。形状不明。
19	打斧	中位	1/2	7.4	5.1	1.6	72.1	珪頁	基部欠損。Ⅱｂ類。
20	打斧	覆土	1/2	7.8	3.9	1.8	55.5	細安	両端欠損。Ⅲ類。
21	打斧	床下	1/2	6.9	4.9	1.9	68.6	硬泥	基部欠損。刃部磨耗。Ⅲ類。
22	打斧	床下	1/3	7.7	4.5	1.9	66.4	砂頁	刃部欠損。形状不明。
23	打斧	覆土	1/2	8.4	5.7	1.8	106.0	硬泥	基部欠損。形状不明。刃部磨耗。
24	打斧	床下	1/2	8.5	5.6	2.5	141.6	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。Ⅲ類。
25	石鍬	床下	2/3	15.0	7.1	4.6	605.7	硬泥	刃部欠損。右側一部敲打により整形。
26	石鍬	床直	破片	6.3	6.9	3.2	157.5	硬泥	刃部破片。上部・右半欠損。
27	石鍬	覆土	破片	6.3	11.6	3.1	236.6	硬泥	刃部破片。
28	石鍬	中位	1/2	11.2	8.4	3.4	343.4	粗安	基部欠損。器表面かなり風化。
29	石鍬	中位	2/3	11.1	7.7	4.4	374.3	細安	刃部磨耗。基部欠損。Ⅱｂ類。
30	磨斧	下位	1/2	8.1	5.5	2.8	201.8	変玄	未製品の基部破片。剥離・敲打による整形途中。
31	磨斧	中位	1/3	8.0	5.8	4.3	277.0	石閃	未製品の基部破片。敲打による整形途中。
32	磨斧	床下	1/2	7.3	2.7	1.5	46.0	変玄	両端欠損。丁寧な仕上げ。断面隅丸の長方形。
33	磨斧	下位	1/2	8.3	4.8	2.6	191.5	変玄	両端欠損。原礫の形状あまり変えずに研磨して整形。
34	石核	中位	1/2	10.0	7.5	5.6	369.0	硬泥	剝片の一側両面で交互に剝片剝離。上半欠損。
35	石核	中位	完形	9.0	6.2	6.3	340.9	硬泥	賽子状。打面・作業面を転移しながら剝片剝離。
36	石核	中位	完形	9.9	7.3	4.2	276.3	硬泥	盤状礫。表面では両端から、裏面では右側から剝片剝離。
37	石核	下位	完形	12.8	7.1	4.3	482.1	硬泥	礫の一端で剝片剝離。
38	石核	床直	完形	15.8	9.8	6.1	798.5	硬泥	分割礫の両端で交互に剝片剝離。
39	石核	下位	完形	8.9	8.3	3.8	238.1	硬泥	剝片の背面側で周辺から剝片剝離。
40	石核	床直	1/2	6.9	8.3	2.9	161.8	硬泥	剝片背面側で周辺から剝片剝離。上半欠損。
41	石核	床直	完形	9.4	5.9	3.2	195.2	硬泥	剝片の主に両端で剝片剝離。形状は楔状。
42	石核	下位	完形	9.9	11.3	4.3	517.1	細安	剝片の一側の主に腹面側で剝片剝離。
43	原石	覆土	完形	5.0	4.8	1.7	51.2	玉髄	盤状の角礫。脈状に生成したもの。
44	凹石	下位	完形	11.7	9.2	5.3	759.2	粗安	右側面取り。表面１、裏面２個の凹み。表裏研磨、左側・両端に敲打。
45	凹石	床下	完形	9.1	6.3	3.8	307.2	デイ	盤状の円礫。表面に凹み・弱い研磨面。裏面に一部敲打痕。
46	凹石	中位	完形	11.3	7.1	5.3	644.9	粗安	両側面取り。表裏に凹み・研磨面。
47	凹石	下位	2/3	11.4	6.4	4.6	481.0	変安	両側面取り。表面に２個の凹み。裏面・上端に敲打痕。表裏に研磨。
48	凹石	下位	完形	11.8	8.7	5.2	676.9	デイ	盤状の円礫。表裏に研磨・凹み各２個。両側・両端に敲打痕。
49	敲石	中位	完形	10.9	7.5	4.2	428.9	粗安	盤状の円礫。表裏・両端に敲打痕。
50	磨石	中位	1/2	7.1	5.6	3.8	192.9	デイ	盤状の円礫。表裏に研磨面。下半欠損。
51	磨石	下位	1/2	8.5	7.0	4.6	420.8	粗安	盤状の円礫。両側面取り。表裏に研磨面。上端に敲打痕。
52	磨石	中位	一部欠	10.1	8.1	5.5	610.8	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。裏面欠損。
53	多孔	下位	1/2	19.2	18.5	9.0	3960.0	デイ	盤状の円礫。表面に１、裏面に２個の凹み。
54	砥石	覆土	破片	3.8	3.5	1.4	14.9	凝砂	表裏・側面に使用面。

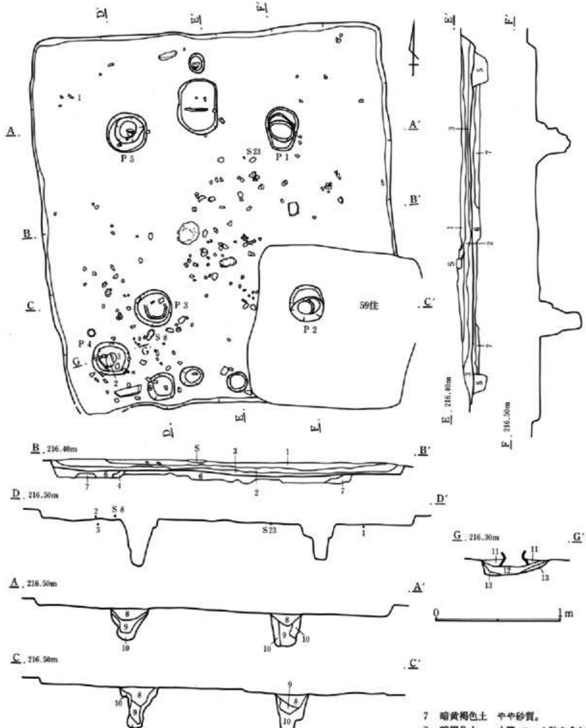
38号住居跡器種組成表

器種	楔	打斧	石鍬	磨斧	二次	微細	石核	原石	凹石	敲石	磨石	多孔	砥石	剝片
個数	3	21	5	4	18	8	17	2	5	1	3	1	1	102



38号住居跡石材重量組成グラフ

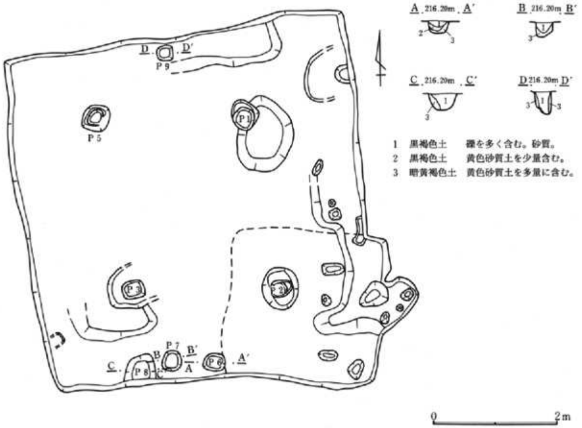
60号住居跡（第165〜169図、PL16・202・244・245）



1	黒褐色土	砂礫・ローム粒を含む。
2	黒褐色土	砂礫・ロームブロックをやや多く含む。
3	淡褐色土	砂礫を多く含む。
4	暗褐色土	褐色土ブロックを含む。
5	暗褐色土	砂粒を少量含む。
6	暗黄褐色土	褐色土ブロック・砂礫を少量含む。
7	暗黄褐色土	やや砂質。
8	暗褐色土	小礫・ローム粒を含む。
9	黒褐色土	砂礫・ローム粒を含む。
10	黄褐色土	砂礫を多く含む。
11	黒褐色土	砂礫を含む。
12	黒褐色土	砂礫を多く含む。
13	淡褐色土	砂礫が主体。

0　　　2 m

第165図　60号住居跡



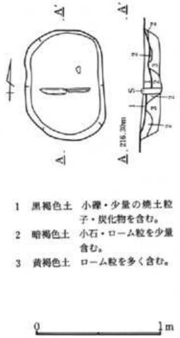
第166図　60号住居跡　掘り方

60号住居跡はほぼ正方形を呈する。東南コーナー付近は59号住居跡によって破壊されている。床面は、地山を掘り込んだ面を褐色土ブロックを含む暗黄褐色土で埋めて平坦にしている。なお、59号住居によって東南コーナー付近の床面は、約３cm削られている。

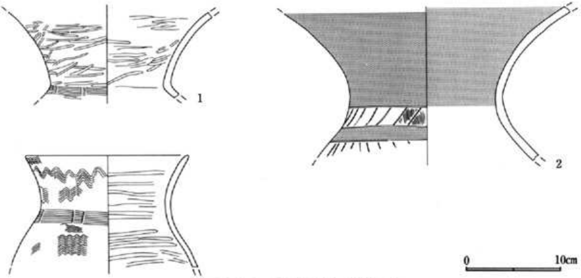
柱穴は４本で、住居の対角線上に発見された。また住居の北側と南側に小規模な Pit、および南西コーナー近くに貯蔵穴と推定される Pit がある。

掘り方は凹凸がやや多く、深く掘られている部分とやや掘り残している部分とがある。炉は北側壁近くの柱穴と柱穴のほぼ中間で発見された。炉中央部に比較的扁平な石が２個並べて立った状態で置かれていたが、焼土は殆ど残されていなかった。

出土土器として壺・甕があるが、いずれも完形とはならない。出土石器は24点と多い。



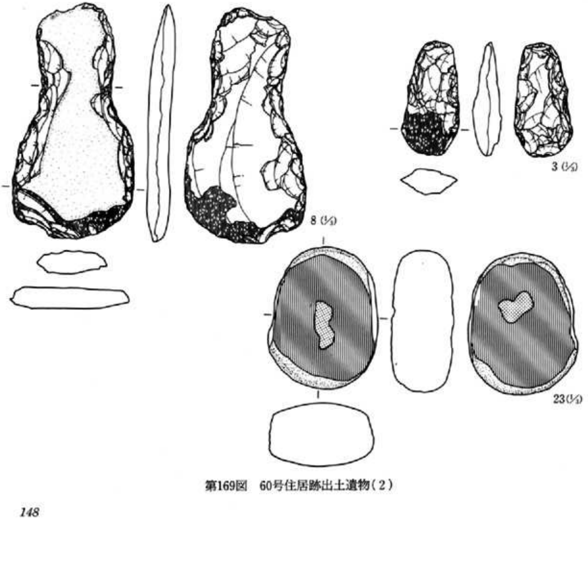
第167図　60号住居跡　炉



第168図　60号住居跡出土遺物（1）

60号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値（mm）			文様の特徴	施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口(a)　頸(b)　胴(c)	幅(mm)/本数	内	外					
1	202	壺				b 2止簾		ミガキ	ミガキ	C	にぶい橙		口	埋土
2		大型壺				c 羽	ヘラ	ミガキ	ミガキ	C	橙		口頸1/3	埋土
3	202	甕	175			a 4波　b 2止簾　c 3波	14/9	ミガキ		D	黄褐	頸胴被熱	口～胴上	埋土



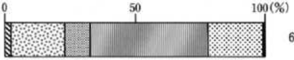
第169図　60号住居跡出土遺物（2）

60号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	2.7	1.4	1.0	3.8	黒曜	両端に剥離痕。
2	打斧	床直	1/2	7.7	4.7	2.0	86.3	粗安	刃部欠損。Ⅱａ類。
3	打斧	覆土	完形	9.0	4.6	2.4	86.5	硬泥	刃部磨耗。Ⅱｂ類。
4	打斧	覆土	完形	9.9	4.9	2.0	89.4	硬泥	刃部わずかに磨耗。Ⅱｂ類。
5	打斧	床直	1/3	5.9	4.8	2.3	70.7	硬泥	刃部欠損。Ⅱｂ類。
6	打斧	下位	破片	6.9	5.3	2.2	56.4	硬泥	熱により破損。形状不明。
7	磨斧	床直	2/3	12.0	7.3	4.6	640.0	変玄	未製品の基部破片。剥離・敲打による整形途中。
8	石鍬	床直	完形	18.6	9.6	2.0	418.2	粗安	刃部が撥形に広がる。刃部磨耗。
9	石核	床直	完形	12.2	6.7	6.7	485.3	硬泥	分割礫の一側で剥片剥離。
10	石核	床直	完形	10.1	6.5	4.7	292.6	硬泥	剥片の原礫面を打面として剥片剥離。
11	石核	床直	1/3	8.4	5.4	2.2	11.2	硬泥	盤状の円礫の両面で周辺から剥片剥離。
12	石核	下位	完形	8.8	6.9	4.0	227.6	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
13	石核	床下	完形	9.4	7.6	5.3	340.5	硬泥	分割礫の一端で、分割面打面として剥片剥離。
14	石核	床下	完形	6.3	8.8	4.4	225.9	硬泥	作業面を固定して、相対する側辺から剥片剥離。
15	石核	下位	完形	8.2	4.9	3.2	163.8	硬泥	剥片の一側腹面側で剥片剥離。
16	石核	下位	破片	6.0	10.8	4.4	387.3	硬泥	礫の両面で周辺から剥片剥離。両側欠損。
17	石核	床直	完形	11.9	10.5	5.2	541.5	硬泥	盤状の石核。両面で周辺から剥片剥離。
18	石核	床下	完形	5.1	7.2	3.5	116.5	硬泥	剥片の一端で少数の剥片剥離。
19	石核	床直	完形	5.8	8.9	3.3	132.3	細安	剥片の両面で周辺から剥片剥離。形状は不定形。
20	石核	床下	完形	7.7	7.0	2.2	124.2	硬泥	剥片の一端で少数の剥片剥離。
21	敲石	下位	1/3	8.6	8.5	4.1	396.5	粗安	盤状の円礫。上端に敲打痕。下半欠損。
22	凹石	床直	完形	6.7	10.0	5.5	371.6	砂岩	棒状の角礫。表裏に凹み。
23	磨石	床直	完形	11.0	8.7	4.9	653.6	粗安	盤状の円礫。両側を面取り。表裏に敲打・強い研磨。
24	砥石	床下	1/4	19.4	12.8	4.1	1408.9	砂岩	盤状の亜角礫。表面に使用面。

60号住居跡器種組成表

器　種	楔	打斧	石鍬	磨斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	砥石	剥片
個　数	1	5	1	1	9	6	14	1	1	1	1	48



60号住居跡石材重量組成グラフ

66号住居跡（第170・171図、PL16・202）

本住居跡は５号溝によって南側の半分以上を削られている。また東壁と北壁の東側部分においても８号住居跡および84号住居跡によって削られている。住居の平面形は残存している北西コーナーからすると隅丸方形あるいは隅丸長方形と考えられる。

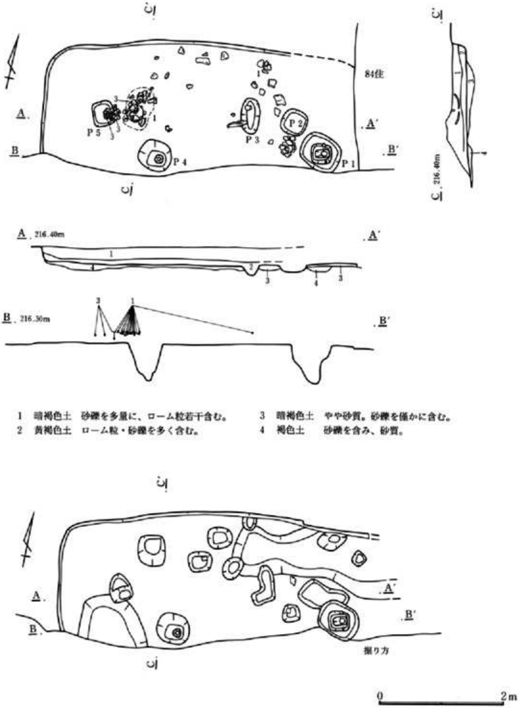
床面はやや粘質の褐色土で貼床している。床面は若干凹凸はあるものの概して平坦であり、あまりしまっていない。柱穴と考えられる Pit は５号溝近くで２ヶ所確認された。西側の柱穴の中心は西壁から1.8mの位置にあることから東西壁の長さを推定すると約6.2mとなる。掘り方は凹凸が多く、床面からの深さは５cm～12cmである。

炉については焼土・灰が確認されないため明確ではないが、２ヶ所の柱穴のほぼ中間でやや北寄りに炉石とも考えられる石が発見されている。またこの石と一部重なる形で東側に、長径55cm、短径30cm、深さ約10

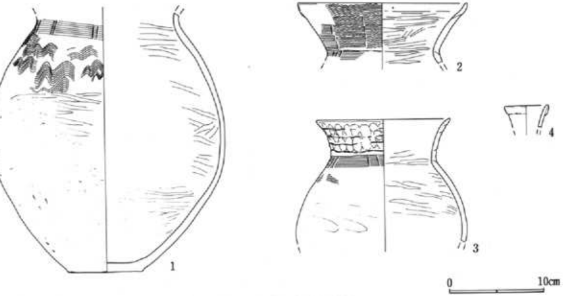
cmの規模をもつ長円形の掘り込みがあり、これが炉であった可能性が考えられる。

柱穴および炉と推定されるPit以外に２基のPitがある。西側の柱穴と北西コーナーのほぼ中間に位置するPitと東側柱穴と炉のやや中間に位置するPitである。いずれも一辺が20cmほどで隅丸方形を呈するという共通した特徴をもつが、これらのPitについての性格については明らかにし得なかった。

出土遺物として壺および甕等があるが、いずれも破片となって出土しており、完形とはならない。これらの遺物は床面より約12cm浮いた状態で出土している。



第170図　66号住居跡



第171図　66号住居跡出土遺物

66号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値(cm)			文様の特徴	施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・脚	口縁(a)　頸部(b)　胴部(c)	幅(mm)/本数	内	外					
1	202	甕			80	b 2 止簾　c 4 波	16/7	ミガキ	ミガキ	A	浅黄橙	胴煤	口胴一部欠	埋土
2		甕	(180)			a 4 波　b 3 止簾	16/9	ミガキ		A	橙		口片	埋土
3	202	小型甕	144			a 4 横止　b 2 止簾　c 波	17/11	ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	胴被熱	口～胴上3/4	埋土
4		ミニチュア壺	(45)					ナデ	ナデ	A	黄橙		口頸	埋土

66号住居跡器種組成表

器　種	石核	剝片
個　数	1	1

76号住居跡（第172～177図、PL16・17・202・246）

住居は3号住居跡、52号住居跡、62号住居跡、67号住居跡、69号住居跡によって多くの部分が削られている。住居の残存部分から判断すると、ほぼ隅丸方形と考えられるものの、南壁は北壁と平行とはならず、東壁は西壁に比べて短くなる可能性がある。

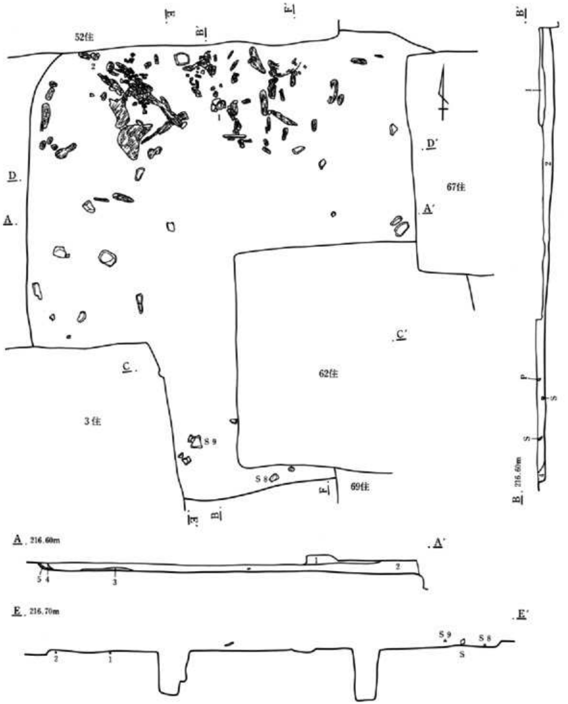
床面は地山を平坦に掘り凹めた面である。そのため床面は固くしっかりしている。柱穴は住居の対角線上に4基確認されたが、やや住居中央に寄っているという特徴がある。なお柱穴には、北東部の1基を除いてかつて柱が存在した形跡が柱穴内の土層状況により認められた。

炉は住居の北寄りと西寄りから発見されているが、いずれも柱穴の中間よりやや壁寄りである。北側の炉（1号炉）は、長円形で長径65cm、短径50cm、深さ約15cmの規模をもつ。1号炉内には、中央やや北寄りに砂岩の割石を用いた炉石があり、約6cmの厚さの焼土と、やや大きな炭化材が遺存していた。西壁近くの2号炉は不整円形で浅い皿状の掘り込みをもつ。2号炉は炉内やや西寄りに河原石の炉石がみられ、規模は長径約1m、短径約70cm、深さ約4cmである。2号炉に焼土、炭化物はみられなかった。

住居の北壁近くに土坑が3基みられる。3基の土坑は西から楕円形、隅丸長方形、長円形を呈しているが、

深さはいずれも約15cmである。これらの土坑覆土の上半部には炭が含まれていることから、火災の際に焼け落ちた建築材の一部と考えられ、この3基の土坑は火災直前まで使用されていた可能性がある。

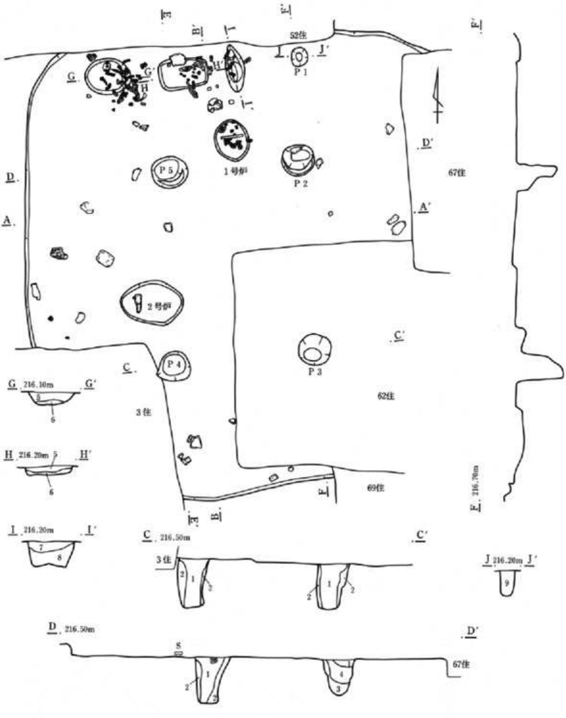
出土遺物として壺の底部・土製紡錘車・砥石・多孔石・石匙等があり、いずれも床面近くの出土である。



1　黒色土　砂礫を含む。
2　黒褐色土　砂礫・炭化物を含む。
3　暗褐色土　砂礫を含む。
4　黒褐色土　砂礫を若干と炭化物を多量に含む。
5　黒色土　砂礫を多く含む。

0　2m

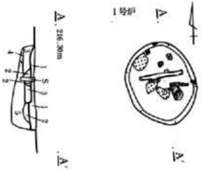
第172図　76号住居跡遺物出土状況



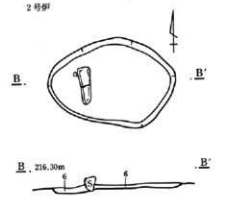
1　黒褐色土　砂礫・焼土粒子を含む。
2　暗褐色土　砂礫を多く含む。
3　暗褐色土　砂質。褐色土を多量に、砂礫を若干含む。
4　暗褐色土　砂礫・焼土粒子を含む。
5　黒褐色土　砂質。炭化物を含む。
6　黒褐色土　砂質。地山ブロックを多く含む。
7　黒色土　　炭化物を含む。
8　暗褐色土　砂質。
9　黒色土　　炭化物を含む。

0　　2m

第173図　76号住居跡



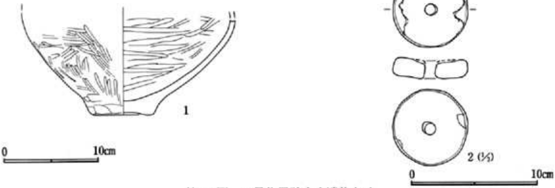
1　黒色土　　炭化物・砂礫を含む。
2　暗褐色土　焼土粒子・炭化粒子を僅かに含む。
3　赤褐色土　焼土。
4　暗黄褐色土　径１ミリ内外の微砂粒の集合層。
5　暗黄褐色土　やや砂質。暗褐色土ブロックを僅かに含む。



6　黒褐色土　　砂礫を多く含む。

0　1m

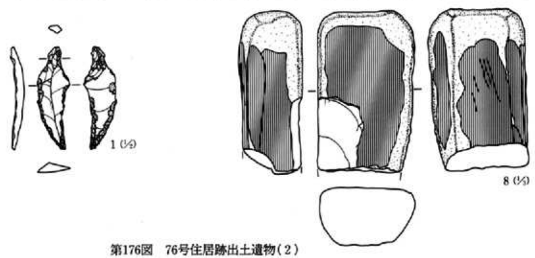
第174図　76号住居跡　炉



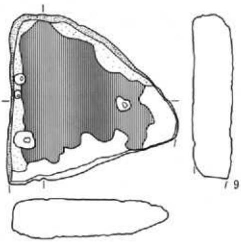
第175図　76号住居跡出土遺物（１）

76号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値（mm）			文様の特徴			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置　備考
			口	高	底・胴	口(a)	胴(b)	底(c)	幅(㎜)/本数	内	外					
1	202	甕			65					ミガキ	ミガキ	C	橙	胴下被熱	胴～底	埋土
2	202	紡錘車	60	厚 15	孔　9	重59ｇ				ミガキ	ミガキ	A	にぶい黄橙		中央剥離	埋土



第176図　76号住居跡出土遺物（２）



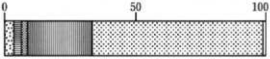
第177図　76号住居跡出土遺物（３）

76号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石匙	覆土	完形	5.4	1.7	0.8	3.9	黒曜	剥片の周辺両面に調整。調整はつまみ部と器体下半に集中。
2	打斧	覆土	完形	9.1	5.1	1.9	92.7	硬泥	刃部先端磨耗。Ⅱb類。
3	打斧	覆土	完形	13.0	5.2	1.6	94.1	硬泥	Ⅱb類。
4	打斧	覆土	破片	5.9	4.4	1.7	38.1	硬泥	両端欠損。形状不明。
5	石核	覆土	破片	7.5	4.6	2.8	126.8	硬泥	両面で周辺から剥片剥離。
6	敲石	覆土	破片	6.2	6.3	3.2	201.7	石閃	盤状の円礫。表面に敲打痕。両端欠損。
7	敲石	覆土	完形	10.7	6.5	4.1	434.5	変安	盤状の円礫。表裏・両端に敲打痕。
8	砥石	床直	2/3	12.8	7.9	4.6	712.4	砂岩	表裏・両側面に研磨面。裏・左側面に線状痕。断面は逆台形。
9	多孔	下位	1/3	18.0	18.3	4.4	1590.0	砂岩	盤状の角礫。表面に大小の凹み、使用により平滑。
10	炉石	床下	ほぼ完	38.4	13.6	3.1	2120.0	砂岩	盤状の角礫。熱により劣化。

76号住居跡器種組成表

器　種	石匙	打斧	二次	微細	石核	敲石	多孔	砥石	炉石	剥片
個　数	1	3	6	2	3	2	1	1	1	17



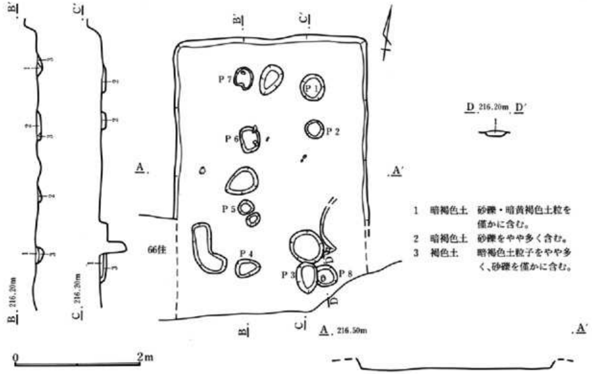
76号住居跡石材重量組成グラフ

84号住居跡（第178・179図、PL17・246）

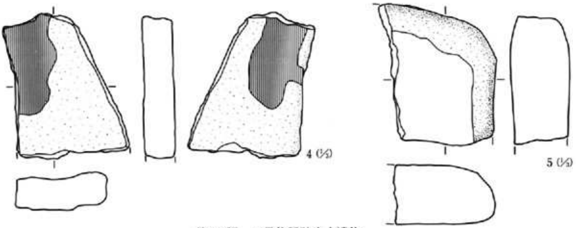
平面形は長方形と推定されるが、南側は５号溝によって削られている。また西壁の南側付近は66号住居跡と重複しているが、両者の新旧関係は不明である。

床面は確認することが出来なかった。第178図は掘り方である。Pit が多く存在するが浅いものが殆どで、柱穴と考えるのには無理がある。北側に Pit が３ヶ所東西方向に並んでいるが、中間の Pit は長径50cm、短径30cm、深さ２cmで、炉の掘り込みと考えられないこともないが、焼土・炭化物は確認されていない。

出土遺物として砥石・敲石があるが、土器は確認されなかった。



第178図　84号住居跡　掘り方



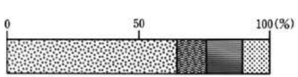
第179図　84号住居跡出土遺物

84号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	敲石	覆土	完形	6.5	5.3	2.7	124.5	変安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
2	敲石	覆土	1/2	9.1	6.7	4.8	432.2	石閃	盤状の円礫。表裏に弱い研磨、上端に敲打痕。
3	敲石	覆土	1/3	10.2	5.8	4.3	351.3	デイ	左側面取り。表裏に弱い研磨、上端に敲打痕。
4	砥石	炉内	1/2	11.4	10.0	3.0	324.5	砂岩	盤状の角礫素材。表裏に研磨面。
5	砥石	炉内	1/4	15.0	12.4	6.3	1887.7	粗安	盤状の扁円礫素材。表面に研磨面。

84号住居跡器種組成表

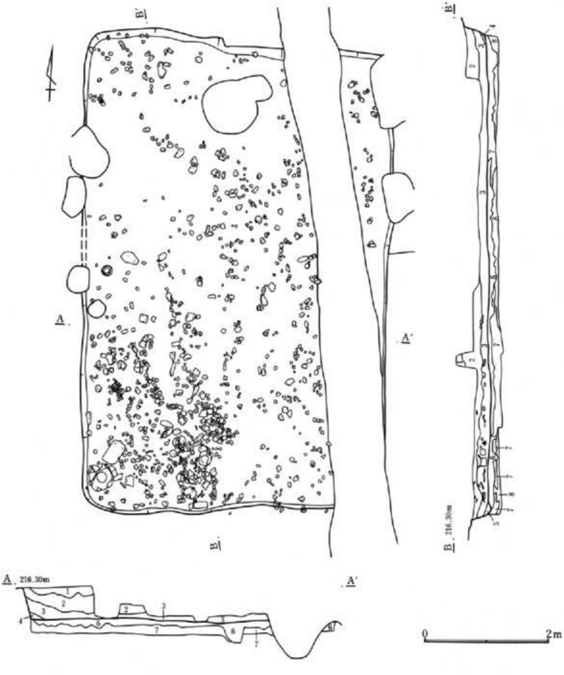
器種	敲石	砥石
個数	3	2



84号住居跡石材重量組成グラフ

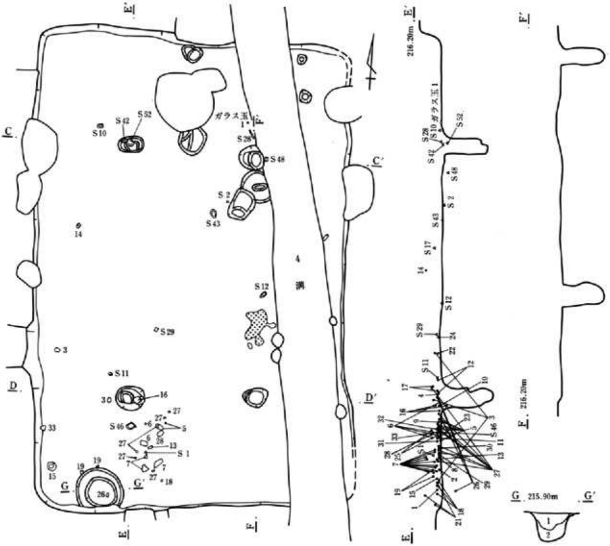
90号住居跡（第180～190図、PL17・202～205・246～248）

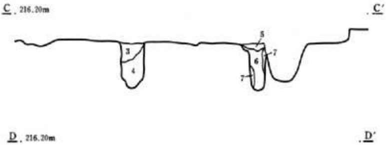
住居は、やや隅の丸い長方形である。4号溝および土坑によって床面の一部を破壊されている。なお、43号・44号・87号・88号住居跡が本住居跡の埋没後に造られているが、壁の一部が破壊されているのみで、床面までは破壊が及んでいない。



1　暗褐色土　褐色粒子・灰白色粒子・褐色土粒・淡褐色土塊を多量に、小砂礫を若干含む。
2　黒褐色土　小砂礫・褐色粒子・灰白色粒子を多量に含む。
3　黒褐色土　褐色粒子・灰白色粒子を多量に、小砂礫・褐色土粒を若干含む。
4　暗褐色土　褐色ローム土粒・砂礫を多量に含む。
5　黒褐色土　小砂礫・褐色ローム土塊を若干含む。
6　淡褐色土　小砂礫・灰白色粒子を多量に含む。
7　褐色土　小砂礫・黒褐色土を若干含む。
8　褐色土　粘質。砂礫・黒褐色土を僅かに含む。

第180図　90号住居跡

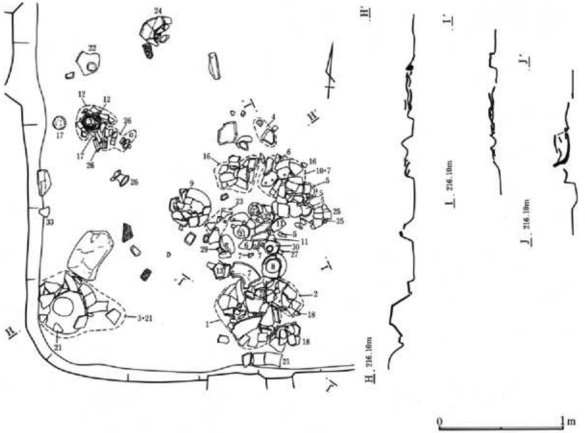




1	黒褐色土	炭化物・黄色粒子を含む。
2	黒褐色土	炭化物を多く含む。
3	黒褐色土	褐色・灰白色粒子を含む。
4	黒褐色土	小砂礫を含む。
5	黒褐色土	ローム粒・炭化物を含む。
6	黒褐色土	ロームブロックを多く含む。
7	暗褐色土	ロームブロックを多く含む。
8	黒褐色土	ローム粒・炭化物を含む。
9	黒褐色土	8層よりローム粒多い。
10	暗褐色土	ローム小ブロックを含む。
11	暗褐色土	ローム粒多く、粘質。
12	暗褐色土	ロームブロック・礫・炭化物を少量含む。
13	暗褐色土	ロームブロックを多く含む。
14	暗褐色土	ローム粒を多く含む。
15	暗黄褐色土	ローム粒主体。

0　　　　2m

第181図　90号住居跡

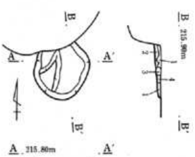


第182図　90号住居跡遺物出土状況

床面は地山を掘り込み、褐色土・淡褐色土で平坦にした上で固めている。柱穴は住居のほぼ対角線上に4ヶ所確認された。なお、この柱穴以外にも、床面で確認されたPitが5ヶ所ある。

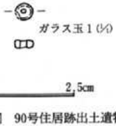
貯蔵穴は南壁に接して、西南コーナー近くに発見された。炉は北側柱穴のほぼ中間にあるが、一部を土坑によって切られている。炉跡に炉石は発見されず、焼土も僅かにみられたのみである。

出土遺物は、土器・石器ともに多い。土器は壺・甕・台付甕・坏・高坏等であるが、これらの大部分は南西コーナー近くの床面付近に集中して発見された。石器は52点と多いものの、多くは床面よりかなり浮いた状態で出土している。なお、床面上からガラス玉1個が出土している。



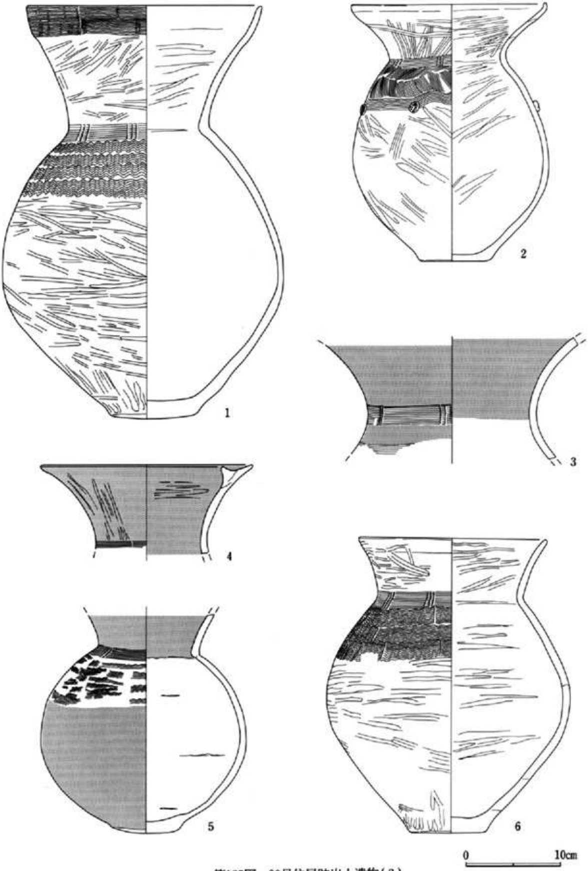
1　淡褐色土　灰褐色焼土粒・灰白色粒子・褐色土粒を含む。
2　黒褐色土　褐色・灰白色粒子を含む。
3　褐色土　　やや粘性。灰白色粒子を含む。
4　黒褐色土　砂礫・褐色土塊を含む。

第183図　90号住居跡　炉

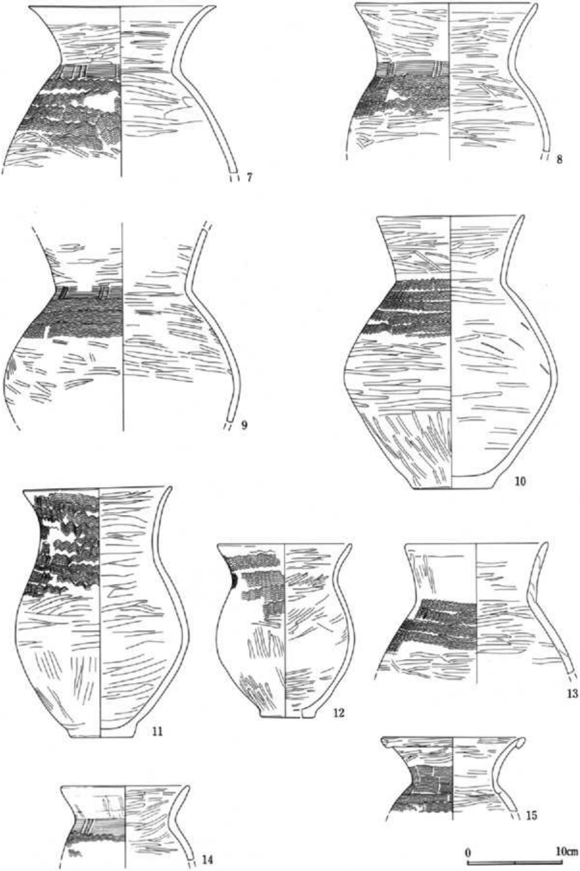


ガラス玉　1　PL205
径4.5㎜・厚2.2㎜・孔径0.4㎜
色調はコバルトブルー
融解により丸みを帯びる。

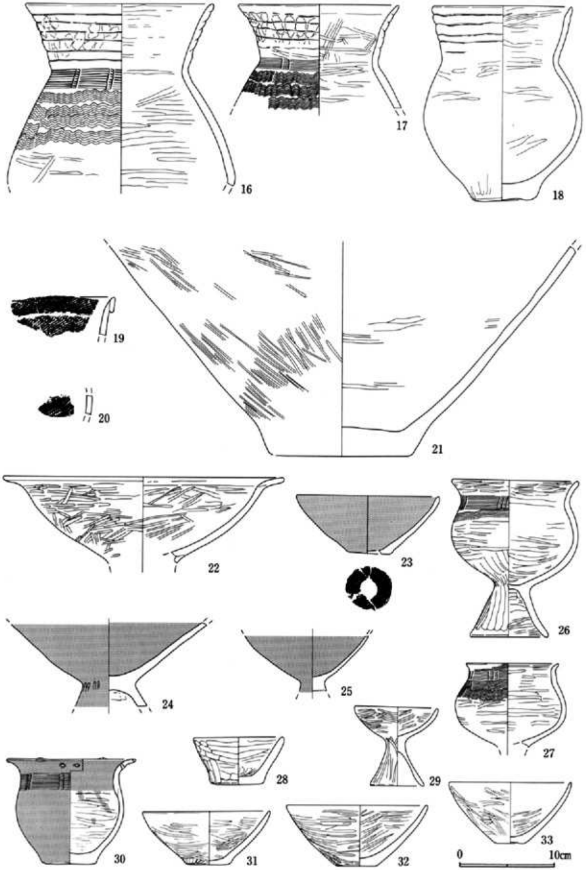
第184図　90号住居跡出土遺物(1)



第185図　90号住居跡出土遺物（２）



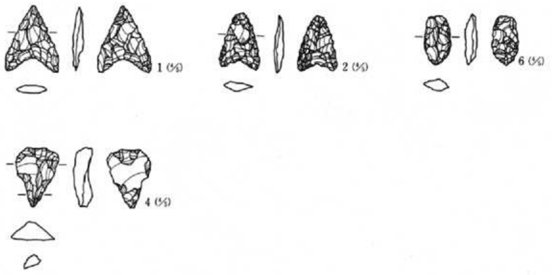
第186図　90号住居跡出土遺物（３）



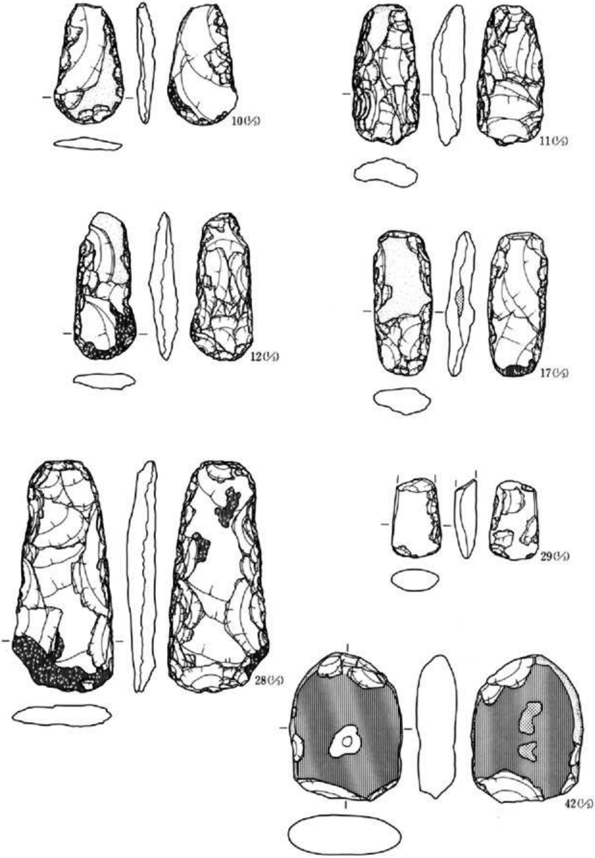
第187図　90号住居跡出土遺物（4）

90号住居跡出土土器観察表

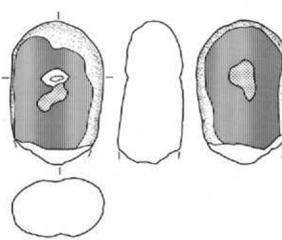
番号	PL	器種	計測値(mm) 口	高	底・脚	文様の特徴 口縁(a) 頸(b) 胴(c)	施文具 幅(mm)/本数	整形 内	外	胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置 備考
1	203	大型壺	(250)	435	90	a 2波　b 3止簾　c 4波	20/12	ロミガキ胴ナデ	ミガキ	B	にぶい橙		口1/2欠	埋土
2	203	中型壺	210	270	60	b 2止簾　c羽､横線､貼付	13/11	ミガキ	ミガキ	A	橙		口1/2欠	床入口貼付文9ヶ所
3		甕				b 3止簾　c横線文	21/12	剥離	ミガキ	A	橙			埋土
4		中型壺	(226)			b簾か		ミガキ	ミガキ	F	淡黄		口片	埋土
5	204	中型壺			72	b 2止簾　c多段波	15/12	剥離	ミガキ	B	淡橙		口欠	床入口
6	203	甕	200	313	81	b 3止簾　c 3波	22/11	ミガキ	ミガキ	B	浅黄橙	内面コゲ	胴1/3欠	床中央
7	202	大型壺	(200)			b 3止簾　c 5波	17/13	ミガキ	ミガキ	B	橙		口～胴	床中央
8	203	甕	194			b 3止簾　c 3波	17/10	ミガキ	ミガキ	A	にぶい黄橙	肩煤	口～肩3/4	床入口
9	202	甕				b 3止簾　c 3波	16/9	ミガキ	ミガキ	A	にぶい黄橙	肩煤	頸～胴	埋土
10	203	小型壺	157	288	82	b～c 6波	11/6	ミガキ	ミガキ	A	明褐	胴下被熱	1/2	床中央
11	204	甕	159	265	67	a～c 12波	12/6	ミガキ	ミガキ	A	にぶい黄橙	頸～胴上煤	口胴一部欠	埋土
12	204	小型甕	(144)			a～c 4波	-/-	ミガキ	ミガキ	C	明赤褐	胴被熱	口～胴1/2	埋土
13	204	甕	152			b 5波	16/6	ミガキ	ロナデ胴ミガキ	A	橙	胴被熱	口～肩2/3	埋土
14	203	小型甕	135			b 3止簾　c波	16/8	ミガキ	ナデ	C	にぶい赤褐	肩被熱	口～肩	埋土
15	204	小型甕	153			b多段波		ミガキ	ミガキ	B	赤橙	肩煤	口～肩	埋土
16	204	甕	200			a 6横上　b 2止簾　c 4波	23/8	ミガキ	ミガキ	D	橙	片側被熱	口～胴	床中央
17	203	甕	170			a 5横上　b 2止簾　c 3波	13/10	ミガキ		A	橙		口～肩	埋土
18	204	小型甕	146	206	68	a 5横上		ミガキ	ミガキ	A	にぶい赤褐	胴被熱	胴1/3欠	床入口
19		甕				a斜縄	LR	ミガキか		D	にぶい橙		口片	埋土
20		甕				斜縄	LR	ミガキ		A	にぶい橙		破片	埋土
21	205	大型壺			120			ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	被熱	胴～底	埋土
22	204	大型高杯	(300)					ミガキ	ミガキ	C	にぶい橙		杯1/3	埋土
23	204	小型鉢	152	(62)	(48)	孔20		ミガキ	ミガキ	A	褐		口底1/4欠	埋土有孔鉢に転用
24	204	高杯						ミガキ	ミガキ	A	橙		口脚欠	埋土
25	204	高杯						ミガキ	ミガキ	A	褐		杯1/2	床入口
26	204	小型台付甕	135	166	84	b 3止簾　c波	16/12	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	肩胴煤	口～胴1/3欠	埋土
27	204	小型台付甕	98			a波　b 3止簾　c 2波	12/8	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	胴被熱	脚欠	床入口
28		小型鉢	96	50	56			ナデ	ナデ	B	橙		完形	埋土
29	205	ミニチュア高杯	89	84	57			ミガキ	ミガキ	C	橙		口一部欠	埋土
30	205	小型短頸壺	(136)	111	57	a 2孔4瘤突起　b 3止簾	18/11	ミガキ		A	橙		口3/4欠	床入口
31	205	小型鉢	135	61	47			ミガキ	ミガキ	D	淡黄		口一部欠	埋土
32	205	鉢	(150)					ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙		口～底1/2	埋土
33		小型鉢	(130)	65	30			ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		口～底1/4	埋土



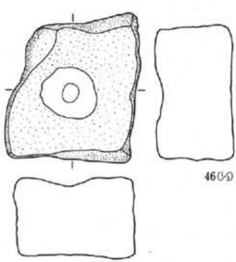
第188図　90号住居跡出土遺物(５)



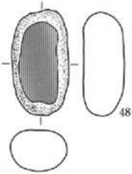
第189図　90号住居跡出土遺物（６）



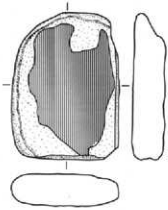
43(1/3)



46(1/4)



48(1/3)



52(1/3)

第190図　90号住居跡出土遺物(7)

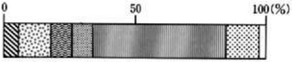
90号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	完形	2.2	1.8	0.4	0.7	黒曜	凹基無茎鏃。
2	石鏃	覆土	完形	1.8	1.4	0.3	0.7	黒曜	凹基無茎鏃。
3	石鏃	覆土	1/2	1.3	1.8	0.3	0.6	黒曜	凹基無茎鏃。先端欠損。
4	石錐	覆土	完形	1.9	1.4	0.7	1.3	黒曜	器体上部および刃部両面に調整。
5	石錐	覆土	破片	1.9	0.7	0.7	1.0	黒曜	刃部破片。下半の稜線磨耗。
6	楔	覆土	完形	1.6	0.9	0.4	0.6	黒曜	両面ほぼ全面に調整。
7	楔	覆土	完形	1.4	1.0	0.5	0.7	黒曜	両端に剥離痕。
8	楔	覆土	完形	1.7	0.9	0.5	0.8	黒曜	両端に剥離痕。
9	打斧	下位	1/2	8.5	5.0	1.4	77.3	粗安	刃部磨耗。基部欠損。II b類。
10	打斧	床直	完形	9.5	5.5	1.4	69.3	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。II b類。
11	打斧	床下	完形	11.0	5.2	2.6	166.2	粗安	II b類。
12	打斧	床下	完形	11.5	4.8	2.2	125.4	硬泥	刃部磨耗。II b類。
13	打斧	下位	2/3	9.7	5.0	1.6	80.4	変安	刃部欠損。III類。
14	打斧	床直	2/3	10.0	5.9	1.6	28.5	粗安	刃部欠損。II b類。
15	打斧	床直	2/3	9.7	4.8	1.7	84.3	細安	基部欠損。II b類。
16	打斧	下位	2/3	8.4	4.7	1.5	73.6	珪頁	刃部磨耗。基部欠損。II b類。
17	打斧	下位	完形	11.3	4.7	2.3	139.1	変閃	刃部磨耗。III類。
18	打斧	下位	一部欠	10.2	4.5	1.5	84.3	硬泥	刃部欠損。III類。
19	打斧	中位	完形	10.6	3.5	1.9	90.2	珪頁	刃部磨耗。III類。
20	打斧	中位	1/2	9.3	4.6	1.9	78.0	硬泥	刃部欠損。II b類。

No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
21	打斧	床直	1/3	7.3	4.1	1.6	46.7	細安	刃部破片。形状不明。磨耗みられる。
22	打斧	下位	1/2	7.1	5.0	1.5	77.2	硬泥	両端欠損。形状不明。
23	打斧	床直	2/3	8.8	4.9	1.4	73.2	細安	基部欠損。Ⅲ類。
24	打斧	床直	1/2	7.4	5.3	2.0	99.9	珪頁	基部欠損。器表面風化激しい。Ⅲ類。
25	打斧	床直	破片	5.3	4.0	1.4	40.8	硬泥	基部破片。形状不明。
26	打斧	床直	1/3	5.2	4.1	2.2	41.0	珪頁	刃部破片。形状不明。
27	打斧	床下	1/3	7.9	5.0	1.4	64.0	細安	刃部欠損。Ⅱｂ類。
28	石鍬	床直	完形	18.2	8.0	2.4	404.0	細安	刃部広がる。刃部・裏面上部に磨耗。
29	磨斧	下位	1/2	6.3	3.9	1.9	71.1	変玄	基部欠損。両面に剥離痕残す。
30	磨斧	下位	1/3	7.0	4.8	2.2	113.7	変玄	未製品の破損品。敲打による整形途中。未研磨。
31	磨斧	下位	1/3	7.0	6.4	2.7	182.4	変玄	刃部破片。表面は研磨してあるが、裏面は剥離痕残す。
32	石核	上位	完形	9.6	7.9	3.9	306.2	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
33	石核	床下	完形	7.9	7.9	4.2	308.8	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
34	石核	床直	破片	5.8	6.5	2.4	98.6	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
35	石核	床直	破片	7.0	5.3	3.2	108.7	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
36	石核	下位	完形	9.0	7.1	4.9	250.1	硬泥	分割礫の一端で少数の剥片剥離。
37	石核	下位	完形	5.5	6.2	2.5	82.5	硬泥	小型の盤状石核。両面で周辺から剥片剥離。
38	石核	床直	完形	7.3	6.0	3.2	131.8	硬泥	剥片の周辺を折り取るように剥片剥離。
39	石核	床下	完形	11.2	7.1	4.0	270.2	硬泥	剥片の一側腹面側で剥片剥離。
40	石核	床直	完形	11.5	7.5	8.1	888.6	硬泥	賽子状。打面・作業面90°転移して剥片剥離。
41	石核	床下	完形	15.2	9.3	6.5	874.8	硬泥	分割礫の一端で少数の剥片剥離。
42	凹石	床直	一部欠	11.6	8.9	3.1	490.1	凝砂	盤状の円礫。表面に凹み・研磨面、裏面に敲打・研磨面。
43	凹石	床直	2/3	11.3	7.5	5.2	589.4	デイ	盤状の円礫。表面に凹み・研磨面、裏面に敲打・研磨面。
44	凹石	下位	完形	11.8	4.5	3.1	226.7	デイ	棒状の円礫。表裏に凹み、両端に敲打痕。
45	凹石	下位	1/3	7.7	8.0	5.8	412.3	デイ	表裏に凹み・研磨面。下半欠損。
46	凹石	床直	完形	10.8	11.7	6.4	1197.5	砂岩	盤状の角礫。表面に凹み。
47	磨石	下位	完形	8.8	4.4	4.4	235.2	変安	棒状の円礫。表裏・両側に弱い研磨。両端に敲打痕。
48	磨石	床下	完形	8.2	4.5	3.3	163.0	凝砂	棒状の円礫。表面に弱い研磨面。
49	磨石	床直	1/3	6.1	7.6	4.2	264.2	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。下半欠損。
50	磨石	下位	1/2	7.3	6.1	3.8	189.7	デイ	盤状の円礫。表面に弱い研磨・敲打痕、上端に敲打痕。
51	磨石	下位	完形	16.6	8.0	3.6	631.4	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
52	砥石	床下	完形	11.5	8.7	2.6	361.9	凝砂	盤状の亜角礫。表面に使用面。

90号住居跡器種組成表

器　種	石鏃	石錐	楔	打斧	石鍬	磨斧	二次	微細	石核	凹石	磨石	砥石	剥片
個　数	3	2	3	19	1	3	23	24	25	5	5	1	205



90号住居跡石材重量組成グラフ

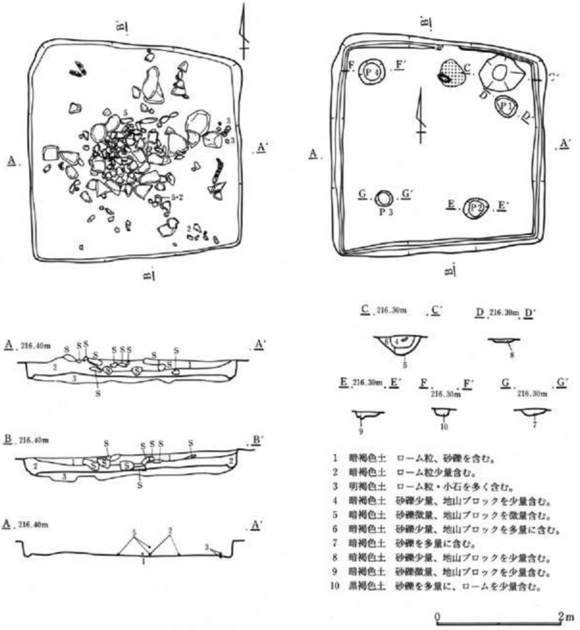
第３節　古墳時代以降の住居跡と出土遺物

１号住居跡（第191～193図、PL18・206）

住居の平面形態は隅丸方形であるが、東壁が西壁よりも短いため台形を呈している。貯蔵穴は楕円形で、底部は狭いが深くなっており、立ち上がりは比較的急である。床面は、ローム・小礫を含む明褐色土で貼床としているものの、比較的軟弱である。掘り方はやや凹凸があるが、全体としては平坦となっている。

住居内には、中央から周辺にかけ長径５㎝～50㎝の礫が多量に含まれているが、中央部には小礫が多く、周辺部には大礫が多くなっている。また、北西部と東部からは炭化材が少量出土している。

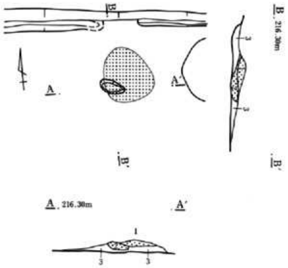
カマドは残存状態が極めて悪く、壁溝の切れ目で位置がわかるだけである。なお、住居内の礫については、



第191図　１号住居跡

中央から周辺にかけてレンズ状に入っているため、住居の埋没途中で入れられた可能性が高い。

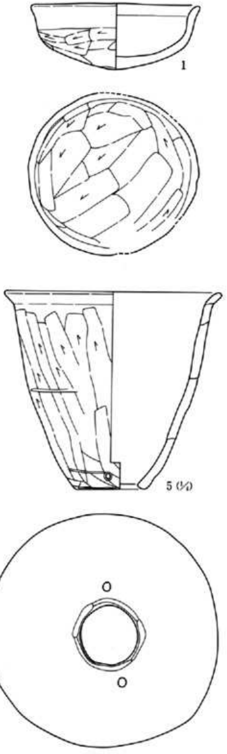
出土遺物として、炭化材の他に土師器坏・土師器台付甕・土師器甑が出土している。

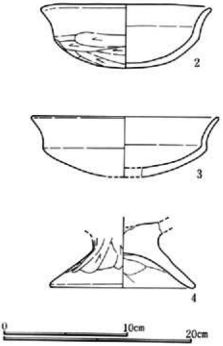


1　暗褐色土　砂礫・地山ブロック・焼土粒子を含む。
2　焼土　　　暗褐色土ブロックを含む。
3　暗褐色土　砂礫を少量含む。

0　1m

第192図　１号住居跡　カマド



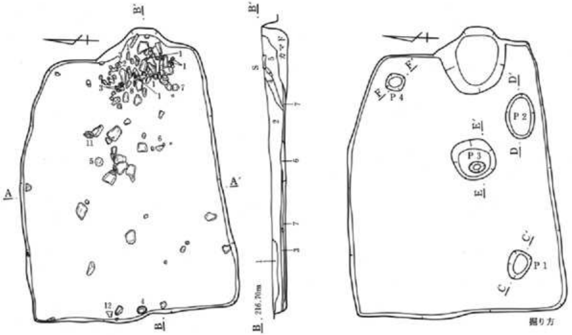


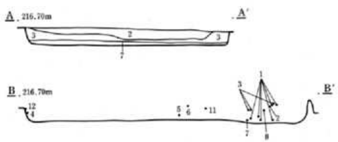
第193図　１号住居跡出土遺物

１号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床中央	13.1　5.2	砂粒を含む	鈍い黄橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	一部欠損
2	土師器 坏	床南側	13.6　5.0	小石・砂粒を含む	鈍い黄橙	不良	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	2/3
3	土師器 坏	床東側	(14.8)	砂粒を含む	橙	普通	内外面磨滅のため不明	2/5
4	土師器 台付甕	埋土	11.5	砂粒を含む	褐灰	不良	外　横撫で後箆削り 内　撫で	
5	土師器 甑	床中央	(11.5)　21.0 7.4	砂粒を含む	橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部横撫で　体部箆横撫で	2/3 下部に焼成前一対の穿孔

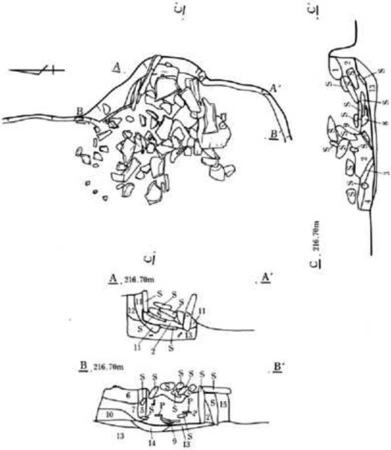
３号住居跡（第194～197図、PL18・206）



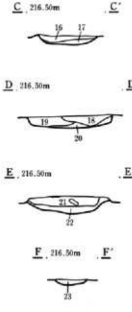


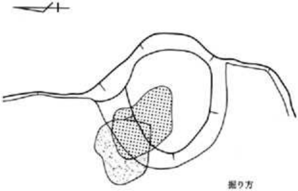
1　暗褐色土　黄色小石を含む。
2　暗褐色土　１層よりやや暗く、小石・黄色小石を含む。
3　暗褐色土　２層より暗く、小石・黄色小石・炭化物を含む。
4　暗褐色土　３層よりさらに暗く、小石を含む。
5　暗褐色土　やや砂質。
6　暗褐色土　砂礫・黒褐色土ブロックを含む。
7　黒褐色土　炭化物粒子を多く含む。

第194図　３号住居跡



1　黒褐色土　砂礫・焼土粒子を少量含む。
2　黒褐色土　砂礫・やや粗い焼土粒を少量含む。
3　暗褐色土　焼土粒を全体に含む。
4　黒褐色土　砂礫を少量含む。１層より粒子細かく暗い。
5　暗褐色土　砂粒を全体に含む。
6　暗褐色土　砂粒・焼土粒を全体に含む。
7　暗褐色土　焼土やや多く、砂粒少量含む。
8　暗褐色土　焼土粒を少量含む。
9　黄褐色土　黒褐色土小ブロックを少量含む。
10　暗褐色土　砂礫・褐色土ブロックを少量含む。
11　暗赤褐色土　焼土を多く含む。
12　暗褐色土　砂礫を少量含む。
13　黒褐色土　砂礫・焼土粒子を少量含む。
14　暗赤褐色土　焼土が主体。黒褐色土ブロックを多く含む。
15　暗褐色土　砂礫・焼土粒子を少量含む。





掘り方

16　暗褐色土　砂礫・赤褐色土ブロックを僅かに含む。
17　黄褐色土　ローム粒主体。黒褐色土ブロックを僅かに含む。
18　暗褐色土　砂礫・焼土粒子・黄色粒子を少量含む。
19　暗褐色土　砂礫・褐色土ブロックを少量含む。
20　暗褐色土　褐色土ブロックを少量含む。
21　暗褐色土　砂礫・褐色土ブロック・焼土粒子を少量含む。
22　褐色土　砂礫を多く含む。
23　黒褐色土　砂礫・褐色土ブロックを僅かに含む。

0　1m

第195図　３号住居跡　カマド

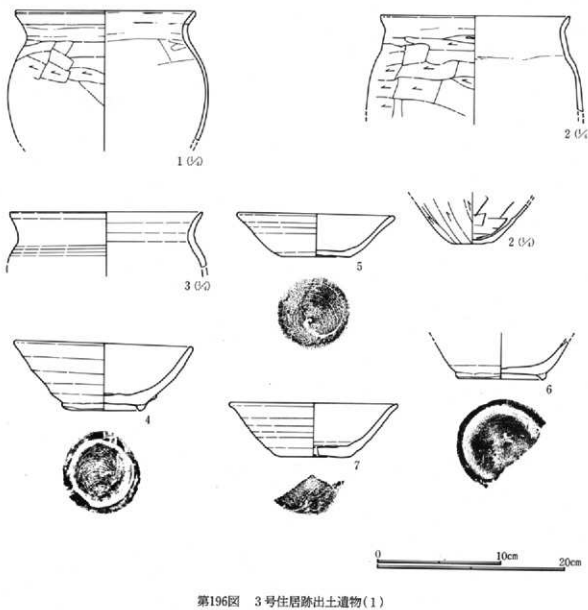
3号住居跡は隅丸長方形であるが、東壁北側が短く北壁は途中で折れる形となる。床面は炭化物を含む黒褐色土で貼床としており、ほぼ平坦。掘り方も平坦であり、Pit状の掘り込みが4ヶ所検出されている。

遺物は、カマドおよびカマド西側と西壁際の床面付近から比較的残りの良い状態で出土しており、カマド構築材と考えられる石も多くみられる。

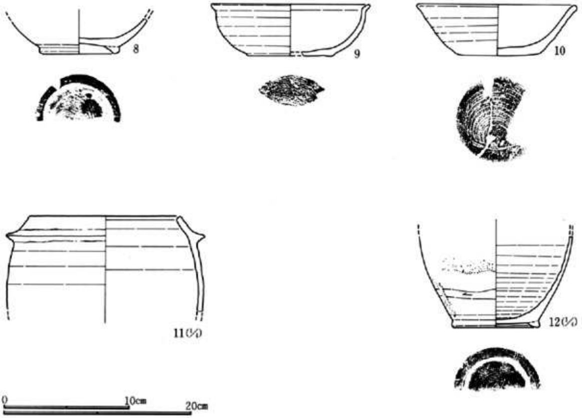
カマドは砂岩の切り石を構築材としており、側壁・天井等すべてに使用されていたと考えられ、多量の砂岩が出土している。火床面は床面とほぼ同レベルで、よく焼けている。その左手前に薄い粘土塊が検出されている。

カマドの構築材である砂岩は、側壁部および袖の一部は残存しているものの、天井部のものは燃焼部に落ち、他は燃焼部から手前に崩れ出ている。砂岩の間から土器片も少量出土している。

住居跡からの出土遺物のうち、土師器坏・土師器甕・須恵器坏の破片が特に多い。そのほか羽釜・灰釉陶器瓶が若干出土している。



第196図　3号住居跡出土遺物(1)



第197図　3号住居跡出土遺物(2)

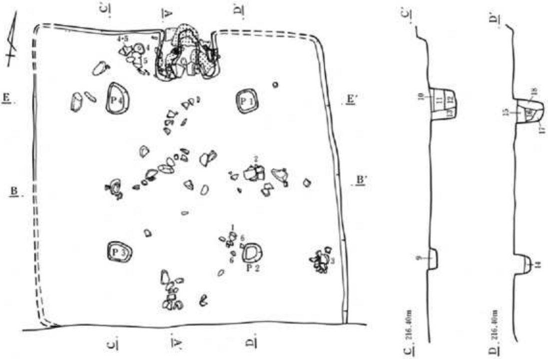
3号住居跡出土土器観察表

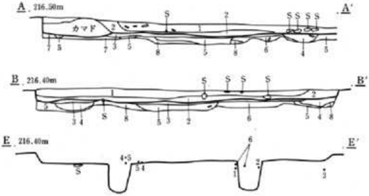
番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 甕	カマド周辺	18.7	精製	鈍い褐	良好	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
2	土師器 甕	埋土	(19.8) (4.0)	小砂粒を含む	鈍い褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	外面スス付着
3	土師器 甕	埋土	20.3	小砂粒を含む	鈍い黄橙	普通	内外面横撫で	
4	須恵器 坏	埋土	14.1　5.5 6.5	微砂粒を含む	灰	不良	ロクロ整形　底面回転糸切り 付け高台	完形
5	須恵器 坏	床中央	12.4　3.5 (4.0)	微砂粒を含む	鈍い黄橙	不良	ロクロ整形　底面回転糸切り	一部欠損
6	須恵器 坏	埋土	(6.6)	微砂粒を含む	灰	普通	ロクロ整形　底面回転糸切り	1/3
7	須恵器 坏	カマド周辺	(13.4) (4.2) (5.6)	微砂粒を含む	灰	普通	ロクロ整形　底面回転糸切り	1/4
8	須恵器 坏	埋土	(5.8)	微砂粒を含む	灰白	不良	ロクロ整形　底面回転糸切り	1/4
9	須恵器 坏	埋土	(12.5) (4.0) (6.8)	微砂粒を含む	灰黄・黒	不良	ロクロ整形　内面箆磨き 底面回転糸切り	1/5
10	須恵器 坏	埋土	12.6　4.1 6.6	砂粒を含む	灰	普通	ロクロ整形　底面回転糸切り	4/5 口唇部に自然釉
11	須恵器 羽釜	埋土	(16.0)	砂粒を含む	灰黄	普通	ロクロ整形	
12	灰釉陶器 瓶	埋土	(9.1)	精製	灰白	良好	ロクロ整形	

5号住居跡（第198～201図、PL18・19・206）

平面形態は方形と考えられる。柱穴が住居の対角線上に4基検出された。貯蔵穴は確認されていない。床面は暗褐色土で貼床としており、凹凸が多く、比較的軟弱である。

掘り方は、東壁中央部下から南壁を経て西壁中央下まで、幅40cm～70cm、深さ10cmのコの字形の溝状の掘り込みと、中央部に長径1.4m、短径1.3m、深さ15cmの土坑状の掘り込みが検出されているが、他は平坦な掘り方である。





1　暗褐色土　黄色粒子・赤色粒子・小石を多量に含む。
2　暗褐色土　黄色粒子・橙色粒子をやや多く含む。
3　暗褐色土　砂礫を僅かに含む。
4　暗褐色土　砂礫を少量含む。
5　暗褐色土　砂礫をやや多く含む。
6　褐色土ブロックと暗黄褐色土ブロックの混合層。砂礫を僅かに含む。
7　褐色土　砂礫がやや多く、暗黄褐色土粒子を僅かに含む。
8　小砂礫層
9　暗褐色土　小砂礫を多量に含む。
10　暗褐色土　砂礫を多量に含む。
11　黒褐色土　砂礫を含む。
12　黒褐色土　砂礫を少量含む。
13　暗褐色土　砂礫を多量に含む。
14　暗褐色土　砂礫を多量に含む。
15　黒褐色土　砂礫を少量含む。
16　黒褐色土　砂礫を僅かに含む。
17　黒褐色土　砂礫を多く含む。
18　暗褐色土　砂礫を多く含む。

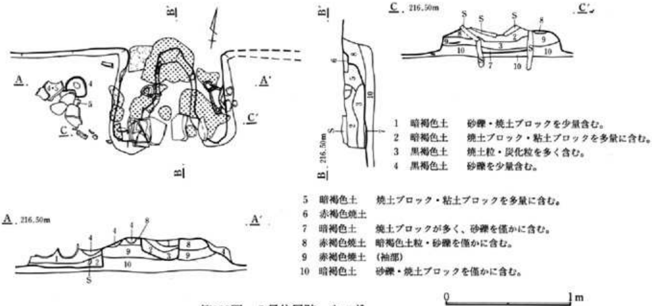
第198図　5号住居跡

0　　2m

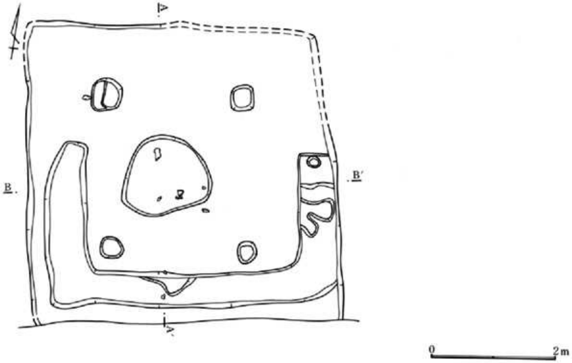
遺物は、住居跡全域から残りの良い状態で出土したが、東壁際は少ない。中央部と南壁中央付近から礫が比較的まとまって出土しており、こも編石の可能性も考えられるが、形態・規模等不規則である。

カマドは砂岩の切り石を芯材として袖を構築しており、天井石も砂岩を使用している。煙道部手前から天井石の下にかけて、焼土が多量に検出されており、天井部の崩落土と考えられる。火床面は床面と同レベルで、あまり焼けていない。

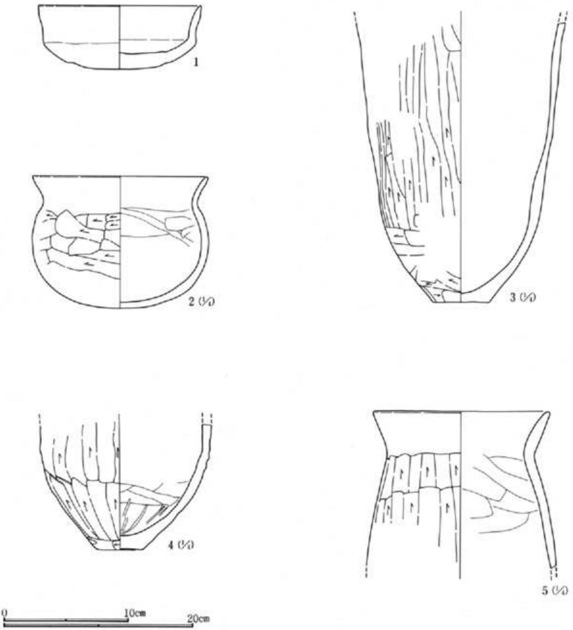
出土遺物としては、カマド左脇から大型の甕の破片が出土している。住居内からの遺物の出土量は少ないものの、残存状態は比較的良好である。土師器坏・土師器甕が出土している。



第199図　５号住居跡　カマド



第200図　５号住居跡　掘り方



第201図　５号住居跡出土遺物

５号住居跡出土土器観察表

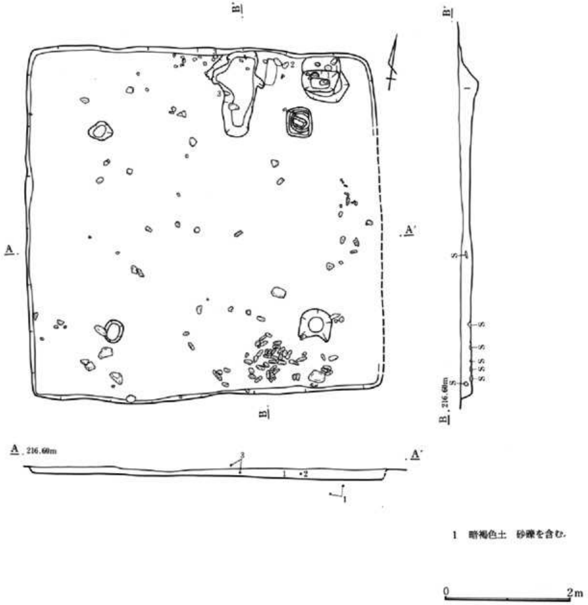
番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床南側	(13.0)　5.0	砂粒を含む	橙	普通	内外面磨滅のため不明	1/2
2	土師器 甕	床南側	18.4　14.0 2.8	砂粒を含む	鈍い黄褐	普通	外　口縁部横撫で 内　口縁部～体部横撫で	2/3 内面黒斑あり
3	土師器 甕	床東側	 6.0	小石・砂粒を含む	明褐	普通	外　箆削り 内　撫で	2/3 外面スス付着
4	土師器 甕	床北側	 4.7	小石・砂粒を含む	鈍い褐	普通	外　箆削り 内　撫で	
5	土師器 甕	床北側	(18.4)	砂粒を含む	赤褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	2/3

7号住居跡（第202～205図、PL19・207・249・250）

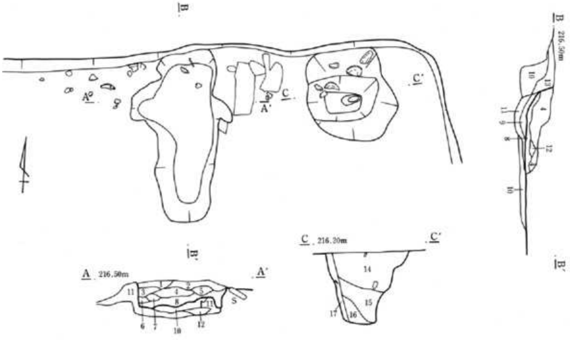
住居は正方形を呈する。地山を平坦に掘り込んでおり、掘り込んだ面をそのまま床面としている。床面は若干凹凸があるものの、ほぼ平坦で固くしまっている。柱穴は住居の対角線上に4ヶ所確認された。柱穴の深さはいずれも床面より約45cmであるが、形態はそれぞれ異なっている。

貯蔵穴は北東コーナーとカマドの中間にあり、平面形は不整円形で底面付近は長方形を呈している。貯蔵穴の深さは約55cmと深い。カマドは北壁の中央よりやや東寄りに確認された。カマドの袖は焼土を含んだ暗褐色土および砂岩の割石で造られているが、残存状況は良くない。カマドの焚口は床面を15cm程度掘り凹めて造られているが、灰・焼土が多く残されており、廃絶時の火床面は床面とほぼ同レベルであった。

出土遺物としては、南壁近くの床面上からこも編石が集中して出土している。土器は住居全域から出土しているが、小破片が多い。



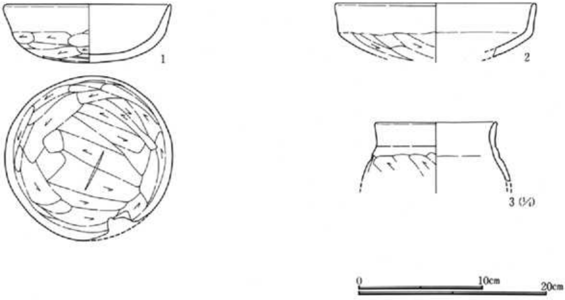
第202図　7号住居跡



1　暗褐色土　砂礫を少量含む。
2　暗褐色土　焼土粒・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土　焼土粒・炭化物・小石を僅かに含む。
4　暗褐色土　焼土粒をやや多く含む。
5　暗褐色土　砂礫・黄色粒子をやや多く、焼土粒を僅かに含む。
6　暗褐色土　黄色粒子を少量含む。
7　暗褐色土　黄色粒子・小石をやや多く含む。
8　暗褐色土　径約５㎜の焼土塊を含む。
9　暗褐色土　焼土粒・灰を多量に含む。
10　暗褐色土　小砂粒を含む。
11　暗褐色土　焼土を全体に含む。
12　暗褐色土　焼土粒・焼土塊を多く含む。
13　暗褐色土　小砂礫・焼土粒を少量含む。
14　暗褐色土　砂礫を多量に含む。
15　暗褐色土　砂礫・焼土粒を僅かに含む。
16　褐色土　　黒褐色土ブロックを多く含む。
17　黒褐色土　砂礫・焼土粒を僅かに含む。

0　　1ｍ

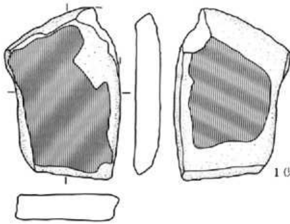
第203図　７号住居跡　カマド



第204図　７号住居跡出土遺物（１）

７号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	貯蔵穴	13.1　4.6 2.5	砂粒を含む	橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部〜体部横撫で	ほぼ完形
2	土師器 坏	カマド周辺	(15.8)	砂粒を含む	鈍い黄橙		外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部〜体部横撫で	1/4
3	土師器 小型甕	カマド周辺	(12.5)	砂粒を含む	明赤褐		外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部〜体部横撫で	1/2



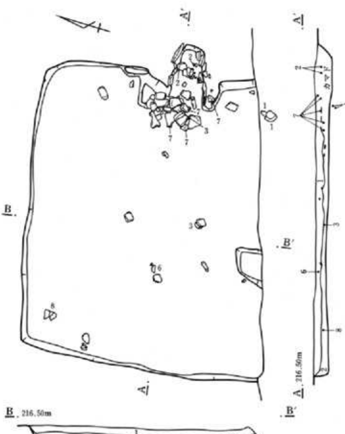
第205図　７号住居跡出土遺物(２)

７号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	石材名	特徴
1	砥石	不明	1/3	18.1	12.3	2.8	817.7	砂岩	盤状の角礫。表裏に弱い研磨面。
2	こも	床下	完形	11.6	5.2	4.7	305.3	変安	棒状の円礫。両端に敲打痕。
3	こも	床下	一部欠	11.3	6.5	2.9	238.5	変安	盤状の円礫。裏面剥落。
4	こも	床下	完形	11.7	5.6	4.2	356.6	変安	盤状の円礫。
5	こも	床下	完形	13.1	4.9	3.5	269.8	粗安	棒状の亜円礫。
6	こも	床下	完形	12.6	6.9	2.9	303.5	粗安	盤状の円礫。
7	こも	床下	完形	11.2	6.6	3.3	359.6	粗安	盤状の円礫。
8	こも	床下	完形	10.0	5.7	2.9	254.0	変安	盤状の円礫。
9	こも	床下	完形	10.1	5.7	4.1	346.2	粗安	盤状の円礫。
10	こも	床下	完形	9.7	5.8	4.4	357.2	変安	盤状の円礫。
11	こも	床下	完形	12.4	5.3	3.3	256.8	変安	盤状の円礫。
12	こも	床直	完形	15.7	6.2	0.6	635.0	珪頁	棒状の円礫。
13	こも	床下	完形	12.0	5.4	4.6	454.6	砂岩	棒状の円礫。
14	こも	床下	完形	11.0	5.7	4.3	324.8	変安	棒状の円礫。
15	こも	床下	完形	13.2	5.0	3.9	347.1	変安	棒状の円礫。
16	こも	床下	完形	12.4	6.3	3.5	352.2	デイ	盤状の円礫。
17	こも	床下	完形	11.8	6.4	3.5	284.8	デ凝	盤状の円礫
18	こも	床下	完形	11.3	5.5	4.8	339.5	砂岩	盤状の円礫。
19	こも	床下	完形	13.3	5.2	4.1	427.3	デイ	棒状の円礫。
20	こも	床下	完形	12.4	4.1	4.0	290.4	変安	棒状の円礫。
21	こも	床下	完形	13.3	5.4	3.4	308.3	珪頁	棒状の円礫。下端に敲打痕。
22	こも	床下	完形	10.9	6.5	3.9	340.6	粗安	盤状の円礫。
23	こも	床下	完形	9.8	4.9	4.1	323.8	チャ	棒状の亜角礫。
24	こも	床下	完形	11.3	5.2	3.3	255.2	砂岩	盤状の円礫。両端に敲打痕。
25	こも	床下	完形	13.2	4.5	4.1	302.7	泥岩	棒状の円礫。両端に敲打痕。
26	こも	床下	完形	1.7	6.8	3.1	295.6	砂岩	盤状の円礫。両端に敲打痕。

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特　　徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
27	こも	床下	完形	10.5	5.4	4.6	315.6	粗安	盤状の円礫。
28	こも	床下	完形	11.9	4.6	3.5	328.3	砂岩	棒状の亜角礫。
29	こも	床下	完形	12.0	6.1	2.6	296.1	変安	盤状の円礫。
30	こも	床下	一部欠	12.4	5.0	3.8	300.7	粗安	棒状の円礫。
31	こも	床下	完形	10.0	5.6	3.0	240.3	粗安	盤状の円礫。
32	こも	床下	完形	13.1	5.9	2.9	262.3	変安	盤状の円礫。両端に敲打痕。
33	こも	床下	完形	10.3	4.8	3.8	261.2	珪準	棒状の亜角礫。
34	こも	床下	完形	9.3	4.5	3.5	265.7	砂岩	棒状の円礫。
35	こも	床下	一部欠	12.9	4.5	3.5	257.4	ひん	棒状の円礫。
36	こも	床下	完形	11.4	4.9	3.8	339.4	石閃	棒状の亜円礫。
37	こも	床下	完形	11.2	6.0	3.2	254.6	変安	盤状の円礫。
38	こも	床下	完形	10.5	5.3	3.4	263.9	変安	盤状の円礫。
39	こも	床下	完形	13.9	4.7	2.5	249.6	玄武	盤状の円礫。
40	こも	床下	完形	14.1	5.5	2.7	299.6	珪頁	盤状の円礫。
41	こも	床下	1/2	12.8	5.4	3.3	256.5	デイ	盤状の円礫。左側・裏面欠損。
42	こも	床直	完形	11.1	5.2	3.1	305.7	玄武	棒状の円礫。
43	こも	床下	完形	12.1	5.7	2.3	253.5	玄武	盤状の円礫。両端に敲打痕。

８号住居跡（第206～210図、PL19・207）



1　暗褐色土　砂礫を多量に、焼土を少量含む。
2　暗褐色土　砂礫・焼土粒子を少量含む。
3　暗褐色土　砂礫・焼土・粘土を少量含む。
4　褐色土と黄褐色粘土との混合。

第206図　８号住居跡

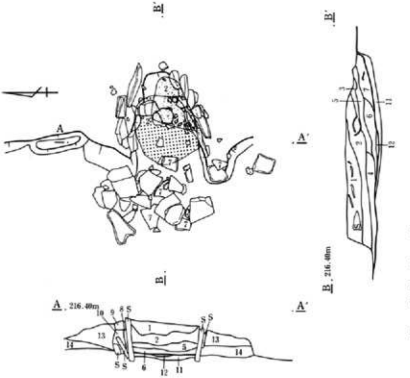
住居は５号溝によって南側の３分の１程度を削られている。平面形は隅丸方形とも考えられるが、北西コーナーは鈍角となっており、東壁と西壁は平行しない。

床面は、地山および84号住居跡埋没土を掘り込んだ面をそのまま床面としている。平坦な床面であるが、比較的軟弱である。柱穴は検出されず、また貯蔵穴も調査範囲内からは確認されなかった。

カマドは東壁に付設されている。カマドの残存状況は良く、砂岩の割石を袖から側壁にかけて構築材として使用している。また、袖は褐色粘土で造られている。火床面は２面あり、いずれも良く焼けているが、古い方の火床面が床面とほぼ同レベルである。

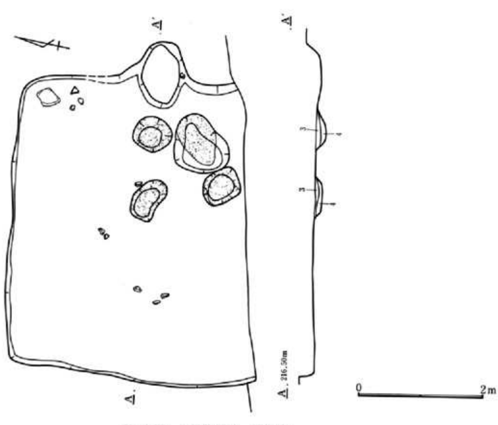
住居内南側に５号溝に一部を削られた不整方形の Pit が存在するが、深さは約７cm､性格については不明である。

遺物は住居内全域から出土しているものの、小破片が多い。カマドから比較的大型の破片が出土している。

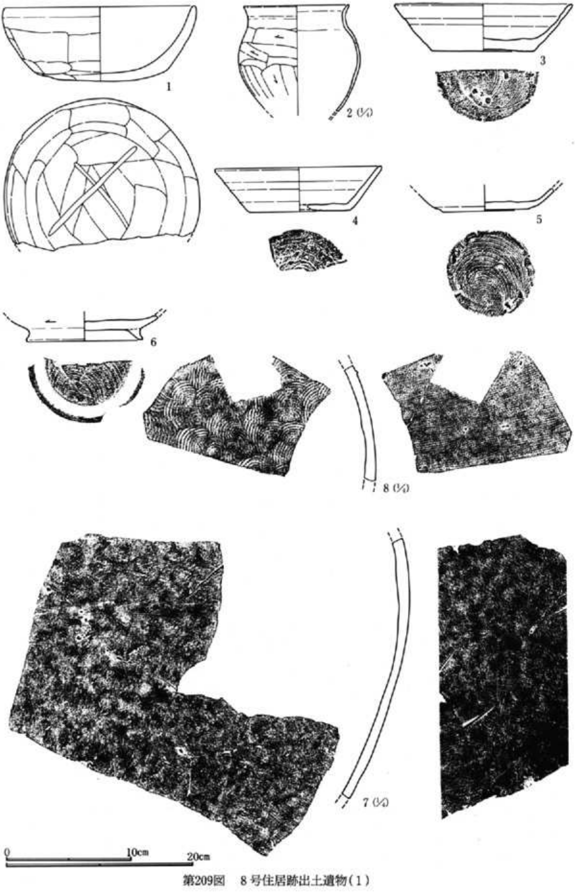


1　黒褐色土　砂礫•焼土粒を少量含む。
2　暗褐色土　焼土ブロック・粘土ブロックを多く含み、砂礫を少量含む。
3　暗褐色土　焼土粒子を少量含む。
4　暗褐色土　砂礫・炭化粒子を少量含む。
5　暗褐色土　焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。
6　赤褐色土　焼土ブロックを多量に、砂礫を僅かに含む。
7　黒褐色土　砂礫を僅かに含む。
8　黒褐色土　砂礫を極く僅かに含む。
9　暗褐色土　粘土粒・焼土粒を僅かに含む。
10　暗褐色土　粘土ブロック・焼土ブロックを多く含む。
11　赤褐色土　焼土と暗褐色土の混合したもの。砂粒を含む。
12　焼土
13　褐色粘土　暗褐色土ブロック・炭化粒子を少量含む。
14　黒褐色土　砂礫を少量含む。

第207図　８号住居跡　カマド



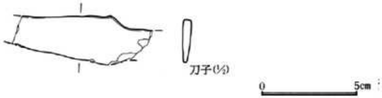
第208図　８号住居跡　掘り方



第209図　８号住居跡出土遺物(１)

8号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床南側	15.0　5.9	砂粒を含む	鈍い黄橙	普通	外　体部箆削り 内　磨滅のため不明	3/5
2	土師器 台付甕	カマド内	11.2	小砂粒を含む	明赤褐	良好	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	脚部欠損
3	須恵器 坏	床中央	(14.0)　3.7 (8.2)	精製	灰	良好	ロクロ整形　底面回転糸切り	1/2
4	須恵器 坏	埋土	(13.1)　3.5 (8.2)	精製	灰	良好	ロクロ整形　底面回転箆切り無調整	1/4
5	須恵器 坏	埋土	6.8	精製	灰	良好	ロクロ整形　底面回転糸切り	
6	須恵器 坏	埋土	(9.2)	精製	黄灰	普通	ロクロ整形　底面回転糸切り 付け高台	
7	須恵器 甕	カマド内	厚さ0.8～1.3	砂粒を含む	灰	普通	内外面叩き	
8	須恵器 甕	床西側	厚さ0.9～1.2	精製	灰	良好	内外面叩き	外面自然釉付着



第210図　8号住居跡出土遺物(２)

刀子

住居覆土中からの出土である。両端を欠損しており、残存長7.5cmである。刀部がかなり減っており、使用時における研磨に起因するものと考えられる。

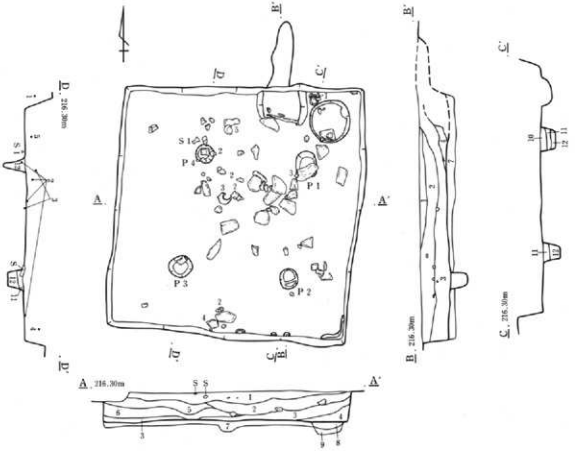
9号住居跡（第211～213図、PL19・20・207・250）

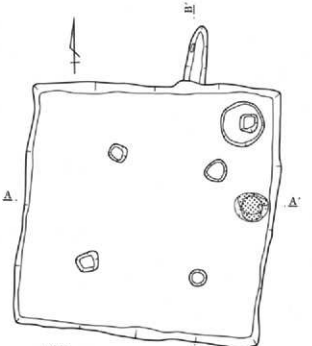
住居は正方形であるが、西壁が東壁に比べてやや短くなっている。床面は褐色粘質土で厚さ10cm～15cmの貼床をしており、若干の凹凸はあるものの平坦であり比較的しまっている。

柱穴は４基検出されているが、住居の対角線上からはずれている。貯蔵穴は北東コーナー近くに発見された。貯蔵穴は直径約65cmの円形であるが、底部にさらに径30cm、深さ15cmほどの掘り込みがある。掘り方については、床面から５cm～15cm下方であるが、若干凹凸があるものの比較的平坦である。東壁中央近くの床面下より長径55cm、深さ20cmの楕円形の Pit が発見されている。この Pit の上層ほぼ全域には焼土が遺存していた。

カマドは砂岩の割石を芯材として粘土で袖を構築している。また、カマド焚口付近の天井部にも砂岩の割石が使用されていた。火床面は床面とほぼ同レベルで、よく焼けている。煙道部の両側壁も、焚口より１ｍぐらい奥まで良く焼けている。

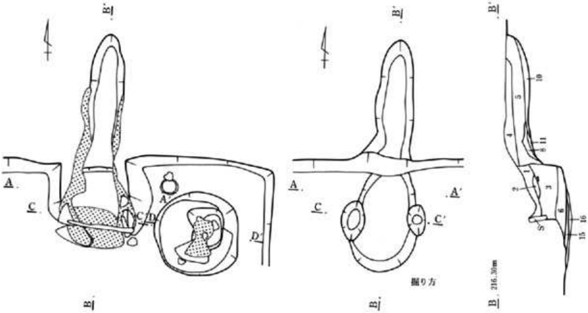
出土遺物として甕・壺・坏・砥石がある。坏はカマド右脇の床面よりやや浮いた状態で、砥石は貯蔵穴近くの床面上から出土している。

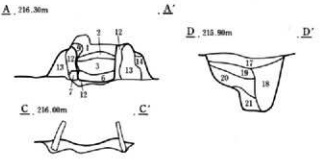




1　暗褐色土　黄色粒子・白色粒子・橙色粒子を多く含む。
2　暗褐色土　黄色粒子・橙色粒子・ロームブロックを多く含む。
3　暗褐色土　ロームブロックを大量に含む。黄色粒子・橙色粒子をやや多く含む。
4　暗褐色土　黄色粒子・橙色粒子・ロームブロックを少量含む。
5　暗褐色土　黄色粒子・橙色粒子を多く含む。
6　暗褐色土　ロームブロックを大量に含む。黄色・白色・橙色粒子を若干含む。
7　褐色土　粘質。黒褐色土ブロックを少量含む。
8　褐色土　粘質。焼土ブロック・黒褐色土ブロックを多く含む。
9　褐色土　粘質。黄色・白色粒子・焼土粒子を少量含む。
10　暗褐色土　黒褐色土ブロックを大量に含む。
11　黒褐色土　粘質暗褐色土ブロックを少量含む。
12　黒褐色土　粘質暗褐色土ブロックを多量に含む。

第211図　9号住居跡

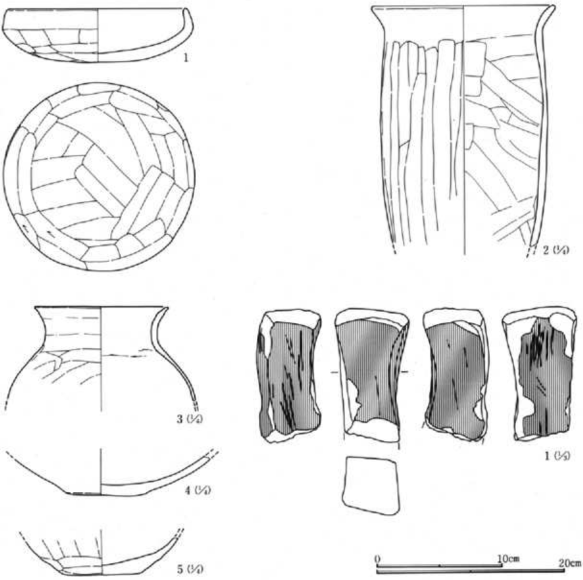




1　暗褐色土　砂礫を多量に、焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。
2　暗褐色土　焼土ブロックを多量に含む。
3　黒褐色土　焼土ブロックを少量含む。
4　暗褐色土　焼土ブロック・砂礫を少量含む。
5　暗褐色土　砂礫を少量、焼土粒子を僅かに含む。
6　暗褐色土　焼土ブロック・焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
7　暗褐色土　焼土粒子・粘土ブロック・砂粒を少量含む。
8　褐色粘土　黒褐色土ブロックを少量含む。
9　焼土
10　暗褐色土　砂礫を少量、粘土粒を僅かに含む。
11　黒褐色土　粘土ブロックを少量含む。
12　明褐色土　全体的に焼けている。
13　明褐色土　ローム主体。白色粒子がやや多く、焼土塊・黒褐色土ブロックを少量含む。
14　明褐色土　ローム主体。白色粒子を多量に、黒色土ブロックを僅かに含む。
15　赤褐色土　焼土主体。砂礫を僅かに含む。
16　明褐色土　ローム粒子を多量に、焼土塊を僅かに含む。
17　暗褐色土　砂礫を多く含む。
18　黒褐色土　粘質地山ブロックを多く含む。
19　黒褐色土　焼土ブロック・焼土粒子を僅かに含む。
20　黒褐色土　焼土ブロック・粘質地山ブロックを少量含む。
21　明褐色土　粒子の細かいローム主体。黄色粒子・白色粒子をやや多く含む。

0　1m

第212図　9号住居跡　カマド



第213図　9号住居跡出土遺物

9号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	14.0　4.3	砂粒を含む	灰黄褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	完形
2	土師器 甕	床中央	(19.2)	砂粒を含む	灰黄	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部横撫で　体部箆撫で	
3	土師器 甕	床中央	(14.2)	砂粒を含む	鈍い黄橙	不良	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部箆削り	
4	土師器 壺	埋土	 7.4	砂粒を含む	橙	良好	内外面磨滅のため不明	
5	土師器 甕	床北側	 8.7	砂粒を含む	黒	不良	外　箆削り 内　磨滅のため不明	

9号住居跡出土石器観察表

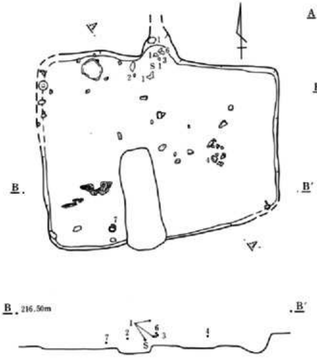
No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g） 長さ	 幅	 厚さ	 重量	石材名	特徴
1	砥石	床直	2/3	10.6	5.9	5.1	413.7	砥沢	表裏両側に研磨面・線状痕。表・両側の研磨強く、反り返っている。

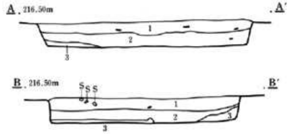
11号住居跡（第214～217図、PL20・207・250）

住居は隅丸長方形を呈しているが、東壁が短いため台形状となっている。床面は、34号住居跡の埋没土を掘り込んで造られている。ほぼ平坦な床面である。柱穴は確認されなかった。

カマドの残存状況は悪く、袖部は殆ど残っていない。火床面ははっきりしないが、床面よりやや高くなる可能性もある。カマドの側壁は良く焼けている。

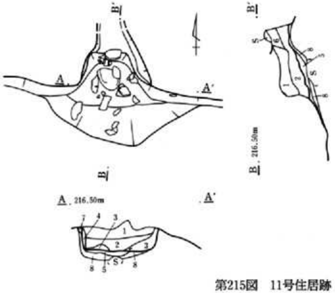
出土土器として土師器坏が4個体と小型甕、須恵器坏があるが、須恵器坏を除いて破片である。床面より12cmぐらい浮いた状態で発見されている。その他に砥石が出土している。





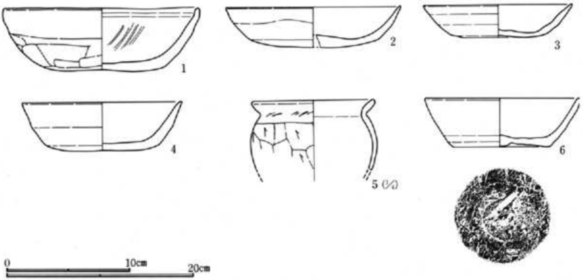
1　暗褐色土　小石・黄色粒子・白色粒子を多量に、赤色粒子を少量含む。
2　暗褐色土　黄色粒子・白色粒子を多量に、砂礫・赤色粒子を少量含む。
3　明褐色土　暗褐色土主体。ロームブロック・炭化材を多く含む。

第214図　11号住居跡



1　暗褐色土　砂礫・白色粒子・黄色粒子を多量に含む。
2　暗褐色土　黄色粒子・白色粒子を多く含む。
3　暗褐色土　砂礫・焼土粒子を少量含む。
4　暗褐色土　焼土ブロックを多く、砂礫を少量含む。
5　暗褐色土　焼土粒子・炭化粒子を少量含む。
6　暗褐色土　焼土粒子を多く、砂礫を少量含む。
7　赤褐色土　焼土主体。砂礫を僅かに含む。
8　暗褐色土　焼土粒子・焼土ブロック・砂礫を少量含む。

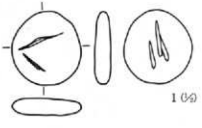
第215図　11号住居跡　カマド



第216図　11号住居跡出土遺物（１）

11号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	15.4　5.0 10.0	小砂粒を含む	橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	1/2
2	土師器 坏	埋土	(14.1)	微砂粒を含む	鈍い黄橙	良好	内外面磨滅のため不明	
3	土師器 坏	埋土	(11.9)(2.5) (7.2)	微砂粒を含む	鈍い黄橙	良好	内外面磨滅のため不明	1/2
4	土師器 坏	埋土	(12.8)(3.8) (9.2)	微砂粒を含む	鈍い橙	良好	内外面磨滅のため不明	1/3
5	土師器 小型甕	埋土	(13.1)(7.4)	精製	鈍い赤褐	良好	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
6	須恵器 坏	埋土	12.4　3.7 7.7	精製	灰	良好	ロクロ整形　底面回転箆切り後一部調整	ほぼ完形



第217図　11号住居跡出土遺物（２）

11号住居跡出土石器観察表

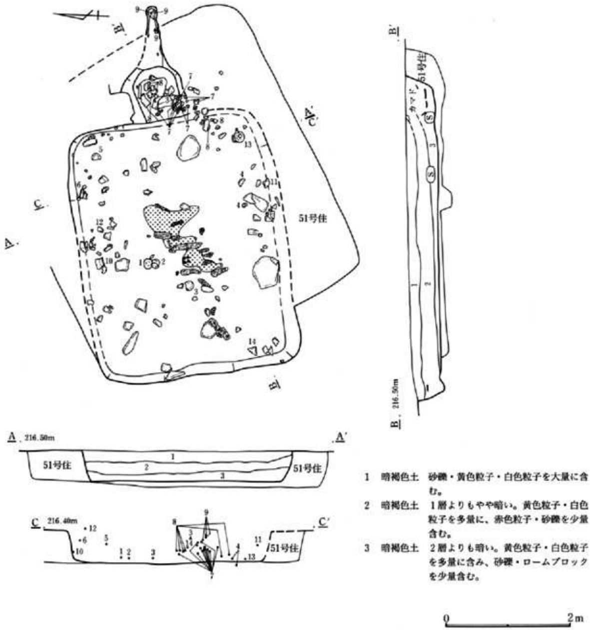
No	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g）				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	砥石	下位	完形	3.9	3.7	0.9	15.5	硬泥	小形の円盤状の円礫素材。表裏に浅い溝。

12号住居跡（第218～221図、PL20・208）

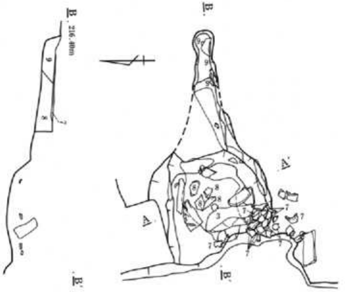
住居の大部分は51号住居跡の埋没土中に造られているため、壁の検出が困難であった部分が多い。住居は隅丸長方形と考えられる。

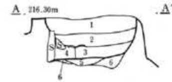
床面は平坦であり、51号住居跡の埋没土を比較的よく踏み固めてはいるものの、カマド付近から住居中央部を除いては軟弱である。柱穴および貯蔵穴は確認されなかった。掘り方については検出されず、地山および51号住居跡の埋没土をそのまま床面としているものと考えられる。

カマドは東壁中央に付設されている。カマド焚口が住居の外側となっており、他の住居とは形態が異なるが、カマドから排出されたとみられる焼土・灰が住居内に存在しており、本住居跡の東壁に付設されたカマ



第218図　12号住居跡

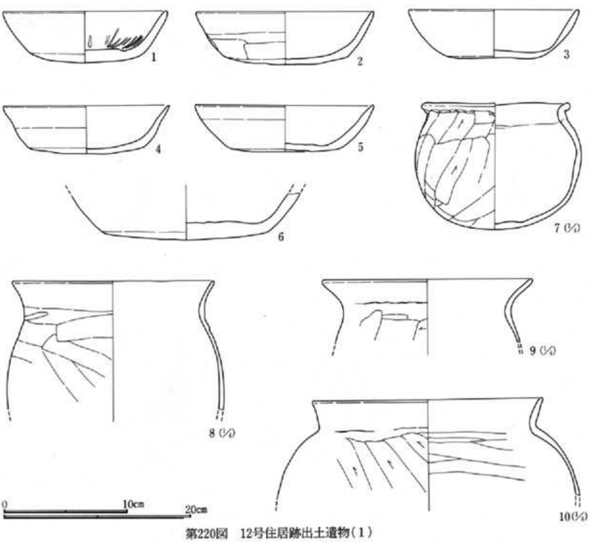




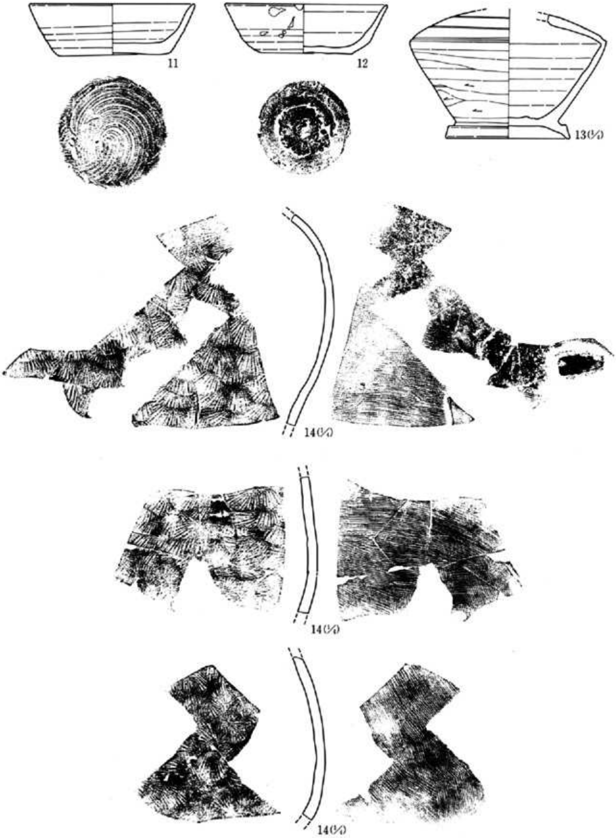
1　暗褐色土　砂礫を多量に含む。
2　暗褐色土　砂礫を少量含む。
3　暗褐色土　焼土粒子・炭化粒子を僅かに含む。
4　暗褐色土　焼土ブロックを多く含む。
5　焼土　　　黒褐色土ブロックを僅かに含む。
6　暗褐色土　焼土粒子を僅かに含む。
7　焼土　　　黒褐色土ブロックを含む。
8　黒褐色土　焼土ブロックを僅かに含む。
9　黒褐色土　砂礫・焼土粒子・炭化粒子を僅かに含む。

0　1m

第219図　12号住居跡　カマド



第220図　12号住居跡出土遺物（１）



第221図　12号住居跡出土遺物（２）

12号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床中央	13.0　4.3 8.8	小砂粒を含む	橙	良好	外　磨滅のため不明 内　横撫で後、暗文施文	完形
2	土師器 坏	床中央	14.0　4.2 9.8	小砂粒を含む	橙	良好	内外面磨滅のため不明	ほぼ完形
3	土師器 坏	床中央	13.2　3.9 7.5	小砂粒を含む	橙	良好	内外面磨滅のため不明	ほぼ完形
4	土師器 坏	床南側	13.3　3.8 9.2	砂粒を含む	浅黄橙	良好	内外面磨滅のため不明	ほぼ完形
5	土師器 坏	埋土	(14.2)(3.6) (8.6)	小砂粒を含む	橙	良好	内外面磨滅のため不明	2/3
6	土師器 坏	埋土	 13.4	小砂粒を含む	橙	良好	外　箆削り 内　磨滅のため不明	
7	土師器 甕	埋土	15.2　13.4	砂粒を多く含む	鈍い赤褐	普通	外　箆削り 内　撫で	ほぼ完形
8	土師器 甕	カマド周辺	21.5	砂粒を多く含む	橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
9	土師器 甕	埋土	(22.3)	砂粒を多く含む	赤褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
10	土師器 甕	床北側	(24.3)	砂粒を含む	橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
11	須恵器 坏	埋土	13.0　4.0 9.0	精製	灰	良好	ロクロ整形　底面回転糸切り	2/3
12	須恵器 坏	埋土	12.8　4.4 7.3	精製	灰	良好	ロクロ整形　底面回転箆切り	2/3
13	須恵器 長頸壺	床南側	 13.2	精製	灰	良好	ロクロ整形	
14	須恵器 甕	埋土	厚さ1.1	精製	黄灰	良好	内外面叩き	胴部破片　外面自然釉付着

ドと考えられる。カマド側壁左側には砂岩の切り石が使用されている。また、住居およびカマド内には砂岩の割石が存在しており、カマドに砂岩の割石が多用されていた可能性がある。火床面は床面よりも約10cm高くなっている。火床面はよく焼けており、また側壁も一部焼けている。煙道部には、天井から落下したと思われる焼土が薄く残存していた。

出土遺物は住居全域にわたっている。カマド内からは土師器坏3、土師器甕7・8が破片となって出土しているほか、住居床面から約10cm上方からの出土遺物が多い。また住居中央部には建築材とも考えられる炭化材が焼土と共に出土している。焼土粒、炭化物粒は住居周辺部にも若干認められており、火災住居である可能性が高い。

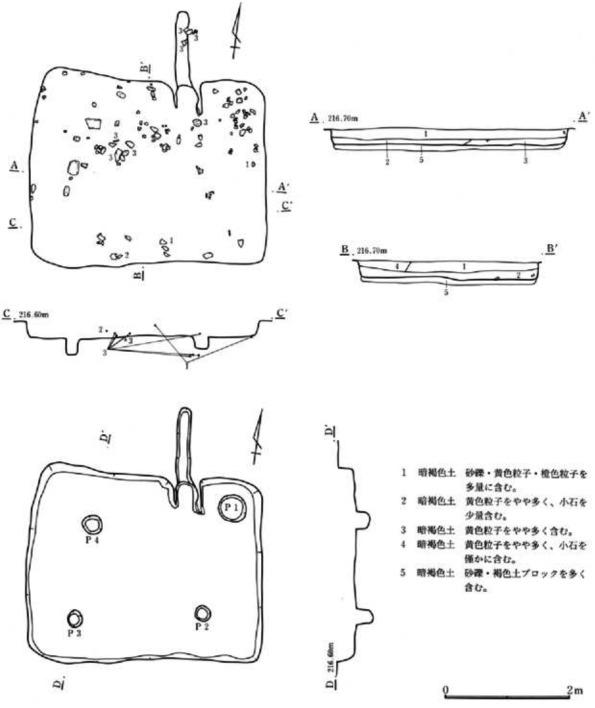
14号住居跡（第222～224図、PL21・208）

住居は隅丸長方形を呈する。住居の対角線上に柱穴と考えられるPitが検出されているが、北東部分には検出されていない。床面は、砂礫を含む暗褐色土で貼床をしている。床面には一部に凹凸がみられるものの概して平坦で、比較的しっかりしている。

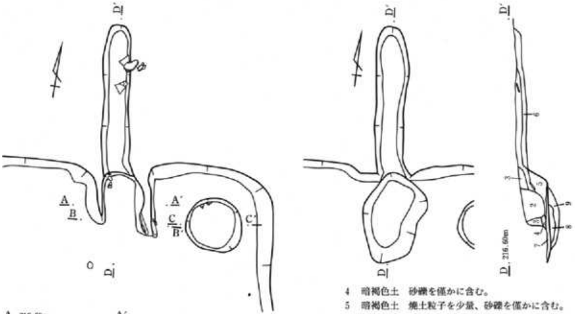
貯蔵穴は北東コーナー付近に発見された。貯蔵穴は直径45cmの円形で、床面からの深さは約20cm、底面は広く逆台形の掘り方をもつ。掘り方は床面から約10cm下方で、比較的平坦な掘り方である。

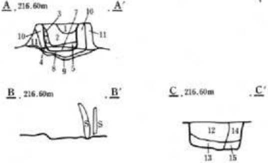
カマドについては、河原石および砂岩の割石を立てて右袖を構築している。左袖部分に石材は確認されていないが、住居内からは砂岩が出土しており、これらの石材はカマドに使用されていた可能性が考えられる。

出土遺物として土師器坏・土師器甕・須恵器横瓶がある。須恵器横瓶はすべて破片であるが、床面直上からカマド煙道部、床下にわたって出土している。



第222図　14号住居跡

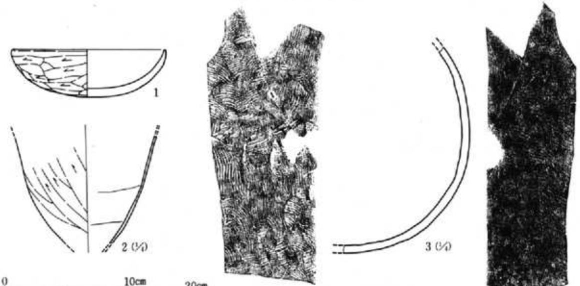




1　黒褐色土　砂礫を少量含む。
2　黒褐色土　砂礫を少量、焼土ブロックを僅かに含む。
3　暗褐色土　砂礫・褐色土ブロックを僅かに含む。
4　暗褐色土　砂礫を僅かに含む。
5　暗褐色土　焼土粒子を少量、砂礫を僅かに含む。
6　褐色土　砂質。砂礫を僅かに含む。
7　黒褐色土　焼土・炭化物を含む。砂礫を僅かに含む。
8　焼土　黒褐色土ブロック・炭化物・砂礫を少量含む。
9　暗褐色土　砂礫を少量含む。
10　暗褐色土　砂礫を少量、焼土粒子を僅かに含む。
11　暗褐色土　焼土ブロックを少量、砂礫を僅かに含む。
12　黒褐色土　暗褐色土ブロックを多量に、砂礫を僅かに含む。
13　黒褐色土　砂質。粒子細かい。
14　暗褐色土　砂粒を僅かに含む。
15　黒褐色土　砂粒を僅かに含む。

0　1m

第223図　14号住居跡　カマド



第224図　14号住居跡出土遺物

14号住居跡出土土器観察表

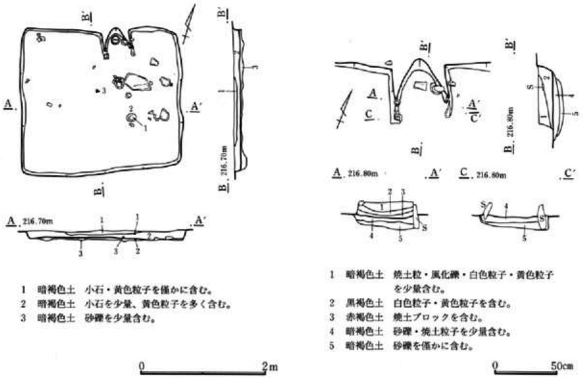
番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床南側 床東側	(12.2)　3.7	小砂粒を含む	黄橙	良好	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　磨滅のため不明	1/2
2	土師器 甕	床南側		小砂粒を含む	褐灰	普通	外　箆削り 内　撫で	外面スス付着
3	須恵器 横瓶	床中央 カマド内	厚さ0.7〜0.9	精製	灰	良好	内外面叩き	外面自然釉付着

15号住居跡（第225・226図、PL21・208）

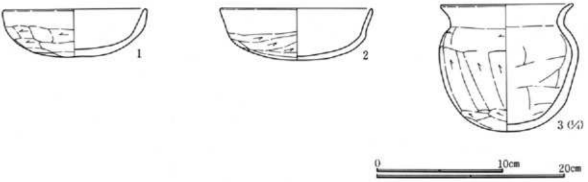
住居は方形であるが、東壁が西壁に比べて短くなっており、そのため東南および西南コーナーは直角とはならず、また南壁は北壁と平行しない。床面は平坦で、砂礫を含んだ暗褐色土で貼床しており、比較的良く踏み固められている。

柱穴および貯蔵穴は確認されなかった。掘り方は凹凸があり、床面からの深さは深いところで約10cm、浅いところで0.5cmである。カマドは砂岩の割石を袖石としているが、他の部分の残存状況は良くない。カマド付近および住居内に砂岩の割石の破片が若干みられるので、砂岩の割石はカマドの他の部分においても使われていた可能性が高い。カマドの掘り方については、焚口付近で床面より約７cm下方であるが、廃絶時の火床面は床面とほぼ同レベルとなっている。なお、火床面はあまり焼けていない。

出土遺物としては、土師器坏・土師器小型甕の他に、工作台と考えられる上面が平坦な石がある。いずれも床面付近からの出土であるが、工作台と考えられる平坦な石は約20cm×45cmの規模をもつ。



第225図　15号住居跡及びカマド



第226図　15号住居跡出土遺物

15号住居跡出土土器観察表

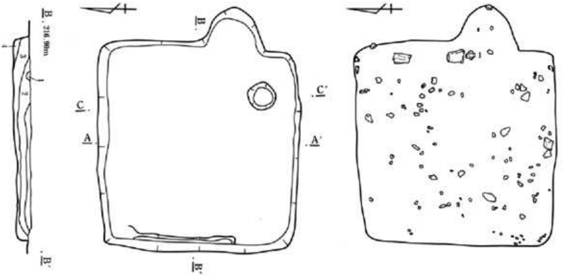
番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	11.4　3.8	砂粒を含む	橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部〜体部横撫で	完形
2	土師器 坏	床中央	12.1　4.0	砂粒を含む	橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部〜体部横撫で	ほぼ完形
3	土師器 小型甕	床中央	14.1　13.5 9.4	小石・砂粒を含む	褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部〜体部横撫で	2/3

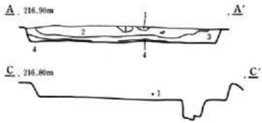
17号住居跡（第227〜229図、PL21・22・209）

住居は隅丸方形を呈する。しかしカマドが付設されている東壁よりも西壁の方が僅かではあるが短くなっており、そのため北壁の西から約3分の1のところで北壁が若干内側に折れ、北西コーナーはやや鈍角となっている。

床面については、褐色粘質土で貼床をしている部分が一部存在するが、掘り方をそのまま床面としている部分が多い。床面は若干凹凸が存在するものの、ほぼ平坦で、比較的固くなっている部分と軟弱な部分がある。西壁ほぼ中央に幅6cm〜10cm、深さ約2cmの壁周溝がある。この壁周溝は1.6mほど続くが、それより北側では不明瞭となっている。なお床面を精査したが、壁周溝はこの部分以外にはみられなかった。柱穴は確認されなかった。貯蔵穴は南東コーナーからやや離れた位置にあり、直径約45cm、床面からの深さ約30cmで円形である。なお、貯蔵穴の底部はほぼ平坦で広く、断面形は逆台形に近い。

カマドは東壁に付設されている。カマドの残存状態は悪く、右袖の下部が僅かに残っていたのみである。また、左袖付近には砂岩の割石があり、左袖の芯として使用されていた可能性もある。本住居のカマドの底面は、床面を掘り凹めてはおらず、僅かではあるが床面よりも高くなっている。カマド廃絶時の火床面は底面より約6cm上方で、この火床面にはカマド壁および天井部から崩落したと考えられる粘質土ブロックが焼土化していた。出土遺物は少なく、カマド焚口付近より須恵器埦が出土している他は、土師器・須恵器ともすべて小破片で、やや浮いた状態での出土である。

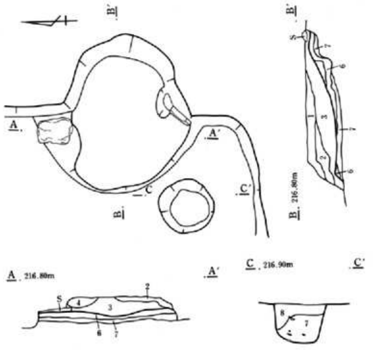




1　黒褐色土　砂礫・褐色粒子・灰白色粒子を含む。
2　暗褐色土　小砂礫を多量に含む。
3　黒褐色土　小砂礫・褐色土を少量含む。
4　褐色土　　粘質。砂礫を含む。

0　　2m

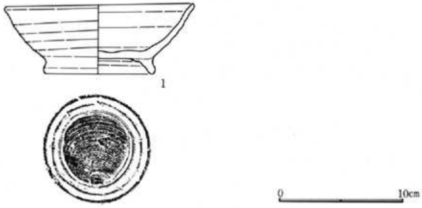
第227図　17号住居跡



1　暗褐色土　黄色粒子・小石を多く含む。
2　明褐色土　黄色粒子・小石・焼土粒子を多く含む。
3　暗褐色土　小石を多く、黄色粒子を少量含む。
4　暗褐色土　小石を多量に含む。
5　暗褐色土　褐色粒子・灰褐色粒子・褐色土粒を多く含み、角礫を少量含む。
6　褐色土　　焼土が大部分。焼けた粘性土ブロック・褐色粒子・灰白色粒子をやや多く含む。
7　暗褐色土　焼土・褐色粒子・粘質ブロックを少量含む。
8　黒褐色土　褐色・灰白色粒子を僅かに含む。
9　黒褐色土　褐色土粒をやや多く含む。

0　　1m

第228図　17号住居跡　カマド

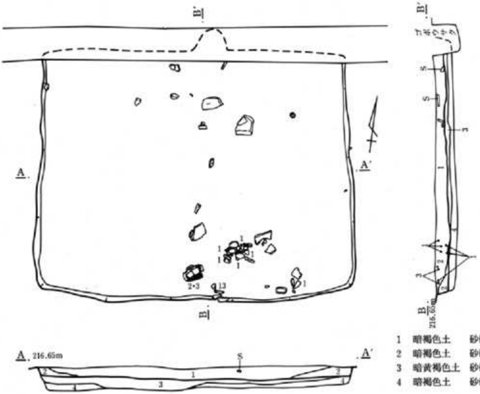


第229図　17号住居跡出土遺物

17号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	須恵器 坏	カマド周辺	14.7　5.6 8.5	微砂粒を含む	灰	普通	ロクロ整形　底面回転糸切り付け高台	3/4

18号住居跡（第230・231図、PL22・209）

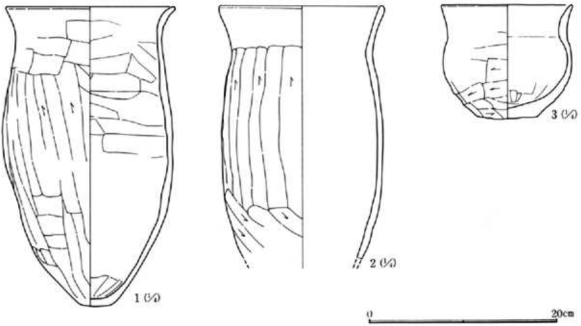


1　暗褐色土　　砂礫を多く含む。
2　暗褐色土　　砂礫を少量含む。
3　暗黄褐色土　砂礫主体。暗褐色土を含む。
4　暗褐色土　　砂礫を多く含む。

第230図　18号住居跡

18号住居は隅丸長方形と推定される。床面はほぼ平坦で、砂礫を含む暗褐色土で貼床面としている。なお、掘り方は平坦である。柱穴および貯蔵穴は確認されていない。カマドは北壁に存在したものと考えられるが、耕作溝によって破壊されているため、詳細は不明である。

出土遺物として土師器甕３個体があるが、いずれも破片となって住居内に散乱していた。



第231図　18号住居跡出土遺物

18号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 甕	床南側	17.8　31.5 (4.2)	小石・砂粒 を含む	浅黄	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	内面輪積痕
2	土師器 甕	埋土	(17.5) (26.3)	小石・砂粒 を多く含む	鈍い褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　磨滅のため不明	
3	土師器 小型甕	埋土	(14.0) (12.0)	砂粒を多く 含む	鈍い橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	

20号住居跡（第232～234図、PL22・209）

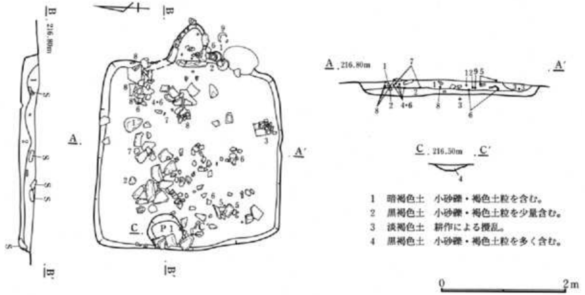
住居は隅丸方形を呈する。しかし西壁が中央付近でやや内側に折れており、そのため南西コーナーは鈍角となる。床面については、調査時点においては地山を直接床面としていたと考えていたが、遺物出土レベルから判断して10cmほど上に床面が存在した可能性もある。いずれにしても軟弱で、はっきりした硬化面は検出されていない。

柱穴は確認されなかった。住居西壁に接して浅く小規模な土坑がある。この土坑は、直径55cm、深さ10cmの不整円形を呈しており、掘り方はU字形を呈しているが、規模・位置等から貯蔵穴の可能性がある。

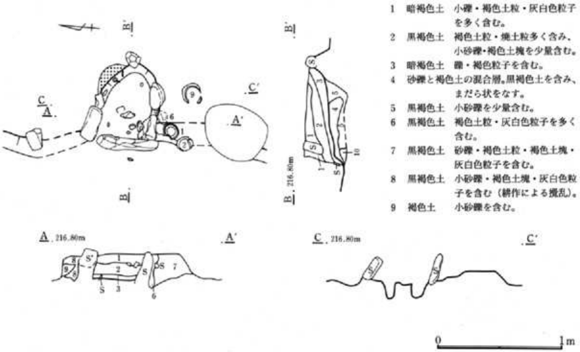
カマドは東壁に付設されている。袖および側壁の一部は河原石を構築材として使用しているが、天井石に

ついては砂岩の割石を使用しており、手前に落ちた状態での出土である。火床面は床面よりも高い位置にあるが、床面が10cmほど高かった場合はほぼ同レベルとなる。

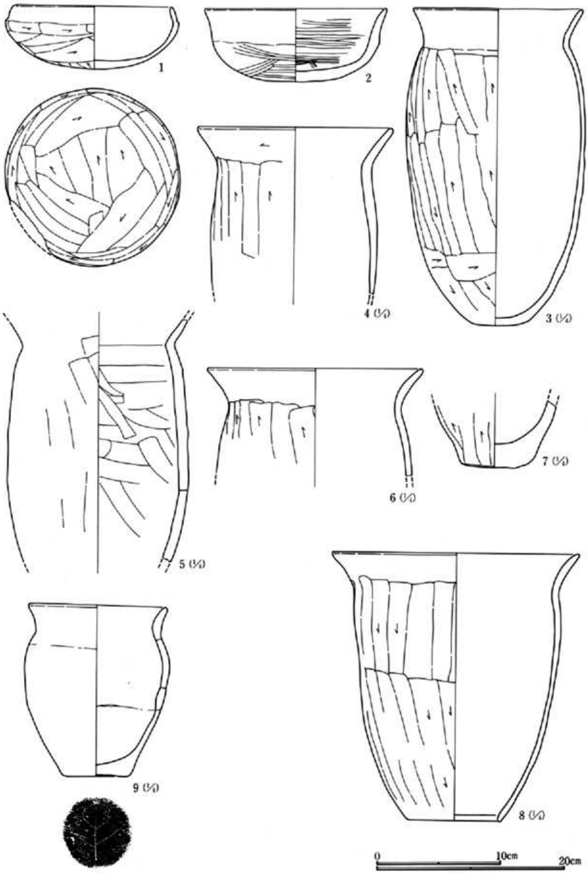
出土遺物として土師器坏・土師器甕・土師器甑がある。坏２個体については、カマド右脇で火床面とほぼ同レベルから内面を上にして置かれたような状態で出土している。その他の遺物については住居の全域から出土しているが、小破片となったものが多い。



第232図　20号住居跡



第233図　20号住居跡　カマド



第234図　20号住居跡出土遺物

20号住居跡出土土器観察表

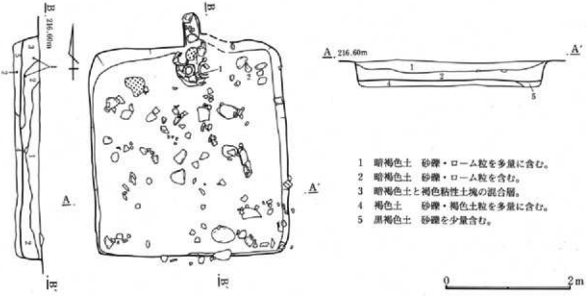
番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	12.3　5.0	小砂粒を含む	鈍い黄褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	ほぼ完形
2	土師器 坏	埋土	(14.4)　5.7	小砂粒を含む	鈍い黄橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横箆磨き	2/3内黒
3	土師器 甕	埋土	18.9　33.0	小石・砂粒を含む	橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
4	土師器 甕	埋土	(20.3)	小石・砂粒を含む	鈍い橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
5	土師器 甕	埋土	胴部最大径 (19.4)	小石・砂粒を含む	灰黄	普通	外　体部箆削り後撫で 内　撫で	外面スス付着
6	土師器 甕	埋土	23.0	砂粒を多く含む	鈍い橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
7	土師器 甕	埋土	 5.5	小砂粒を含む	鈍い赤褐	普通	外　体部箆削り 内　撫で	
8	土師器 甑	埋土	26.0　28.3	砂粒を含む	橙	普通	外　体部箆削り 内　磨滅のため不明	一部欠損
9	土師器 甕	埋土	14.4　18.2 6.8	砂粒を含む	鈍い赤褐	普通	内外面撫で	口縁一部欠損 底部木葉痕

23号住居跡（第235～237図、PL22・209）

住居は隅丸方形を呈する。床面は平坦で、砂礫を含む褐色土で貼床をしており、比較的良く踏み固められている。柱穴および貯蔵穴は確認されなかった。

掘り方については、本住居跡の大部分が36号住居跡の埋没土上に造られているため、平面的に検出することは困難であったが、断面においては捉えることが出来た。掘り方を断面で観察すると、床面からの深さは12cmで、ほぼ平坦となっている。

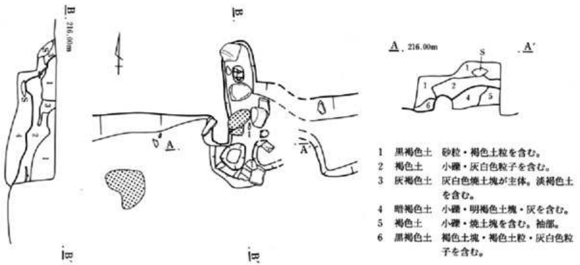
カマドは北壁のほぼ中央に付設されている。カマド袖については、褐色土で構築されているが、袖部分に



第235図　23号住居跡

石材は使用されていない。焚口部底面は、床面とほぼ同レベルで、床面を掘り込んでいる形跡はみられない。カマドが廃絶された時点での火床面は、焚口部底面より約15cm上方である。焚口部底面と火床面との間には、灰が若干堆積していた。

出土遺物には、土師器坏が2個体ある。これらの坏は、カマド内およびカマド右の床面近くより、破片となって出土している。



第236図　23号住居跡　カマド

第237図　23号住居跡出土遺物

23号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	カマド周辺	13.4　5.0	小砂粒を含む	鈍い黄褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	3/5
2	土師器 坏	床北側	(12.5)　4.7	砂粒を含む	鈍い橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	1/3

24号住居跡（第238～242図、PL23・210・250）

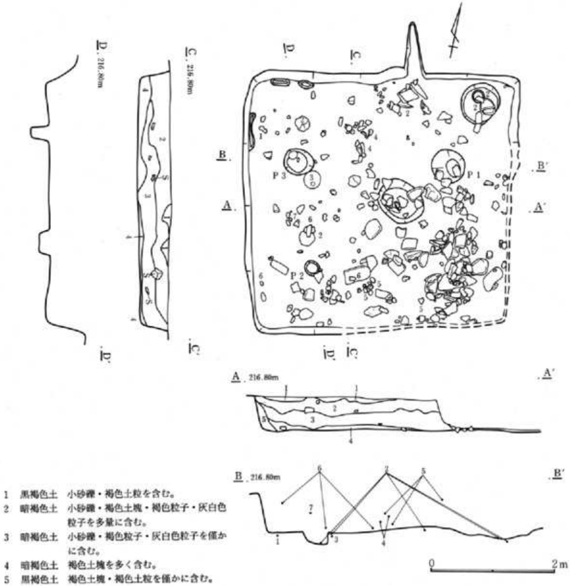
住居の東南部分約3分の1は、25号住居跡の埋没土上に造られているが、この部分の壁については明確に捉えることが出来なかった。住居はやや隅の丸くなった方形と考えられる。床面の貼床は施されている部分と施されていない部分とがあるが、床面は概して凹凸が少なく平坦である。

柱穴については、柱穴が存在すると思われる位置に３基のPitが検出されている。このPitについては、対角線上に近い位置にはあるが、ややずれており規模もまちまちである。貯蔵穴は北東コーナー付近に発見された。貯蔵穴は直径約65cmの円形で、床面からの深さ約45cmの規模をもつ。なお貯蔵穴の底部は広いが傾斜しており、断面形は逆台形である。

住居北西コーナー付近には、壁に接して幅５cm～10cmの溝状の掘り込みが３ヶ所あるが、壁周溝にしては短く可能性は低い。また住居中央部には長径75cm、短径60cm、深さ23cmの規模をもつ楕円形の土坑がある。この土坑の掘り方はU字形を呈しており、土坑および住居の埋没状況から、住居の廃絶時には機能していたものと考えられる。

住居床面下には、北壁カマド部分から東壁を経て南壁中央部まで、壁に沿って「コ」の字状に幅0.51～1.35m、深さ30cmの溝状の掘り込みがある。

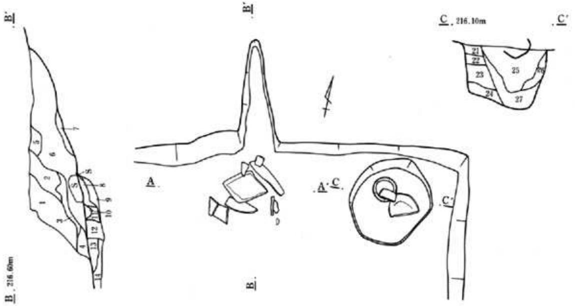
カマドは砂岩の割石で袖を構築している。左袖については倒れているものの、右袖については立った状態

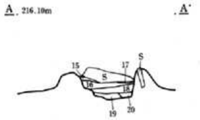


第238図　24号住居跡

で出土しており、原位置を保っているものと考えられる。天井石についても砂岩を使用していたとみられ、割れ落ちた状態で出土している。火床面ははっきりしないが、カマドの埋没土の状況から床面とほぼ同レベルになると考えられる。

出土土器としては土師器坏・土師器甕・土師器甑・須恵器坏があり、床面上および床面から約40cm上方ぐらいまで、住居全域から出土している。

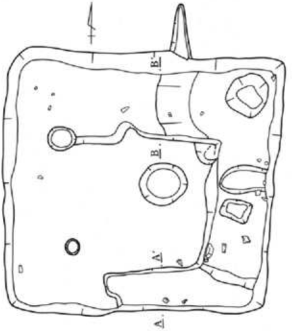


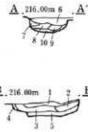


1　黒褐色土　砂礫・褐色土・灰白色粒子を多く含む。
2　黒褐色土　小砂礫・褐色土粒を含む。
3　褐色土　小砂礫を大量に、黒褐色土粒をやや多く含む。
4　褐色土　焼土を多く、小砂礫・黒褐色土塊を若干含む。
5　明褐色土　小石・焼土ブロックを多く含む。
6　暗褐色土　小石・黄色粒子・白色粒子・焼土粒子を多量に含む。
7　黄褐色土　粘質。小石・黄色粒子をやや多く含む。
8　黒色土　白色粒子・黄色粒子をやや多く含む。
9　赤褐色土　白色粒子を僅かに含む。
10　赤色焼土塊
11　黄褐色土　粘質。白色粒子・赤色粒子を多く含む。
12　明褐色土　ローム粒・白色粒子・黄色粒子を多く、焼土粒子を少量含む。
13　黄褐色土　粘土ブロックを多量に含む。
14　暗褐色土　焼土粒子・黄色粒子を少量含む。
15　黒褐色土　白色粒子・黄色粒子を少量含む。
16　赤褐色土　白色粒子を少量含む。
17　茶褐色土　黄色粒子をやや多く含む。
18　黒色土　白色粒子・黄色粒子をやや多く含む。
19　赤褐色土　白色粒子を僅かに含む。
20　黒褐色土　黄色粒子を僅かに含む。
21　暗褐色土　小石をやや多く、黄色粒子を少量含む。
22　黄色ローム塊
23　暗褐色土　小石・黄色粒子・ロームブロックを少量含む。
24　黄色ローム塊
25　黒褐色土　ロームブロックをやや多く、小石・黄色粒子を少量含む。
26　黒褐色土　黄色粒子を少量含む。
27　暗褐色土　ロームブロックを多く、黄色粒子・小石を僅かに含む。

0　1m

第239図　24号住居跡　カマド

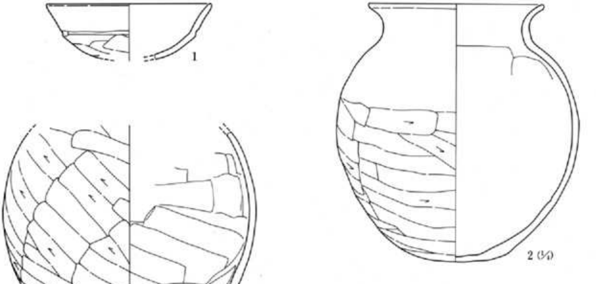




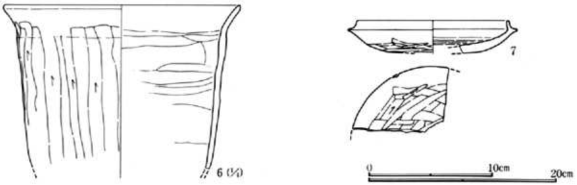
1　明褐色土　砂礫を少量含む。
2　暗褐色土　黄色粒子を少量含む。
3　茶褐色土　ロームブロックを大量に含む。
4　黄褐色土　黄色粒子・白色粒子をやや多く含む。
5　暗褐色土　砂礫・黄色粒子・白色粒子を大量に含む。
6　暗褐色土　黄色粒子・橙色粒子を少量含む。
7　明褐色土　ローム粒を大量に含む。
8　暗褐色土　砂礫・黄色粒子を少量含む。
9　暗褐色土　砂礫・黄色粒子を多く含む。
10　茶褐色土　ローム粒を多量に、砂礫を僅かに含む。

0　2m

第240図　24号住居跡　掘り方



第241図　24号住居跡出土遺物（１）



第242図　24号住居跡出土遺物(2)

24号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	(13.0)	小砂粒を含む	鈍い黄褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	1/3
2	土師器 甕	埋土	18.5　27.4	小砂粒を含む	橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	ほぼ完形
3	土師器 甕	埋土	 6.7	小石・砂粒を含む	橙	普通	外　箆削り 内　横撫で	
4	土師器 甕	埋土	(20.0)	砂粒を含む	浅黄	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
5	土師器 甕	埋土	(21.2)	砂粒を含む	鈍い褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
6	土師器 甑	床南側	(25.0)	砂粒を含む	鈍い褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
7	須恵器 坏	埋土	(12.0)	精製	灰	良好	ロクロ整形後外面体部箆削り	1/4 自然釉付着

24号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	石材名	特徴
1	砥石	下位	1/2	16.5	6.7	3.7	594.8	砂岩	盤状の角礫。表面に使用面。

26号住居跡（第243～246図、PL23・24・210・250）

住居西側3分の1程度が5号溝によって削られている。平面形は隅丸方形あるいは隅丸長方形と考えられるが、東南コーナーは直角であるものの東北コーナーは鈍角となっており、したがって南壁と北壁は厳密には平行しない。

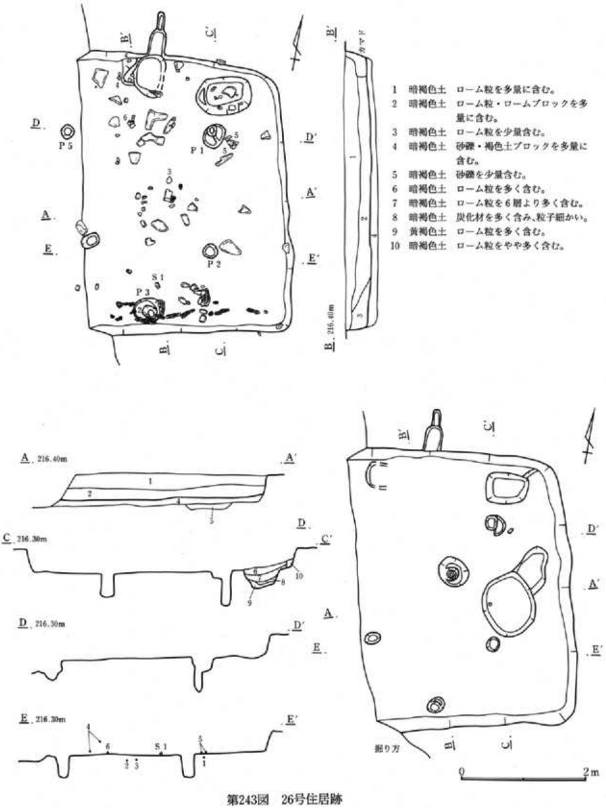
床面は、砂礫を含む暗褐色土で約10cmほど貼床をしており、ほぼ平坦でよく踏み固められている。柱穴は住居の対角線近くに4基検出されているが、南北の柱穴の間隔に比べ、東西の柱穴の間隔が長くなっている。貯蔵穴は北東コーナー付近に発見された。貯蔵穴の規模は長径90cm、短径65cm、床面からの深さ30cmの楕円形で、掘り方はU字形を呈する。

住居の掘り方においては、中央付近に直径45cm、深さ20cmのPitと、このPitと東壁との間に浅い土坑が検出されている。この浅い土坑は、長径約90cm、深さ約5cmで、同じ深さの以前に造られた土坑の上に造られている。

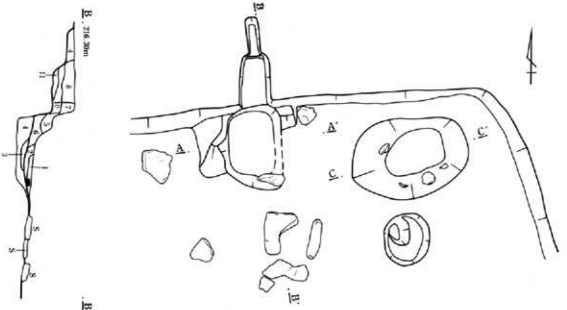
カマド前面から住居中央部にかけて、砂岩の割石がやや多く出土している。これらの割石はカマドの構築材であったと考えられる。しかし、カマドの左袖については暗褐色土で構築された部分が残存しており、砂岩が使用されていたか否かについては明らかではない。火床面ははっきりしないが、カマド内埋没土の状況

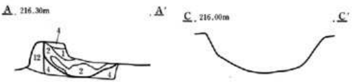
から床面とほぼ同レベルであったと考えられる。

出土遺物として土師器坏・土師器甕・こも編石がある。坏１は貯蔵穴内より、坏３は住居のほぼ中央で床面下に発見されたPit内より出土している。その他の遺物については、床面付近からの出土である。



第243図　26号住居跡

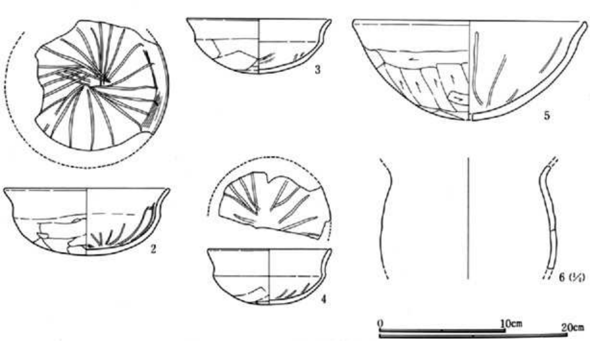




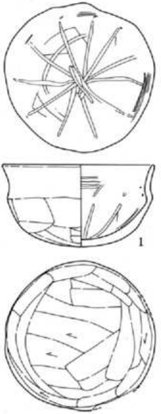
1　暗褐色土　焼土・ローム粒含む。粘質。
2　暗褐色土　焼土含む。粘質。
3　暗褐色土　焼土・ローム粒含む。
4　暗褐色土　砂粒・ローム粒・炭化物含む。
5　暗褐色土　砂礫・焼土粒子を少量含む。
6　暗褐色土　砂礫を少量、焼土を多量に含む。
7　暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。
8　黄褐色土　ローム粒をやや多く含む。
9　黄褐色土　粘質。粒子細かい。
10　黄褐色土　ローム粒を多く含む。
11　暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。
12　暗褐色土　焼土ブロック・砂礫を少量含む。

0　1m

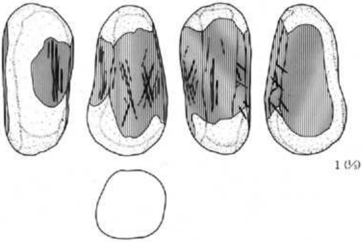
第244図　26号住居跡　カマド



第245図　26号住居跡出土遺物（１）



1



1 (1/3)

0　10cm

第246図　26号住居跡出土遺物(２)

26号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	貯蔵穴	12.0　6.5	砂粒を含む	鈍い黄橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横箆撫で後暗文	ほぼ完形　内黒
2	土師器 坏	柱穴内	(13.0)　5.3	小砂粒を含む	鈍い黄橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部撫で後体部暗文	1/2
3	土師器 坏	柱穴内	(11.4)　4.3	砂粒を含む	鈍い黄橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部箆撫で	1/2
4	土師器 坏	床北側	(9.8)(4.4)	小砂粒を含む	鈍い褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で後暗文	1/3
5	土師器 坏形土器	床中央	(18.2)(7.9)	小砂粒を含む	鈍い黄	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	2/5
6	土師器 甕	床西側	胴部最大径 (18.8)	砂粒を含む	鈍い橙	不良	外　磨滅のため不明 内　口縁部～体部横撫で	破片

26号住居跡出土石器観察表

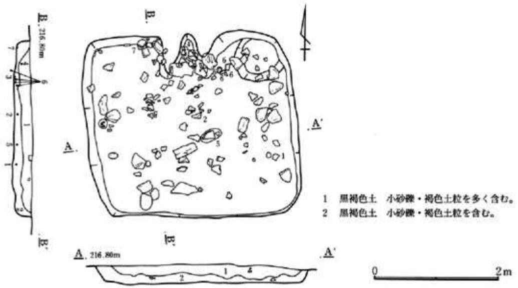
№	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g) 長さ	幅	厚さ	重量	石材名	特徴
1	砥石	床下	完形	11.8	6.4	5.4	585.1	デイ	棒状の円礫。４面に使用による研磨面、裏面を除き刃ならし溝あり。
2	こも	下位	完形	11.1	8.3	4.5	671.4	変安	盤状の円礫。
3	こも	床直	完形	10.8	5.9	4.9	437.4	デイ	棒状の円礫。表裏に磨耗、両端・両側に敲打痕。
4	こも	床直	完形	12.5	6.7	5.3	498.5	変安	棒状の円礫。両端に弱い敲打。
5	こも	床直	完形	13.6	7.4	4.0	540.7	粗安	盤状の円礫。右側中央に浅い抉り。表裏に磨耗、両端に敲打痕。
6	こも	床直	完形	11.9	7.0	4.9	573.2	粗安	盤状の円礫。
7	こも	床直	ほぼ完	14.4	8.4	4.4	659.5	粗安	盤状の円礫。両端に敲打痕。
8	こも	床直	破片	9.9	8.2	5.8	862.3	ひん	石棒の破損品を転用したもの。
9	こも	床直	完形	12.9	7.2	5.2	663.6	粗安	盤状の円礫。左側に浅い抉り、両端に敲打痕。
10	こも	床直	2/3	11.5	6.5	4.6	552.3	変玄	棒状の亜円礫。上端に敲打痕。下部欠損。

28号住居跡（第247～249図、PL24・210）

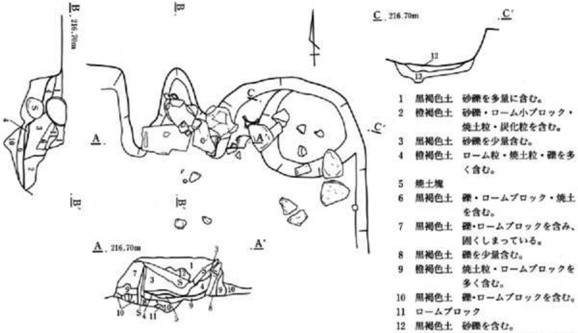
住居は隅丸方形を呈する。地山および29号住居跡埋没土を直接床面としており、ほぼ平坦な床面である。柱穴は確認されていない。貯蔵穴は円形で、壁北東隅に接している。貯蔵穴の底部は広く平坦で、断面形は浅い台形を呈す。

カマドは砂岩の切り石を袖石として、黒褐色土で袖を構築している。天井石も砂岩を使用しており、中央で割れ落ちた状態で出土している。

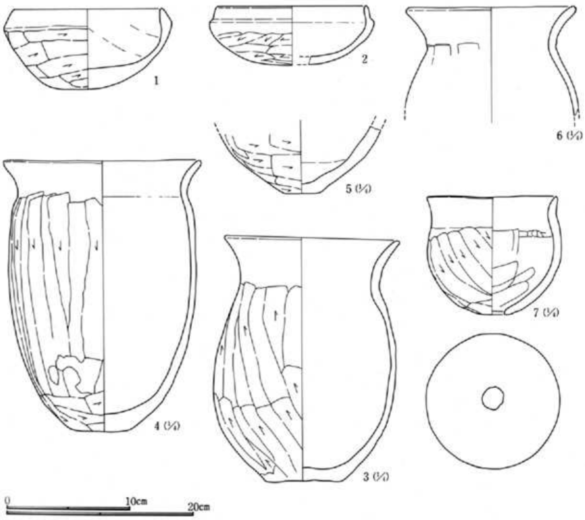
出土遺物として土師器坏・土師器甕・土師器甑がある。甕４はカマド中央部より、甕３はカマド右脇より出土している。



第247図　28号住居跡



第248図　28号住居跡　カマド

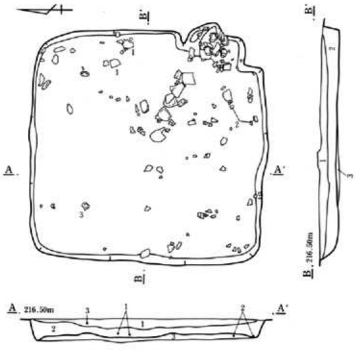


第249図　28号住居跡出土遺物

28号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床東側	(11.6)　6.4	小石・砂粒 を含む	鈍い黄 橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横斜め撫で	2/3
2	土師器 坏	床中央	(12.0)　4.6	砂粒を含む	鈍い黄 橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	1/3
3	土師器 甕	カマド周 辺	18.5　25.5 8.0	砂粒を含む	橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	ほぼ完形
4	土師器 甕	カマド内	(21.0)　28.7 5.1	砂粒を含む	鈍い黄 褐	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	2/3
5	土師器 甕	床中央	 (3.4)	砂粒を含む	鈍い黄 橙	普通	外　体部箆削り 内　体部横撫で	
6	土師器 甕	カマド周 辺	17.6	砂粒を含む	橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
7	土師器 甑	床北側	13.6　12.3	砂粒を含む	鈍い黄 橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部指撫で　体部箆撫で	ほぼ完形

31号住居跡（第250～252図、PL24・211）



1　黒褐色土　砂礫を多く含む。
2　黒褐色土　砂礫と少量のローム粒を含む。
3　黄褐色土　礫・ロームブロックを含む。

0　2m

第250図　31号住居跡

住居は隅丸方形を呈するが、東南コーナー部については異形となっている。住居の床面は、礫およびロームを含む黄褐色土で貼床されているが、貼床が施されていない部分もあり、凹凸の多い床面である。

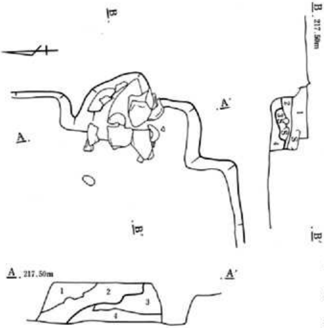
柱穴および貯蔵穴は確認されず、存在しなかったものと考えられる。

掘り方については、40号住居跡、41号住居跡、77号住居跡などの埋没土上に造られている部分が多く、この部分においては明確に掘り方として捉えることが困難であった。しかし地山に掘り込まれている部分においては、比較的平坦な掘り方となっている。なお、床下土坑等は発見されなかった。

カマドは東壁に付設されているが、東壁の中央と東南コーナー部のほぼ中間ぐらいの位置にある。カマド燃焼部等から砂岩の割石が出土しており、砂岩を構築材としていたと考えられるが、原位置を留めているものはない。

火床面ははっきりしない。しかしカマド内の埋没土の状況から、床面よりやや高い位置であった可能性がある。

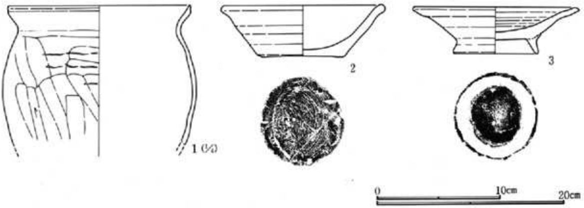
出土遺物には、土師器甕と須恵器坏がある。３の須恵器坏を除いて、いずれも床面付近からの出土である。



1　暗褐色土　小砂礫をやや多く含み、褐色土粒・褐色土塊を若干含む。
2　黒褐色土　小砂礫を多量に含み、褐色土粒・褐色土塊を含む。
3　淡褐色土　焼土が大部分。小礫・灰白色粒子を多く含む。
4　黒褐色土　小砂礫・褐色土粒を多量に含む。

0　1m

第251図　31号住居跡　カマド



第252図　31号住居跡出土遺物

31号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 甕	床東側	19.4	小砂粒を含む	橙	良好	外　体部箆削り後箆撫で 内　口縁部～体部撫で	
2	須恵器 坏	床南側	(12.3)　4.0 6.6	小砂粒を含む	灰	普通	ロクロ整形　底面回転糸切り	2/3
3	須恵器 坏	埋土	13.4　3.7 6.5	小砂粒を含む	灰	良好	ロクロ整形　底面回転糸切り 付け高台	1/3

36号住居跡（第253～255図、PL25・211・250）

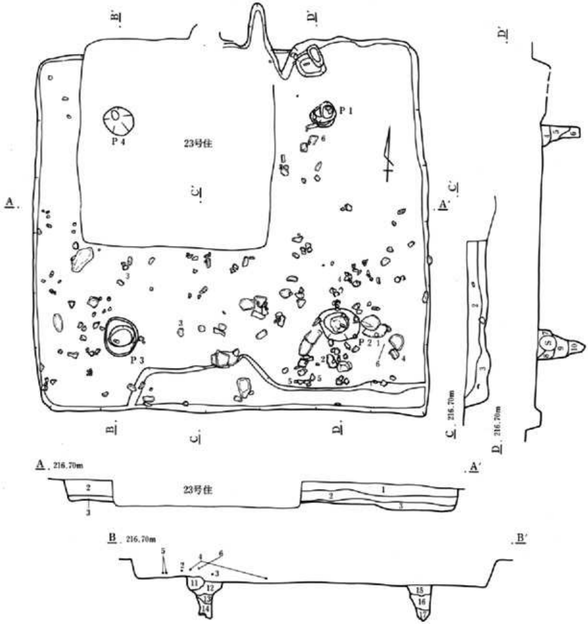
住居はほぼ正方形を呈する。23号住居によって約4分の1が削られている。床面は砂礫を含む暗褐色土で貼床をしており、平坦で比較的しっかりしている。

柱穴は住居の対角線上に4基検出された。貯蔵穴と考えられるPitはカマド東側で北壁に接して発見された。貯蔵穴は、長辺が約45cmの丸味をおびた台形で、深さは約30cmである。なおこの貯蔵穴の北東部分に一部重複して楕円形のPitがある。住居の南壁に接して溝状の掘り込みがある。この溝状の掘り込みは、幅の広い部分で85cm、幅の狭い部分で35cmであるが、床面からの深さについては西側で浅く約2cm、東側で深く約10cmとなっている。

掘り方については、縄文時代住居である68号住居、70号住居、78号住居の埋没土上に造られているため、明確に検出された部分は少ないが、凹凸のある部分が多くなっている。

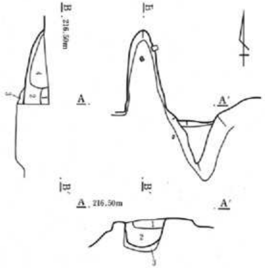
カマドは南西部分を23号住居によって削られているため、左袖は殆ど残っていない。右袖についても破壊されている部分が多く、一部残存しているのみである。火床面は床面よりもやや低い位置にあり、あまり焼けていない。

出土遺物として土師器坏・土師器甕・土師器甑・ガラス小玉・砥石がある。遺物は住居のほぼ全域に分布しており、床面より5cm～10cm上方より出土している。



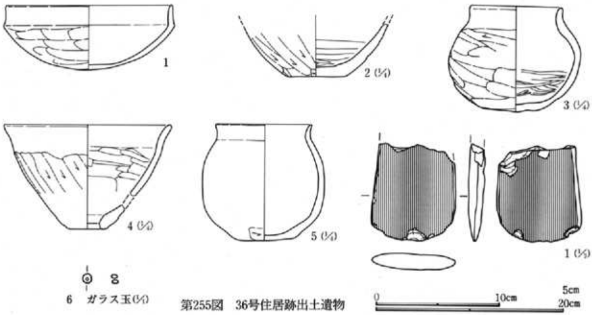
1　黒褐色土　砂礫を少量含む。
2　黒褐色土　砂礫・焼土粒子を僅かに含む。
3　暗褐色土　砂礫を多く含む。
4　暗褐色土　砂礫を少量、褐色土ブロックを僅かに含む。
5　黒褐色土　砂礫を少量含む。
6　黒褐色土　暗褐色土を含む。
7　黒褐色土　砂礫を多く含む。
8　黒褐色土　褐色土ブロックを多く含み、砂礫を僅かに含む。
9　黒褐色土　砂礫・褐色土ブロックを僅かに含む。
10　黒褐色土　砂礫を僅かに含む。
11　黒褐色土　褐色土ブロックを多量に、砂礫を少量含む。
12　黒褐色土　砂礫・褐色土ブロックを少量含む。
13　黒褐色土　褐色土ブロックを少量含む。
14　黒褐色土　含有物なし。
15　黒褐色土　砂礫・褐色土ブロックを少量含む。
16　黒褐色土　砂礫・黄色粒子を少量含む。
17　黒褐色土　砂礫・暗褐色土ブロックを少量含む。

第253図　36号住居跡



1　黒褐色土　砂礫を多量に含み､焼土ブロック･ロームブロックを若干含む。
2　黒褐色土　焼土ブロック・炭化物を多く含み、砂礫を少量含む。
3　黒褐色土　含有物なし。
4　黒褐色土　焼土を少量含む。

第254図　36号住居跡　カマド



第255図　36号住居跡出土遺物

36号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	(13.2)　5.1	小砂粒を含む	黄灰	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	1/4
2	土師器 甕	床南側	6.3	砂粒を含む	黒褐・橙	普通	外　体部箆削り 内　体部横撫で	
3	土師器 小型甕	床南側	9.5　12.2	小砂粒を含む	鈍い黄橙	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横箆磨き	一部欠損
4	土師器 甑	床東側	(17.5)(4.2) 孔径　(3.2)	砂粒を含む	明黄褐・黒	普通	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	
5	土師器 小型甕	床南側	(10.3) 12.2 5.8	砂粒を多く含む	明赤褐	普通	外　磨滅のため不明 内　口縁部～底部横撫で	

ガラス玉

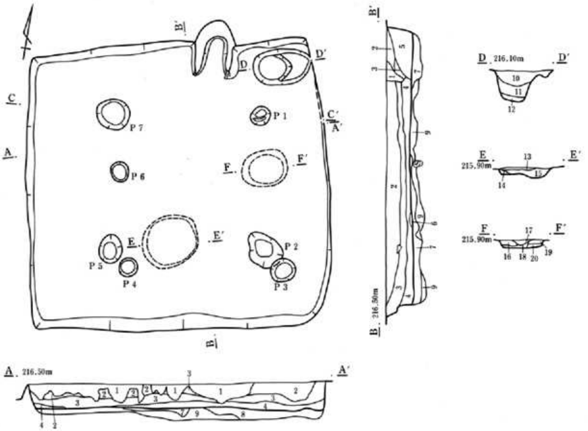
住居覆土中からの出土で、直径2.5mm、厚さ1.2mm、穴の直径0.8mm。やや明るい空色を呈す。

36号住居跡出土石器観察表

№	器種	出土位置	残存状況	計測値（cm・g） 長さ	幅	厚さ	重量	石材名	特　　徴
1	砥石	不明	2/3	7.6	6.8	1.3	85.9	砂岩	表裏に使用面。上部欠損。

39号住居跡（第256〜259図、PL25・211）

住居は正方形に近いが、東西壁の方が南北壁よりもやや長くなっている。また北西コーナーは鈍角となっており、したがって厳密には南壁と北壁は平行しない。床面は粘性のある褐色土で貼床をしており、比較的しっかりしている。柱穴は住居の対角線上に検出されている。貯蔵穴は北東コーナー部分で発見された。



1　黒褐色土　耕作土。
2　黒褐色土　小砂礫を多量に、褐色土粒・褐色土塊・灰白色粒子を含む。
3　黒褐色土　小砂礫・褐色土粒・灰白色粒子を含む。
4　黒褐色土　小砂礫を含む。
5　粘性褐色土塊と黒褐色土塊の混合。小砂礫・褐色土塊・灰白色粒子を多量に含む。
6　褐色土　粘性。貼床部分。
7　黒褐色土　褐色粘質土塊・小砂礫・褐色土粒の混合。
8　黒褐色土　小砂礫・褐色土粒・灰白色土粒・褐色粘質土塊を多量に含む。
9　暗褐色土　黒褐色土塊・褐色土塊・小砂礫を多量に含む。
10　黒褐色土　小砂礫・褐色土粒・灰白色粒子を少量含む。
11　黒褐色土　小砂礫・褐色土塊・褐色土粒を多く含む。
12　暗褐色土　褐色土粒が大量に混入し、黒褐色土とまだら状を呈す。砂礫を少量含む。
13　黄褐色土　砂粒・黄色粒子を含む。
14　黄褐色砂質土　地山の崩壊土。
15　暗褐色土　砂粒・黄色粒子・橙色粒子を多量に含む。
16　暗褐色土　砂粒・黄色粒子を多く含む。
17　暗褐色土　砂粒・黄色粒子をやや多く含む。暗い色調。
18　暗褐色土　砂粒・小石をやや多く含む。暗い色調。
19　暗褐色土　黄褐色粒質土を多く含む。
20　明褐色土　黄色粒子をやや多く含む。

0　　2m

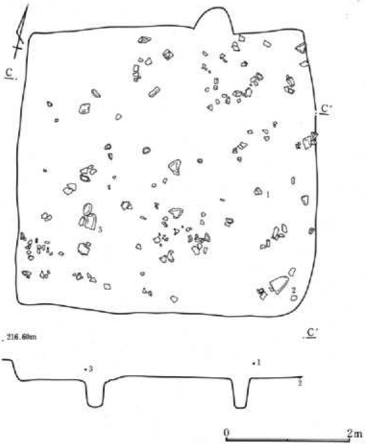
第256図　39号住居跡

貯蔵穴の平面形は長径90cm、短径55cmの楕円形であるが、西側が深さ約50cmの円形となっている。

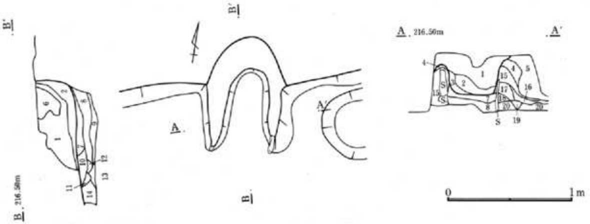
床下には長径90cm、短径80cm、深さ16cmと長径74cm、短径57cm、深さ13cmの土坑が検出されている。なお掘り方は床面から５cm～20cmで凹凸がある。

カマドの袖は砂岩の割石を芯として、暗褐色土で構築されている。火床面については、床面より７cmほど高い位置にあるが、あまり焼けていない。

出土遺物として土師器坏・土師器甕がある。

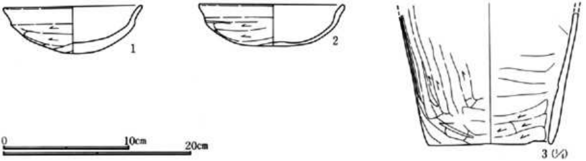


第257図　39号住居跡遺物出土状況



1　黒褐色土　小砂礫・褐色土粒・焼土塊を多く含む。
2　黒褐色土　小砂礫・焼土塊を僅かに含む。
3　暗褐色土　小砂礫を多量に、褐色土粒・灰白色粒子・焼土塊を若干含む。
4　暗褐色土　小砂礫・褐色土塊・褐色土粒・焼土塊をやや多く含む。
5　黒褐色土　小砂礫・褐色土粒・褐色土塊・灰白色土粒を含む。
6　暗褐色土　小砂礫・褐色土塊・焼土塊を含む。
7　黒褐色土　砂粒・焼土粒子を含む。
8　黒褐色土　砂粒・焼土粒子をやや多く含む。
9　明褐色土　砂粒を僅かに含む。
10　暗褐色土　焼土ブロックを多量に含む。
11　暗褐色土　小砂礫・黄色粒子を少量含む。
12　焼土塊
13　暗褐色土　砂粒・黄色粒子を少量含む。
14　ローム塊
15　黄褐色土　ローム粒主体。砂粒・焼土粒を大量に含む。
16　暗褐色土　黄色粒子をやや多く含む。
17　暗褐色土　黄色粒子を含む。
18　暗褐色土　ローム粒・砂粒を多く含む。
19　暗褐色土　黄色粒子を少量含む。
20　黒褐色土　ローム粒・小砂粒を含む。

第258図　39号住居跡　カマド



第259図　39号住居跡出土遺物

39号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径　器高 底径　(cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	10.9　3.7	小砂粒を含む	橙	良好	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	1/3
2	土師器 坏	床東側	11.5　3.4	小砂粒を含む	橙	良好	外　口縁部横撫で　体部箆削り 内　口縁部～体部横撫で	1/3
3	土師器 甑	埋土	(13.0)	小砂粒を含む	橙・黒	良好	外　体部撫で・箆削り 内　体部横撫で	内面輪積痕

40号住居跡（第260～263図、PL26・211）

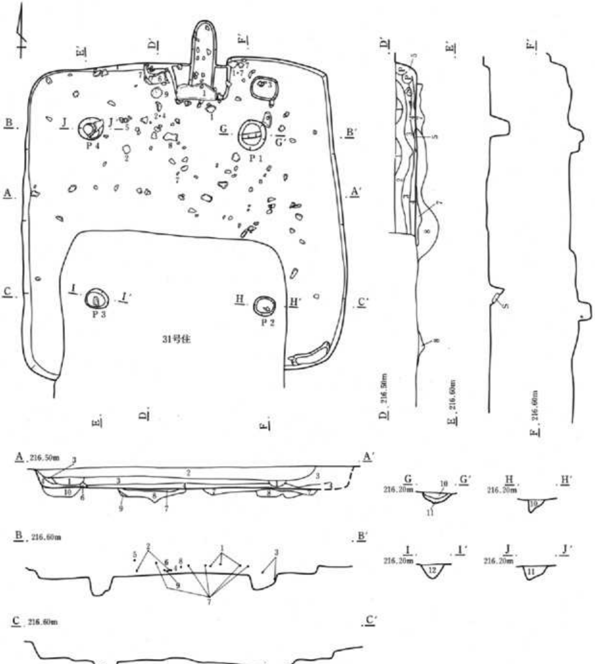
住居は隅丸方形を呈する。住居の南側約3分の1は、31号住居によって床面下約5cmが削られている。床面はほぼ平坦で、大部分は黒褐色土で貼床をしているが、一部に地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている部分もある。

柱穴は住居の対角線上に確認された。貯蔵穴はカマド東側の北壁近くにあり、長径45cm、短径36cmの小判形を呈している。この貯蔵穴は深さ約55cmで逆台形の掘り方をもつ。

掘り方については、かなりの凹凸がある。住居掘り方面の中央やや西寄りには、直径約1m、深さ約25cmの円形の床下土坑がある。また円形床下土坑と南東コーナーとの間には、不整形の床下土坑があるが、深さについては、5cm～20cmと一定していない。掘り方部分中央やや北寄りと南壁に接して、直径15cm～20cmのPitが4基存在する。このPitはいずれも深さ15cm程度のやや浅いものである。

カマドは北壁のほぼ中央に付設されている。カマド袖は砂岩の割石を芯にして構築されており、またこの砂岩は袖の天井石としても使用されていた。カマドは焚口部分を北壁に接して幅85cm、深さ20cmほど掘り込んでいるが、この部分には焼土・灰・炭化物は全く存在しなかった。火床面はカマドの埋没状況から床面とほぼ同レベルと考えられるが、焼土の存在については僅かである。

出土遺物には土師器坏および土師器甕がある。甕6と9はカマド左脇より完形で出土している。その他の遺物については、いずれも住居北半部のカマド周辺が多く、床面より5cm～20cm上方から出土している。



1　黒褐色土　耕作による撹乱層。
2　黒褐色土　砂礫を多く含む。
3　黒褐色土　砂礫・褐色土粒を多く含む。
4　黒褐色土　砂礫を少量含む。
5　褐色土　　粘質褐色土塊が多く占め、黒褐色土とまだら状を呈す。
6　褐色粘土塊
7　黒褐色土　褐色土粒・灰白色粒子・小礫を含む。
8　黒褐色土　砂礫および褐色粘質土塊を多く含む。
9　黒褐色土　砂礫と褐色ロームのまだら状混合層。
10　粘性褐色土塊と砂礫を多く含む黒褐色土とのまだら状混合層。
11　黒褐色土　小砂礫・褐色および灰白色粒子を多く含む。
12　黒褐色土　粘質褐色土塊を多量に、小砂礫を少量含む。

第260図　40号住居跡

0　2m